

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第2集

埼玉県ふじみ野市

# 市内遺跡群 2

2007, 3

ふじみ野市教育委員会





浄禅寺跡遺跡第27地点 2号住居跡



(上) 浄禅寺跡遺跡第27地点土坑19遺物出土状況  
(左上) 浄禅寺跡遺跡第27地点 2号住居跡炉出土状況  
(左下) 浄禅寺跡遺跡第27地点出土土器





本村遺跡第115地点  
北側調査区全景



本村遺跡第115地点  
南側調査区全景



苗間東久保遺跡第24地点  
本調査区全景



## はじめに

平成17年10月1日、上福岡市と大井町が合併してふじみ野市が誕生しました。

新たな歴史を歩みはじめたふじみ野市内には、権現山古墳群や福岡河岸記念館などに上福岡地域の歴史を感じ、復元大井戸跡や旧大井村役場庁舎などに大井地域の歴史を見ることが出来ます。市内の多くの文化財に、2万数千年前の旧石器時代から現代まで、永い歴史があります。それぞれに特色のある地域の歴史も一つの大きな流れとして捉えらると、改めてこの地域の繋がりや関係の深さを感じます。

ふじみ野市は、都心から30km圏内という立地条件にあるため、昭和30年代ごろから急激な開発の波が押し寄せ、企業の工場や研究所の進出、住宅の建設ラッシュ、大規模都市基盤整備事業が計画・実施されてきました。人口の増加も伴って周辺の自然や社会環境は大きな変化をしてきました。そして今、合併により更なる変貌を遂げようとしています。

今回、旧大井町地域と旧上福岡市地域で発掘調査された成果を一冊の冊子にまとめることが出来ました。発掘調査の成果は、近年の開発ラッシュに伴う店舗や住宅建設によるものが主体です。永い歴史の中で繰り返し住まいの地として利用されるということは、いつの時代でも、ふじみ野の地が住み良い土地であることの証明ともいえます。

本報告書は、国・県からの補助金と民間開発に伴い各関係者の皆様から費用負担をお願いして実施した、「市内遺跡発掘調査」から得られた成果の記録書です。将来にわたってこれらの資料を、地域の文化・歴史を学ぶ糧として広く皆様方に活用していただければ幸いです。

おわりに、土地所有者、開発関係者の皆様には多大なご負担と、ご協力、そして地域の文化財保護・保存についてのご理解をいただいたことに対し深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

また、調査から本書刊行に至るまで、日本考古学協会員の今井堯先生をはじめ、文化庁・埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課・市関係各課・調査関係者の多くの皆様から、ご指導やご協力をいただきました。誌上をもって厚くお礼と感謝を申し上げます。

ふじみ野市教育委員会  
教育長 吉野 英明

## 例 言

1. 本書は、埼玉県ふじみ野市内（平成17年10月1日、上福岡市と入間郡大井町が合併し、ふじみ野市となる）に所在する遺跡群の2005（平成17）年度の試掘調査と発掘調査の報告書である。
2. 平成17年度に行った試掘調査および整理作業は、総経費10,085,970円、旧大井町が国庫（5,000,000円）、県費（2,500,000円）の補助金（合併後ふじみ野市に引き継ぎ、旧上福岡市が交付を受けた分は含まない）の交付を受け、2005（平成17）年4月11日から2006（平成18）年3月31日まで実施したものである。
3. 民間開発を原因として行った3件の本調査は、開発原因者から委託を受けふじみ野市教育委員会が主体となって行った。開発原因者・委託者等は次のとおりで、各発掘調査及び整理作業、報告書刊行に伴う費用は各開発原因者の委託費により行った。

遺跡・地点名	委託者	協定期間
		契約期間
本村遺跡第115地点	(株)ふじみ野リゾート	平成17年12月19日～平成19年3月31日
		平成17年12月19日～平成18年1月31日 平成18年5月1日～平成19年3月31日
浄禅寺跡遺跡第27地点	堀井宏悦	平成18年1月23日～平成19年3月31日
		平成18年1月23日～平成18年2月24日 平成18年5月1日～平成19年3月31日
苗間東久保遺跡第24地点	(株)堀井不動産	平成18年4月10日～平成19年3月31日

## 4. 調査組織

調査主体者	ふじみ野市教育委員会 (旧大井町教育委員会)	文化財保護係長	島田喜吉（4月1日～9月30日）
担当課	生涯学習課文化財保護係	文化財保護係・庶務担当	神木よし美（4月1日～9月30日）
教育長	牧恒男（4月1日～9月30日） 吉野英明（10月1日～3月31日）	調査担当者	高崎直成（4月1日～3月31日）
教育次長	池本敏雄（4月1日～9月30日、 1月1日～3月31日） 伊藤修（10月1日～12月31日） 島村栄（10月1日～3月31日）	調査担当者	鍋島直久（4月1日～3月31日） 市丸靖子（10月1日～3月31日） 柳澤健司（10月1日～3月31日）
生涯学習課長	金子忠弘（4月1日～12月31日）	大井町臨時職員（ふじみ野市臨時的任用職員）・発掘調査員補	越村篤（4月1日～3月31日）
副専業主生涯学習課長	原田昇（1月1日～3月31日）	嘱託員	藤牧守絵（10月1日～3月31日）
主幹兼係長	笹森健一（10月1日～3月31日）	臨時的任用職員	高橋京子（10月1日～3月31日）

## 5. 本書作成にあたっての作業分担は次のとおりである。

本書の編集は鍋島が行い、執筆は遺物を今井堯、遺構その他を鍋島が行った。まとめについては文末に記した。報告書作成全般にわたり笹森・高崎・越村の協力を得、また整理作業全般において日本考古学協会の今井堯の指導と援助を得た。浄禅寺跡遺跡第27地点出土石器の石材鑑定については、埼玉大学の角田史雄先生に御教授をいただいた。挿図割付：高橋けい子、写真図版割付：青山奈保美、遺物接合・復元：中田藤子、土器実測：山口妙子、石器実測：高橋けい子、遺構・遺物図トレース：小林登喜江、図版作成：青山奈保美・石垣ゆき子・大久保明子・須藤さち子・高橋けい子・丹治つや子、遺構写真：鍋島直久・高崎直成・越村篤、遺物写真：鍋島直久、土器実測の一部を（有）アルケリサーチに委託した。

## 6. 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏・機関より御指導・ご協力を賜った。（敬称略）

会田明、天ヶ嶋岳、荒井幹夫、上田寛、越前谷理、大久保淳、大柴英雄、岡田賢治、角田史雄、加藤秀之、梶原勝、梶原喜世子、神木繁嘉、國見徹、隈本健介、倉田芳郎、小泉功、小出輝雄、酒井智晴、桜井伸江、佐藤啓子、佐藤良博、塩野賀一、鈴木清、田中信、丹治剛、坪田幹男、平野愛、原口雅樹、早坂廣人、比嘉洋子、平野寛之、



藤波啓容、堀井宏悦、堀善之、松本富雄、水村孝行、柳井章宏、和田晋治、埼玉県市町村支援部生涯学習文化財課、ふじみ野市立大井郷土資料館、(株)東京航業研究所、(株)ふじみ野リゾート、(株)堀井不動産、(有)文化財 COM、(有)アルケリサーチ

7. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。記して厚く感謝の意を表したい。(敬称略)

〈発掘調査参加者〉新井和枝、飯塚泰子、井川弘、壹岐ヒサ子、井上晴江、井上麻美子、宇佐美弘澄、臼井孝、内田潔、遠藤忠志、大久保明子、大曾根キク子、長田弘毅、小田静夫、小野沢保孝、金子君子、菊口繁子、小林こずい、西城満期子、佐久間ひろ子、篠崎忠三、鈴木勝弘、関田成美、高貝しづ子、滝沢久嘉、戸澤竹二、富寺佐代子、中村正、沼澤岩男、野岡由紀子、比嘉洋子、福田美枝子、増沢勝実、宮崎達夫、吉田寛、若林紀美代。

〈整理作業参加者〉青山奈保美、石垣ゆき子、伊藤綾那、大久保明子、片岡滉貴、小林登喜江、坂井明、鳥貫雅子、須藤さち子、鈴木千恵子、高橋けい子、丹治つや子、寺井美和子、中田藤子、山口妙子、松島淳子。

## 凡 例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。




(1) 縮尺は原則として次のとおりである。

遺構配置図 1:300 遺構平面図・遺物出土状況図 1:60、1:30 炉などの詳細図 1:30

土器実測図・土器拓影図 1:4 石器実測図 1:3、2:3 錢貨 1:1

(2) 遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。明記していないものは同図版中の前遺構の海拔高に同じ。

(3) 遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示。

攪乱  地山(ローム)  焼土   
土器 ● 石器★ 黒曜石・チャート 礫○

(4) 土器断面図は、「」が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わしている。

(5) 縄文土器実測図における screen-tone の指示。

地文縄文  撚糸文 

(6) 土器・陶磁器実測図の中心線が破線の場合は、180度回転させて復元実測したことを示す。

2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号である。整理作業時に遺構名称を変更したものについては、新旧の名称を表等に記している。

3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括してふじみ野市教育委員会生涯学習課に保管してある。

## 埼玉県ふじみ野市

## 市内遺跡群2目次

はじめに	i	II 神明後遺跡第26地点	38頁
例言	ii	III 神明後遺跡第27地点	39頁
凡例	iii	第13章 苗間東久保遺跡の調査	41頁
目次	iv	I 遺跡の立地と環境	41頁
挿図目次	v	II 苗間東久保遺跡第24地点	41頁
表目次、写真図版目次	vi	第14章 浄禅寺跡遺跡の調査	48頁
		I 遺跡の立地と環境	48頁
		II 浄禅寺跡遺跡第27地点	48頁
第I部 試掘調査と個人住宅建設に伴う本調査の成果	1頁	第15章 大井氏館跡遺跡の調査	56頁
第1章 遺跡と調査の概要	1頁	I 遺跡の立地と環境	56頁
I 調査に至る経過	1頁	II 大井氏館跡遺跡第19地点	56頁
II 立地と環境	4頁	III 大井氏館跡遺跡第20地点	56頁
III 周辺の遺跡	4頁	第16章 本村遺跡の調査	61頁
第2章 鶴ヶ岡外遺跡の調査	8頁	I 遺跡の立地と環境	61頁
I 遺跡の立地と環境	8頁	II 本村遺跡第113地点	62頁
II 鶴ヶ岡外遺跡第3地点	8頁	III 本村遺跡第114地点	62頁
第3章 鶴ヶ岡遺跡の調査	10頁	IV 本村遺跡第115地点	62頁
I 遺跡の立地と環境	10頁	V 本村遺跡第116地点	62頁
II 鶴ヶ岡遺跡第4地点	10頁	VI 本村遺跡第117地点	64頁
第4章 亀居遺跡の調査	12頁	第17章 西台遺跡の調査	65頁
I 遺跡の立地と環境	12頁	I 遺跡の立地と環境	65頁
II 亀居遺跡第58地点	12頁	II 西台遺跡第6地点	65頁
III 亀居遺跡第59地点	12頁	第18章 東台遺跡の調査	66頁
IV 亀居遺跡第60地点	14頁	I 遺跡の立地と環境	66頁
第5章 鶴ヶ舞遺跡の調査	15頁	II 東台遺跡第44地点	69頁
I 遺跡の立地と環境	15頁	第19章 旧上福岡市域内遺跡の調査	76頁
II 鶴ヶ舞遺跡第8地点	15頁	I 松山遺跡試掘調査(7)	76頁
III 鶴ヶ舞遺跡第9地点	15頁	II 鶴ヶ舞遺跡第12地点	77頁
第6章 江川南遺跡の調査	17頁	第II部 民間開発に伴う本調査の成果	78頁
I 遺跡の立地と環境	17頁	第1章 苗間東久保遺跡第24地点の本調査	78頁
II 江川南遺跡第20地点	18頁	I 本調査の概要	78頁
III 江川南遺跡第6地点	19頁	II 遺構と遺物	78頁
第7章 江川東遺跡の調査	21頁	第2章 浄禅寺跡遺跡第27地点の本調査	86頁
I 遺跡の立地と環境	21頁	I 本調査の概要	86頁
II 江川東遺跡第10地点	21頁	II 遺構と遺物	86頁
第8章 東久保遺跡の調査	23頁	第3章 本村遺跡第115地点の本調査	97頁
I 遺跡の立地と環境	23頁	I 本調査の概要	97頁
II 東久保遺跡第63地点	23頁	II 遺構と遺物	97頁
第9章 東中学校西遺跡の調査	24頁	第III部 まとめ	
I 遺跡の立地と環境	24頁	第1章 まとめ	110頁
II 東中学校西遺跡第23地点	24頁	I 2005年度の調査について	110頁
III 東中学校西遺跡第24地点	27頁	II ふじみ野市の文化財保護行政について	111頁
IV 東中学校西遺跡第25地点	27頁	III 浄禅寺跡遺跡の縄文時代中期加曽利EⅢ式期の屋外埋甕・土坑	113頁
V 東中学校西遺跡第26地点	27頁	IV 縄文時代後期中葉の苗間東久保遺跡	113頁
VI 東中学校西遺跡第27地点	27頁	附編 自然科学分析	
第10章 西ノ原遺跡の調査	29頁	江川南遺跡第20地点および駒林遺跡第1地点から出土した炭化材の年代測定	119頁
I 遺跡の立地と環境	29頁	抄録	121頁
II 西ノ原遺跡第132地点	32頁		
III 西ノ原遺跡第133地点	33頁		
IV 西ノ原遺跡第134地点	33頁		
V 西ノ原遺跡第135地点	33頁		
第11章 中沢前遺跡の調査	37頁		
I 遺跡の立地と環境	37頁		
II 中沢前遺跡第26地点	37頁		
第12章 神明後遺跡の調査	38頁		
I 遺跡の立地と環境	38頁		

## 挿 図 目 次

第1図	ふじみ野市の位置と周辺の地形	5頁
第2図	ふじみ野市遺跡分布図(1/30,000)	6頁
第3図	鶴ヶ岡外遺跡の地形と調査区(1/10,000)、鶴ヶ岡外遺跡 第3地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)	9頁
第4図	鶴ヶ岡遺跡の地形と調査区(1/4,000)	10頁
第5図	鶴ヶ岡遺跡第4地点調査区域図(1/1,500)、土坑(1/60)、 出土遺物(1/4)	11頁
第6図	亀居遺跡の地形と調査区(1/4,000)	12頁
第7図	亀居遺跡第58・59・60地点遺構配置図(1/300・1/500)、土 層(1/150)	14頁
第8図	鶴ヶ舞遺跡の地形と調査区(1/4,000)	15頁
第9図	鶴ヶ舞遺跡第8・9地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)、 ピット(1/60)	16頁
第10図	江川南遺跡の地形と調査区(1/4,000)	17頁
第11図	江川南遺跡第20地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、 土坑・ピット(1/60)	18頁
第12図	江川南遺跡第6地点出土土器(1/4)	20頁
第13図	江川東遺跡の地形と調査区(1/4,000)	21頁
第14図	江川東遺跡第10地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)、 土坑・ピット(1/60)	22頁
第15図	東久保遺跡の地形と調査区(1/4,000)	23頁
第16図	東久保遺跡第63地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)	23頁
第17図	東中学校西遺跡の地形と調査区(1/4,000)	24頁
第18図	東中学校西遺跡第23地点調査区域図(1/300)、土層 (1/150)、土坑(1/60)	25頁
第19図	東中学校西遺跡第24・25地点調査区域図(1/300)、土層 (1/150)	26頁
第20図	東中学校西遺跡第26・27地点調査区域図(1/300)	28頁
第21図	西ノ原遺跡の地形と調査区(1/4,000)	29頁
第22図	西ノ原遺跡縄文時代中期住居跡配置図(1/2,000)	31頁
第23図	西ノ原遺跡第132・133・134地点遺構配置図(1/300)、土層 (1/150)	34頁
第24図	西ノ原遺跡第132地点51・52・146号住居跡出土土器(1/4)	35頁
第25図	西ノ原遺跡第135地点遺構配置図(1/400)、土層(1/150)	36頁
第26図	中沢前遺跡の地形と調査区(1/4,000)、第26地点調査区域図 (1/300)、土層(1/150)	37頁
第27図	神明後遺跡の地形と調査区(1/4,000)	38頁
第28図	神明後遺跡第26・27地点遺構配置図(1/300)、土層 (1/150)	40頁
第29図	苗間東久保遺跡の地形と調査区(1/4,000)、第24地点調査区 図(1/300)	41頁
第30図	苗間東久保遺跡遺構配置図(1/1,000)	43頁
第31図	苗間東久保遺跡第24地点出土遺物①(1/4)	45頁
第32図	苗間東久保遺跡第24地点出土遺物②(1/4)	46頁
第33図	苗間東久保遺跡第24地点出土遺物③(1/4・2/3)	47頁
第34図	浄禪寺跡遺跡の地形と調査区(1/4,000)	48頁
第35図	浄禪寺跡遺跡第27地点遺構配置図(1/300)	50頁
第36図	浄禪寺跡遺跡第27地点土坑・土坑出土土器(1/4)	52頁
第37図	浄禪寺跡遺跡第27地点土坑・ピット出土土器(1/4)	53頁
第38図	浄禪寺跡遺跡第27地点遺構外出土土器①(1/4)	54頁
第39図	浄禪寺跡遺跡第27地点遺構外出土土器②(1/4)	55頁
第40図	大井氏館跡遺跡の地形と調査区(1/4,000)	56頁
第41図	大井氏館跡遺跡第19・20地点遺構配置図(1/500・1/300)、 土層(1/150)	58頁
第42図	大井氏館跡遺跡第20地点溝(1/60)	59頁
第43図	大井氏館跡遺跡第20地点ピット(1/60)、出土遺物(1/4)	60頁
第44図	本村遺跡の地形と調査区(1/5,000)	61頁
第45図	本村遺跡第116地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)	62頁
第46図	本村遺跡第113・114・115地点遺構配置図(1/300)、土層 (1/150)、ピット(1/60)	63頁
第47図	本村遺跡第117地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)	64頁
第48図	西台遺跡の地形と調査区(1/4,000)、第6地点遺構配置図 (1/300)、土層(1/150)	65頁
第49図	東台遺跡の地形と調査区(1/4,000)	66頁
第50図	東台遺跡の調査区と遺構分布図(1/2,000)	68頁
第51図	東台遺跡第44地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)	69頁
第52図	東台遺跡第95・96・97号住居跡遺物出土状況(1/60)	70頁
第53図	東台遺跡第44地点土坑・ピット(1/60)	71頁
第54図	東台遺跡第44地点95~97号住居跡出土遺物①(1/4)	73頁
第55図	東台遺跡第44地点95~97号住居跡出土遺物②(1/4・2/3)	74頁
第56図	東台遺跡第44地点土坑・遺構外出土遺物(1/4・2/3)	75頁
第57図	松山遺跡の地形と調査区(1/5,000)	76頁
第58図	松山遺跡試掘調査(7)調査区域図(1/300)	76頁
第59図	鶴ヶ舞遺跡第12地点調査区域図(1/500)、土層(1/60)	77頁
第60図	苗間東久保遺跡第24地点遺構配置図(1/300)	78頁
第61図	苗間東久保遺跡第24地点土坑・ピット①(1/60)	81頁
第62図	苗間東久保遺跡第24地点土坑出土遺物(1/4)	82頁
第63図	苗間東久保遺跡第24地点ピット②(1/60)	83頁
第64図	苗間東久保遺跡第24地点ピット③(1/60)	84頁
第65図	苗間東久保遺跡第24地点ピット出土遺物(1/4・2/3)	85頁
第66図	浄禪寺跡遺跡第27地点遺構配置図(1/300)	86頁
第67図	浄禪寺跡遺跡2号住居跡(1/60)、炉・屋外埋甕(1/30)	89頁
第68図	浄禪寺跡遺跡第27地点土坑①(1/60)	90頁
第69図	浄禪寺跡遺跡第27地点土坑②(1/60)	91頁
第70図	浄禪寺跡遺跡第27地点ピット(1/60)	93頁
第71図	浄禪寺跡遺跡第27地点溝(1/120)	94頁
第72図	浄禪寺跡遺跡第27地点出土土器(1/4)	95頁
第73図	浄禪寺跡遺跡第27地点土坑・遺構外出土土器(1/6・1/4 ・2/3)	96頁
第74図	本村遺跡第115地点遺構配置図(1/300)	97頁
第75図	本村遺跡第115地点掘立柱建物跡(1/100)	98頁
第76図	本村遺跡第115地点土坑①・ピット①・溝①(1/80)	101頁
第77図	本村遺跡第115地点土坑②・ピット②・溝②(1/80)	102頁
第78図	本村遺跡第115地点土坑③・ピット③・溝③(1/80)	103頁
第79図	本村遺跡第115地点井戸①(1/60)	104頁
第80図	本村遺跡第115地点井戸②(1/60)	105頁
第81図	本村遺跡第115地点出土遺物①(1/6・1/4・1/1)	107頁
第82図	本村遺跡第115地点出土遺物②(1/4・2/3・1/1)	108頁
第83図	本村遺跡第115地点出土遺物③(1/6・1/4)	109頁
第84図	浄禪寺跡・ハケ遺跡屋外埋甕・土坑出土の加曾利EⅢ式土器 (1/12)	115頁
第85図	苗間東久保遺跡堀之内Ⅱ式・加曾利BⅠ式住居と土壇、出土 土器(1/120、1/6・1/8)	116頁
第86図	苗間東久保遺跡第24地点出土・堀之内Ⅱ式・加曾利BⅠ式土 器片(1/6)	117頁

## 表 目 次

第1表	2005（平成17）年度ふじみ野市内埋蔵文化財調査 件数一覧表 ……………	1頁	第18表	大井氏館跡遺跡第20地点ピット一覧表 ……………	57頁
第2表	2005（平成17）年度旧大井町地域内埋蔵文化財調 査一覧表 ……………	2頁	第19表	本村遺跡第113地点ピット一覧表 ……………	62頁
第3表	2005（平成17）年度旧大井町地域内立会調査一覧 表 ……………	3頁	第20表	東台遺跡調査一覧表 ……………	67頁
第4表	2005（平成17）年度旧上福岡市地域内埋蔵文化財 調査一覧表 ……………	3頁	第21表	東台遺跡第44地点土坑一覧表 ……………	71頁
第5表	ふじみ野市遺跡一覧表 ……………	7頁	第22表	東台遺跡第44地点ピット一覧表 ……………	71頁
第6表	縄文時代中期時期細分対比表 ……………	7頁	第23表	苗間東久保遺跡第24地点土坑一覧表 ……………	78頁
第7表	鶴ヶ岡外遺跡調査一覧表 ……………	8頁	第24表	苗間東久保遺跡第24地点ピット一覧表① ……………	79頁
第8表	鶴ヶ岡遺跡調査一覧表 ……………	8頁	第25表	苗間東久保遺跡第24地点ピット一覧表② ……………	80頁
第9表	亀居遺跡調査一覧表 ……………	13頁	第26表	浄禅寺跡遺跡第27地点炉穴一覧表 ……………	87頁
第10表	鶴ヶ舞遺跡第9地点ピット一覧表 ……………	16頁	第27表	浄禅寺跡遺跡第27地点土坑一覧表 ……………	88頁
第11表	江川南遺跡第20地点ピット一覧表 ……………	18頁	第28表	浄禅寺跡遺跡第27地点ピット一覧表 ……………	88頁
第12表	西ノ原遺跡調査一覧表 ……………	30頁	第29表	浄禅寺跡遺跡第27地点出土石器一覧表 ……………	96頁
第13表	神明後遺跡調査一覧表 ……………	39頁	第30表	本村遺跡第115地点土坑一覧表 ……………	97頁
第14表	苗間東久保遺跡調査一覧表 ……………	42頁	第31表	本村遺跡第115地点ピット一覧表① ……………	99頁
第15表	苗間東久保遺跡縄文時代住居跡一覧表 ……………	42頁	第32表	本村遺跡第115地点ピット一覧表② ……………	100頁
第16表	浄禅寺跡遺跡調査一覧表 ……………	49頁	第33表	本村遺跡第115地点溝一覧表 ……………	100頁
第17表	大井氏館跡遺跡第20地点溝一覧表 ……………	57頁	第34表	本村遺跡第115地点井戸一覧表 ……………	100頁
			第35表	本村遺跡第115地点出土遺物一覧表 ……………	108頁
			第36表	旧大井町内縄文時代遺跡消長表 ……………	112頁
			第37表	ふじみ野市文化財担当職員数一覧表 ……………	118頁

## 写 真 目 次

巻頭図版1	浄禅寺跡遺跡第27地点2号住居跡、炉出土状況 浄禅寺跡遺跡第27地点土坑19遺物出土状況 浄禅寺跡遺跡第27地点出土土器		写真図版16	本村遺跡第115・116・117地点 ……………	138頁
巻頭図版2	本村遺跡第115地点北側調査区全景 南側調査区全景 苗間東久保遺跡第24地点調査区全景		写真図版17	西台遺跡第6地点・東台遺跡第44地点 ……………	139頁
写真図版1	鶴ヶ岡外遺跡第3地点・鶴ヶ岡遺跡第4地点 ・亀居遺跡第58・59地点 ……………	123頁	写真図版18	東台遺跡第44地点 ……………	140頁
写真図版2	亀居遺跡第60地点・鶴ヶ舞遺跡第8地点 ……………	124頁	写真図版19	東台遺跡第44地点 ……………	141頁
写真図版3	鶴ヶ舞遺跡第8・9地点 ……………	125頁	写真図版20	発掘調査・整理作業風景 ……………	142頁
写真図版4	江川南遺跡第20・6地点 ……………	126頁	写真図版21	苗間東久保遺跡第24地点本調査① ……………	143頁
写真図版5	江川東遺跡第10地点・東久保遺跡第63地点・ 東中学校西遺跡第23地点 ……………	127頁	写真図版22	苗間東久保遺跡第24地点本調査② ……………	144頁
写真図版6	東中学校西遺跡第24・25・26地点 ……………	128頁	写真図版23	苗間東久保遺跡第24地点本調査③ ……………	145頁
写真図版7	東中学校西遺跡第27地点・西ノ原遺跡第132・ 133地点 ……………	129頁	写真図版24	苗間東久保遺跡第24地点本調査④ ……………	146頁
写真図版8	西ノ原遺跡第134・135地点・中沢前遺跡第26 地点 ……………	130頁	写真図版25	浄禅寺跡遺跡第27地点本調査① ……………	147頁
写真図版9	神明後遺跡第26・27地点 ……………	131頁	写真図版26	浄禅寺跡遺跡第27地点本調査② ……………	148頁
写真図版10	苗間東久保遺跡第24地点 ……………	132頁	写真図版27	浄禅寺跡遺跡第27地点本調査③ ……………	149頁
写真図版11	苗間東久保遺跡第24地点 ……………	133頁	写真図版28	浄禅寺跡遺跡第27地点本調査④ ……………	150頁
写真図版12	浄禅寺跡遺跡第27地点 ……………	134頁	写真図版29	浄禅寺跡遺跡第27地点本調査⑤ ……………	151頁
写真図版13	浄禅寺跡遺跡第27地点 ……………	135頁	写真図版30	浄禅寺跡遺跡第27地点本調査⑥ ……………	152頁
写真図版14	大井氏館跡遺跡第19・20地点 ……………	136頁	写真図版31	浄禅寺跡遺跡第27地点本調査⑦ ……………	153頁
写真図版15	本村遺跡第113・114地点 ……………	137頁	写真図版32	浄禅寺跡遺跡第27地点本調査⑧ ……………	154頁
			写真図版33	本村遺跡第115地点本調査① ……………	155頁
			写真図版34	本村遺跡第115地点本調査② ……………	156頁
			写真図版35	本村遺跡第115地点本調査③ ……………	157頁
			写真図版36	本村遺跡第115地点本調査④ ……………	158頁
			写真図版37	本村遺跡第115地点本調査⑤ ……………	159頁
			写真図版38	本村遺跡第115地点本調査⑥ ……………	160頁
			写真図版39	本村遺跡第115地点本調査⑦ ……………	161頁
			写真図版40	本村遺跡第115地点本調査⑧ ……………	162頁

## 第 I 部 試掘調査と個人住宅建設に伴う本調査の成果

### 第 1 章 遺跡と調査の概要

#### I 調査に至る経過

埼玉県ふじみ野市は、首都圏30km圏内の県南西部に位置する。2005（平成17）年10月1日に、旧上福岡市と旧大井町が合併して誕生した。面積14.67km<sup>2</sup>、人口は平成19年3月1日現在104,292人である。

明治、大正時代ごろまでは旧上福岡市地域では畑作と稲作、旧大井町地域では畑作を中心とする農村地帯であった。また、それぞれに大井宿や福岡河岸、上福岡駅周辺といった交通の要所に伴う地域でもあった。昭和初期の太平洋戦争時には、福岡に通信施設や火工廠（造兵廠）が建設され、戦後の昭和30年代以降には各市町で中・小の宅地開発や大規模な団地が誕生し人口が急増した。また企業の工場や研究所も多数進出してきた。昭和60年代以降、旧大井町地域では大規模な土地区画整理事業が進み、埋蔵文化財の発掘調査も活発に行われた。現在は上福岡駅周辺の再開発とふじみ野駅周辺の民間開発が活発に行われている。

旧上福岡市、旧大井町ともに昭和53年から現在まで国庫・県費の補助を受けて、「市内遺跡発掘調査事業」、「町内遺跡発掘調査事業」などの試掘・確認調査及び個人住宅建設に伴う発掘調査を実施してきた。

2005・2006（平成17・18）年度は合併に伴う過渡期であり、発掘調査及び報告書作成は変則的である。

平成17年度は、旧上福岡市・旧大井町が受けた国庫・県費の補助事業を新市が引継いで実施したが、事業内容・予算等の完全な一本化は出来なかった。

平成18年度は、ふじみ野市として国庫・県費の補助事業を一本化し、埋蔵文化財の調査を実施しているが、報告書作成については平成19年度刊行分から一本化の予定である。

平成17年度の調査は、庁内関係各課と連絡調整を行ない、農地転用許可申請段階、建築確認申請段階、開発行為申請段階等でそれぞれチェックをして、遺跡包蔵地内及びその縁辺部の申請に対し、申請者に連絡をして協議を行った。その後、教育委員会では開発主体者または土地所有者から「埋蔵文化財包蔵地事前協議書」の提出を受けて、事前協議を行った。

協議後、文化財保護法第95条第1項にもとづき、試掘・確認調査については公費で対応し、埋蔵文化財包蔵地の詳細な範囲の把握を積極的に実施している。また専その個人の用に供する住宅（個人住宅）の建設に伴う発掘調査についても、教育委員会が発掘調査主体者となって調査を実施してきた。

平成17年度、旧大井町地域内における試掘及び発掘調査は第2表のとおりで、国庫・県費補助事業対象の調査は22件である。また、旧上福岡市地域内における国庫・県費補助事業対象の調査は16件である。<sup>(注1)</sup>

平成17年度、民間開発に伴う原因者負担の本調査については、旧大井町では各事業者からの委託を受けて大井町遺跡調査会が8件の本調査を実施した。8件のうち店舗1件は1991（平成3）年に試掘調査を行い、今年度本調査を実施したものである。合併後のふじみ野市では各事業者からの委託を受けて、ふじみ野市教育委員会が直営で2件の調査を実施した。

2000（平成12）年度から2005（平成17）年度までの試掘・発掘調査件数は旧大井町で年間37～39件、旧上福岡市で年間14～19件である。今後、ますます中小規模民間開発の増加が見込まれる中で、埋蔵文化財の保存及び調査体制の強化が求められるところである。

第 1 表 2005（平成17）年度ふじみ野市内埋蔵文化財調査件数一覧表

件数・内訳 地域	試掘件数	個人住宅 本調査件数	原因者負担 本調査件数	調査原因の内訳
	開発面積m <sup>2</sup>	開発面積m <sup>2</sup>	開発面積m <sup>2</sup>	
旧上福岡市地域内	16件	3	0	個人住宅11、土地分譲1、共同住宅1、宅地造成2、公園造成1
	7,513	509	0	
旧大井町地域内	40件	0	10	個人住宅15、共同住宅4、分譲住宅9、店舗7、店舗併用住宅2、鉄塔1、道路1、宅地造成1
	25,740	0	8,340	
合 計	56件	3件	10件	
	33,253	509	8,340	

第2表 2005（平成17）年度旧大井町地域内埋蔵文化財調査一覧表

No.	遺跡・地点名	申請地住所	調査面積 (km <sup>2</sup> )	開発面積 (km <sup>2</sup> )	原因	試掘調査期間	調査措置
						(本調査期間)	
1	鶴ヶ岡外遺跡第3地点	亀久保1676-27	25	160	鉄塔建設	2005.10.25~26	試掘調査
2	鶴ヶ岡遺跡第4地点	大井鶴ヶ岡3丁目18-1,12,23-3,26-6	175	1742	店舗	2005.5.12	工事監理、調査
3	亀居遺跡第58地点	亀久保2丁目975-19・24	8	79	個人住宅	2005.4.18	試掘調査
4	亀居遺跡第59地点	亀久保2-10-5	258	1,073	共同住宅	2005.8.3~31 (2005.9.1~16)	試掘調査、 本調査
5	亀居遺跡第60地点	亀久保2-17-7	52	293	個人住宅	2005.10.26~27	試掘調査
6	鶴ヶ舞遺跡第8地点	鶴ヶ舞1-69-46~51,61~66	236	1,087	分譲住宅	2005.7.11~8.11 (2005.8.24)	試掘調査、 本調査
7	鶴ヶ舞遺跡第9地点	鶴ヶ舞1-16-5	23	104	共同住宅	2005.11.1	試掘調査
8	江川南遺跡第20地点	東久保1-183-5	237	951	宅地造成	2005.8.1~12 (2005.8.18~9.10)	試掘調査、 本調査
9	江川東遺跡第10地点	東久保1-174-1・36	267	881	分譲住宅	2005.10.13~24	試掘調査
10	東久保遺跡第63地点	ふじみ野2-5-10・12	23	105	個人住宅	2006.2.1	試掘調査
11	東中学校西遺跡第23地点	ふじみ野4-1-6の一部	288	926	店舗	2005.5.24~30	試掘調査
12	東中学校西遺跡第24地点	ふじみ野3-9-5	194	1,425	店舗	2005.6.20~7.7 (2005.7.11~13)	試掘調査、 本調査
13	東中学校西遺跡第25地点	ふじみ野1-1-9・10	151	604	分譲住宅	2005.6.28~7.2	試掘調査
14	東中学校西遺跡第26地点	ふじみ野3-10-8~11	147	1,060	音楽教室	2006.1.5~10	試掘調査
15	東中学校西遺跡第27地点	ふじみ野3-10-3の一部,-4	14	120	個人住宅	2006.1.11	試掘調査
16	西ノ原遺跡第51地点	うれし野2-1-IX	600	1189	店舗	1991.2.4~12 (2005.4.11~4.25)	本調査
17	西ノ原遺跡第132地点	苗間1-15-17	100	272	店舗併用 共同住宅	2005.7.28~8.2 (2005.8.3~11)	試掘調査、 本調査
18	西ノ原遺跡第133地点	旭1-8-8	48	176	個人住宅	2005.10.11~12	試掘調査
19	西ノ原遺跡第134地点	旭1-13-8	43	348	店舗	2005.10.6~11	試掘調査
20	西ノ原遺跡第135地点	うれし野1-226-1	1,147	3,341	店舗併用 集合住宅	2006.3.14~4.28 (2006.5)	試掘調査
21	中沢前遺跡第26地点	苗間1-11-13	54	170	分譲住宅	2005.11.3~12.1	試掘調査
22	神明後遺跡第26地点	大井苗間字神明後301, 303-3~5,304-1,303-7	62	689	分譲住宅	2005.6.1~8 (2005.6.15~30)	試掘調査、 本調査
23	神明後遺跡第27地点	苗間248-2,249-1	62	385	共同住宅	2005.7.20~25 (2005.7.27・29)	試掘調査、 本調査
24	苗間東久保遺跡第24地点	苗間東久保637-1,637-28	515	561	分譲住宅	2006.3.7~4.14 (2006.4.10~28)	試掘調査、 本調査
25	浄禅寺跡遺跡第27地点	苗間神明後342-2の一部	64	117	道路築造	2006.1.11~12	試掘調査
26	浄禅寺跡遺跡第27地点	苗間神明後354-2	224	696	分譲住宅	2005.12.1~26、 2006.1.13~22 (2006.1.23~2.22)	試掘調査、 本調査
27	大井氏館跡遺跡第19地点	大井1-6-13	4	1,500	個人住宅	2005.6.7~8	試掘調査
28	大井氏館跡遺跡第20地点	大井1-7-7	279	773	共同住宅	2006.3.2~14	試掘調査
29	本村遺跡第113地点	市沢2-2-3	27	162	個人住宅	2005.5.9~10	試掘調査
30	本村遺跡第114地点	市沢3-2-1・12	129	887	分譲住宅	2005.10.21~28	試掘調査
31	本村遺跡第115地点	市沢2-10-6	170	573	分譲住宅	2005.11.21~ 2006.1.31 (2005.12.19~ 2006.2.2)	試掘調査、 本調査
32	本村遺跡第116地点	市沢2-10-4の一部	9	168	個人住宅	2006.1.17	試掘調査
33	本村遺跡第117地点	大井2-11-4・6	1,487	1,582	店舗	2006.3.22~4.14	試掘調査
34	西台遺跡第6地点	西台891-5	68	283	分譲住宅	2005.6.24~28	試掘調査
35	東台遺跡第44地点	東台664-15	109	200	個人住宅	2005.12.8~28	試掘調査
36	東台遺跡第44地点	東台664-12		200	個人住宅	2005.12.8~28	試掘調査
37	東台遺跡第44地点	東台664-7,9,1		200	個人住宅	2005.12.8~28	試掘調査
38	東台遺跡第44地点	東台664-8,10		233	個人住宅	2005.12.8~28	試掘調査
39	東台遺跡第44地点	東台664-6		200	個人住宅	2005.12.8~28	試掘調査
40	東台遺跡第44地点	東台664-14		225	個人住宅	2005.12.8~28	試掘調査
合計				7,299	25,740		

第3表 2005（平成17）年度旧大井町地域内立会調査一覧表

	遺跡名	申請地住所	開発面積 <sup>km<sup>2</sup></sup>	原因	立会日	再開発時の対応
	申請年月日	調査内容				
1	鶴ヶ岡遺跡縁辺	大井鶴ヶ岡4丁目5番65号	110	個人住宅	2005.10.7	立会又は試掘
	2005.9.8	基礎部分を約20cm掘下げるが、地山ローム面確認されず。				
2	鶴ヶ岡遺跡縁辺	大井鶴ヶ岡3丁目17-1,18-2,4,5,23-1,10	2618	共同住宅	2005.7.12.15	立会又は試掘
	2005.3.25	表土除去後、地山ローム面で確認するが遺構・遺物なし。				
3	亀居遺跡内	亀久保2-16-2	2537	擁壁工事	2005.5.13~6.6	なし
	2005.3.8	擁壁基礎部分の地山ローム面で確認するが遺構・遺物なし。次回擁壁部調査必要なし。				
4	江川南遺跡縁辺部	亀久保3丁目202番11号	128	個人住宅	2005.12.19	立会又は試掘
	2005.11.24	基礎部分を約20cm掘下げるが、地山ローム面確認されず。				
5	東久保遺跡内	大井ふじみ野2丁目19番1号	964	駐車場	2005.9.21~9.26	立会又は試掘
	2005.8.24	砂利敷きのため工事立会いのみ実施。				
6	東久保西遺跡内	大井ふじみ野3丁目1番1,9号	1301	店舗	2005.10.3,12.20	立会又は試掘
	2005.11.24	基礎部分を50cm掘下げるが、地山ローム面確認されず。				
7	東中学校西遺跡縁辺	大井ふじみ野4丁目4番7号	158	個人住宅	2005.8.29	なし
	2005.7.21	基礎部分50cmで地山ローム面確認するが遺構・遺物なし。				
8	東中学校西遺跡縁辺	大井ふじみ野3丁目9番4号	836	駐車場	2005.12.5	立会又は試掘
	2005.7.29	包蔵地範囲外で表土30cm残すため工事立会実施。立会后、周辺の調査より包蔵地とする。				
9	東中学校西遺跡縁辺	大井ふじみ野4丁目2-1,2の一部	109	個人住宅	2005.11.4	立会又は試掘
	2005.9.26	基礎部分を約20cm掘下げるが、地山ローム面確認されず。				
10	東中学校西遺跡縁辺	ふじみ野4丁目2番1・12号	109	個人住宅	2005.11.29	立会又は試掘
	2006.10.14	基礎部分を約20cm掘下げるが、地山ローム面確認されず。				
11	東久保南遺跡縁辺	大井ふじみ野4丁目7番10,11号	661	駐車場	2005.10.6	立会又は試掘
	2005.9.16	入り口部分は地山ローム面で確認するが、遺構遺物なし。その他は保護層30cm確保。				
12	西ノ原遺跡	旭1-10-2	289	個人住宅	2005.5.10	立会又は試掘
	2005.3.15	基礎部分を約20cm掘下げるが、地山ローム面確認されず。				
13	神明後遺跡	苗間282-8	108	個人住宅	2005.12.19	立会又は試掘
	2005.12.6	基礎部分を約50cm掘下げるが、地山ローム面確認されず。				
14	大井氏館跡遺跡内	大井1丁目6番9号	249	個人住宅兼店舗	2005.12.5	立会又は試掘
	2005.10.19	基礎部分を約20cm掘下げるが、地山ローム面確認されず。				
15	本村遺跡縁辺	大井市沢1丁目1番5の一部,9の一部	1036	共同住宅	2005.10.20	なし
	2005.6.6	基礎部分を約50cm掘下げて地山ローム面確認するが遺構遺物なし。				
16	本村遺跡縁辺	大井大井2丁目2番6号	297	個人住宅	2005.9.8	立会又は試掘
	2005.7.6	基礎部分を約30cm掘下げるが、地山ローム面確認されず。				

第4表 2005（平成17）年度旧上福岡市地域内埋蔵文化財調査一覧表

	遺跡名	申請地住所	開発面積	原因	試掘調査期間	調査措置
					(本調査期間)	
1	松山遺跡試掘調査(1)	松山2-2-4の一部	313	個人住宅	2005.4.6~7	試掘調査
2	松山遺跡試掘調査(2)	築地3-1-32・34・43	549	土地分譲	2005.4.19~21	試掘調査
3	松山遺跡試掘調査(3)	築地2-5-32	132	個人住宅	2005.4.28	試掘調査
4	城山遺跡確認調査	福岡170-1、171-1	1,500	公園造成	2005.5.19~6.14	確認調査
5	鷲森遺跡試掘調査	駒林字市金76の一部、77-1の一部、78-3の一部	300	個人住宅	2005.5.31~6.2	試掘調査
6	松山遺跡第31次調査	築地3-1-69	120	個人住宅	2005.6.9~13	試掘調査、 本調査
					2005.6.14~23	
7	滝遺跡試掘調査	滝3-3-5、3-143	350	個人住宅	2005.6.24~27	試掘調査
8	松山遺跡確認調査	築地2-5-3	567	宅地造成	2005.8.30~9.13	確認調査
9	松山遺跡第32次調査	築地2-5-3の一部	132	個人住宅	2005.9.8~13	試掘調査、 本調査
					2005.8.30~9.7	
10	松山遺跡試掘調査(4)	松山2-4-23	161	個人住宅	2005.10.20~21	試掘調査
11	松山遺跡試掘調査(5)	築地2-5-36	125	個人住宅	2005.10.31	試掘調査
12	松山遺跡試掘調査(6)	仲1-4-26	108	個人住宅	2005.11.14	試掘調査
					2005.11.22~27	
13	川崎遺跡第20次調査	川崎字宮脇153-5	257	個人住宅	2005.11.28~12.2	試掘調査、 本調査
14	西遺跡試掘調査	西2-2074-1の一部、 2075-1の一部	855	共同住宅	2005.12.1~2	試掘調査
15	南台2丁目試掘調査	南台2-1744他	1,944	宅地造成	2006.2.8~22	試掘調査
16	松山遺跡試掘調査(7)	松山2-5-21	100	個人住宅	2006.2.28	試掘調査
合計			7,513			

## II 立地と環境

ふじみ野市は埼玉県の南西部に位置し、市内には富士見川越有料道路、東武東上線、川越街道（国道254号線）、関越自動車道といった、交通の幹線が北西から南東方向に平行して存在する。市内の開発はこうした幹線沿いや、東武東上線福岡駅周辺、ふじみ野駅周辺を中心に進んでいるが、郊外には畑地や田園風景も多くみられる。

ふじみ野市を地形的にみると、武蔵野台地と荒川低地に大きく分かれ、旧大井町域は武蔵野台地縁辺部に位置し、旧上福岡市域は台地縁辺部から荒川低地の沖積地に広がる。

武蔵野台地は古多摩川が形成した扇状地で、扇頂部で標高180m、扇端部は標高15～20mで比高差10m前後の急斜面となって荒川低地と接している。台地には柳瀬川、黒目川、石神井川等の中河川が荒川低地へ向かって流れ、深い谷と沖積地を形成し、河川に沿って多くの遺跡が分布している。他にも多数の小河川が流れ、台地縁辺を鋸歯状に開析することが多いが、中には急崖もなく、緩斜面のまま低地に接していくことがある。この緩斜面はもともと低位の段丘面で、低位台地と呼ばれる。旧大井町地域を南北方向の断面図で見ると、北と南に高台が続き、その中間に低位台地（大井台）がある。この大井台の中を3本の河川が東流し、河川の流域に遺跡が集中している。中でも砂川堀は狭山丘陵に流れを發する中河川で、本来大井台はこの砂川の段丘面と捉えることができる。また、福岡江川や富士見市との境を流れるさかい川、浄禪寺川などの小河川は市内に湧水源をもつ。湧水源は浅い窪地から発しており、こうした窪地の形成は従来から伏流水が再湧出したことによるものと、宙水からの流出によるものとの二通りが考えられている。

荒川低地は、荒川により形成された沖積地で、ふじみ野市の北東部から東部にかけての地域が属する。荒川の支流である新河岸川は、川越市伊佐沼に水源を發し武蔵野台地縁辺部を縫うように流れ、川越市、ふじみ野市、富士見市、志木市、朝霞市を経て荒川に合流する。低地部は平坦に見えるが、荒川や新河岸川の河川改修等で取り残された沼や、氾濫でできた旧河道（埋没河川）、自然堤防、後背湿地などの地形が存在する。

## III 周辺の遺跡

ふじみ野市の遺跡分布をみると、台地上の中小河川沿いと荒川低地部を望む縁辺部、低地部分に分かれる。

旧大井町地域の遺跡は台地上の小河川沿いに、また旧上福岡市地域の遺跡は荒川低地を望む台地縁辺部から低地部分と台地上の小河川沿いに存在する。本書で報告する旧大井町地域の遺跡は台地上の小河川沿いに集中するため、時代順に河川ごとに概観する。

【旧石器時代・縄文時代】 市の北側を流れる川越江川では、右岸高台に鶴ヶ岡外遺跡、鶴ヶ岡遺跡が位置し、縄文時代中期の集落である西遺跡へと続く。鶴ヶ岡外遺跡では、旧石器時代（立川ローム第V～IV層）の石器集中と礫群が出土しており、他の遺跡でも今後出土する可能性が高い。

川越江川の1km南には福岡江川が流れ、新河岸川へ注ぐ。福岡江川の湧水地に接して縄文時代中期前半の単一集落である亀居遺跡があり、対岸の江川南遺跡でも住居を検出する。旧石器時代（立川ローム第IV層）の礫群もこの2遺跡と鶴ヶ舞遺跡で検出している。さらに福岡江川に注ぐ埋没谷が確認され、東久保遺跡、東久保西遺跡、東中学校西遺跡で旧石器時代から縄文時代中期までの遺構と遺物が確認されている。本流域には12遺跡が点在する。

福岡江川の900m南には富士見さかい川が流れ、3km下流で砂川堀と合流する。流域には縄文時代中期の拠点集落である西ノ原遺跡をはじめ、9遺跡が存在する。旧石器時代の遺跡は西ノ原遺跡、中沢前遺跡、中沢遺跡・外記塚遺跡（富士見市）でⅢ層～Ⅹ層までの遺物が確認されている。縄文時代中期～後期の集落は時代を追うごとに、西ノ原遺跡から対岸の中沢遺跡、下流の神明後遺跡、苗間東久保遺跡へ拠点を移していく。

さかい川の800m南に都市下水道と化した砂川堀が流れる。この砂川流域には大きく3ヶ所の地域で遺跡分布がみられる。砂川が流れを發する最上流域の狭山丘陵裾部、伏流水となりはじめる中流域、一旦地中に姿を消したあと再び湧水してくる下流域である。下流域である旧大井町地域では、砂川右岸が段丘となり5～6mの急崖を形成している。この高台上には縄文時代中期の拠点集落である東台遺跡があり、旧石器時代の遺跡も西台遺跡から東台遺跡まで連続と続く。



一方砂川左岸の低位台地上では、市内で最古の時期であるAT降灰前（立川ローム第Ⅶ層）の石器を本村遺跡の微高地上から検出した。縄文時代には上流の小田久保遺跡で小規模な集落の存在が考えられるが、本村遺跡では炉穴、落とし穴が散在するのみである。

【弥生・古墳時代】 旧大井町地域では浄禅寺跡遺跡から、弥生時代後期の台付甕脚部が1点出土した以外、該期の遺跡は確認されていない。水田にふさわしい沖積地がないためと思われる。

【奈良・平安時代】 奈良時代（8世紀中葉）、東台遺跡に製鉄遺跡が現れ、9世紀前半まで続く。奈良時代の住居は神明後遺跡で1軒を検出している。9世紀以降10世紀までは東台遺跡・東久保南遺跡で各2軒、西ノ原遺跡・神明後遺跡で各1軒の住居を検出している。

【中世】 中世になると本村遺跡に集落が現れる。出土遺物の中心は15～16世紀だが、古いものでは13世紀代の陶器も出土しており、集落の初現をさかのぼらせている。また神明後遺跡では屋敷地と思われる遺構を検出、現在の集落とはほぼ重なっていると思われる。

【近世】 近世以降の遺跡は、多数の遺跡で遺物など

が確認されている。なかでも、川越街道沿いの大井宿（遺跡）の範囲にある大井氏館跡遺跡・大井戸上遺跡、旧亀久保村地藏院内にある江川南遺跡、旧苗間村の寺院跡である浄禅寺跡遺跡などでまとまった遺構と遺物が確認されている。

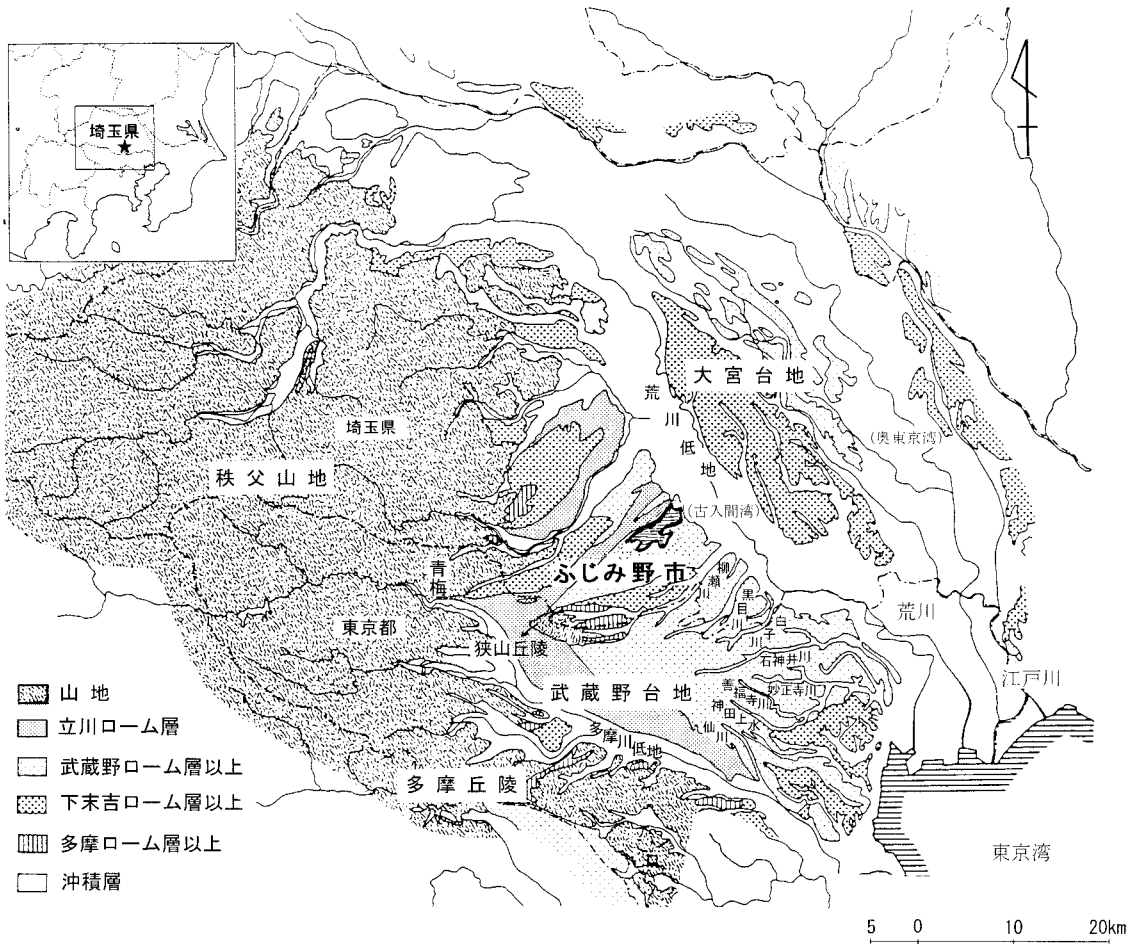
【旧上福岡市地域内の遺跡】 旧上福岡市地域の遺跡の立地を大別すると、台地上を流れる川越江川・福岡江川の小河川沿い、新河岸川と低地を臨む台地の縁辺部、新河岸川沿いの低地部に分かれる。

台地上の川越江川沿いには縄文時代中期の集落跡である西遺跡のほか北野遺跡や川崎横穴墓群などがある。

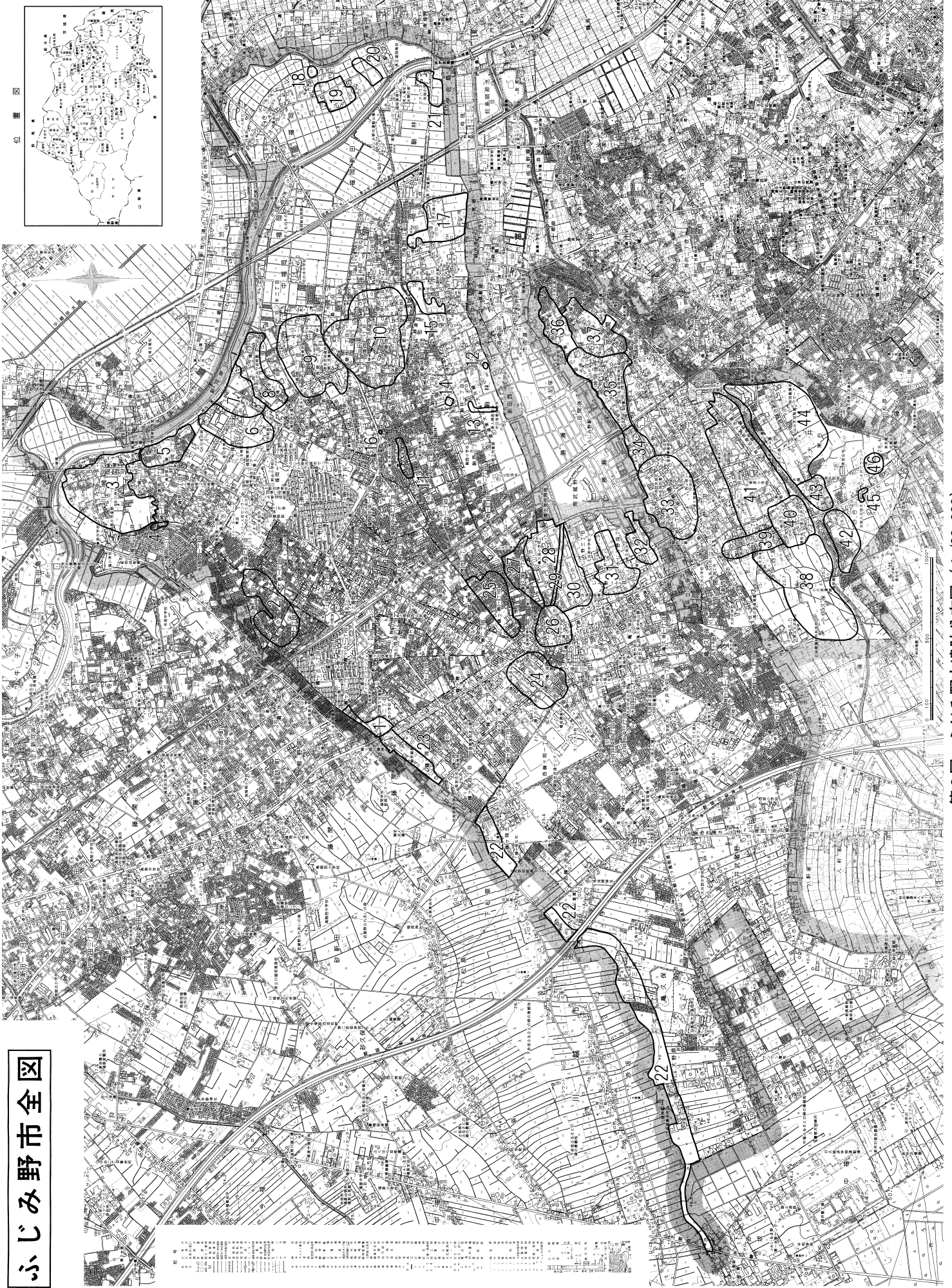
福岡江川沿いには富士見台横穴墓群、福遺跡、福岡新田遺跡がみられる。

新河岸川と低地を臨む台地縁辺部には縄文時代から平安時代までの集落である川崎遺跡やハケ遺跡・上福岡貝塚、奈良・平安時代の集落跡である松山遺跡・滝遺跡、県指定史跡の権現山古墳群、縄文時代前期の集落跡である鷲森遺跡や長宮遺跡などがある。

新河岸川周辺の低地には天神廻遺跡、城山遺跡、川袋遺跡、伊佐島遺跡などがみられる。



第1図 ふじみ野市の位置と周辺の地形



ふじみ野市全図

第2図 ふじみ野市遺跡分布図 (1/30,000)

第5表 ふじみ野市遺跡一覧表

No	遺跡名	主な時代	遺跡番号	No	遺跡名	主な時代	遺跡番号
1	西 遺 跡	縄文中期の集落跡	25-001	24	亀 居 遺 跡	旧石器、縄文前期・中期の集落跡	30-030
2	北 野 遺 跡	縄文中期の散布地	25-002	25	鶴ヶ舞遺跡	旧石器、縄文中期、奈良・平安の集落跡	30-046
3	川 崎 遺 跡	旧石器、縄文前期・中期、古墳前期・中期、奈良・平安の集落跡	25-003	26	江川南遺跡	旧石器、縄文中期、中・近世の集落跡	30-007
4	川崎横穴墓群	古墳後期の横穴墓	25-004	27	江川東遺跡	奈良・平安、近世の集落跡	30-045
5	ハケ遺跡	縄文中期の集落跡、奈良・平安の集落跡	25-005	28	東久保遺跡	旧石器、縄文中期、近世の集落跡	30-009
6	上福岡貝塚	縄文前期、古墳前期、奈良・平安の集落跡	25-006	29	亀久保堀跡遺跡	中世の堀跡	30-006
7	権現山遺跡(古墳群)	古墳前期の集落跡・古墳群	25-007	30	東久保西遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-042
8	滝 遺 跡	古墳前期・中期、奈良・平安の集落跡	25-008	31	東中学校西遺跡	縄文早期・中期、近世の集落跡	30-008
9	長 宮 遺 跡	縄文前期、中・近世の集落跡	25-009	32	東久保南遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-032
10	松 山 遺 跡	奈良・平安の集落跡	25-010	33	西ノ原遺跡	旧石器、縄文早期・中期・後期、奈良・平安～近世の集落跡	30-001
11	富士見台横穴墓群	古墳後期の横穴墓	25-011	34	中 沢 前 遺 跡	縄文早期・中期、近世の集落跡	30-044
12	駒林新田前遺跡		25-028	35	神 明 後 遺 跡	旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安～近世の集落跡	30-041
13	駒 林 遺 跡	近世の堀跡	25-013	36	苗間東久保遺跡	旧石器、縄文早期～後期	30-020
14	駒林中世墳墓	中世の墳墓	25-014	37	浄禅寺跡遺跡	旧石器、縄文早期・中期、中・近世の集落跡	30-022
15	福岡新田遺跡	散布地	25-015	38	小田久保遺跡	旧石器、縄文早期～中期、中・近世の集落跡	30-040
16	福 遺 跡	古墳後期の横穴墓	25-023	39	大井宿遺跡	近世～近代の宿場跡	30-010
17	鷺 森 遺 跡	縄文前期の集落跡	25-017	40	大井氏館跡遺跡大井戸遺跡	旧石器、縄文前期・中期、中・近世の集落跡	30-037
18	天神廻遺跡	古墳中期の散布地	25-018	41	本 村 遺 跡	旧石器、縄文早期～後期、中・近世の集落跡	30-034
19	城 山 遺 跡	中・近世の館跡	25-019	42	西 台 遺 跡	旧石器、縄文中期、奈良・平安、近世の集落跡	30-039
20	川 袋 遺 跡	奈良・平安の散布地	25-020	43	大井戸上遺跡	旧石器、縄文前期・中期、近世の集落跡	30-014
21	伊佐島遺跡	古墳前期、平安の集落跡	25-021	44	東 台 遺 跡	旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安～近世の集落跡、製鉄遺跡	30-024
22	鶴ヶ岡外遺跡	旧石器、縄文早期の集落跡	30-036	45	大井宿木戸跡	近世～近代の宿場跡	
23	鶴ヶ岡遺跡	旧石器、縄文早期・中期の集落跡	30-047	46	石 塔 畑	中世の散布地	30-027

第6表 縄文時代中期時期細分対比表

本書 2007 ①	安孫子昭二 1988 鈴木・山本 1988 ②	植 木 弘 ③ 1994	黒尾和久 ④ 1995	谷 井 他 ⑤ 1982	考古学協会 ⑥ 1981
猪沢・阿玉台1b古	阿玉台1b古・猪沢	猪沢・阿玉台1b	1a中	阿玉台1b前 Ⅱb	Ⅱ期 阿玉台出現期
勝坂1古・新道古・阿玉台1b新	勝坂第Ⅰ様式	勝坂Ⅰ様式	1a新	阿玉台1b後 Va	Ⅲ期
勝坂1新・新道新・阿玉台Ⅱ古	Ⅱ様式	Ⅱ	1b	Vb	(勝坂最古段階)
勝坂Ⅱ古・藤内古・阿玉台Ⅱ新	Ⅲ様式	Ⅲ	2a古	Ⅵ	Ⅳ期
Ⅱ新・藤内新	Ⅳ様式	Ⅳ	2a新	Ⅶ	(勝坂盛時段階)
勝坂Ⅲ古・井戸尻・阿玉台Ⅲ新	Ⅴ様式	Ⅴ	2b	Ⅷ	Ⅴ期
	Ⅵ様式	Ⅵ	3a	Ⅷ	(勝坂終末)
加曾利EⅠ古	加曾利EⅠ様式	a 加曾利EⅠ直前b	3b古	Ⅷ	加曾利EⅠ古
		c	3b新		
古相 加曾利EⅠ新	加曾利EⅡ様式	1 加曾利EⅠ式	E 1a	Ⅸa	加曾利EⅠ新
中相 新相		2	1 1b	Ⅸb	
		3	1c	X	
		4	2a		
古相 加曾利EⅡ	加曾利EⅢ様式	1 加曾利EⅡ式	E 2b	Ⅺ	加曾利EⅡ
中相 新相		2	2c古	Ⅻa	
		3	2c新	Ⅻb	
		3	3a		
加曾利EⅢ	a 加曾利EⅢ式	1 加曾利EⅢ式	3b	ⅫⅢ	加曾利EⅢ
	加曾利EⅣ様式	2	3c		
加曾利EⅣ	b	E 4	4	ⅫⅣ	加曾利EⅣ

## 第2章 鶴ヶ岡外遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

鶴ヶ岡外遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ藤間江川に面した標高27～50mの台地北縁、低地との比高差4mあまりの緩斜面上に立地する南北100m、東西3.5km以上の細長い崖線上にまたがる遺跡である。

周辺の遺跡は、江川下流に鶴ヶ岡遺跡、川越市八幡神社遺跡、西遺跡があり、八幡神社遺跡と西遺跡には縄文時代の集落が広がる。また、本遺跡の対岸でも旧石器時代の石器が表採されている。

2003年11月、鶴ヶ岡遺跡に隣接する個所について事業所の建設に伴う事前協議があり、同年12月2003年12月に試掘調査を行ったところ（第1地点）、旧石器時代（立川ロームⅣ層）の石器群と礫群を検出したため、2004年1月10日包蔵地の変更増補をして鶴ヶ岡外遺跡として新規登録した。また、2005年1月に第2地点を調査した際、崖線に沿って遺跡範囲確認の踏査を行った結果、更に上流でも旧石器時代の石器を表面採取したため、同年9月に包蔵地の変更増補を行った。主たる時代は旧石器時代～縄文時代早・前期である。

### II 鶴ヶ岡外遺跡第3地点

#### (1) 調査の概要

調査は無線基地局電気通信設備の鉄塔建設に伴うもので、原因者より2005年8月30日付けで、「埋蔵文化財包蔵地開発行為事前協議書」（以下「埋蔵文化財事前協議書」）が旧大井町教育委員会に提出された。申請地は川越江川の右岸の台地上に位置する。これまでに周辺部での試掘及び発掘調査が行われていないため、原因者と協議の結果、遺跡の範囲を確認するために試掘調査を実施した。

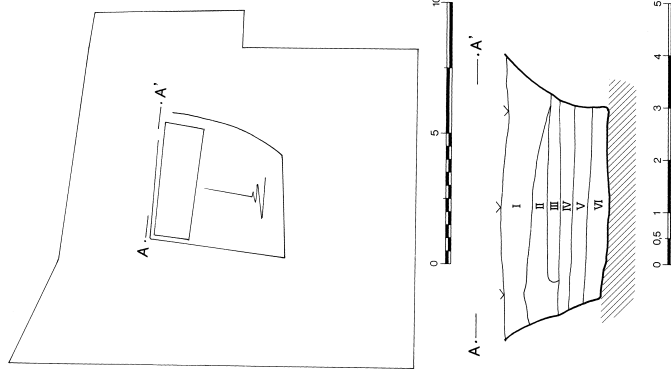
試掘調査は2005年10月25～26日に行った。幅約5m×5mのトレンチを1ヵ所設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行った。調査区は北側に緩やかに傾斜していたが、遺構と遺物は確認されなかったため、同日写真撮影・全測図等記録保存を行い、埋め戻して調査を終了した。

第7表 鶴ヶ岡外遺跡調査一覧表

地点	調査年	面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	2003.2004	5,526	事業所	旧石器石器群6・礫群7、縄文落し穴3	町内遺跡群Ⅻ 大井遺跡調査会予定
2	2004.2005	5,000	老人介護施設	旧石器石器群3、縄文炉穴群1・落し穴1	町内遺跡群Ⅻ 大井遺跡調査会報告予定
3	2005	160	鉄塔建設	遺構・遺物なし	市内遺跡群2
4	2003	5,911	給食センター	遺構・遺物なし	町内遺跡群Ⅻ

第8表 鶴ヶ岡遺跡調査一覧表

地点	調査年	面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	1991	5,710	体験学習園整備	遺構なし、縄文土器片、銭貨	町内遺跡群Ⅰ
2	2000	1,327	共同住宅	遺構なし、旧石器、縄文土器片	町内遺跡群Ⅹ
3	2005	2,059	個人住宅	遺構・遺物なし	町内遺跡群Ⅻ
4	2005	1,742	店舗	土坑、縄文土器片	市内遺跡群2



- I 暗褐色土 粘性弱、盛土、ソットローム似の土
- II 黒褐色土 粘性有、旧耕作土、5 cm以下のロームブロックを多量に含む
- III 黒褐色土 粘りや強、粘性有、10 cm以下のソットロームを多く含む
- IV 黒色土 粘り強、粘性有、2 mm大のローム粒を極少し含む
- V 黒色土 粘り強、粘性有、IV層より明るく、2 mm大ローム粒極少し含む
- VI 黒色土 粘り強、粘性有、IV層より明るく、V層より暗い

第3図 鶴ヶ岡外遺跡の地形と調査区(1/10,000)、鶴ヶ岡外遺跡第3地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)

## 第3章 鶴ヶ岡遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

鶴ヶ岡遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ藤間江川に面した標高22mの台地北縁に立地する東西200m以上の広い遺跡であり、その範囲は、川越市とふじみ野市にまたがっている。表面採集の遺物として、縄文早期のほか中期の各時期、平安時代の土器が知られており、複合遺跡である事を示している。表面採集の遺物は北の崖面寄りが密であり、住居などの集中部分と思われる。この部分のうち、ふじみ野市鶴ヶ岡八幡神社に接する川越市域部分で、1988年に調査が行われたが、その際に勝坂期末の住居1軒・加曾利E I 新期の住居1軒・加曾利E IV期の土坑などが検出され、ほぼ完形の有孔鏝付土器を含む大量の土器と石器若干が出土している。また、本遺跡の下流にある西遺跡の一部が1992年に調査され、阿玉台I b期、勝坂期II～III期、加曾利E III期の住居など16軒が検出されている。

ふじみ野市、川越市にまたがる本遺跡のうち、ふじみ野市分は1991年に旧大井町の体験学習園開設のため初めて試掘調査を実施し、今回が4地点目となる。

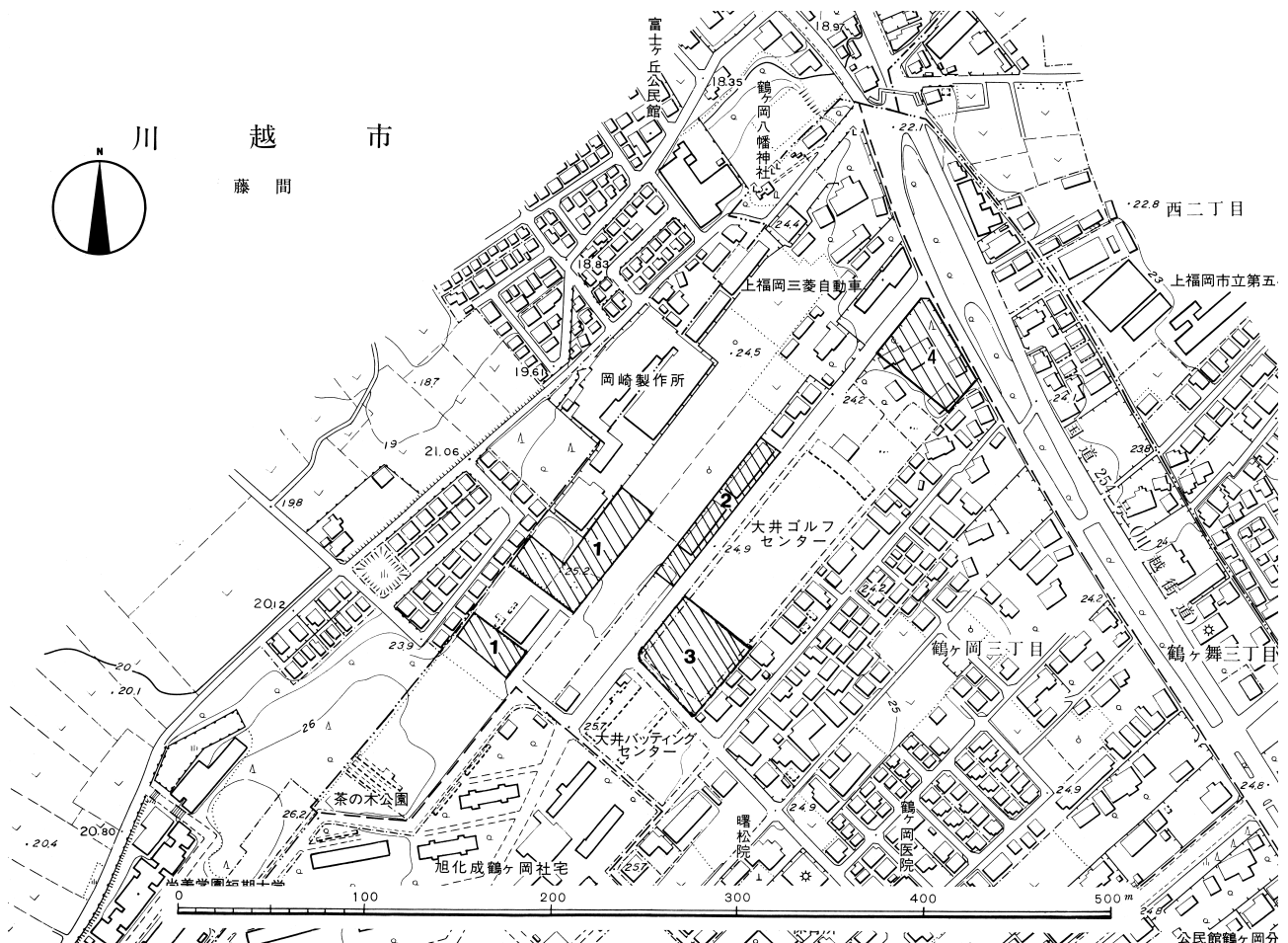
2001年7月に埼玉県教育委員会が本遺跡の南西側を試掘調査しているが、遺構・遺物は確認されていない。

### II 鶴ヶ岡遺跡第4地点

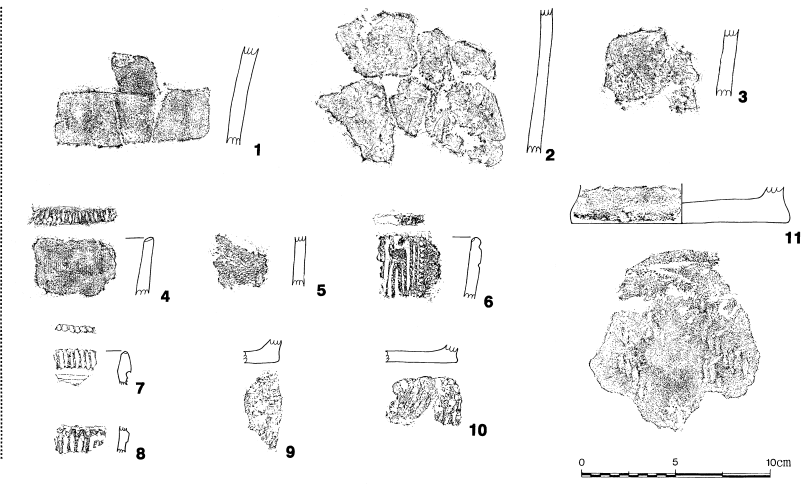
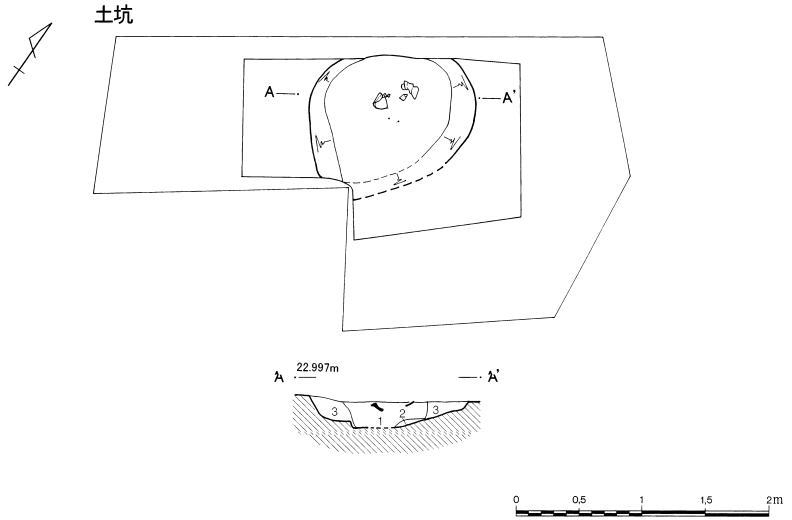
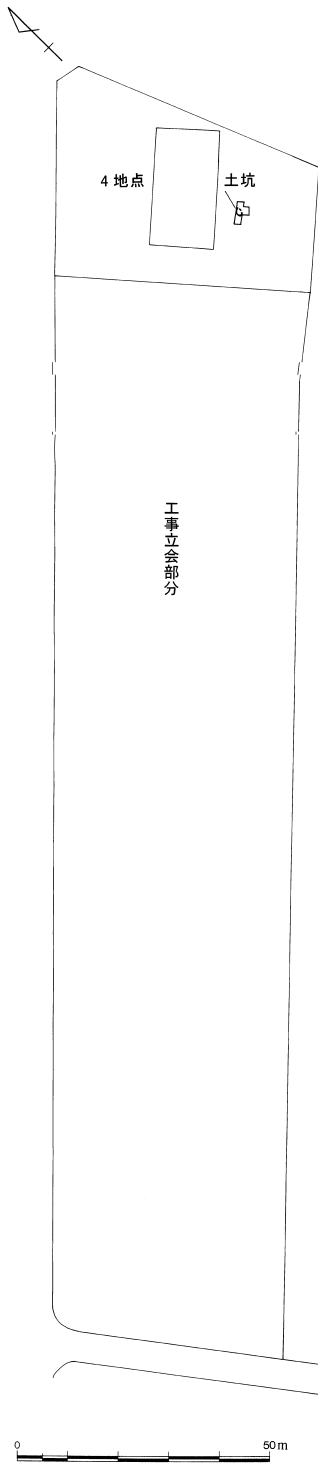
#### (1) 調査の概要

調査は店舗建設に伴うもので、原因者より2005年3月25日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」が旧大井町教育委員会に提出された。申請地は崖面から南へ約100mで、遺跡範囲の南側に隣接するため、原因者と協議の結果、工事の立会いを実施した。

2005年5月12日、店舗建物の基礎を設置する掘削工事に立会ったが、既存建物による攪乱が多数認められ、遺構・遺物は確認されなかった。さらに地山層の深さを確認するため、店舗建設予定地の南側に1×4.5mのトレンチを1本設定した。店舗建設の工事用重機を用い表土を除去したところ、遺構らしきプランを確認したため、試掘調査に切り替えて調査を行った。黒褐色土内から縄文土器片が出土したため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行って調査を終了した。



第4図 鶴ヶ岡遺跡の地形と調査区 (1/4,000)



- 1. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 2 mm以下の炭化物、1 mm大のローム粒、1 cm以下のシミ状のロームを多く含む
- 2. 暗褐色土 締り弱. 粘性有. ソフトロームでほぼ地山層に類似する
- 3. 暗褐色土 締り弱. 粘性有. 暗褐色土に2 cm以下のシミ状黒色土を少し含み、2 mm以下のローム粒を多く含む

第5図 鶴ヶ岡遺跡第4地点調査区域図(1/1,500)、土坑(1/60)、出土遺物(1/4)

遺跡の範囲外で遺構と遺物が確認されたため、同年9月27日付で包蔵地の変更増補を行った。

(2) 遺構と遺物

①土坑と出土遺物

土坑の平面形態はほぼ円形で、断面は皿状を呈し凹凸がある。規模は上端110~136cm、深さ35.5cmを測る。

覆土層から縄文時代中期初頭の土器片17点が出土した。

1は無文で胎土に白色軟質物質を含む。2と3は無文胴部の同一個体で二次被熱によるハジケが著しい。4は口唇部に深い刻目があり、5は細かい縄文を施す。6は集合沈線と鋸歯状刺突文をもつ。7と8は細い沈線をもつ口縁部である。9~11は無文の底部で、平底から内傾した後に直立する特徴がある。11は底部に網代痕がみられる。4~11の器厚は6 mmである。1と11、2~10はそれぞれ胎土が類似するが、2~10が同一個体かどうかは不明である。

1~11の特徴は縄文中期初頭の五領ヶ台式土器である。

## 第4章 亀居遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

亀居遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部に位置している。標高25~26mで現谷底との比高差は5mを測る。本遺跡をのせる北側の台地は急傾斜をなすが、対岸の南側は緩やかな斜面を形成している。遺跡の時期は、旧石器時代及び縄文時代中期前葉で、特に後者は周辺では類例の少ない単一集落である。江川南遺の立地とあわせて台地の奥に形成された中期前葉の遺跡のあり方として特異な様相が窺える。遺跡周辺は、土地区画整理事業により区画道路が縦横にとりつけられ、宅地化が進んでいる。

1977年の最初の調査から2006年12月現在まで60地点で調査され、縄文時代中期前半の住居跡15軒、屋外埋甕2基、集石土坑97基、土坑、ピット多数が確認されている。

遺物は阿玉台式、勝坂式土器が主体で一部五領ヶ台上層期の土器片も出土している。

### II 亀居遺跡第58地点

#### (1) 調査の概要

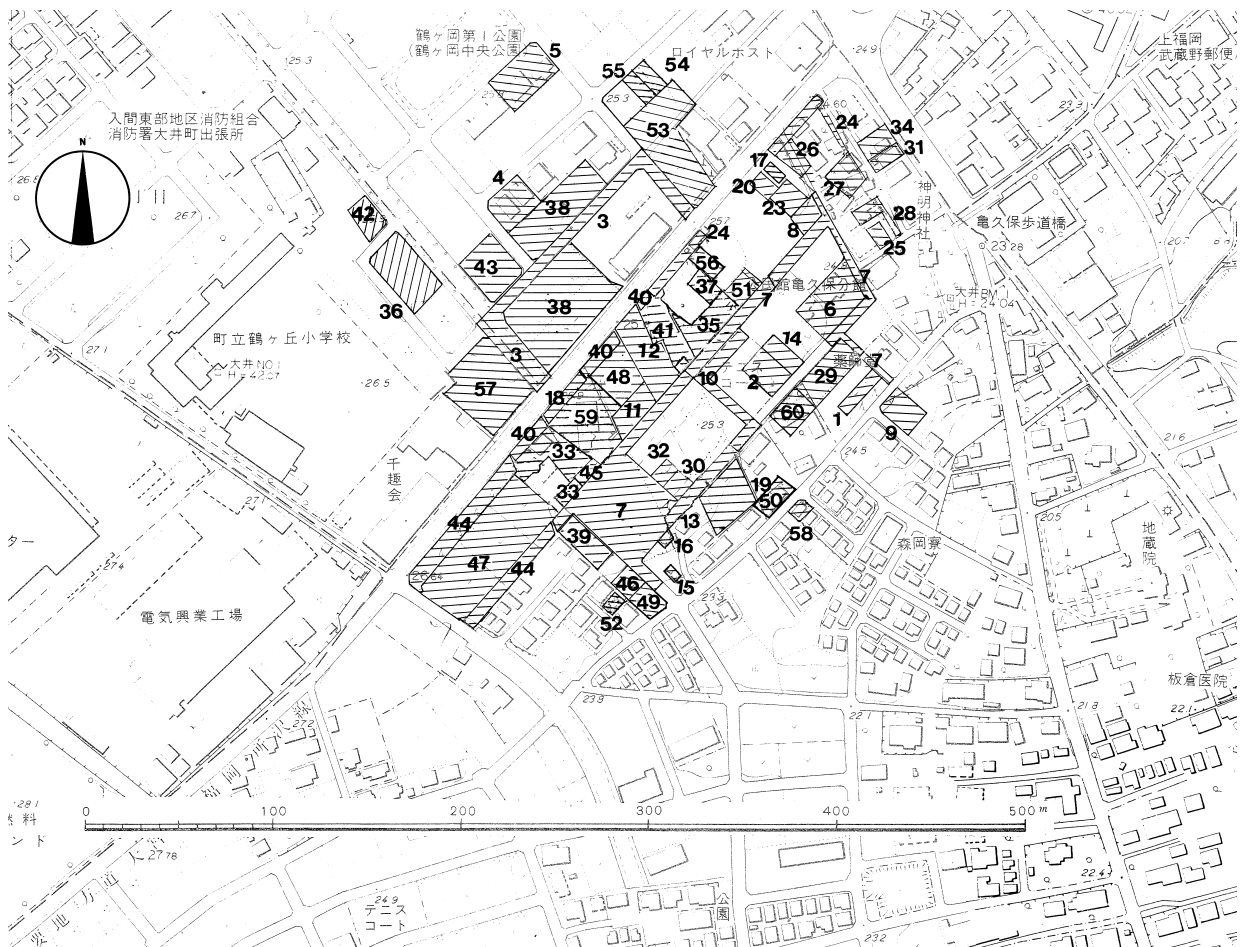
調査は個人住宅の建設に伴うもので、原因者より2005年4月12日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が旧大井町教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置しており、原因者と協議の結果、遺構と遺物の存在を確認するための試掘調査を実施した。

試掘調査は2005年4月18日に行った。幅約1.5mのトレンチ1本を設定し、重機で表土を除去後、人力で表面精査した結果、遺構・遺物は確認されなかったことから慎重工事の措置をとった。

### III 亀居遺跡第59地点

#### (1) 調査の概要

調査は共同住宅の建設に伴うもので、原因者より2005年7月22日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が旧大井町教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の



第6図 亀居遺跡の地形と調査区 (1/4,000)



第9表 亀居遺跡調査一覧表

地点	調査年	面積 (㎡)	調査原因	遺構と遺物					所収報告書
				住居	集石土坑	土坑	ピット	屋外埋竈	
1	1972	155	農地転用	遺構なし					町史資料編Ⅰ、 調査会報告8集
2	1973	350	農地転用	遺構なし					
3	1979	750	区画整理	2	1	6		1	東部遺跡群Ⅰ、 調査会報告8集
4	1984		区画整理	遺構なし					
5	1984		区画整理				1		
6	1985	914	区画整理		7	4	30		東部遺跡群Ⅵ
7	1986	2,740	区画整理	2	7	84	138		調査会報告8集
8	1986	181	個人住宅		2	3	11		東部遺跡群Ⅶ
9	1986		住宅建設	遺構なし					
10	1986	650	区画整理	1		20	17		調査会報告8集
11	1987	389	個人住宅		2		73		東部遺跡群Ⅷ
12	1987	387	個人住宅		1		48	1	東部遺跡群Ⅷ
13	1988	242	区画整理	2					調査会報告8集
14	1988	165	個人住宅	遺構なし					東部遺跡群Ⅸ
15	1989		個人住宅	遺構なし					東部遺跡群Ⅸ
16	1989	45	個人住宅	遺構なし					東部遺跡群Ⅸ
17	1989	112	個人住宅			3	8		東部遺跡群Ⅹ
18	1990	210	区画整理	遺構なし					東部遺跡群Ⅹ
19	1990	613	個人住宅	遺構なし					東部遺跡群Ⅹ
20	1990	118	個人住宅			1			東部遺跡群Ⅺ
21、22	未調査								
23	1990	160	個人住宅				10		東部遺跡群Ⅺ
24	1990	1,324	区画整理			1	3		調査会報告8集
25	1991	162	個人住宅	遺構なし					町内遺跡群Ⅰ
26	1991	259	個人住宅		2		60		町内遺跡群Ⅰ
27	1991	249	個人住宅				5		町内遺跡群Ⅰ
28	1991	475	個人住宅		6				東部遺跡群Ⅺ
29	1991	925	集合住宅	1	2		36		調査会報告3集
30	1991	116	個人住宅	遺構なし					町内遺跡群Ⅰ
31	1991	197	個人住宅	遺構なし					町内遺跡群Ⅰ
32	1991	115	個人住宅				6		町内遺跡群Ⅰ
33	1991、1992	998	個人住宅	1	3		42		町内遺跡群Ⅱ
34	1992	634	個人住宅	遺構なし					町内遺跡群Ⅰ
35	1993	470	個人住宅	1	2	7	56		町内遺跡群Ⅲ
36	1994	798	礼拝所建設			1		落とし穴1	町内遺跡群Ⅲ
37	1994	566	店舗併用住宅			1	13		町内遺跡群Ⅲ
38	1994	3,162	店舗		37	21	29	落とし穴2	調査会報告8集
39	1994	342	駐車場造成			1	5	炉穴4	町内遺跡群Ⅳ
40	1995	380	道路築造	遺構なし					調査会報告8集
41	1995	530	道路築造	1			66		調査会報告8集
42	1995	196	歯科医院建設	遺構なし					町内遺跡群Ⅴ
43	1995	818	店舗兼用 共同住宅		4	2			町内遺跡群Ⅴ
44	1995	1,030	道路築造	炉穴3、礫群1		7	29		調査会報告8集
45	1996	619	共同住宅				5	炉穴1	町内遺跡群Ⅵ
46	1996	192	分譲住宅	遺構なし					町内遺跡群Ⅵ
47	1996	2,741	共同住宅	1	14	4	174	落とし穴1	調査会報告8集 町内遺跡群Ⅵ
48	1997	858	プレハブ事務所			1		炉穴1	町内遺跡群Ⅵ
49	1997	214	店舗併用住宅						町内遺跡群Ⅶ
50	1998	197	個人住宅	1		1			町内遺跡群Ⅶ
51	1999	222	個人住宅		6	4	11		町内遺跡群Ⅸ
52	2000	121	個人住宅						町内遺跡群Ⅸ
53	2000、2001	1,422	店舗		7				町内遺跡群Ⅹ
54	2001	148	個人住宅						町内遺跡群Ⅺ
55	2001	148	個人住宅						町内遺跡群Ⅺ
56	2002	172	個人住宅				38		町内遺跡群Ⅻ
57	2003	1356	店舗						町内遺跡群Ⅻ
58	2005	79	個人住宅						市内遺跡群2
59	2005	1,073	共同住宅	2	1	1			調査会報告18集
60	2005	293	個人住宅						市内遺跡群2
61	2006	171	個人住宅	1	2	1	5		市内遺跡群3

中央部に位置しており、原因者と協議の結果、遺構と遺物の存在を確認するための試掘調査を実施した。

試掘調査は2005年8月3日から31日まで行った。幅約1.5mのトレンチ7本を設定し、重機で表土を除去後、人力で表面精査を行った結果、住居跡らしき遺構を確認した。遺構の性格を確認するため一部を掘り下げたところ縄文土器などが出土した。

原因者と再協議の結果、開発の変更ができないため、原因者負担による本調査を実施することになった。

本調査は2005年9月1日から9月16日まで、大井町遺跡調査会が行い、中期の住居跡2軒、集石土坑1基等を検出した。旧石器時代の遺構・遺物は確認されな

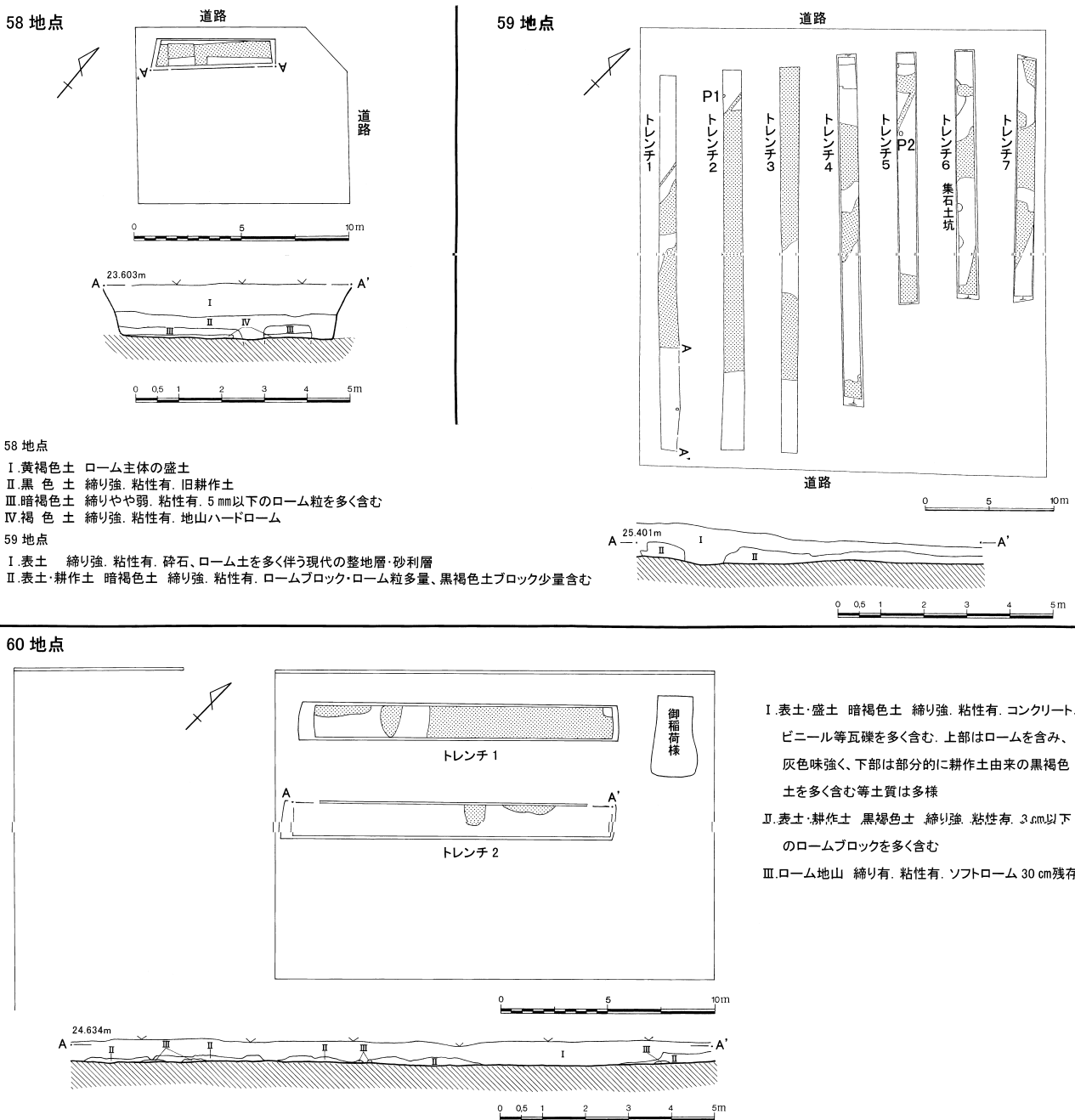
かった。(大井遺跡調査会で報告書刊行予定)。

IV 亀居遺跡第60地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅の建設に伴うもので、原因者より2005年9月16日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が旧大井町教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置しており、原因者と協議の結果、遺構と遺物の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2005年10月26・27日に行った。幅約1.5mのトレンチ2本を設定し、重機で表土を除去後、人力で表面精査した結果、遺構・遺物は確認されなかった。旧石器時代の確認調査は行っていない。



第7図 亀居遺跡第58・59・60地点遺構配置図 (1/300・1/500)、土層 (1/150)

## 第5章 鶴ヶ舞遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

鶴ヶ舞遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部から、約500～900m程下った左岸に位置している。標高21～23mで現谷底との比高差は5mを測る。福岡江川の左岸は急傾斜をなし、対岸の南側は緩やかな斜面を形成している。遺跡周辺は、急激な市街化によって商店や住宅が建ち僅かに畑地が残っている。

周辺の遺跡は約200m西に亀居遺跡、約150m南に江川南遺跡、約200m南東に東久保遺跡がある。

1987年の初調査から2006年12月現在、第12地点で試掘及び発掘調査が行われ、旧石器時代のVI～IV層礫群、石器集中、縄文時代の炉穴、落とし穴、平安時代の溝を検出し、平安時代須恵器の壺が出土している。

### II 鶴ヶ舞遺跡第8地点

#### (1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2005年7月8日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が旧大井町教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部、福岡江川左岸の平坦面から斜面にかかる部分に位置する。原因者と協議の結果、遺構と遺物の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2002年7月11日から同年8月11日まで行った。幅約1～2mのトレンチ21本を設定し、重機で表土除去後、人力で表面精査した結果、縄文時代早期の炉穴を確認した。

原因者と再協議の結果、開発の変更が出来ないため、原因者負担による本調査を実施することになった。

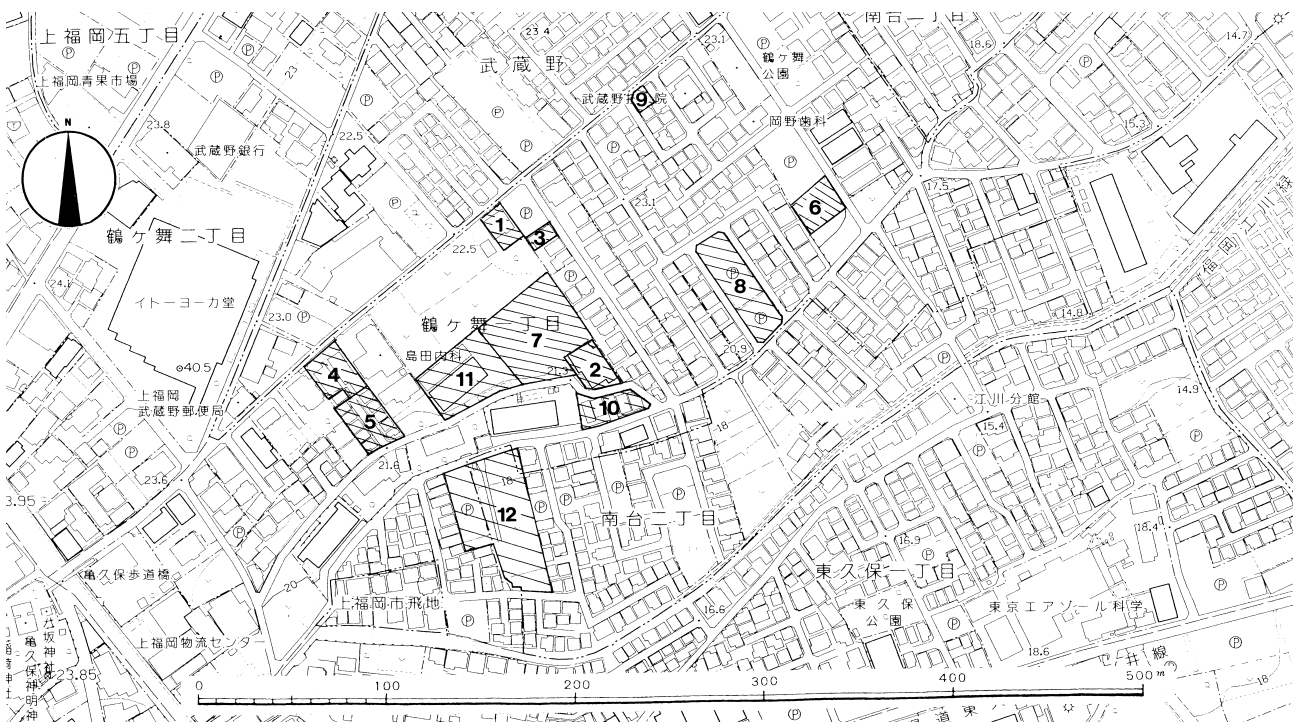
本調査は2005年8月24日に大井町遺跡調査会が行い、縄文時代早期の炉穴6基を検出した。旧石器時代の確認調査は行っていない。(大井町遺跡調査会で報告書刊行予定。)

### III 鶴ヶ舞遺跡第9地点

#### (1) 調査の概要

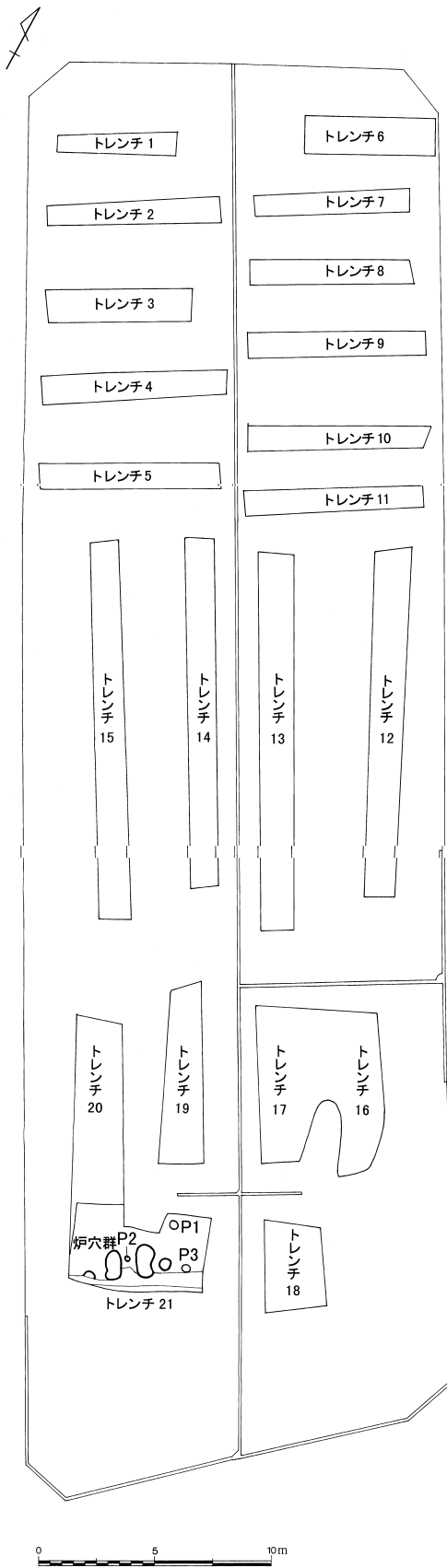
調査は共同住宅の建設に伴うもので、原因者より2005年6月9日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」が旧大井町教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部、福岡江川左岸の台地上に位置する。原因者と協議の結果、遺構確認のための試掘調査を実施した。

試掘調査は2005年11月1日に行った。幅約1.7mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行い、時期不明のピット3基を検出した。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成を行い、埋め戻して調査を終了した。

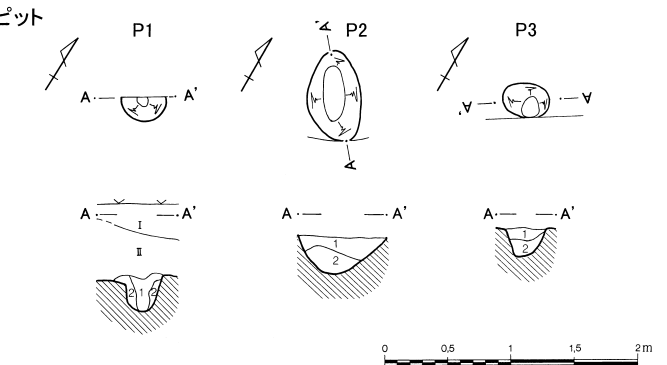
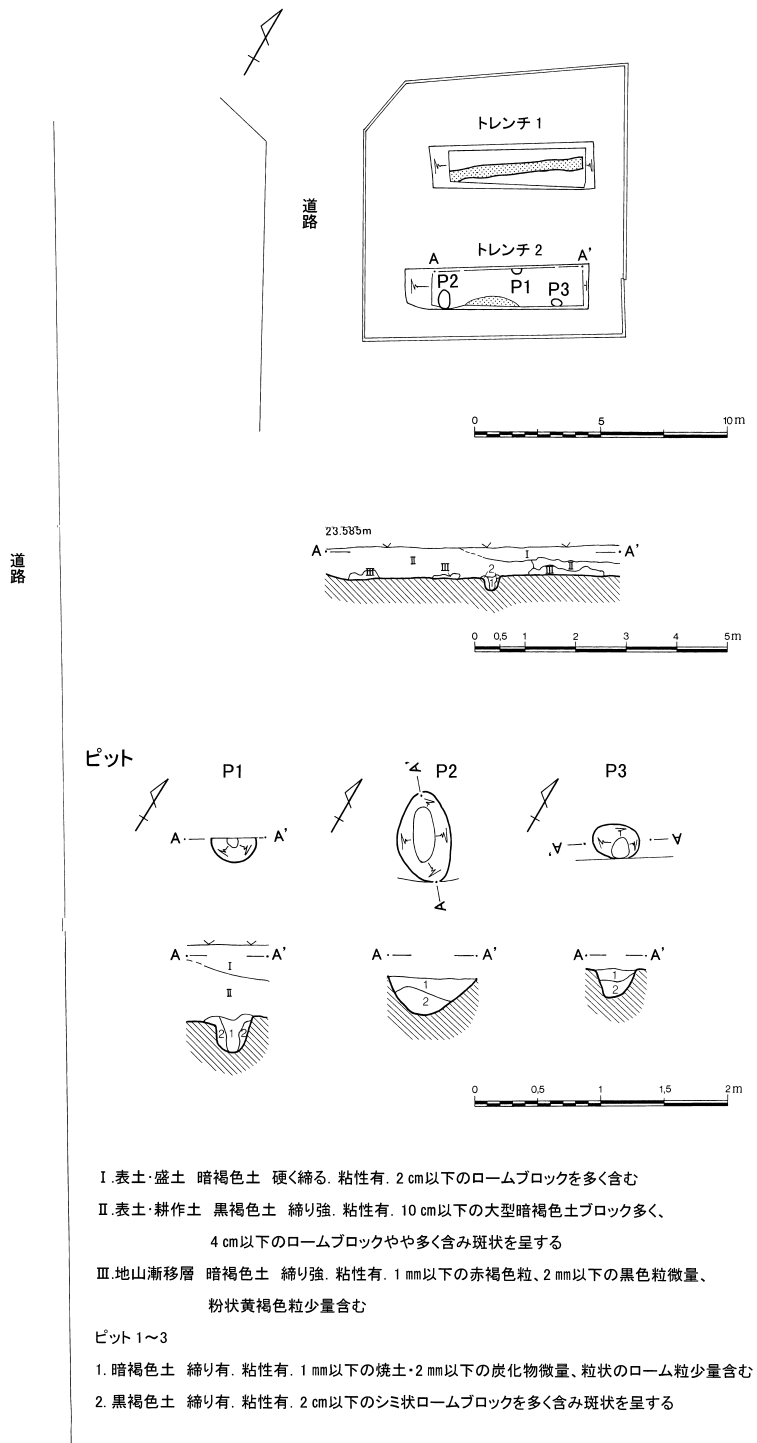


第8図 鶴ヶ舞遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

8地点



9地点



- I. 表土・盛土 暗褐色土 硬く締る。粘性有。2 cm以下のロームブロックを多く含む
  - II. 表土・耕作土 黒褐色土 締り強。粘性有。10 cm以下の大型暗褐色土ブロック多く、4 cm以下のロームブロックやや多く含む斑状を呈する
  - III. 地山漸移層 暗褐色土 締り強。粘性有。1 mm以下の赤褐色粒、2 mm以下の黒色粒微量、粉状黄褐色粒少量含む
- ピット 1~3
1. 暗褐色土 締り有。粘性有。1 mm以下の焼土・2 mm以下の炭化物微量、粒状のローム粒少量含む
  2. 黒褐色土 締り有。粘性有。2 cm以下のシミ状ロームブロックを多く含む斑状を呈する

第10表 鶴ヶ舞遺跡第9地点ピット一覧表 (単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	(円形)	(18)~36	(7)~7	29.5	
2	楕円形	43~75	(16)~44	35.1	
3	楕円形	27~36	13~16	24.6	

第9図 鶴ヶ舞遺跡第8・9地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)、ピット (1/60)

## 第6章 江川南遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

江川南遺跡は、入間川支流の新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部から、約300~500m程下った右岸に位置している。

遺跡の標高は20~21mで、現谷底との比高差は1~2mを測る。福岡江川北側の右岸は急傾斜を成すが、本遺跡をのせる南側右岸の台地は緩やかに傾斜する。

遺跡の中央部を南北に川越街道がはしり、川越街道から東に県道東大久保・大井線が延びる。主要道路が交叉し、東武東上線上福岡駅から約1kmという立地条件のため、昭和40年代には個人住宅や工場などの急激な開発による市街化がなされ現在に至っている。

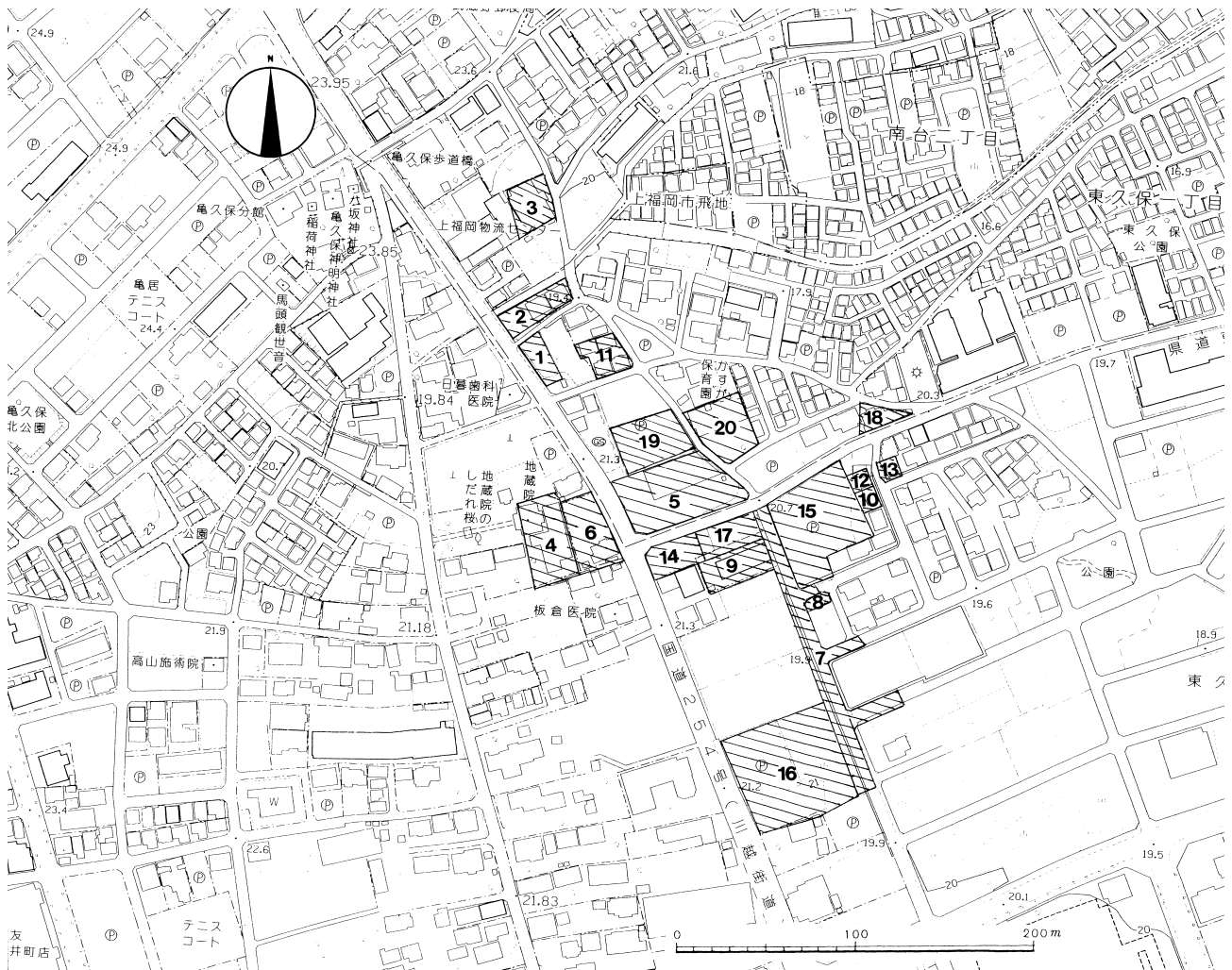
周辺の遺跡は、福岡江川の北西側対岸に縄文時代中期前葉の単一集落である亀居遺跡が位置し、同じく北側に鶴ヶ舞遺跡が位置する。東側約150mには、平安

時代の遺物を出土する江川東遺跡と、同じく東側約50mに東久保遺跡が位置する。

本遺跡は当初、地藏院遺跡と江川南遺跡とに分かれていたが、平成5年に遺跡の変更増補を行い、江川南遺跡に統一した。なお、1985年に調査した地藏院遺跡第1地点は江川南遺跡第6地点に名称を変更した。また平成9年には亀久保堀跡遺跡と本遺跡を分けた。

本遺跡では旧石器時代の石器集中・礫群、縄文時代中期の住居跡、土坑等、古代~中世の堀跡、地藏院に関わる近世の遺構群等、遺跡の時期は多岐にわたる。

2006年12月現在、22地点で試掘調査及び発掘調査が行われている。



第10図 江川南遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

II 江川南遺跡第20地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2005年7月1日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が旧大井町教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置しており、原因者と協議の結果、遺構と遺物の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2005年8月1日から12日まで行った。幅約1.5から2mのトレンチ8本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った結果、縄文時代の住居跡等の遺構と遺物を確認した。

原因者と再協議の結果、開発の変更ができないため、原因者負担による本調査を実施することになった。

本調査は2005年8月18日から9月10日まで、大井町遺跡調査会が行い、縄文時代中期の住居跡2軒、集石

土土坑5基等を検出した。道路築造部分は、旧石器時代の確認調査を行ったが、遺構・遺物は確認されなかった。住宅建設予定地部分は旧石器時代の確認調査は行っていない。(大井遺跡調査会で報告書刊行予定。)

(2) 遺構と遺物

①土坑

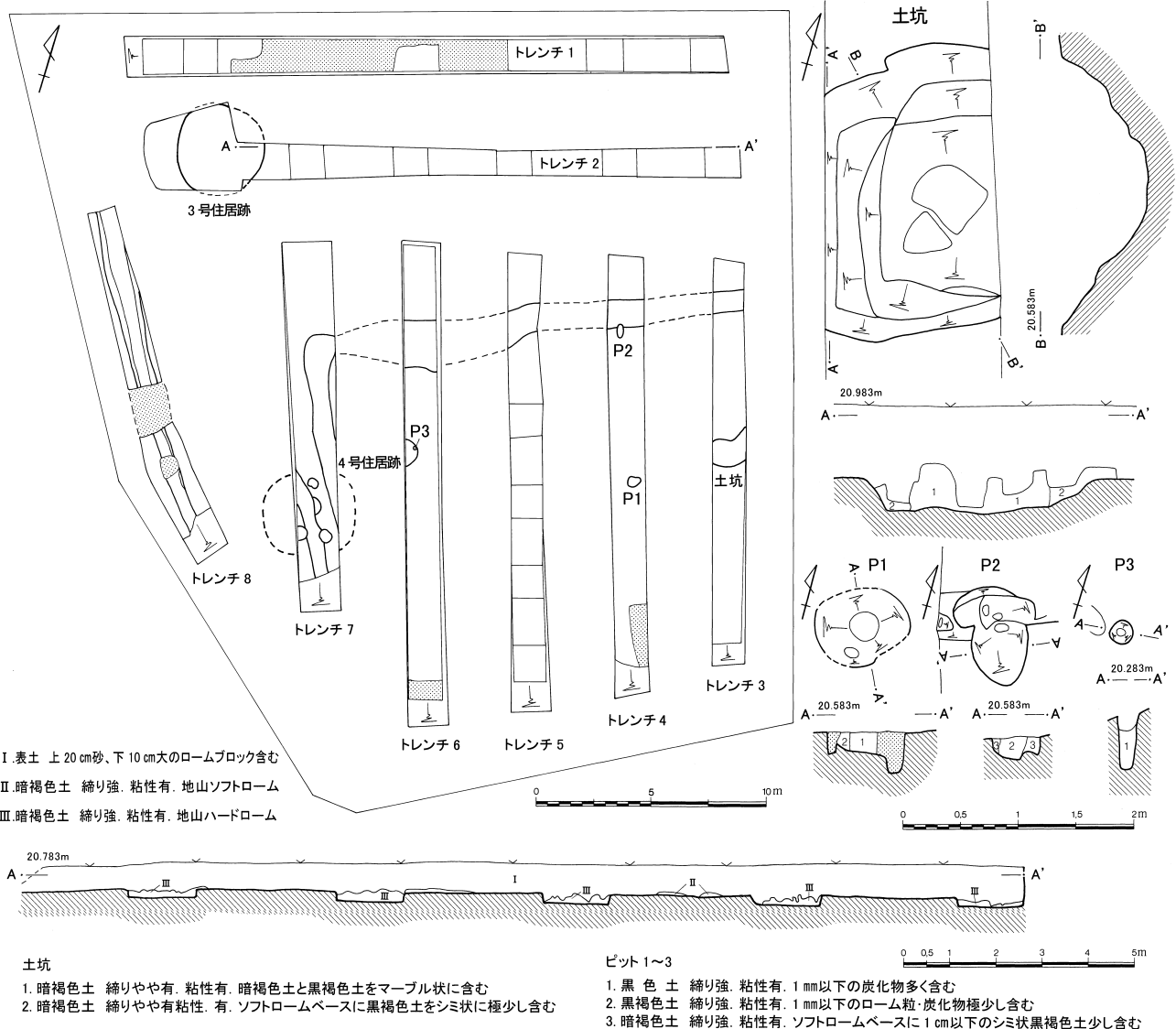
トレンチ3で検出した。平面形態は不整形を呈し、規模は2.46×(1.5)m、確認面からの深さは78cmを測る。底部及び壁は凹凸がみられ、風倒木痕の可能性が高い。

②ピット

ピット3基は覆土層の観察から縄文時代とみられる。

第11表 江川南遺跡第20地点ピット一覧表 (単位cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
1	楕円形	66~82	24~25	20.9	縄文
2	楕円形	49~86	6~11	32.8	縄文
3	円形	20~20	6~7	52.8	縄文



第11図 江川南遺跡第20地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)、土坑・ピット (1/60)

## Ⅲ 江川南遺跡第6地点

## (1) 調査の概要と出土遺物

調査は店舗建設に伴うもので、試掘調査を2003年4月16日から24日まで行った。試掘調査の結果、江川南遺跡2号住居跡の一部と遺物を確認した。遺構と出土石器については、既に報告済みである。<sup>註1</sup>

今回は同調査で出土した縄文土器について追加報告する。

## ① 2号住居跡出土土器

1は浅鉢の口縁部で、口縁中央に連続押引文をめぐらせ、口唇側に押し引きによる刻目を入れ、下側は交互に刺突押し引きをめぐらす猪沢式。2は筒形深鉢の口縁部で細縄文を地文とし、角押しによる連続波状文を口唇直下にめぐらす。3～10は胎土に金雲母を含み、3～5は断面三角の隆帯をもつ。6は2段の波状文と単列の沈線文をめぐらせ隆帯の裾に三角押文をもち、胎土に白色軟質物質を多く含む。7～8は無文の胴部片、9には連続爪形文がある。10は大型深鉢の底部片である。3～10は阿玉台Ⅱ式新相。

11は波状口縁の深鉢で、文様は幅広押引文と鋭い三角押文のセットである。

12～16は幅広押引文と波状沈線のセットで、14と15の隆帯上には刻目が入る。

17は幅広押引文と半載竹管を押圧して蓮華文とし、これに三角押文をセットにする。明褐色を呈し焼成良好である。18は17と同巧の破片である。

19～26は口縁部とその直下で、隆帯上に爪形文または刻目をもつ類である。19は口唇部に波状の把手が突出する。

21は刻目隆帯による区画内に沈線文を施す。22も口唇部が波状を呈し、口縁部は沈線の区画内に縦位の沈線文を施す。

23は隆帯と半載竹管による半隆起帯の区画内に幅広押文を施す。24は2本の高い隆帯を貼付し、隆帯直下に補修孔がみられる。25は浅鉢の破片である。

26は半隆起状区画内の縁に細かな連続刺突による刻みを施す。27はボタン状の渦巻と隆帯脇に角押文を施し区画内には縄文を施文する。

28～41は沈線列主体の一群である。28は筒形深鉢であるが、口唇下に沈線による円形文をつくる。29は波

頭下に環状の中空部をもつ波状口縁深鉢である。

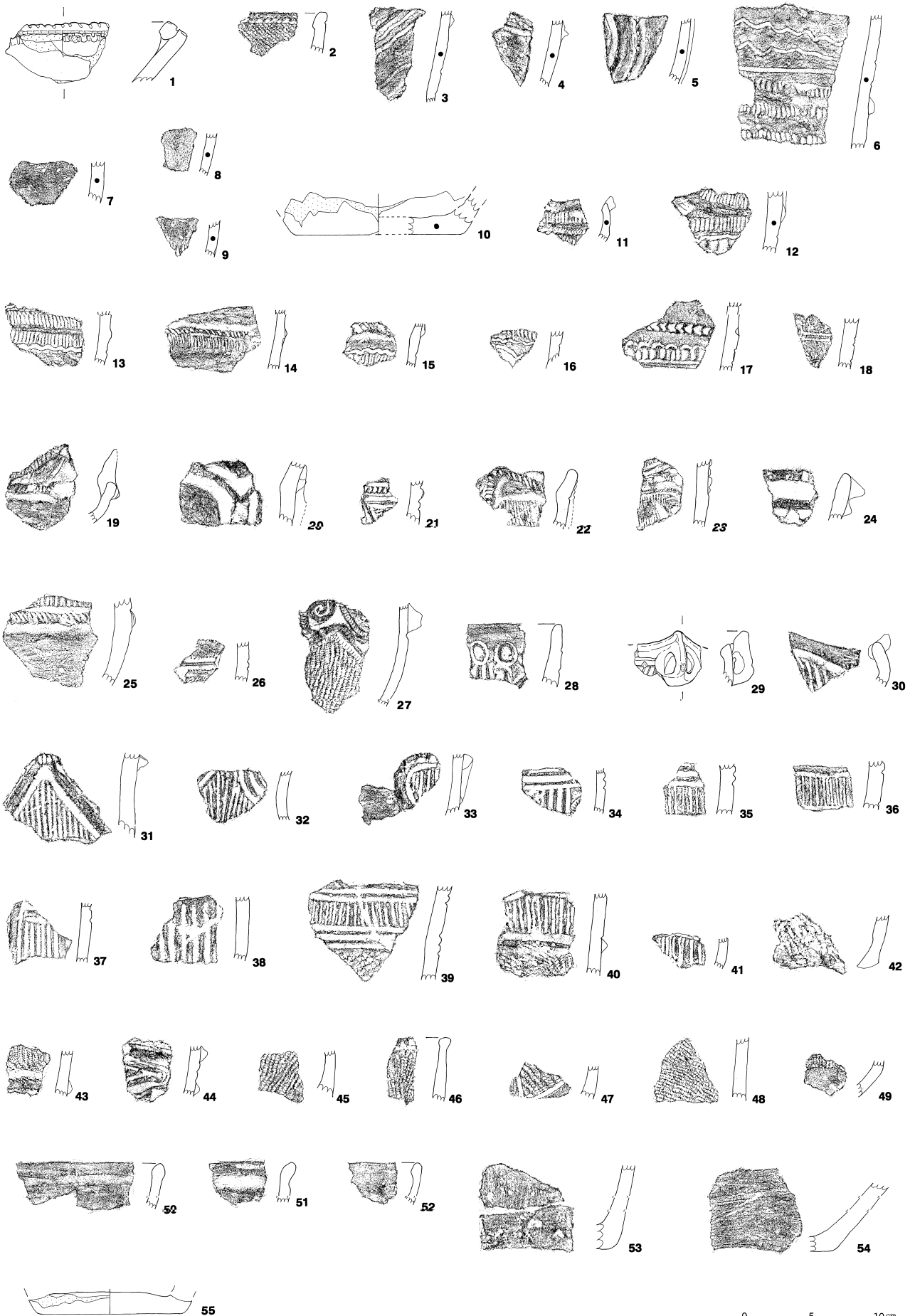
39と40は沈線文と縄文を施す。42は地文縄文、43と46は隆帯と地文縄文を施す。46は胎土に石英を含み密な縄文である。

44は隆帯と沈線で不定形区画をつくる。45と48は地文縄文、47は沈線の区画内に縄文を施す。49は細かな刺突文を施す。

50～52は小型深鉢の無文口縁部片である。

53は深鉢、54と55は浅鉢の底部片である。11～18は藤内Ⅰ式、19～49は時期不明の46を除いて藤内Ⅱ式。

加曾利Ⅴ式と明瞭な勝坂Ⅲ式は全く出土せず、阿玉台系土器の比率は15%以下である。



第12図 江川南遺跡第6地点出土土器 (1/4)



## 第7章 江川東遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

江川東遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部から、約700~1,000m程下った右岸に位置している。標高15~19mで現谷底との比高差は約3mを測る。福岡江川の左岸は急傾斜をなし、右岸は緩やかな斜面を形成している。遺跡周辺は、急激な市街化によって商店や住宅が建ち僅かに畑地が残っているが、近年では再開発により、分譲住宅や集合住宅の建設が増え市街化に拍車をかけている。

周辺の遺跡は福岡江川谷頭部付近に、縄文時代中期前半の単一集落である亀居遺跡、対岸台地上に鶴ヶ舞遺跡、南側に東久保遺跡がある。

本遺跡は旧大井町内では最も早く市街化された区域内にあり、表面採取はほとんど不可能であるが、一部残された畑地には須恵器が散布する。第2地点の調査では、近世の土坑・ピットを検出している。

2006年12月現在、12地点で試掘及び発掘調査が行われている。

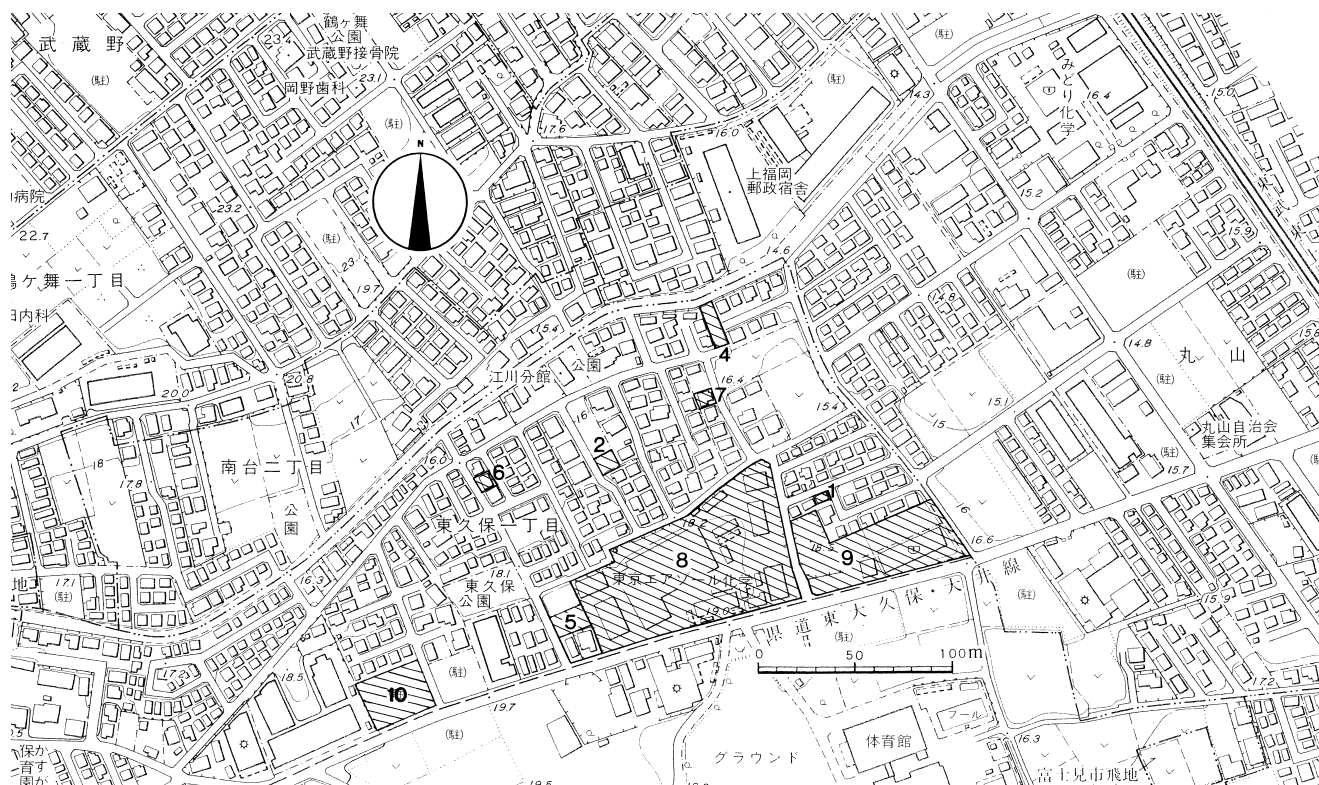
### II 江川東遺跡第10地点

#### (1) 調査の概要

調査は分譲住宅の建設に伴うもので、原因者より2005年9月22日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が旧大井町教育委員会に提出された。申請地は遺跡の西側に位置しており、原因者と協議の結果、遺構と遺物の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2005年10月13日から24日まで行った。幅約2mのトレンチ5本を設定し、人力により表土除去・精査を行い、縄文時代とみられる土坑1基を検出した。確認面までの深さは約40cmを測る。道路取り付け部分は、旧石器時代の確認調査を行ったが、遺構・遺物は確認されなかった。住宅建設予定地部分は旧石器時代の確認調査は行っていない。

写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえでトレンチを埋め戻し、調査を終了した。



第13図 江川東遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

(2) 遺構

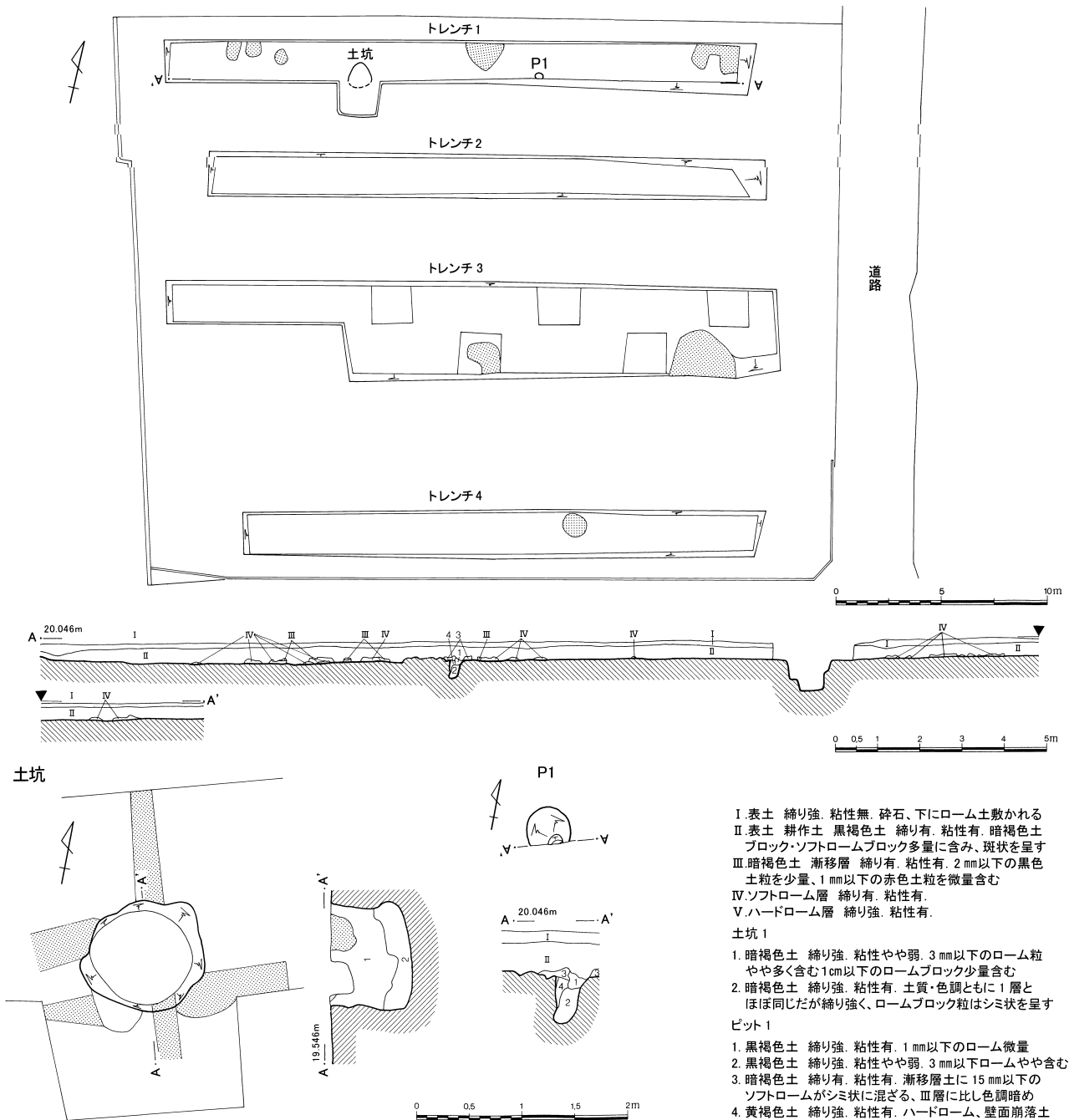
検出した土坑とピットは覆土層の観察から、縄文時代のものとみられる。土坑、ピットともに出土遺物は無い。

①土坑

トレンチ1で土坑1基を検出した。覆土層の観察から縄文時代とみられる。平面形態は円形を呈し、規模は上端1.06m～1.17m、下端89～98cm、確認面からの深さは78.3cmを測る。

②ピット

トレンチ1でピット1基を検出した。覆土層の観察から縄文時代とみられる。平面形態は半円形を呈し、規模は上端(31)～34cm、確認面からの深さは45cmを測る。



第14図 江川東遺跡第10地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)、土坑・ピット (1/60)

## 第8章 東久保遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

東久保遺跡は入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部から、約500~1,000m程下った右岸に位置している。標高17~20mで現谷底との比高差は3~4mを測る。福岡江川の左岸の南面は急傾斜を成す。本遺跡をのせる右岸の台地は県道東久保・大井線を境に南北および西側に緩やかに傾斜する。遺跡の南側縁辺には用水路が流れており、用水路以前にも流水があったものと考えられる。

遺跡周辺は急激な市街化によって工場や住宅、市立亀久保小学校が建ち、区画整理事業が実施され今後更に民間の開発が予想される。

周辺の遺跡は、本遺跡と福岡江川間に平安時代の遺物を出土する江川東遺跡が位置する。西側約50mに江川南遺跡、南側に隣接して亀久保堀跡遺跡が位置する。

本遺跡の調査は2006年12月現在、64地点で試掘調査および発掘調査が行われている。

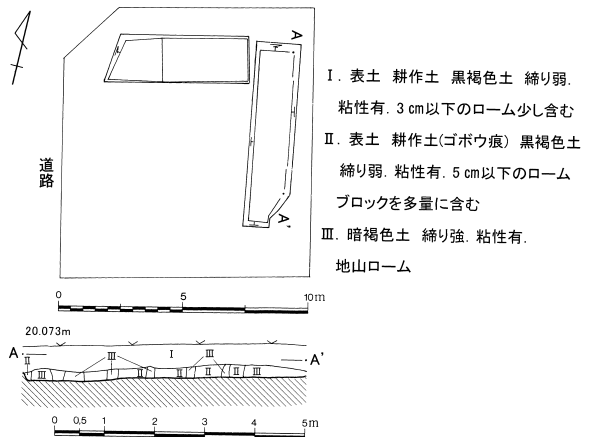
旧石器時代、縄文時代中期及び中・近世期の複合遺跡である。旧石器時代礫群、縄文時代の落とし穴・土坑・集石土坑等、中・近世は溝や柵跡が確認されている。

### II 東久保遺跡第63地点

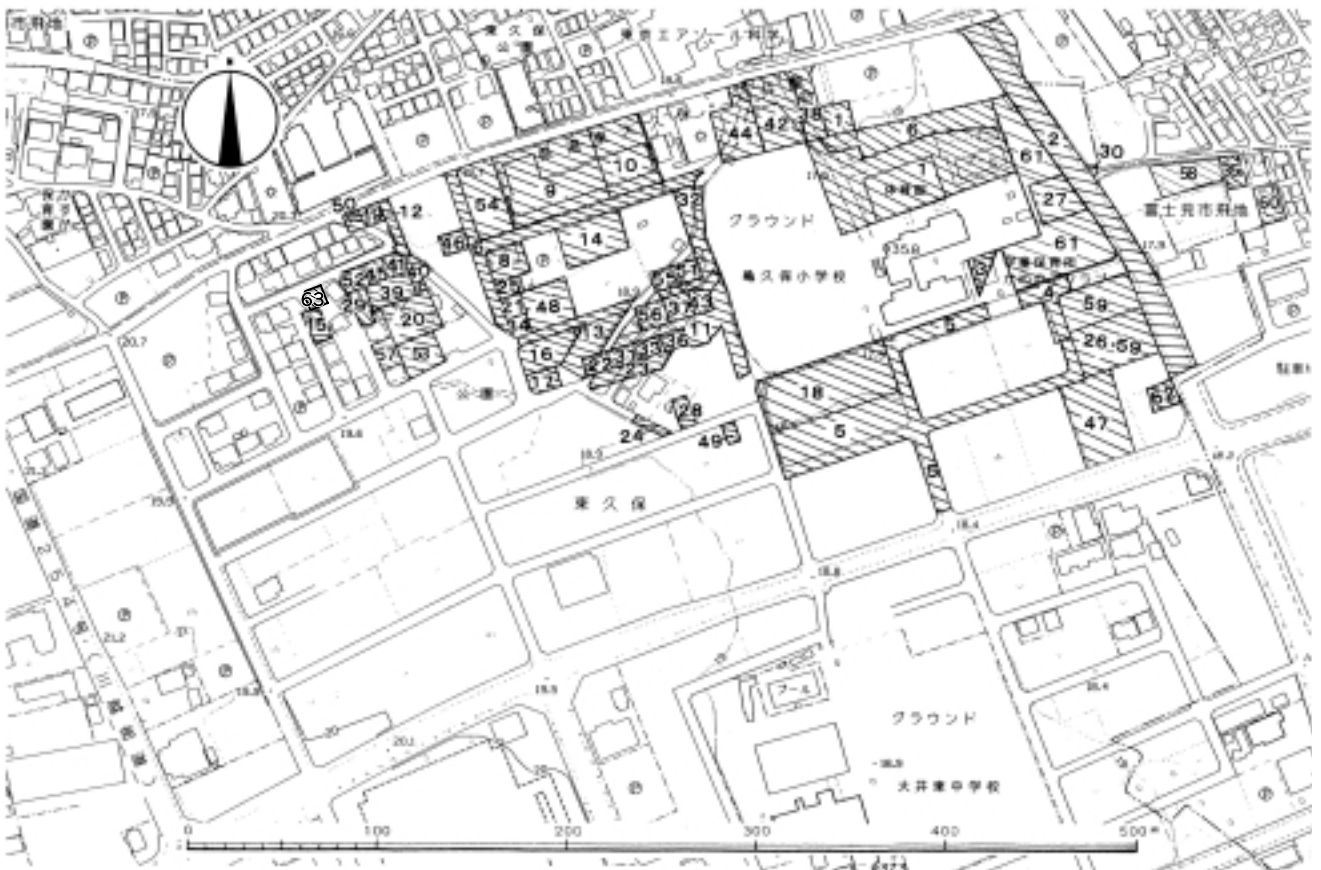
### (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2006年2月8日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の西端に位置しており、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2006年2月10日に行い、幅約1.7mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なったが、遺構・遺物は確認されなかった。確認面まで60~70cmを測る。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。



第16図 東久保遺跡第63地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)



第15図 東久保遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

## 第9章 東中学校西遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

東中学校西遺跡は入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川とさかい川の間で標高は20.0～21.0mの低位台地に位置する。現在は平坦であるが、区画整理事業以前は遺跡の北側に、西から北東側にかけて埋没河川（現在用水路）が流れ、東側には僅かな窪地もみられた。

遺跡は埋没河川と窪地の縁に位置するが、遺構は埋没河川からやや離れた遺跡の中央部から西部にかけて分布する。周辺の遺跡は、前述した埋没河川を隔てた北側約50mに東久保西遺跡、南東に東久保南遺跡が隣接する。

遺跡の時期と内容は、縄文時代早期の炉穴群、縄文時代中期前葉の屋外埋壘、落とし穴や集石土坑などを検出している。中・近世では墓壙・溝・柵列などが確認されている。本遺跡は区画整理事業と大規模開発による開発が進み遺跡面積約4haのうち約80%が調査されている。本遺跡の調査は1995年以来2006年12月現在、28ヶ所で試掘調査および発掘調査が行われている。

### II 東中学校西遺跡第23地点

#### (1) 調査の概要

調査は店舗建設に伴うもので、原因者より2005年5月2日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」が旧大井町教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置しており、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するための試掘調査を実施した。

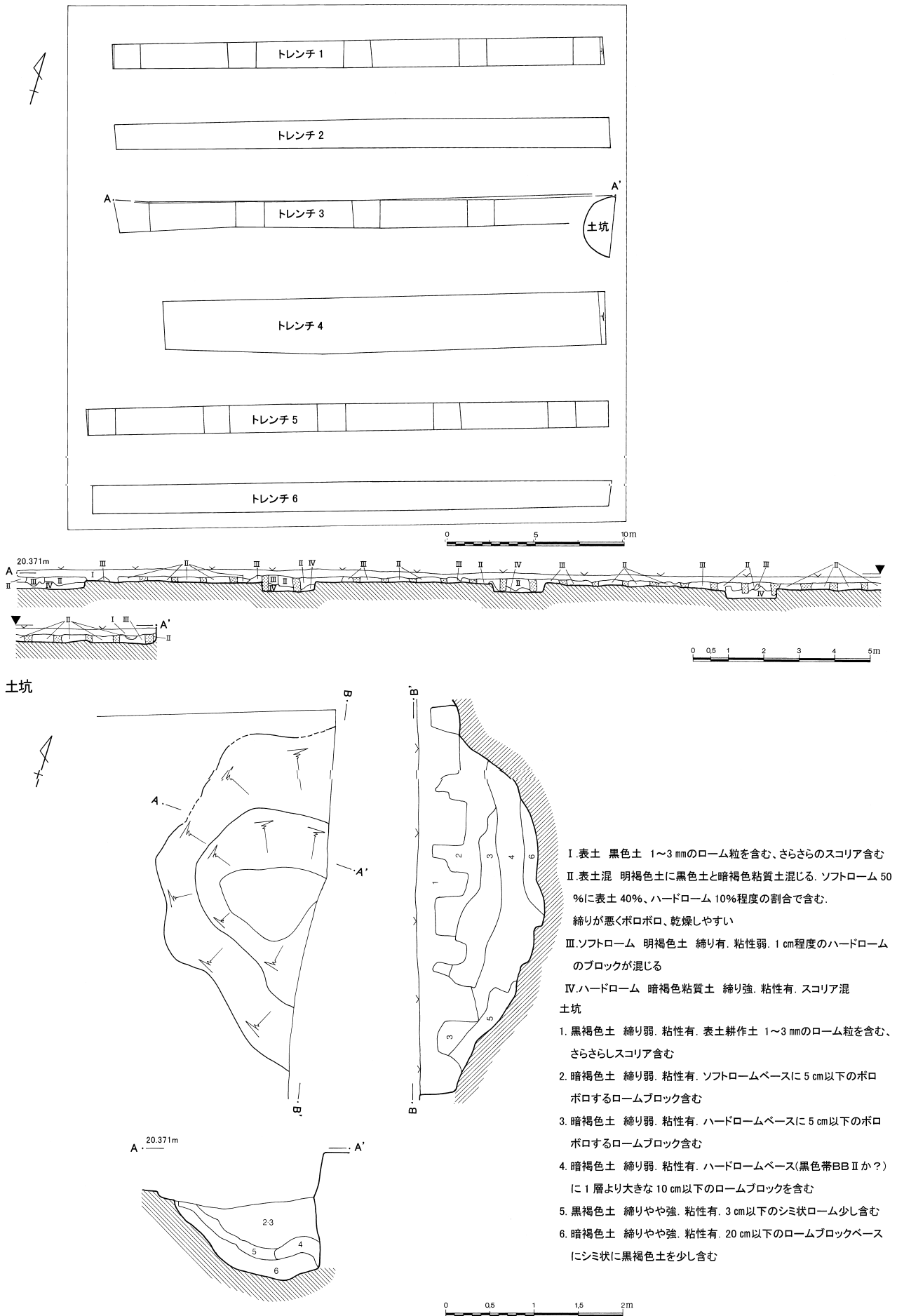
試掘調査は2005年5月24日から30日まで行った。幅約1.5mのトレンチを5本、幅約3mのトレンチを1本設定し、重機による表土除去し、人力で表面精査した。地山ローム面までの深さは30～40cmで、トレンチ3で土坑らしきプランを確認した。

土坑の平面形態は不整形を呈し、規模は4×1.94m、確認面からの深さは1.11mを測る。底部及び壁は凹凸がみられ、風倒木痕の可能性が高い。

旧石器時代の確認調査を行ったが遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録を行ったうえ、埋め戻して調査を終了した。

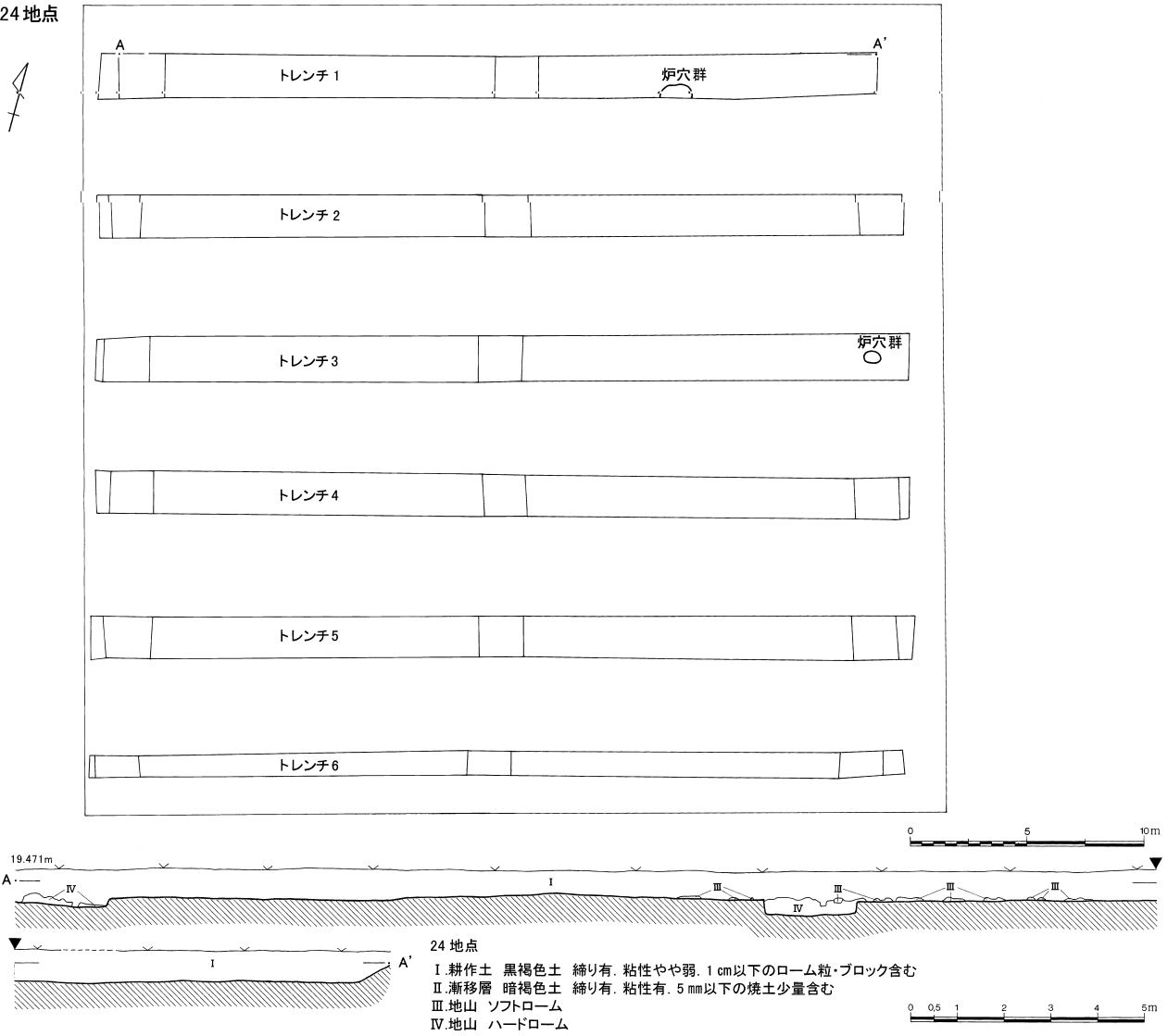


第17図 東中学校西遺跡の地形と調査区（1/4,000）

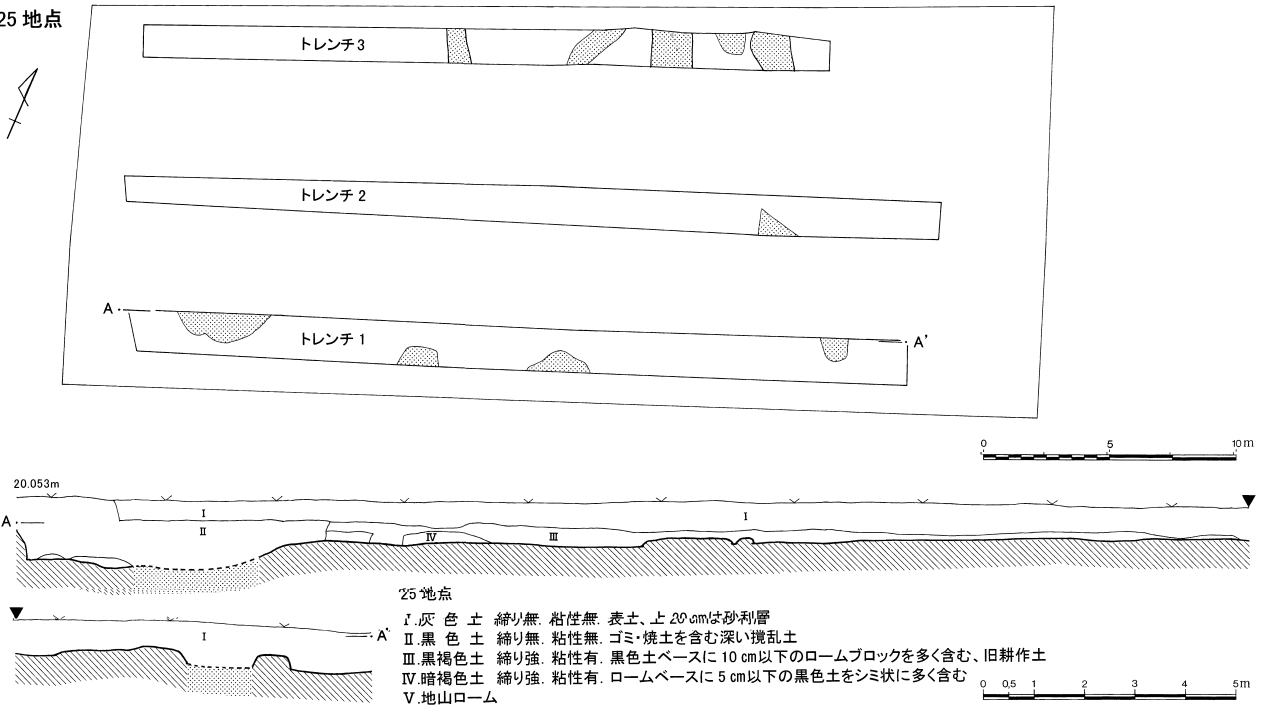


第18図 東中学校西遺跡第23地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)、土坑 (1/60)、

24地点



25地点



第19図 東中学校西遺跡第24・25地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)

### Ⅲ 東中学校西遺跡第24地点

#### (1) 調査の概要

調査は病院建設に伴うもので、原因者より2005年6月14日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」が旧大井町教育委員会に提出された。申請地は遺跡の東部に位置しており、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するための試掘調査を実施した。

試掘調査は2005年6月20日から7月7日まで行った。幅約1.7mのトレンチを5本、幅約1mのトレンチを1本設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査した。

地山ローム面までトレンチ1で50~70cm、他のトレンチで30~50cmの深さであり、旧石器時代の確認調査を行ったが、遺構・遺物は確認されなかった。

試掘調査の結果、縄文時代早期の炉穴を確認した。

原因者と再協議の結果、開発の変更ができないため、原因者負担による本調査を実施することになった。

本調査は2005年7月11日から13日まで、大井町遺跡調査会が行い、縄文時代早期の炉穴5基を検出した。

(大井遺跡調査会で報告書刊行予定)。

### Ⅳ 東中学校西遺跡第25地点

#### (1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2005年5月16日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」が旧大井町教育委員会に提出された。申請地は遺跡の西部に位置しており、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するための試掘調査を実施した。

試掘調査は2005年6月28日から7月2日まで行った。幅約1.5mのトレンチを3本設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査した結果、遺構・遺物は確認されなかったことから、慎重工事の措置をとった。地山ローム面までの深さは約70cmを測る。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行い埋め戻して、調査を終了した。

### Ⅴ 東中学校西遺跡第26地点

#### (1) 調査の概要

調査は音楽教室建設に伴うもので、原因者より2005年12月19日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじ

み野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置しており、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するための試掘調査を実施した。

試掘調査は2006年1月5日から1月10日まで、建物建設部分で行い、駐車場予定地部分では行っていない。幅約2mのトレンチを3本設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査した結果、遺構・遺物は確認されなかったことから、慎重工事の措置をとった。地山ローム面までの深さは約40~50cmを測る。また、旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行い、埋め戻して調査を終了した。

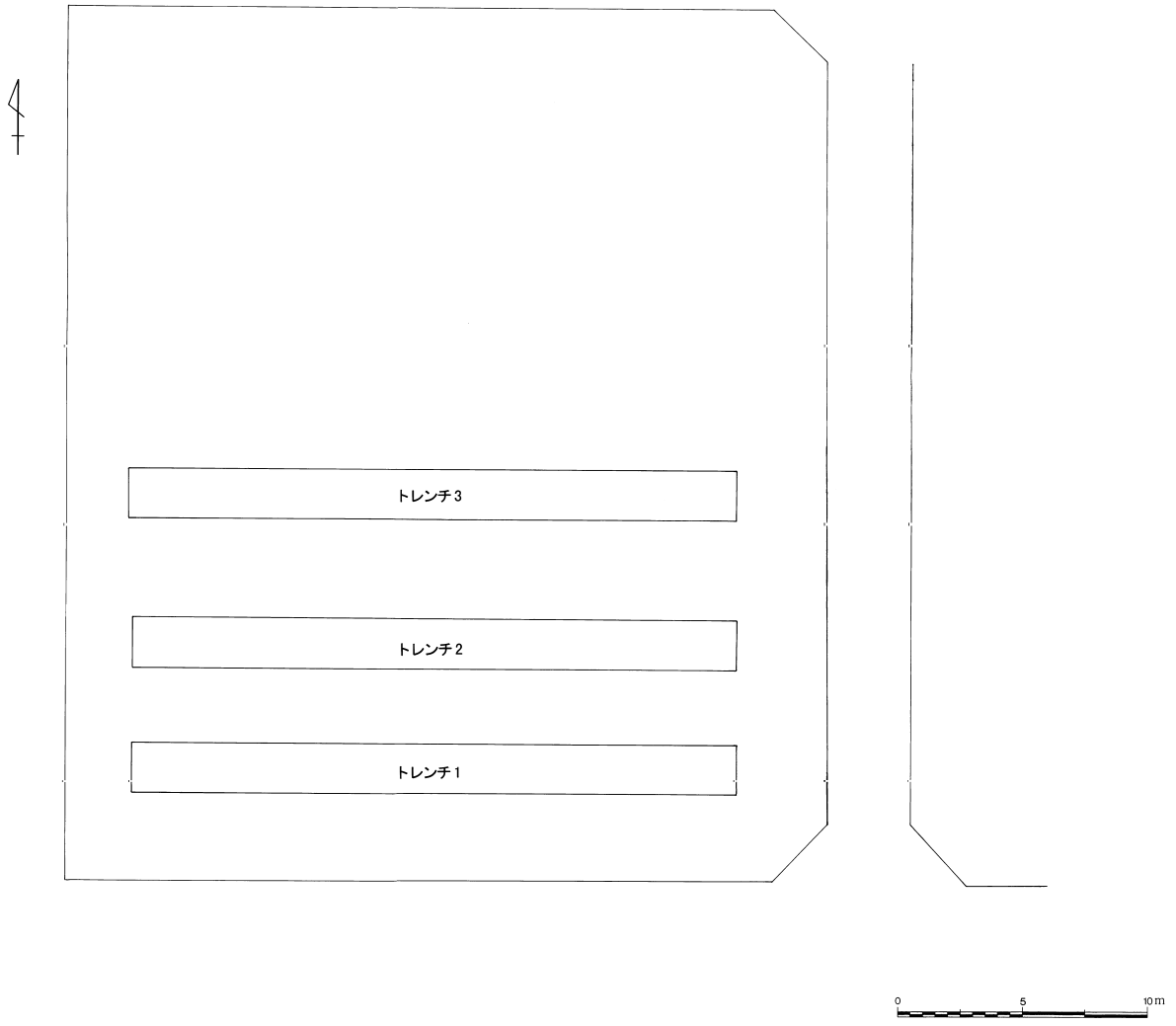
### Ⅵ 東中学校西遺跡第27地点

#### (1) 調査の概要

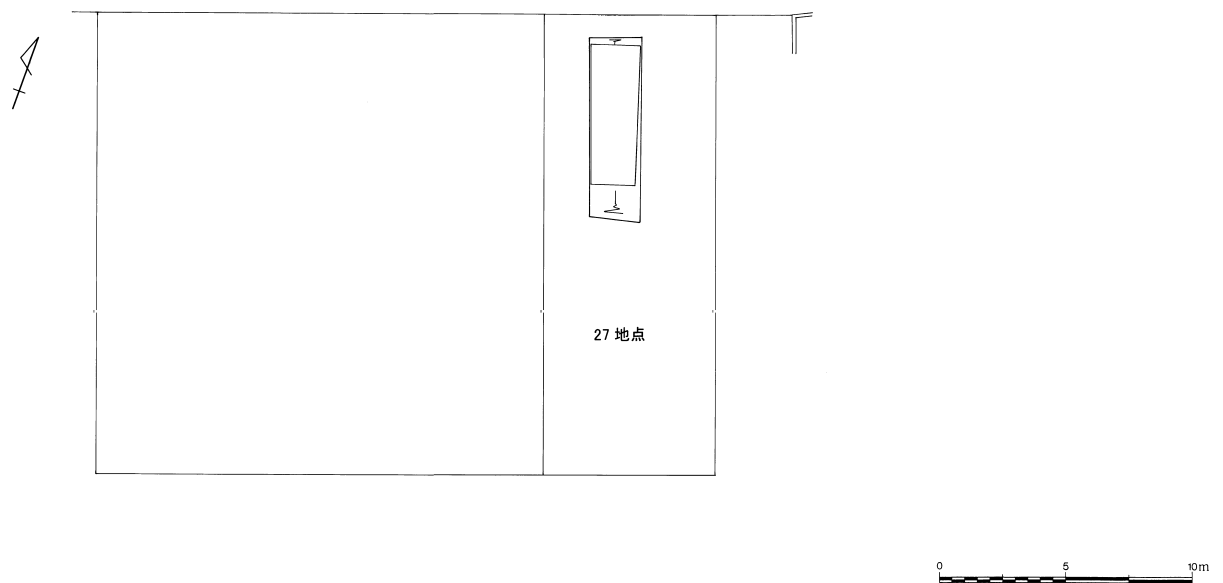
調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2005年12月26日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置しており、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するための試掘調査を実施した。

試掘調査は2006年1月11日に行った。幅約2mのトレンチを1本設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査した結果、遺構・遺物は確認されなかったことから、慎重工事の措置をとった。地山ローム面までの深さは約1mを測る。また、旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行い埋め戻して、調査を終了した。

26 地点



27 地点



第20図 東中学校西遺跡第26・27地点調査区域図 (1/300)



## 第10章 西ノ原遺跡の調査

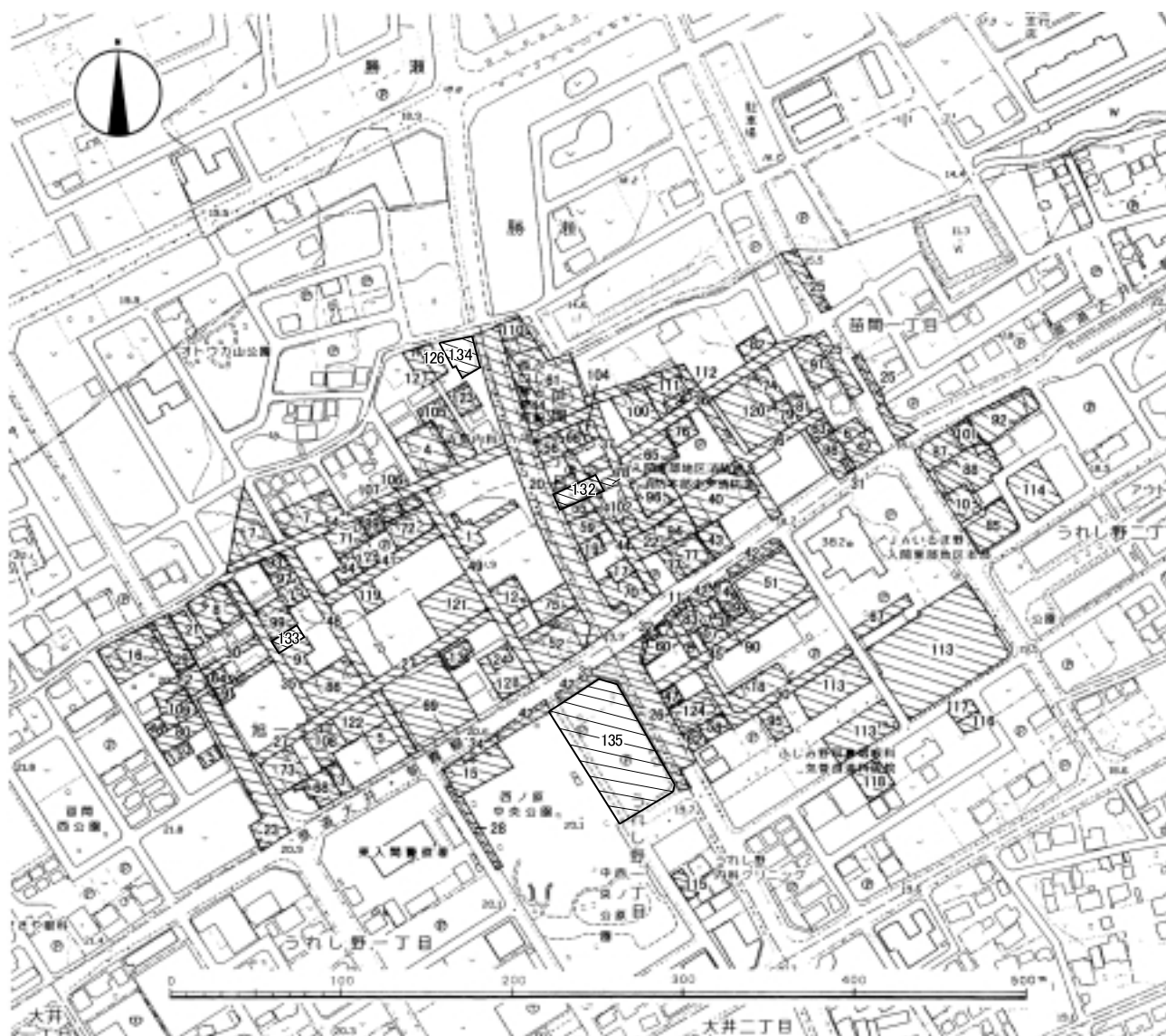
### I 遺跡の立地と環境

西ノ原遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約300m、さかい川の谷頭部から約500m下った右岸、標高18~21mに位置する。さかい川は現在の富士見市勝瀬字茶立久保付近に湧水源を持つ伏流水で、東から西へ流れて入間川の支流新河岸川に注ぐ。かつては水量も豊富であったと言われるが、現在は下水路となっている。西ノ原遺跡とさかい川との高低差は2~3mで、武蔵野台地縁辺で一段低い部分、さかい川が侵食によって作り出した低位台地上に立地する。

周辺の遺跡は、下流に中沢前遺跡が隣接し、さらに神明後遺跡、苗間東久保遺跡、浄禅寺跡遺跡等縄文時代の集落が存在する。さかい川対岸には東久保南遺跡

と富士見市オトウカ山遺跡があり、その下流には縄文時代中期後半の集落である中沢遺跡が広がる。

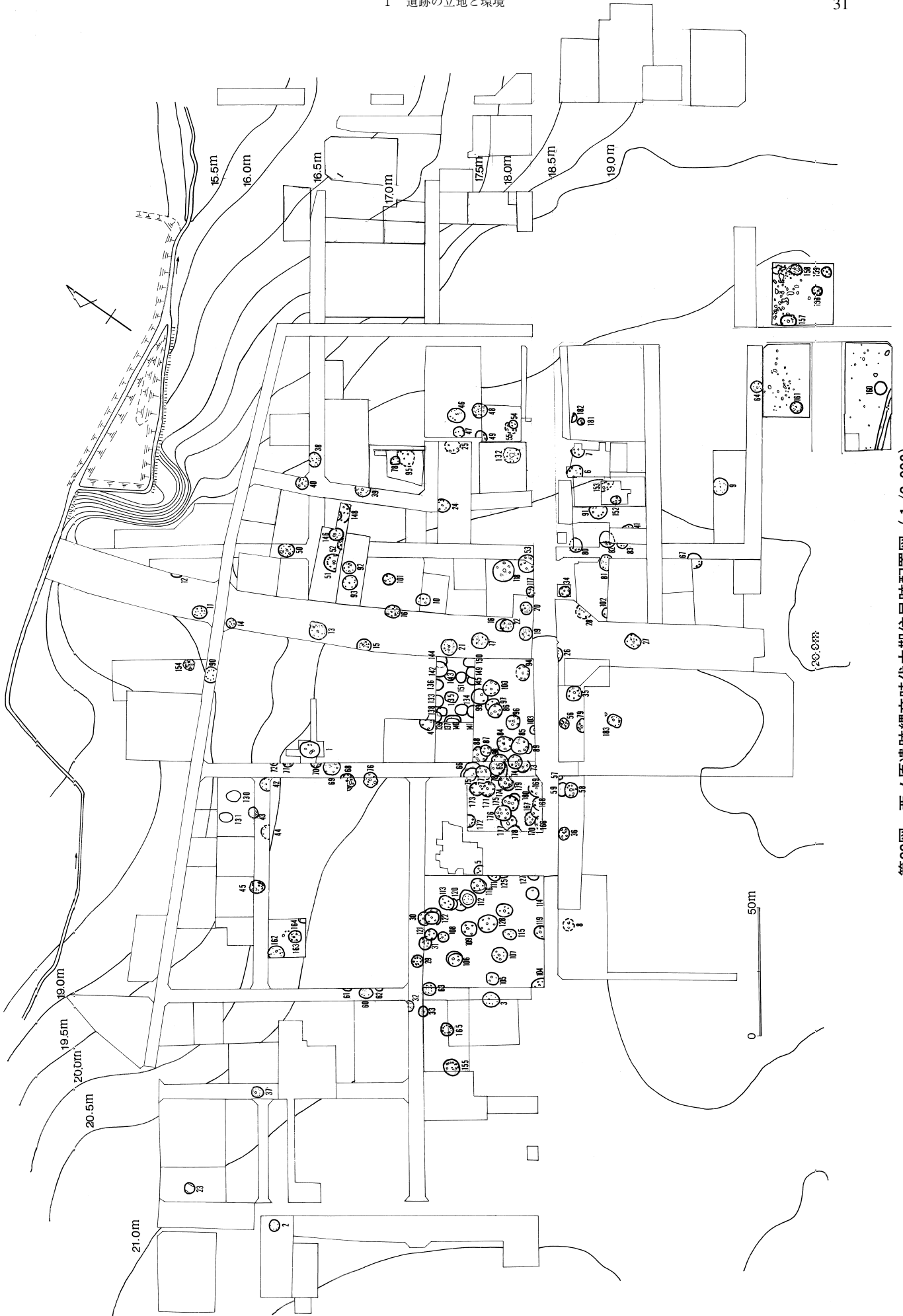
本遺跡は昭和40年代頃までは武蔵野の面影を残す農村地帯であったが、区画整理事業とふじみ野駅の開設により、民間開発が急増し遺跡の破壊が進んでいる。と、同時に発掘調査も遺跡面積10haの約40%が調査されている。1971年以来2006年12月現在で138地点に及ぶ調査で明らかになった遺跡の時期は、旧石器時代、縄文時代早期・中期・後期、平安時代、中世、近世である。特に縄文時代中期には、180軒を越す住居跡が環状集落として形成され、武蔵野台地縁辺部において東台遺跡と共に中期全般を通した良好な大規模集落跡であったことがわかる。



第21図 西ノ原遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第12表 西ノ原遺跡調査一覧表

地点	調査年	面積(㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書	地点	調査年	面積(㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	1971			住居跡1、土坑3、集石土坑1	大井町史料編I	71	1994	309	個人住宅	落し穴1	
2	1978	270	宅地造成	住居跡1、溝2、旧石器、縄文時代土器	「西ノ原遺跡」	72	1994	321	個人住宅	縄文中期住居3、土坑2、溝2	町内遺跡群IV
3	1979		宅地造成	土器片のみ出土		74	1994	169	事務所建設	ビット6	町内遺跡群V
4	1979	668	宅地造成	遺構なし、縄文中期土器	東部遺跡群I	75	1995	379	事務所建設	縄文中期住居17、集石土坑1、土坑4、集石2、ビット9、溝1	調査会報告13
5	1979		町史編纂	住居1、土坑1、早期炉穴2、縄文中期土器	大井町史料7	76	1995	468	倉庫建設	ビット1、溝1	町内遺跡群V
6	1980	450	宅地造成	土坑2、柱穴2、堀之内Ⅱ式土器他	東部遺跡群Ⅱ	77	1995	347	店舗建設	縄文中期住居1、土坑18、溝4、ビット58	調査会報告13
7	1980	563	宅地造成	旧石器礫群2、縄文土坑1	東部遺跡群Ⅱ	78	1995	45	貯水槽建設	縄文中期住居3	町内遺跡群V
8	1980	661	宅地造成	縄文集石土坑2、土坑1、溝2、縄文中期土器	東部遺跡群Ⅱ	81	1995	223	店舗住宅建設	溝1、遺物無し	町内遺跡群V
9	1981	600		柱穴6、溝2、石器、土器	東部遺跡群Ⅲ	83	1995	190	個人住宅	縄文中期住居2、集石土坑2、土坑2、ビット22	町内遺跡群V
10	1981	400	個人住宅	柱穴11	東部遺跡群Ⅲ	84	1995	135	個人住宅	土坑1、ビット5	町内遺跡群V
11	1983	198	宅地造成	縄文土坑1、縄文中期土器	東部遺跡群V	86	1996	698	個人住宅	土坑6、ビット26、溝2	町内遺跡群VI
12	1983	330		縄文中期住居2、縄文土坑39	東部遺跡群V	88	1996	745	共同住宅	土坑3、ビット29、欄列1、落し穴1、銭	調査会報告13
13	1983	350		縄文中期住居1、縄文土坑56、集石1、溝1	東部遺跡群V	89	1996	143	個人住宅	溝、土器片のみ	町内遺跡群VI
14	1983	240		縄文中期住居2、縄文土坑3、集石1、溝1	東部遺跡群V	90	1996	177	個人住宅	縄文中期住居2、炉穴2、土坑1、ビット9	町内遺跡群VI
15			共同住宅	縄文土坑2、ビット6		93	1996	141	分譲住宅	遺構無し、土器片のみ	町内遺跡群VI
17	1985	165	宅地造成	縄文土坑2、溝1	東部遺跡群VI	94	1996	165	個人住宅	遺構無し、土器片のみ	町内遺跡群VI
18	1985	569	宅地造成	縄文中期住居1、縄文土坑1、ビット群	東部遺跡群VI	95	1996	283	商業ビル	炉1	町内遺跡群VI
19	1986	230	住宅建設	縄文中期住居1、縄文土坑1、屋外埋壘2	東部遺跡群VI	96	1996、1997	333	個人住宅	縄文中期住居2、炉穴2、土坑1、ビット3	町内遺跡群VI
20	1986、1987	3,553	区画道路	縄文早期炉穴4、中期住居12、竪穴状遺構、屋外埋壘2、落し穴5、土坑40	調査会報告6	98	1997	206	個人住宅	盛土保存	町内遺跡群VI
21	1986、1987	447	住宅建設	竪穴状遺構1	東部遺跡群VII	99	1997	396	個人住宅	土坑1、落し穴1、ビット12、溝1	町内遺跡群VI
22	1987	480	資材置場	縄文中期住居2、縄文土坑11、ビット2	東部遺跡群VII	100	1997	447	共同住宅	土坑2、ビット3	町内遺跡群VII
23	1987	1,024	区画道路	土坑2	調査会報告6	102	1997	179	個人住宅	ビット2、溝2	町内遺跡群VII
24	1987			縄文中期住居2軒確認、未検出		104	1997	223	個人住宅	焼土、溝2	町内遺跡群VII
26	1988	1,649	区画道路	旧石器礫群、縄文中期住居3、土坑9、ビット、屋外埋壘1	調査会報告6	105	1998	565	共同住宅	縄文中期住居1、炉穴1、溝9	町内遺跡群VII
27	1988	942	区画道路	縄文中期住居5、縄文土坑2、炉穴1、集石土坑1		106	1998	135	個人住宅	ビット1	町内遺跡群VII
30	1989		区画道路	土坑1	調査会報告6	107	1998	135	個人住宅	ビット4、溝1	町内遺跡群VII
32	1989	21	区画道路	縄文中期住居1、屋外埋壘3	東部遺跡群IX	108	1998	413	個人住宅	縄文住居1、土坑1、近世溝3	町内遺跡群VII
33	1989	21	区画道路	縄文中期住居1	東部遺跡群IX	110	1998	385	郵便局	落し穴1、集石1、礫群1	町内遺跡群VII
34	1989	21	区画道路	縄文中期住居1	東部遺跡群IX	111	1998	354	個人住宅	ビット1、近世の溝1、道1	町内遺跡群VII
35	1989		区画道路	縄文中期住居1、土坑1	調査会報告6	112	1999	144	個人住宅	近世の溝のみ	町内遺跡群VII
36	1989	4,000	区画道路	縄文中期住居4、縄文土坑5、落し穴2、井戸1	調査会報告6	113	1999、2000	2,817	店舗	旧石器時代のユニット、中期住居6、炉穴2、土坑、ビット、近世溝	町内遺跡群IX
38	1989	74	個人住宅	中期住居1、土坑3	東部遺跡群X	114	1999	676	駐車場	落し穴1、ビット2	町内遺跡群IX
39	1989	94	個人住宅	土坑2、溝2	東部遺跡群X	118	2000	548	店舗住宅	遺構無し、縄文中期土器片	町内遺跡群X
40	1989	980	消防訓練塔	中期住居4、土坑4、集石土坑1、ビット28	東部遺跡群X	119	2000	221	倉庫建設	縄文中期住居3、土坑1、近世溝1	町内遺跡群X
41	1989	476	区画道路	縄文中期住居4、土坑1	調査会報告6	120	2001	1,120	共同住宅	遺構無し、縄文中期土器片	町内遺跡群XI
42	1991、1992		区画道路	屋外埋壘2、土坑19	調査会報告6	121	2002	803	個人住宅	縄文中期住居2、土坑2、ビット35、近世溝4	町内遺跡群XI
43	1990	272	個人住宅	縄文中期住居4、土坑3	東部遺跡群XI	122	2002	593	共同住宅	縄文中期住居4、溝3	町内遺跡群XI
44	1990	3,224	区画道路	屋外埋壘、炉穴3、落し穴2、土坑16、集石土坑1	調査会報告6	123	2002	252	共同住宅	根切溝のみ	町内遺跡群XI
46	1991	199	個人住宅	遺構無し、土器片のみ	町内遺跡群I	124	2002	524	個人住宅	縄文中期住居1、土坑2、溝2	町内遺跡群XI
47	1991	141	個人住宅	遺構無し、石鏃、土器片のみ	町内遺跡群I	125	2003	182	個人住宅	ビット5	町内遺跡群XI
48	1991		区画道路	縄文中期住居、土坑3	調査会報告6	127	2004	327	個人住宅	土坑1	町内遺跡群XI
49	1991、1992	2,610	区画道路	縄文中期住居12、集石土坑1、土坑8	調査会報告6	128	2004	614	店舗	縄文中期住居17、集石5、土坑10、ビット17	町内遺跡群XI
50	1991		区画道路	縄文中期住居15、屋外埋壘1、土坑3	調査会報告6集	129	2004	275	共同住宅	縄文中期住居1	町内遺跡群XI
51	1991	1,190	モデルルーム	中期住居2、掘立柱跡、土坑2、ビット5	町内遺跡群I	132	2005	232	店舗兼共同住宅	縄文中期住居3、炉穴7、土坑1	調査会報告18
52	1991	984	ガソリンスタンド	縄文中期住居14、集石土坑7、土坑5、野外炉1、ビット19	調査会報告5	133	2005	176	個人住宅	遺構無し、土器片	市内遺跡群2
54	1992		区画道路	集石土坑1、土坑1	調査会報告6	134	2005	348	店舗	道跡1	市内遺跡群2
55	1992	241	駐車場	縄文中期住居2、炉穴5、土坑1	調査会報告5	135	2006	3,341	店舗兼共同住宅	縄文中期住居1	市内遺跡群2
56	1992	261	分譲住宅	集石土坑1、土坑3、ビット6、溝1	町内遺跡群II						
57	1992	174	個人住宅	中期住居2、土坑1	町内遺跡群II						
58	1992	146	個人住宅	遺構無し、縄文土器若干	町内遺跡群II						
59	1992	494	個人住宅	中期住居3、炉穴11、屋外埋壘1、土坑1、ビット12	町内遺跡群II						
60	1992	253	個人住宅	中期住居2、炉穴4、土坑1、ビット34、落し穴1	町内遺跡群II						
61	1993	2,240	区画整理	早期竪穴状1、落し穴3、土坑2、炉穴	調査会報告6						
63	1994	147	共同住宅	中(近世)ビット群、遺物無し	町内遺跡群III						
64	1994	327	共同住宅	近世・近代溝、前期土器	町内遺跡群III						
65	1994	615	共同住宅	縄文中期土坑3、平安時代住居1、土師器、須恵器	町内遺跡群III						
66	1994	474	共同住宅	近代溝、縄文土器	町内遺跡群III						
67	1995	308	倉庫建設	縄文中期土坑、ビット、近代溝	町内遺跡群III						
69	1994	1,821	店舗建設	縄文中期住居28、土坑6、ビット11、溝1	調査会報告13						
70	1994	551	店舗建設	屋外埋壘4、土坑14	調査会報告6						



第22図 西ノ原遺跡縄文時代中期住居跡配置図 (1/2,000)

## Ⅱ 西ノ原遺跡第132地点

### (1) 調査の概要

調査は店舗併用共同住宅建設に伴うもので、原因者より2005年7月22日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が旧大井町教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置し、隣接地の調査から遺構の存在が確実であるため原因者と協議の結果、本発掘調査のための遺構密度と遺存状態を確認する試掘調査を実施した。

試掘調査は2005年7月28日から8月2日まで行った。幅約2mのトレンチを設定し、重機で表土除去後、人力で表面精査した結果、住居跡らしき遺構を確認した。遺構の広がり、深さ及び遺物の密度を確認するための拡張を行い、縄文早期炉穴群と縄文中期住居跡3軒を確認した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

原因者と再協議の結果、開発の変更ができないため、原因者負担による本調査を実施することになった。

本調査は建物建設予定地部分について、2005年8月3日から11日まで大井町遺跡調査会が行った。建物建設範囲以外の駐車場部分については、遺構への影響が無いものとして、今回は調査を行っていない。(大井町遺跡調査会で報告書刊行予定)。

### (2) 遺物

ここで報告する遺物は主に、試掘調査段階で遺構覆土層から出土した遺物である。住居の床面又は炉内埋設土器などについては別途本報告する。

#### ①51号住居跡覆土層出土土器

1～3は深鉢の口縁部で、隆帯で渦巻文と楕円形区画をつくり、区画内には複節縄などを施す。4～6の同部片は地文縄文で微隆帯又は沈線で懸垂文をつくる。7は頸部無文帯から胴部片である。1～6は加曽利EⅡ式。

8～11は隆帯と沈線、12は沈線と条線文と、13・14は地文縄文、15は無文の浅鉢、8～11は曾利Ⅳ式といえる。

16～18は中型筒形深鉢の胴部片で、区画隆帯上に刻目を入れ、区画内は三叉文や円形文が描かれる勝坂Ⅲ式である。割愛した細片は1～15の類が殆んどである。

#### ②52号住居跡覆土層出土土器

19は区画文をもつ口縁部片で、地文撚糸文。20は頸

部無文帯から胴部片で地文撚糸に直下懸垂文の隆帯がある。19と20は加曽利EⅠ新式。21は頸部無文帯から胴中部までの破片で、地文LR縄文に、半截竹管状工具で区画をつくる、加曽利EⅠ新式併行期。

22は小型深鉢の口縁部で全面に単節縄文がある。23と24は地文縄文の胴部片で、24には沈線の直下懸垂文があるが磨消しはない。25は中型、26は小型の無文口縁浅鉢である。

#### ③146号住居跡覆土層出土土器

27は28の下部にあたり地文縄文で、2本の沈線間を磨消した懸垂文をもつ。28は渦巻と楕円形区画をもつ口縁部片である。29と30は同一個体で地文縄文に磨消懸垂文を加える。31は半円形区画を隆帯と沈線で描く地文縄文の口縁部である。32と33は沈線の懸垂文間を磨消す。34は粗製大型の浅鉢、35は通常の中型浅鉢の無文口縁部である。36と37は区画隆帯上に刻目を持ち、37は区画内に連続爪形文を持ち、胴部下半は地文縄文を施す。36と37は勝坂Ⅲ式。

38は沈線による肋骨文をもつ、加曽利EⅡ式に併行する曾利系土器であろう。

## Ⅲ 西ノ原遺跡第133地点

### (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2005年9月22日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が旧大井町教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置しており、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するための試掘調査を実施した。

試掘調査は2005年10月11日、12日に行った。幅約1.5mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力で表面精査した結果、遺構・遺物は確認されなかったことから、慎重工事の措置をとった。地山ローム面までの深さは20～30cmを測る。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行い、埋め戻し調査を終了した。

## Ⅳ 西ノ原遺跡第134地点

### (1) 調査の概要

調査は店舗建設に伴うもので、原因者より2005年9月29日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が旧大井町教

育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北部に位置しており、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するための試掘調を実施した。

試掘調査は2005年10月6日から11日に行った。幅約2mのトレンチ3本を設定し、重機で表土除去後、人力で表面精査した結果、旧道路跡とみられる轍痕を確認したが、その他の遺構・遺物は確認されなかったことから、慎重工事の措置をとった。調査区全体に盛土と攪乱がみられ、地山ローム面までの深さは100～130cmを測る。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行い、埋め戻し調査を終了した。

## V 西ノ原遺跡第135地点

### (1) 調査の概要

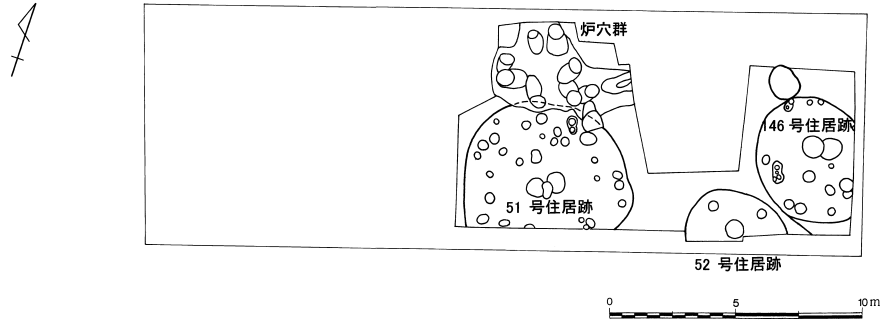
調査は店舗併用共同住宅建設に伴うもので、原因者より2006年3月10日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置しており、原因者と協議の結果、遺構の存在を確認するための試掘調を実施した。ただし、調査区北側の県道に近い部分は植木があるため、来年度以降に試掘調査を行うこととした。

試掘調査は2006年3月14日から28日まで行った。幅約2mのトレンチ9本を設定し、重機で表土除去後、人力で表面精査した結果、住居跡らしき遺構を確認した。ただし、調査区の北側で県道に面する部分は植栽が行われているため、試掘調査は植栽の植え替え後に改めて行う予定である。旧石器時代の試掘調査は、調査区の北側で行ったが、南側部分では行っていない。

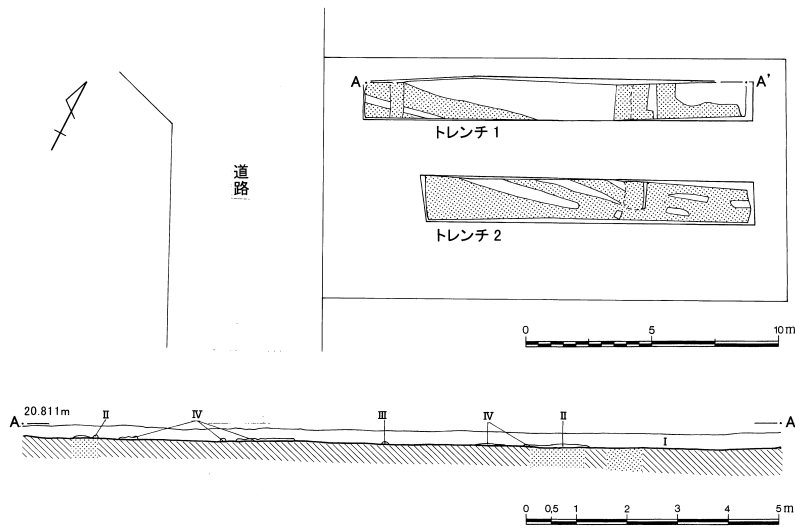
原因者と再協議の結果、開発の変更ができないため、原因者負担による本調査を実施することになった。

本調査は遺構の確認された部分を拡張し、2006年5月29日から6月 日までふじみ野市教育委員会が行った。本調査の結果、縄文時代中期の住居跡1軒、早期の炉穴1基を検出した。(ふじみ野市教育委員会で報告書刊行予定。)

132 地点

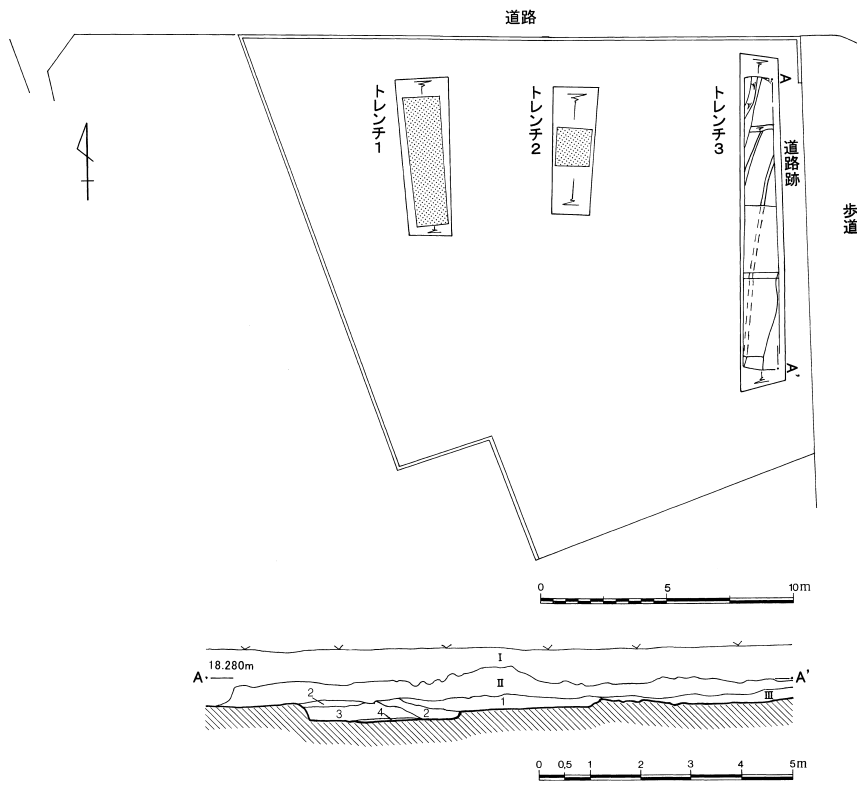


133 地点



- I. 黒褐色土 締り弱. 粘性弱. 表土耕作土. 2 cm以下のロームブロック. ビニール含む. 最下部に地山ソフトローム多く混入
- II. 暗褐色土 締り有. 粘性有. 表土耕作土. イモビツと思われる攪乱の覆土. 5 cm以下のロームブロック粒多く含む
- III. 暗褐色土 締り有. 粘性有. 地山漸移層. 焼土・炭化物含まない
- IV. 暗黄褐色土 締り有. 粘性有. 地山. ソフトローム

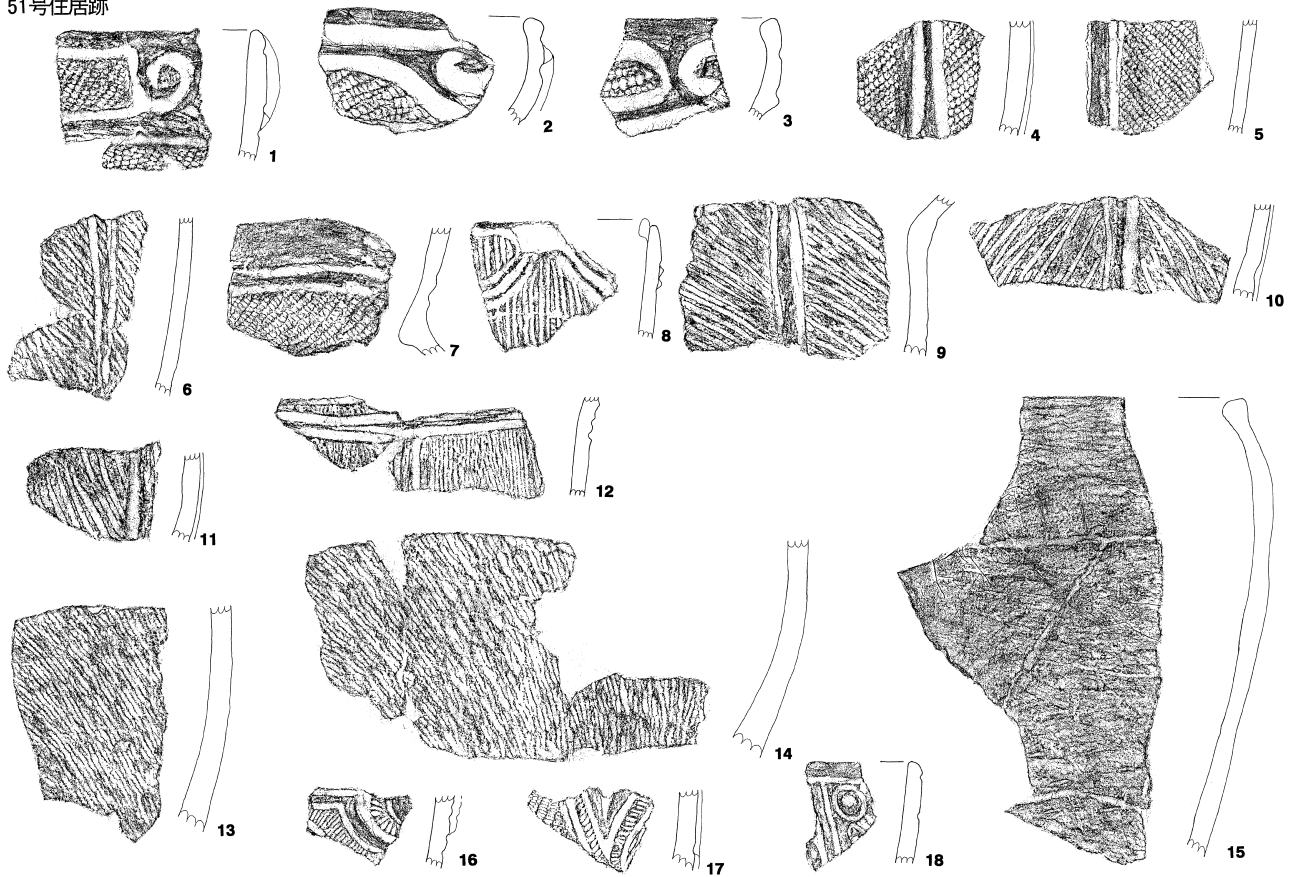
134 地点



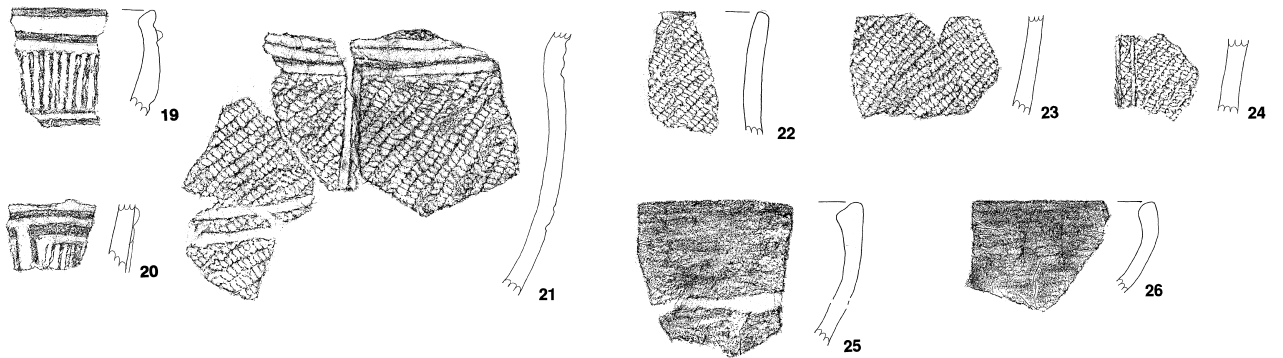
- I. 黄褐色土 締り強. 粘性有. 表土盛土. ローム主体. 黄灰色シルト質の円礫多く. ビニール含む
  - II. 暗褐色土 締りやや弱. 粘性やや弱. 耕作土. 5 mm以下ローム粒やや多く含む
  - III. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 耕作土. 4 cm以下ロームブロック多く含む. 道跡覆土の土質に似る
- 道跡
- 1. 黒褐色土 締り有. 粘性有. 5 mm以下ローム粒少量含む. 上部に7 cm厚でロームブロックやや多く集中する
  - 2. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 10 cm以下のソフトロームブロック多く含む
  - 3. 黒褐色土 締り有. 粘性有. 10 cm以下のロームブロック少量含む. 下部に1 cm以下ローム粒・ブロックやや多く集中する
  - 4. 暗黄褐色土 締り硬化. 粘性有. 轍内の堆積. ローム土に少量暗褐色土が混る. 転圧受けマーブル状呈す

第23図 西ノ原遺跡第132・133・134地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)

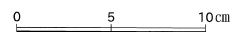
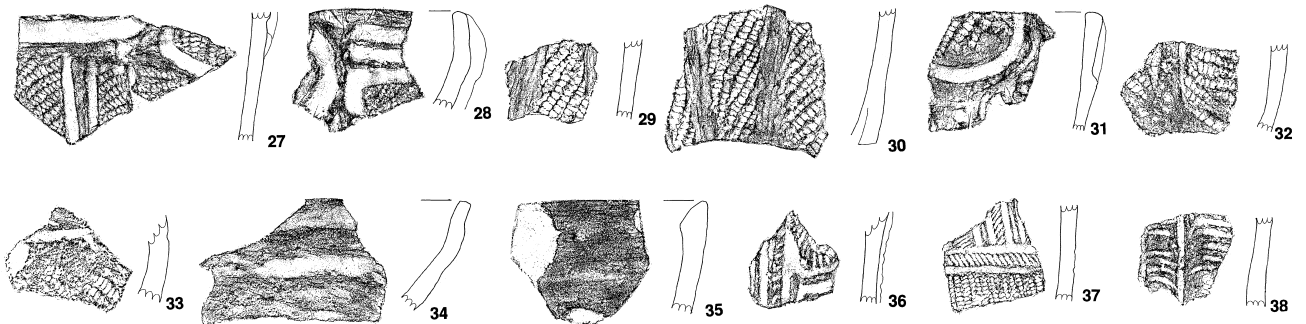
51号住居跡

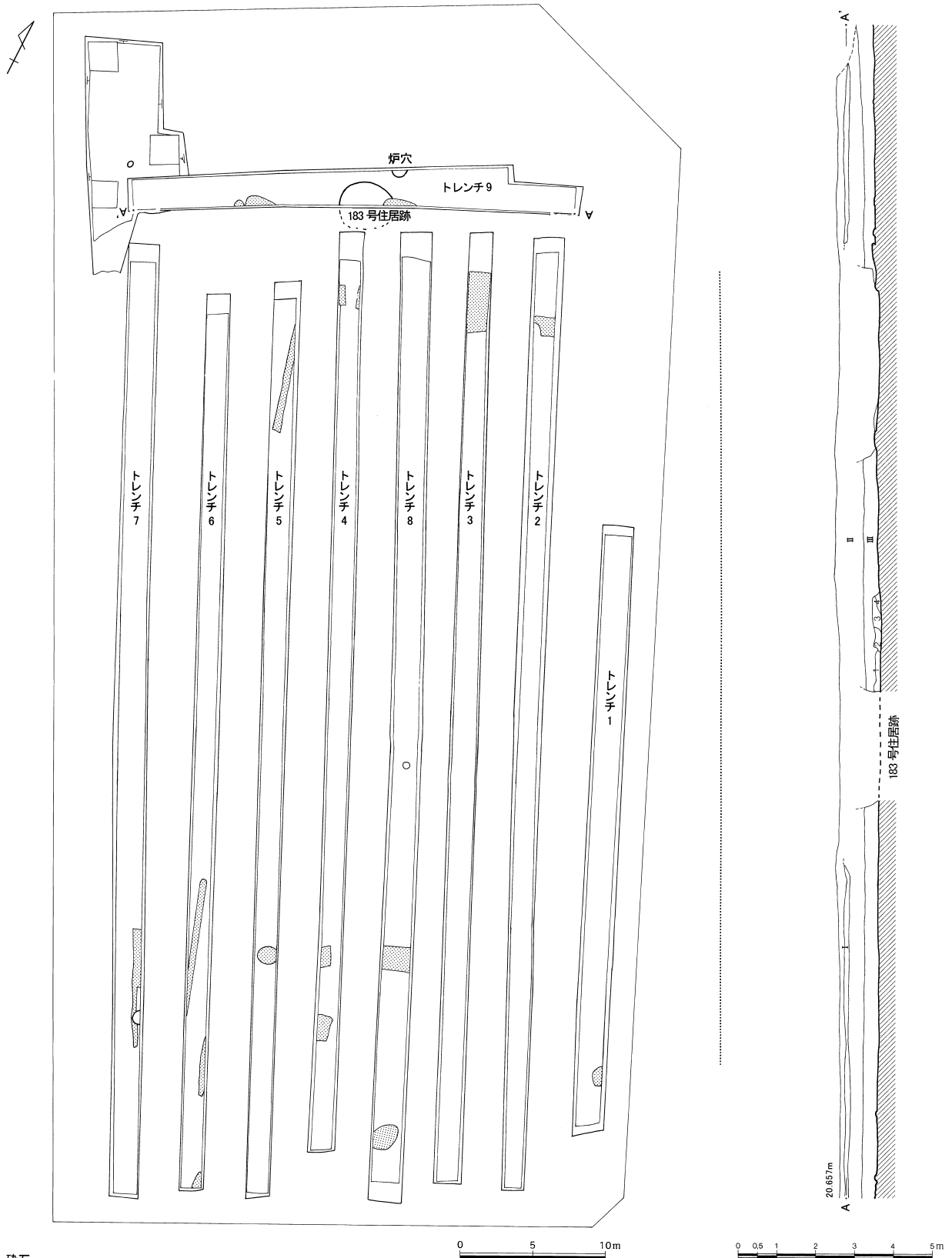


52号住居跡



146号住居跡





I. 砕石

II. 表土・現代盛土 暗褐色土 締り強、粘性弱、10 cm以下の円礫多く含み、最上部に10~20 cm厚で青灰色砕石を広範囲に含むローム土、ビニール・アスファルト含む

III. 表土・耕作土 黒褐色土 締り有、粘性有、5~100 mmのロームブロックやや多く、5 mm以下の炭化物・焼土極少し含む

1. 暗褐色土 締り有、粘性有、シミ状に黒色土を多く、2 mm以下のローム粒やや多く、3 mm大焼土わずかに含む

2. 暗褐色土 締り有、粘性有、黒色土を含まず1層より色調明るい、2 mm以下のローム粒少し、焼土わずかに含む

3. 暗褐色土 締り有、粘性有、2層より色調明、1 mm以下ローム粒少し、焼土わずかに含む

4. 暗褐色土 締り有、粘性有、3層より色調明、1 mm以下ローム粒少し、炭化物わずかに含む

第25図 西ノ原遺跡第135地点遺構配置図 (1/400)、土層 (1/150)



## 第11章 中沢前遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

中沢前遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南約200m、さかい川の谷頭部から約700m 下った右岸、標高17~18mに位置する。本遺跡の西側には西ノ原遺跡が隣接し、さかい川を挟んで北側には富士見市中沢遺跡がある。

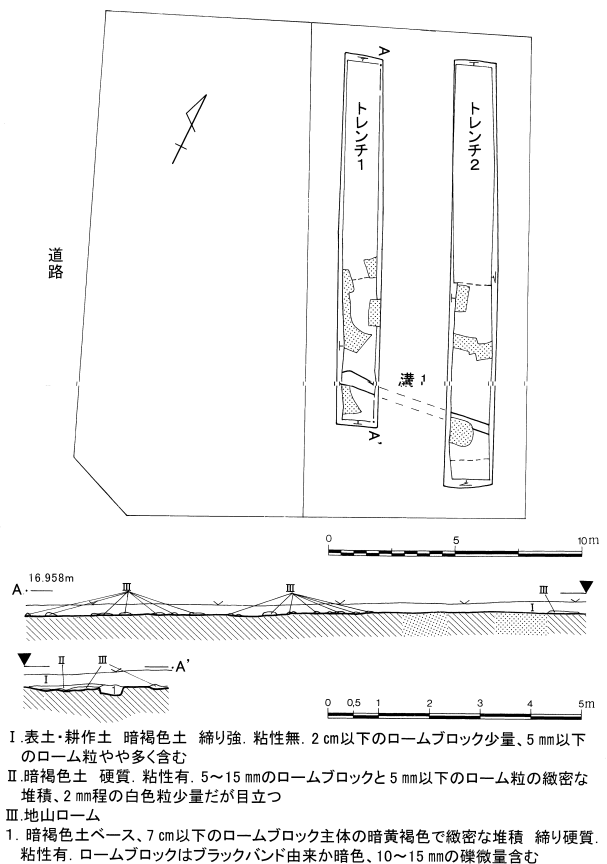
2006年12月現在、26ヵ所で調査しているが、これまでの調査で確認されたのは、旧石器時代（立川ローム層Ⅳ～Ⅲ層上面）の石器集中1ヶ所と、縄文時代とみられる土坑とピット、中・近世の土坑・地下室・溝である。縄文時代の遺物は前期の黒浜式と中期の加曾利E式の土器片が遺構外から出土しているがごく僅かである。中・近世の遺構からは陶磁器等が出土しており、その中に須恵器片等が含まれており、既期の遺構の存在も予想され、遺跡の範囲や内容については未だ確定していない。

### II 中沢前遺跡第26地点

#### (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2005年10月5日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部に位置しており、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するための試掘調査を実施した。

試掘調査は2005年11月30日から12月1日まで行った。幅約1.7mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力で表面精査した結果、遺構・遺物は確認されなかったことから、慎重工事の措置をとった。地山ローム面までの深さは20cmを測り、ローム面はハードローム層で硬化する部分がみられた。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行い、埋め戻し調査を終了した。



第26図 中沢前遺跡の地形と調査区（1/4,000）、第26地点調査区域図（1/300）、土層（1/150）

## 第12章 神明後遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

神明後遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約300m、さかい川の谷頭部から約1,500m下った右岸に位置し、標高12～16m、現谷底との比高差は1.5mを測る。さかい川は本遺跡付近から崖を形成し始め、本遺跡をのせる南側台地は急斜面、対岸の北側は緩やかな斜面を形成している。

周辺の遺跡は、上流に中沢前遺跡、下流に浄禅寺跡遺跡・苗間東久保遺跡が隣接し、さかい川の対岸には富士見市の外記塚遺跡がある。

遺跡周辺は古くからの集落があり、現在でも大きな屋敷地が多く、また大きな開発もなかったが、ふじみ野駅の開設に伴い今後徐々に再開発が進むと思われる。

本遺跡の最初の調査は1987年に町史編纂事業の一環として行われた。その後1993年に新駅へ延びる道路をはじめ、2006年12月現在30地点で試掘調査および発掘調査が行われている。

これまでの調査で縄文時代中期後半から後期前半の住居跡、奈良時代から平安時代の住居跡、中世の建物跡などの遺構を検出した。

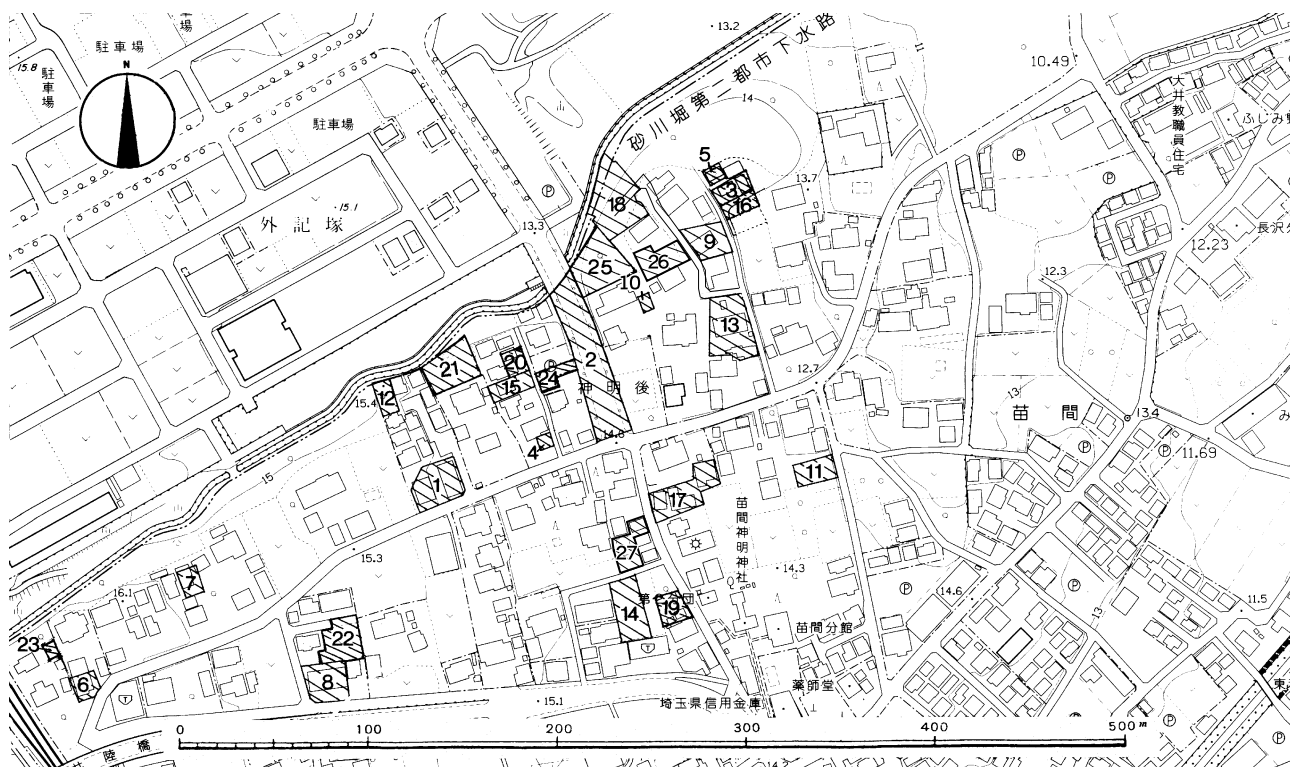
### II 神明後遺跡第26地点

#### (1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2005年3月22日付で「埋蔵文化財事前協議書」が旧大井町教育委員会に提出された。申請地は遺跡の北側に位置し、近接地では縄文時代の住居跡を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構確認の試掘調査を実施した。

調査は2002年6月1日から8日まで行った。幅約1.5mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った結果、縄文時代の住居跡1軒を確認した。申請者と再協議の結果、開発の変更ができないため、原因者負担による本調査を実施することになった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行い、試掘調査を終了した。

本調査は2002年6月15日から30日まで大井町遺跡調査会が行い、縄文時代中期住居跡1軒、中・近世の地下式坑1基、土坑、堀跡等を検出した。(大井町遺跡調査会で報告書刊行予定)



第27図 神明後遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

## Ⅲ 神明後遺跡第27地点

## (1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2005年6月27日付で「埋蔵文化財事前協議書」が大井町教育委員会に提出された。申請地は遺跡の南側に位置しているため、申請者と協議の結果、遺構確認の試掘調査を実施した。

調査は2002年7月20日から25日まで行った。幅約1.5mのトレンチ2本、幅約2mのトレンチ1本を設

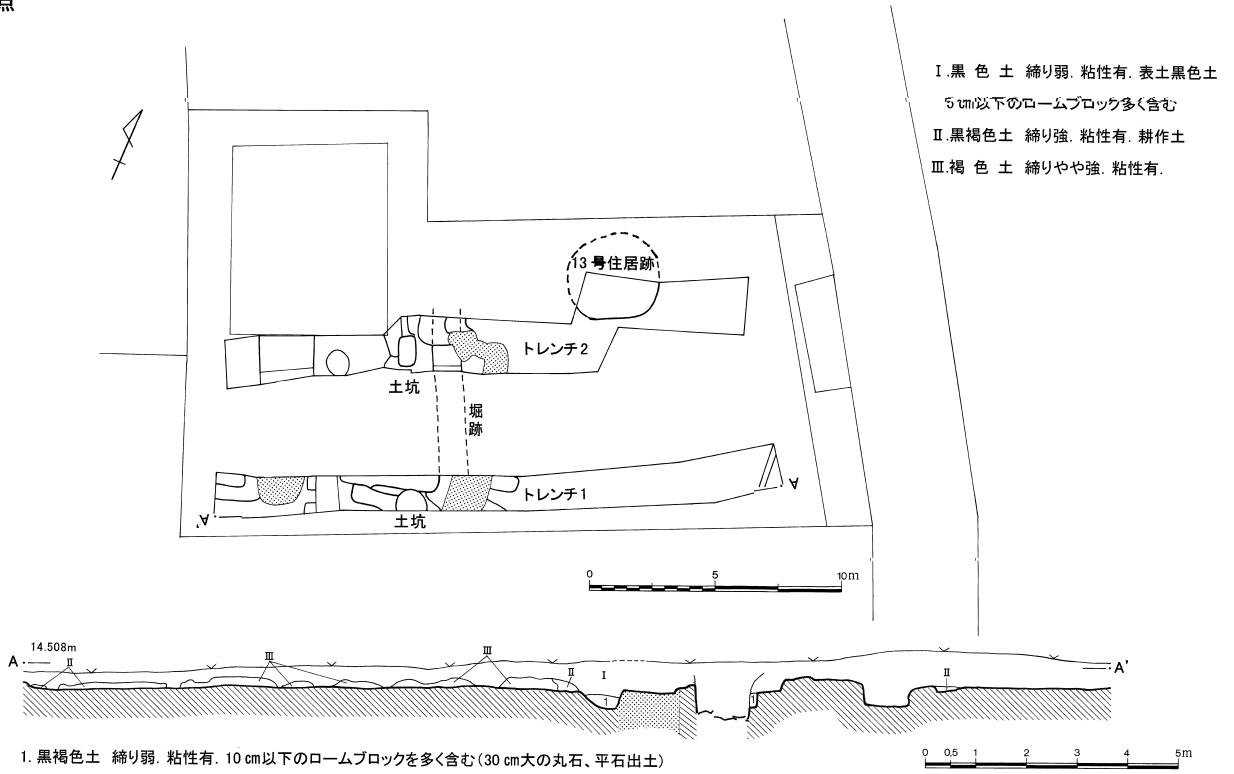
定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った結果、縄文時代の住居跡1軒を確認した。申請者と再協議の結果、開発の変更ができないため、原因者負担による本調査を実施することになった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行い、試掘調査を終了した。

本調査は2005年7月27日に大井町遺跡調査会が行い、縄文時代中期住居跡1軒を検出した。埋め戻しは29日に行った。(大井町遺跡調査会で報告書刊行予定)

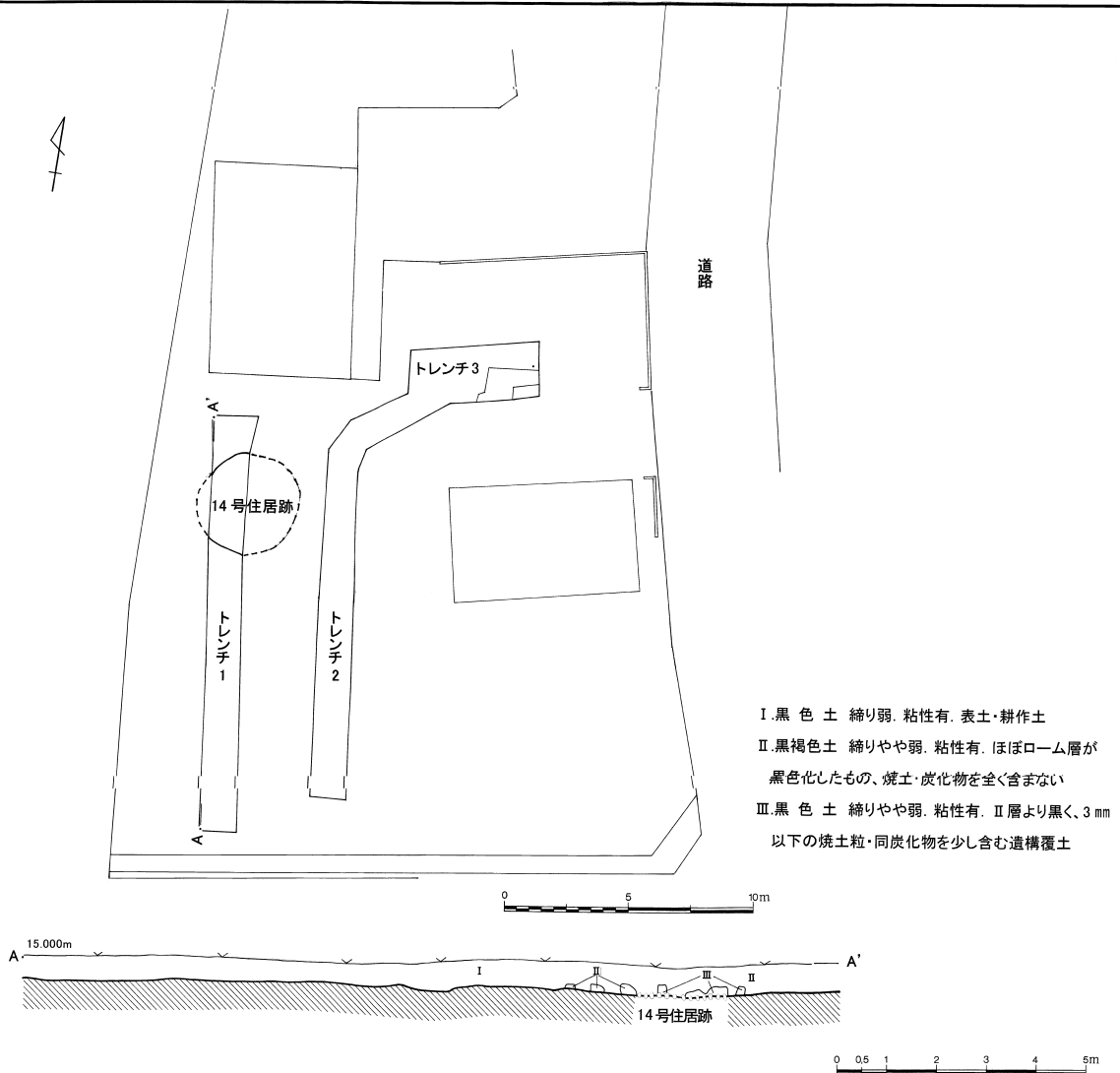
第13表 神明後遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ( )は掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	苗間281-1	1993.5.6~5.11	615	共同住宅	遺構なし、平安時代須恵器片、陶器片	町内遺跡群Ⅲ
2	苗間295-2,299-3	1993.5.12~5.20	1,688	道路築造	落し穴1、平安住居1軒(1号)、縄文土坑1、中・近世掘建柱建物跡、地下式坑1、井戸、堀	町内遺跡群Ⅲ
3	苗間309-12	(1995.3.24~3.29) 1995.4.3~5.19	200	分譲住宅	縄文住居1軒(2号)、伏甕2、埋甕1、土坑2、ピット34他	町内遺跡群Ⅵ
4	苗間302	(1996.6.17~6.19)	703	物置	遺構なし、縄文土器片	町内遺跡群Ⅵ
5	苗間神明後395-5	(1997.3.15) 1997.3.15~4.2	80	個人住宅	縄文住居1軒(3号)、土坑5、溝、他 縄文中期後半~後期初頭	町内遺跡群Ⅵ
6	苗間255,227-2	(1997.9.29~9.30)	150	個人住宅	土坑1、土器片・石器片	町内遺跡群Ⅶ
7	苗間260	(1998.6.1~6.2)	1,460	個人住宅	近世地下室1	町内遺跡群Ⅷ
8	苗間235-1	(1998.7.13~7.24)	458	共同住宅	集石土坑1、土坑2、ピット40、柵列1、溝	町内遺跡群Ⅷ
9	苗間310-1	(1998.9.1~9.11) 1998.9.14~10.15	219	共同住宅	縄文住居4、集石土坑1、落し穴1、縄文土坑2、近世土坑1、井戸2、地下室1、ピット33	町内遺跡群Ⅷ
10	苗間298-1	(1999.9.16)	44	個人住宅	遺構なし、縄文土器片	町内遺跡群Ⅸ
11	苗間366	(1999.10.21) 1999.10.22~10.26	239	個人住宅	土坑17、ピット7	町内遺跡群Ⅸ
12	苗間282-2・5	(2000.3.6)	211	共同住宅	遺構・遺物なし	町内遺跡群Ⅸ
13	苗間302-1	(2000.4.17~4.19)	694	個人住宅	土坑12、ピット	町内遺跡群Ⅹ
14	苗間252-2	(2000.8.18~8.23)	357	共同住宅	土坑1、近世掘建柱建物跡1、溝2、井戸1、柵列、ピット38	町内遺跡群Ⅹ
15	苗間293-15	(2001.4.11) 2001.4.12~4.13	163	個人住宅	集石土坑1(阿玉台期)	町内遺跡群Ⅺ
16	苗間309-14	(2001.7.23~7.24) 2001.7.25~9.3	165	個人住宅	縄文屋外埋甕4、土坑13、溝2、地下式坑1、地下室1、竪穴状遺構1、ピット38	町内遺跡群Ⅺ
17	苗間369-1	(2002.3.28)	581	個人住宅	近世溝	町内遺跡群Ⅺ
18	苗間304-1,303-6	(2002.5.15~5.25) 2002.5.27~6.21	672	分譲住宅	縄文中期住居5軒(8~12号)、土坑、古代・中世掘跡	町内遺跡群Ⅻ
19	苗間264-4	(2002.9.18~9.20)	216	個人住宅	根切溝、溝4	町内遺跡群Ⅻ
20	苗間293-11	(2003.1.14~1.15)	143	個人住宅	中・近世溝2、ピット2	町内遺跡群Ⅻ
21	苗間283-1	(2003.1.10~1.30)	674	土地造成	ピット7、井戸1、近世地下室2、土坑1	町内遺跡群Ⅻ
22	苗間235-2・3	(2003.7.8~7.29)	430	分譲住宅	井戸1、土坑10、ピット38、江戸後期陶磁器	町内遺跡群Ⅻ
23	苗間253	(2004.4.9)	62	個人住宅	地下室1、銭貨	町内遺跡群Ⅻ
24	苗間神明後293-4・10	(2004.9.30~10.7)	148	個人住宅	遺構・遺物なし	町内遺跡群Ⅻ
25	苗間295-1	(2004.9.30~10.7)	660	店舗併用住宅	遺構・遺物なし	町内遺跡群Ⅻ
26	苗間神明後301,303-3・4・5,304-1,303-7	(2005.6.1~6.8) 2005.6.15~6.30	689	分譲住宅	縄文中期住居1軒(13号)中世地下式坑、近世土坑5、溝	調査会報告18集
27	苗間248-2,249-1	2005.7.20~25 2005.7.27~7.29	385	共同住宅	縄文中期住居1軒(14号)	調査会報告18集

26 地点



27 地点



第28図 神明後遺跡第26・27地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)

## 第13章 苗間東久保遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

苗間東久保遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約600m、さかい川の谷頭部から約1,800m下った右岸、さかい川と浄禅寺川にはさまれた台地の縁辺に位置し、標高10~11m、現谷底との比高差は1~1.5mを測る。さかい川と本遺跡をのせる南側台地の間に緩やかな斜面を形成している。

周辺の遺跡は、さかい川上流に富士見市中沢遺跡、下流に富士見市外記塚遺跡、浄禅寺川対岸には浄禅寺跡遺跡がある。

遺跡周辺は畑が多く見られたが、ふじみ野駅の開設に伴い、個人住宅などの小規模な開発が進みつつある。

本遺跡の最初の調査は1979年に開発に伴う緊急調査として行われた。2006年12月現在24ヶ所で試掘調査及び発掘調査が行われている。

これまでの調査で縄文時代中期後半~後期中葉の住居跡、落し穴、土坑、集石土坑、ピット等が多数確認検出されている。

### II 苗間東久保遺跡第24地点

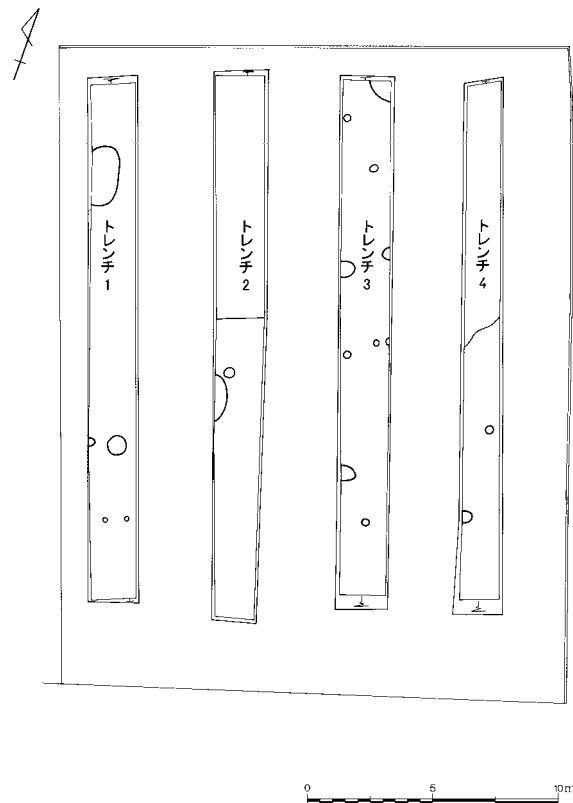
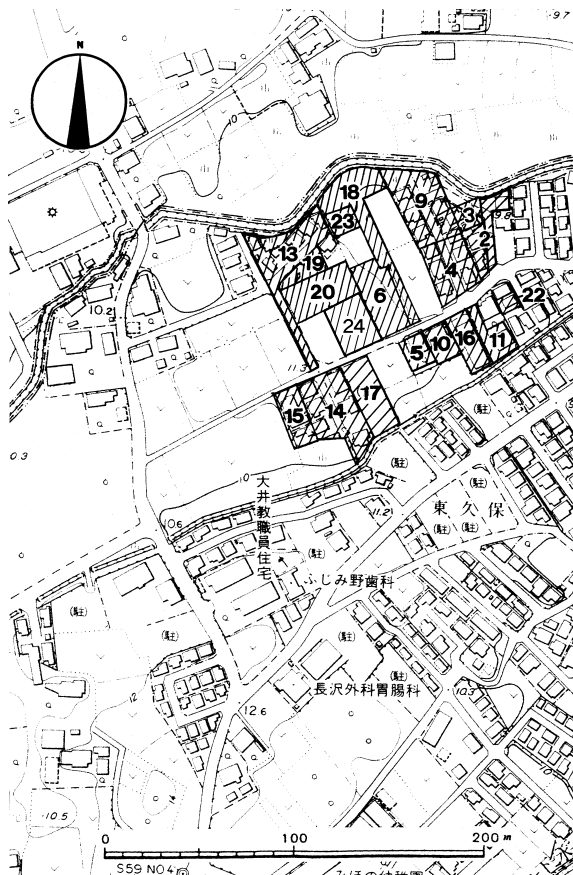
#### (1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2006年3月3日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置し、隣接地では縄文時代の遺構を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構確認の試掘調査を実施した。

調査は2006年3月7日から20日まで行った。幅約2mのトレンチ4本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行い、遺構らしきプランを確認した。遺構の広がりや深さ及び遺物の密度を確認するため一部拡張を行い、縄文時代の遺構と遺物を確認した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

原因者と再協議の結果、開発の変更ができないため、原因者負担による本調査を実施することになった。

本調査は、2006年4月10日から28日までふじみ野市教育委員会が行った。(第II部 第1章 苗間東久保遺跡第24地点の調査参照)



第29図 苗間東久保遺跡の地形と調査区 (1/4,000)、第24地点調査区域図 (1/300)

第14表 苗間東久保遺跡調査一覧表

地点	調査年	面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	1979	605	共同住宅	炉穴10、土坑14、加曾利 E II 式土器・石器	東部遺跡群 I
2	1979	530	共同住宅	住居 1、縄文中期後半土器	東部遺跡群 I
3	1980	200	共同住宅	遺構なし、縄文土器細片	東部遺跡群 II
4	1980	750	共同住宅	住居 2、土坑 6、縄文中期後半土器 他	東部遺跡群 II
5	1980	106	共同住宅	炉穴 2、集石 1、土坑 3、柱穴 32、ピット 6、縄文早期・後期土器	東部遺跡群 II
6	1980	577		住居 2、炉穴 4、土坑 23、柱穴群、縄文中期後半・称名寺式土器	東部遺跡群 II
7	1982	396	共同住宅	遺構なし、縄文土器細片	東部遺跡群 III
8	1982	360	共同住宅	遺構なし、遺物無し	東部遺跡群 IV
9	1983	660	共同住宅	池状遺構、土坑 1、縄文中・後期土器・石器	東部遺跡群 V
10	1984	340		土坑 5、ピット 45、縄文後期堀之内式土器	未報告
11	1984	560		遺構なし、縄文中期勝坂式土器 他	未報告
12	1984	320	共同住宅	遺構なし、縄文中期加曾利 E 式土器 他	未報告
13	1984	900		住居 2、土坑 88、ピット 10、縄文堀之内式・加曾利 B 式土器	大井町史資料 I
14	1987	923		土坑 7、ピット 92、平安以降ピット 6、縄文後期土器	東部遺跡群 IX
15	1988	447	共同住宅	土坑 7、ピット 21、縄文後期称名寺式・堀ノ内式土器	東部遺跡群 IX
16	1989	390	共同住宅	住居 1、土坑 2、縄文中期後半・後期前半土器	東部遺跡群 X I
17	1990	583	駐車場	土坑 1、縄文前期・後期土器	町内遺跡群 I
18	1992	906	分譲住宅	住居 3、落とし穴 5、土坑 11、ピット 14、縄文前期・後期土器	調査会報告 5 集
19	1994	350	宅地開発	落とし穴 1、住居 1、土坑 5、ピット 39、縄文早期後半・後期土器・石器・土製円盤	調査会報告 12 集
20	1998	664	個人住宅	土坑 28、集石土坑 5、ピット 128、縄文後期土器、旧石器、泥面子	調査会報告 12 集
21	1999	350	個人住宅	土坑 2、縄文土器・石鏃	町内遺跡群 IX
22	2001	99	個人住宅	遺構なし、縄文土器	町内遺跡群 X I
23	2004	104	個人住宅	遺構・遺物なし、	町内遺跡群 X II
24	2006	561	分譲住宅	土坑 5、ピット 45、縄文早期前半～後期中葉土器・石器	市内遺跡群 2

第15表 苗間東久保遺跡縄文時代住居跡一覧表

(単位cm)

住居 番号	調査率	平面形 ( )は推定	規模	炉			埋甕	拡張	壁溝	備考	時期	文献
				地床	埋設	石囲						
1	75	円形	440×380×20	○							加曾利 E I 新	東部遺跡群 I
2	完掘	楕円形	535×470×15	○					床面直上		加曾利 E I 新	東部遺跡群 II
3	完掘	柄鏡形	400×380×10	○				有			称名寺 I	東部遺跡群 II
4	完掘	隅丸方形	520×490×25		○			有			加曾利 E I 新	調査会報告 5 集
5	50	円形	240×220	○					床面直上		堀之内 II	大井町史資料編 I
6	50	(円形)	309×半掘						床面直上		加曾利 B I	大井町史資料編 I
7	完掘	楕円形	470×400×10		○				床面攪乱		加曾利 E I 新	東部遺跡群 XI
8	60	楕円形	500×450	○						○	(加曾利 E)	調査会報告 5 集
9	完掘	柄鏡形	540×400	○			②		低い張出部		加曾利 E IV	調査会報告 5 集
10	完掘	柄鏡形	460×442×42	○							称名寺 I	調査会報告 12 集



第30図 苗間東久保遺跡遺構配置図 (1/1,000)

## (2) 遺構外出土土器

1～8は、縄文を基調とする深鉢の胴部破片で胎土に植物繊維を含むものもみられる。1の裏面には条痕があり、2と3には結束縄文がみられる。1～8は縄文前期前半で、1は花積下層式、2と3は関山式の可能性が高い。

9は太い3本の沈線をめぐらせ、外側に沈線に併行する押引文列を2段つける。胎土には石英と白色微砂粒を多く含む。勝坂2式の可能性が高い。

10はJ字文を反転した区画内に列点文を入れる、波状口縁深鉢の口縁部片で称名寺式最末段階のものである。11と12は細縄文のみの小型深鉢の口縁部片で、口唇内側に段をもつ。13～17はZ字状またはJ字状区内に細縄文を施す区画と磨消し区画がある。18は刻目隆帯を垂下させ、地文縄文に沈線文間を磨消。19・20は地文細縄文に沈線文を施す。21～24は太い沈線を多用する粗整の土器群で後期初頭のもの。

25～32は口縁直下に微隆帯をもつ薄手の小型鉢土器の口縁部片で堀之内式である。26と32は同一個体の可能性があり沈線で内面に文様を施す堀之内2式。33～52は平縁の深鉢で細沈線文で斜格子文のみの類で、加曽利B I式の粗製土器である。53は沈線による多条の内文をもつ小型浅鉢片で加曽利B I式土器である。54は波状口縁の深鉢で3単位の把手部分、55は把手下部で「8」字形隆帯をもつ。56と57は地文縄文を沈線で帯状に区画する。58と59は沈線のみの半粗製土器。61は胴部の小片で堀之内2式の半粗製土器。63・64は沈線と刻目、65は地文縄文の浅鉢で、62は59と同類の土器片である。66～70は隆帯上に押圧をめぐらす堀之内2式である。

71と72は浅鉢で72には沈線の内文がある。74～76は細沈線で幾何学文をつくる。77は帯状縄文に沈線の幾何学文区画内を磨消すほか弧沈線も入れる半精製土器である。78は代表的な半精製深鉢の口縁部で、口縁下の隆帯に押圧を施し、横帯縄文にクランク状に沈線文を加える加曽利B I式である。79～83・99は横帯縄文に沈線で「L」字状の区切りを入れる類で、加曽利B I式の精製土器である。

85と86は表面無文で、細縄文や列点文を伴う内文をもつ加曽利B I式の浅鉢片。87～88も内面沈線文をも

つ類。89～92は口線下に微隆帯がめぐる。93は多条横帯文、94・96は隆帯に刺突文をもつ精製土器である。87～99は加曽利B I式といえる。

100～104は多条横帯縄文の胴部片。105は横帯縄文に斜位の沈線文を加える。106～107は浅鉢片。108～110は横帯文の胴部片で109には段差沈線がある。103・104・111・115精製土器。112は地文縄文で瘤状隆起がある。113・114は押圧隆帯をもつ粗製土器。116は単節縄文の胴部片である。117は地文縄文の胴部片。

118は浅鉢の口縁、119は管状工具による沈線文。120は2段の刻目隆帯の下部に幾何学的な沈線が入る堀之内2式。121は帯縄文に段切沈線がある加曽利B I式。123と124は120に近い。125～134・138～140は細縄文と沈線の胴部片。135～137は口縁下の微隆帯に刻目を施す。142は細沈線のみで口唇内側に沈線が入る。143～150は沈線のみで、144は斜格子文の加曽利B I式で他は堀之内2式の粗製土器。152と153は注口土器の破片で、後者丁寧な磨を施し黒色を呈する。

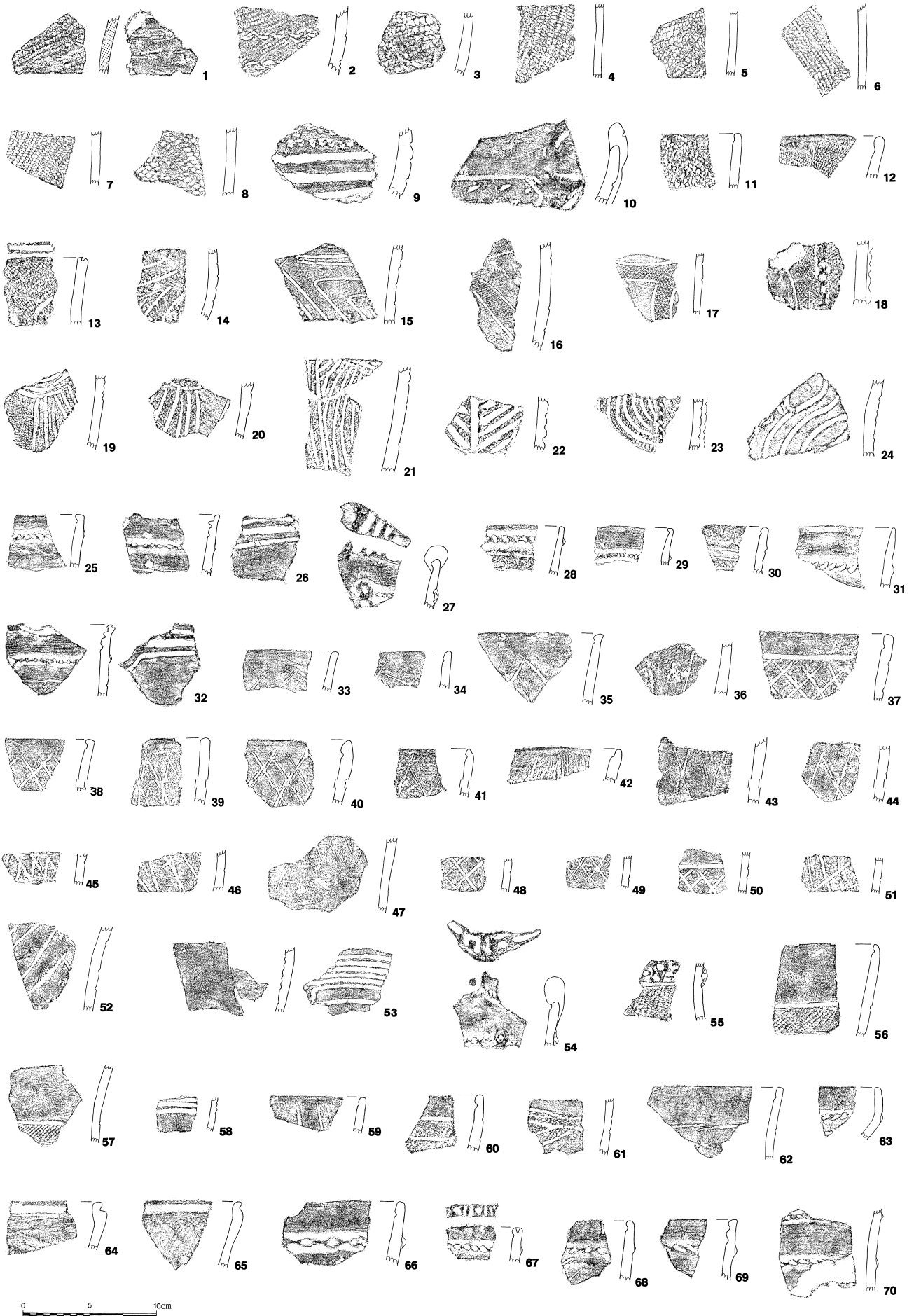
154は深鉢の把手頂で、155と156は粗製深鉢、157は浅鉢の口縁、156は斜格子沈線をもつ加曽利B I式である。

158～192は底部片で158～160と164～171は底部のみであるが、158～184には網代痕がのこる。158～164は粗目の網代が、165～184は蜜でこまかい網代である。深鉢の底部は直立ないし内反する特徴をもち、網代が盛行する堀之内2式・加曽利B I式のものであることを示す。185～192の無文底部のうち186は浅鉢、他は深鉢である。188は注口土器の底部であろう。193は沈線文もつ胴部片を利用した土錘で側面調整が著しい。

194ラッパ状の口縁部把手で、撫で整形が著しく接合部には管状工具による沈線文様をもつ。内面の整形良好のため、土器の台部よりも把手と推定した。

195は蛇紋岩製の定角式磨製精製石斧であり、重さは23.51gである。196は硬質頁岩製の撥型打製石斧で重さ112.26g。197は細粒砂岩製の打製石斧で、91.76gである。198は凝灰質砂岩の敲石で99.61gである。199は黒曜石製の石鏃で重さ0.54g。200は黒曜石製の鋏形石鏃で重さ0.2g。201は黒曜石製の鋸歯状石製品で重さ2.61gである。





第31図 苗間東久保遺跡第24地点出土遺物① (1/4)



第32図 苗間東久保遺跡第24地点出土遺物② (1/4)



第33図 苗間東久保遺跡第24地点出土遺物③ (1/4・2/3)

## 第14章 浄禅寺跡遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

浄禅寺跡遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約600m、浄禅寺川の湧水地南側から右岸の台地上に位置する。標高12～14mで現谷底との比高差は2mを測る。浄禅寺川はさかい川と砂川堀の間を東流し、さかい川に合流する。さかい川はやがて砂川堀に合流して新河岸川へと注ぐ。

周辺の遺跡は北西に神明後遺跡、北側に苗間東久保遺跡が隣接する。本遺跡は1989年に苗間東久保遺跡の一部を浄禅寺川を境に分割して登録した。

遺跡周辺は早々に市街化が進み、残された畑地も周辺の区画整理の影響で開発が増加している。

2006年12月現在28ヶ所で試掘調査及び発掘調査が行われ、縄文時代早期の炉穴多数、前期住居跡1軒、中期住居跡1軒、中・近世の薬研状の堀や、遺跡名の由来である浄禅寺墓域から土壌墓157基、一字一石経約76,000点が出土している。旧苗間村の浄禅寺は江戸時代に建立されたが、幕末に焼失して以来再建されていない。

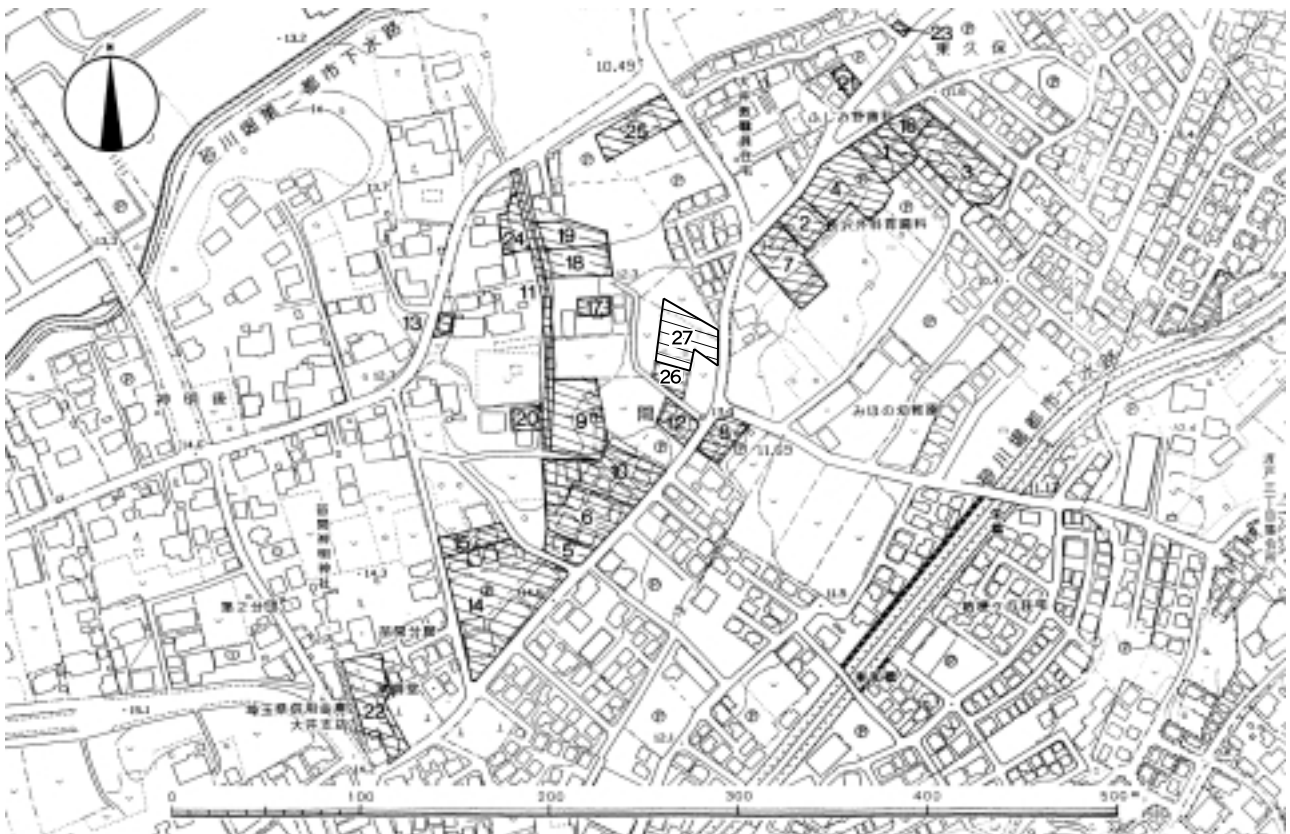
### II 浄禅寺跡遺跡第27地点

#### (1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、土地所有者より2005年11月29日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置し、隣接地で縄文時代の遺構が確認されているため、申請者と協議の結果、遺構・遺物確認の試掘調査を実施した。

試掘調査は2005年12月1日から翌年1月23日まで行った。幅約2mのトレンチ6本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った結果、遺構らしきプランを多数確認した。試掘調査の途中で、本調査が避けられない状況となり、本調査の予算と調査期間を算出するため、試掘調査の範囲をほぼ全面に広げた。原因者と再協議の結果、開発の変更ができないため、原因者負担による本調査を実施することになった。

本調査は2006年1月23日から2月22日まで、ふじみ野市教育委員会が行った。(第II部 第2章 浄禅寺跡遺跡第27地点の調査参照。)



第34図 浄禅寺跡遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第16表 浄禅寺跡遺跡調査一覧表

地点	調査年	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	1979	605	共同住宅	苗間東久保1地点として報告、炉穴10、土坑14、縄文早期後半・中期土器	東部遺跡群 I
2	1982	396	共同住宅	苗間東久保7地点として報告、遺構無し、磨耗縄文土器	東部遺跡群 III
3	1984	320	共同住宅	苗間東久保12地点を浄禅寺跡3地点に変更、遺構なし、縄文中期末土器	未報告
4	1989	150	開発予定地	炉穴10、土坑7、ピット14、縄文早期後半・前・中期土器	東部遺跡群 X
5	1991	100	個人住宅	遺構なし、縄文前期・中期土器片	町内遺跡群 I
6	1991	826	個人住宅	遺構・遺物なし	町内遺跡群 I
7	1992	831	共同住宅	炉穴8、井戸3、堀3、縄文草～中期土器	調査会報告5集
8	1994	615	宅地分譲	落し穴、根切溝	町内遺跡群 IV
9	1994	1,266	農地改良	土坑、溝、縄文土器・磁器	町内遺跡群 IV
10	1994	999	宅地分譲	近世土壙墓157基、一字一石経埋納土坑、近世陶磁器・銭貨他	調査会報告12集
11	1995	572	道路	近世陶磁器他	町内遺跡群 IV
12	1995	140	個人住宅	屋外炉、遺物集中3、ピット16、溝5、縄文中期土器	町内遺跡群 V
13	1996	101	個人住宅	土坑13、ピット11、井戸1、溝2、縄文草～後期土器他	町内遺跡群 V
14	1996	2,178	個人住宅	礫群3、落し穴1、溝4、ピット251、旧石器・縄文土器・陶磁器	町内遺跡群 VI
15	1996	494	分譲住宅	炉穴7	町内遺跡群 VI
16	1997	291	個人住宅	縄文住居跡1、炉穴14、ピット61、土坑16、溝4、縄文早期後半・前期・中期土器	町内遺跡群 VII
17	1998	877	個人住宅	遺構なし、縄文早期後半・中期後半土器	町内遺跡群 VIII
18	1999	599	個人住宅	炉穴8、集石土坑3、土坑13、ピット27、溝、縄文後期土器・土師器	町内遺跡群 IX
19	1999	703	分譲住宅		調査会報告17集
20	2001	223	倉庫	遺構なし、近世磁器	町内遺跡群 XI
21	2001	182	個人住宅	遺構・遺物なし	町内遺跡群 XI
22	2002	935	分譲住宅	土坑1、ピット4、溝、遺物なし	町内遺跡群 XII
23	2003	100	個人住宅	ピット2、溝、遺物なし	町内遺跡群 XII
24	2004	391	個人住宅	遺構・遺物なし	町内遺跡群 XII
25	2004	721	共同住宅	ピット2	町内遺跡群 XII
26	2005	216	分譲住宅	縄文住居跡1、集石、土坑、ピット2、縄文中期土器	町内遺跡群 XII
27	2006	696	分譲住宅	縄文住居跡1、炉穴15、埋甕2、土坑117、ピット127、溝1	市内遺跡群 2

(2) 遺物

① 炉穴出土土器 (第36図)

1と2は炉穴2出土で、捺糸文をもち胎土に白色砂粒と白色軟質物資を含む。3と4は地文縄文で胎土は1に近い。5はソーメン状山形粘土が貼られ、半截竹管の内側による押引きが見られ、器厚は薄く胎土に白色軟質物質が含まれる中期前半のもの。6は磨消し帯に刺突を加える称名寺式である。5と6は攪乱による流れ込みとみられる。7～9は炉穴3出土である。7は口縁部、8は波状痕をもち、9の底部は2次被熱著しいが胎土に繊維を含む。10と11は炉穴5出土で、10は縄文を地文とし、11は無文土器片である。12は炉穴7出土で、側面調整を加え土製円板であろうか。13は炉穴11出土の口縁部の小片である。14は炉穴12出土で磨滅著しい。15と16は炉穴出土で、15は木口状工具による細沈線文土器の口縁部である。16は無文で中期であろう。

炉穴2の土器は早期前半と言え、他の炉穴の時

期は特定し難い。

② 土坑出土土器 (第36・37図)

17と18は土坑1出土で、17は地文捺糸文で胎土に白色軟物質と植物繊維を含む。18は刻目をもつ隆帯の楕円形区画内に蓮華文をもつ勝坂Ⅲ式。

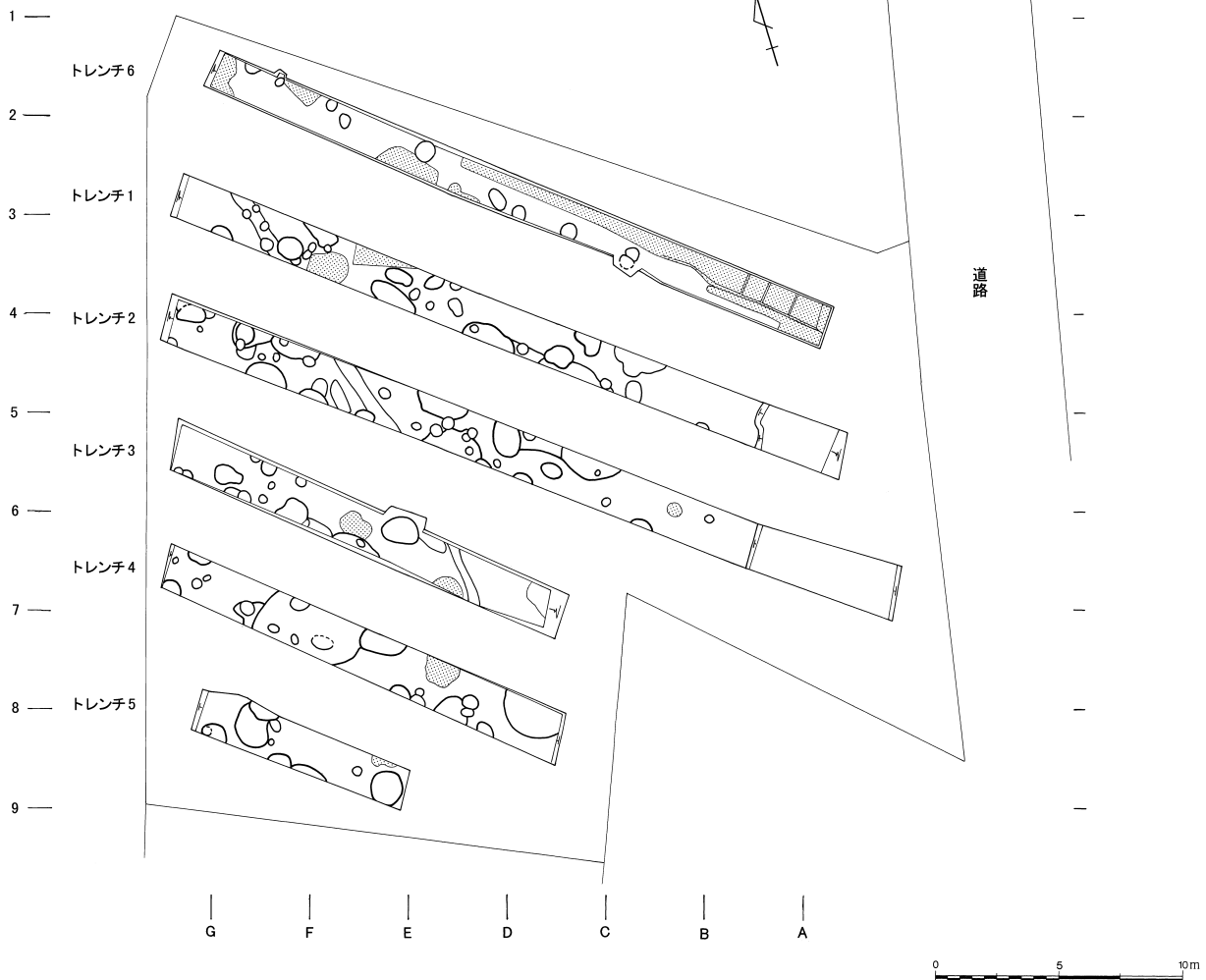
19と20は土坑2出土で共に胎土に石英と金雲母を含む。共に地文縄文で20は沈線文を施す。

21～24は土坑4出土で、21は条痕文、22は捺糸文の口縁部、23は地文縄文、24は捺痕文を施す。

25と26は土坑5出土で25には沈線文、26には表裏に条痕文を施す。

27は土坑7出土の地文捺糸文で、補修孔をもつ。

28～34は土坑10出土で、28と30は早期の捺文胴部片で30の胎土には繊維を含む。31は地文縄文に沈線と磨消懸垂文をもつ加曾利EⅡ式。34は「8」字状隆帯と沈線をもつ堀之内式のもの。32は底部から胴部にかけて開く。33は口唇部が逆「く」の字状に屈折し沈線で「J」字文を描く称名寺式。



第35図 浄禅寺跡遺跡第27地点遺構配置図 (1/300)

35～73は土坑20出土で、35・37は表裏共に条痕文をもつ早期後半のもの。36は地文縄文、38は撚糸文で突と沈線での共通性をもつ。

ある。40は地文縄文で中期か。41は無節縄文に弧状に磨消しを施す。42～56は太い沈線で「J」字や「Z」字状文をつくり地文を持たない。52は磨消し内に刺突を加える。42～55は称名寺新式である。56は浅鉢、59は深鉢底部である。58～62は粗製土器。63は口縁下の隆帯に刻目を入れる。60と64は頸部に「8」字状連結を貼付ける。65は口縁部に沈線で楕円形区画をつくる。67と68は波状口縁の深鉢で、口唇部に円形刺・沈線文を施し、68は撫で整形が著しい。69は側面調整著しい土製円板である。70は無文胴部片、71は微隆帯に沈線と円形刺突を施し磨き調整のある薄手土器片である。

72は土坑21出土で、太い沈線で山形文をつくり、磨消しを施す称名寺式か。73～75は土坑24出土で、73は条痕文で胎土に繊維を含む。74と75は同一個体の深鉢で、口縁上部に縄を施した後2本の沈線をめぐらす。頸部無文帯の下に3本の沈線をめぐらし、胴部にも沈線文を施す。胎土に白色軟物質と石英を含む。五領ケ台式の可能性が高い。

76～94は土坑28出土で、76は撚糸文の口縁部片。77～85は地文縄文の胴部片で、77と78は隆帯、79と80は磨消の懸垂文をもち、82はこの類の地文のみである。83と84は無文の口縁をもつ深鉢で、口縁と地文縄文の胴部の間に83は微隆帯、84は太い隆帯を入れる。85は斜位の弧状磨消しをもち、86は沈線と幅広磨消しを施す。87と89は厚手の無文浅鉢。89と90は地文縄文に沈線をめぐらす。91は沈線のみ、92は小形粗製の無文口縁。93は沈線間に列点文を入れ、隆帯で区画を施す。撫で整形が著しい浅鉢で堀之内式である。94は無文の小型浅鉢土器片である。

### ③ピット出土土器（第37図）

95はピット5出土の尖底深鉢の口縁部片で撚糸文を施す。96はピット33出土で胎土に植物繊維を含む条痕文を施す。

97～99はピット44出土である。97と98は同一個体の深鉢で、地文縄文に沈線で蕨手文と蛇行懸垂文が描かれる。堀之内I式。

### ④遺構外出土土器

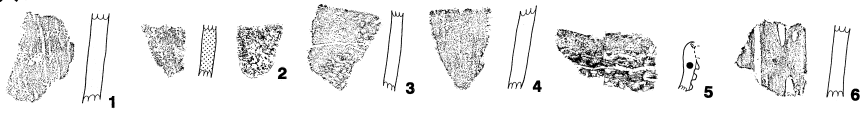
1～24は早期前半の撚糸文系土器群の口縁部である。

1は口縁部に斜位に撚糸文を施す。2～4は口縁部に狭い無文部をもち、5・6や17～20は撚糸文単一の文様帯である。4～14のように密なもの、条間があくものがある。15は底近くで16は砲弾型の尖底である。胎土には微細な石英や微砂粒を含み焼成良好で赤褐色を呈する。1～16は夏島式に、17～24は稲荷台式といえる。25はゆるやかに外反する口縁部は角頭状で胎土に微砂粒を多く含み、太い沈線を入れる田戸下層式か。26～31は貝殻条痕文をもち、32・33・35・38は撚糸文、40～44は繊維押圧痕が著しい。47～49・51は縄文、50・52・53は撚糸文。54は羽状縄文に沈線文をもつ。55は側面調の土製円板。56は撚糸文、57は隆帯文に刻目と押引沈線を多用し胎土に金雲母を多く含む。58と59は集合沈線を多用する。60～62は地文縄文で、62は結束縄文をもつ。63は筒形深鉢で羽状縄文の地文に深い沈線が入る。57～63は中期初頭の五領ケ台式。65は一列の角押文で、66はヒダ状指頭圧痕文をもつ阿玉台I b式。67は隆帯ぞいに1列の角押文をもつ猪沢式。68は押し引きによる波状文、69は押し引き沈線列をもち、70～71・74は無文、72は半隆帯文、73は隆帯ぞいに角押文をもつ、74は隆帯に連続爪形文をもつ。79と80は底板に網代痕を明瞭に残す。81は地文縄文のみの胴部片で、82には頸部無文帯が残る。83と84は地文複節縄文に磨消懸垂文がある。82は加曾利E I新式。83と84は加曾利E II式。

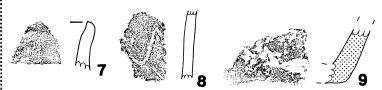
85は口縁下に列点文をもち、広い磨消に太い沈線でJ字文を描く。86～89は縄文を地文として広く磨消す。90～94は太い沈線でスペード形をつくる。95は磨消しの内部を刺突する。96は口唇上面に沈線と刺突を加える。97は太い隆帯に刻目をもち沈線と刺突を加える。85～100は称名寺式新相。101と102は同巧の深鉢で無文口縁下の2本の沈線上の貼付隆帯に刺突し、胴部は地文縄文の上に蛇状沈線を垂下させる。これらは典型的な堀之内I式である。103～106は太い沈線と刺突を伴う類。107は無文部片、108～117は堀之内式の口縁部であるが、口縁の列点文・「8」字形隆帯・口唇の刺

118～120は沈線文の区画内に縄文と磨消しを施す。

炉穴 2



炉穴 3



炉穴 5



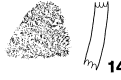
炉穴 7



炉穴 11



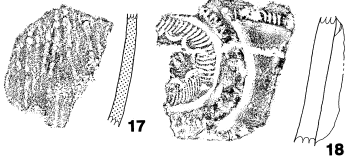
炉穴 12



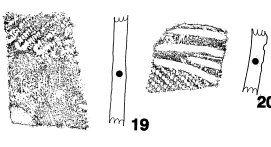
炉穴一括



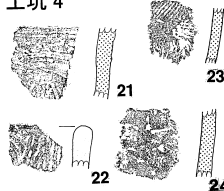
土坑 1



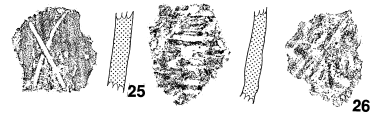
土坑 2



土坑 4



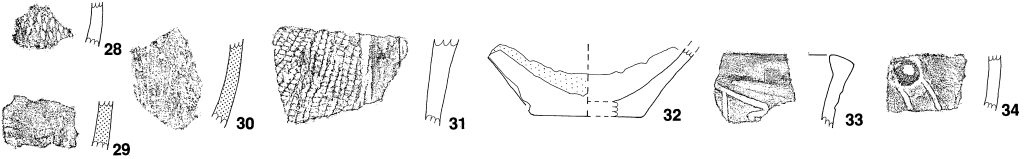
土坑 5



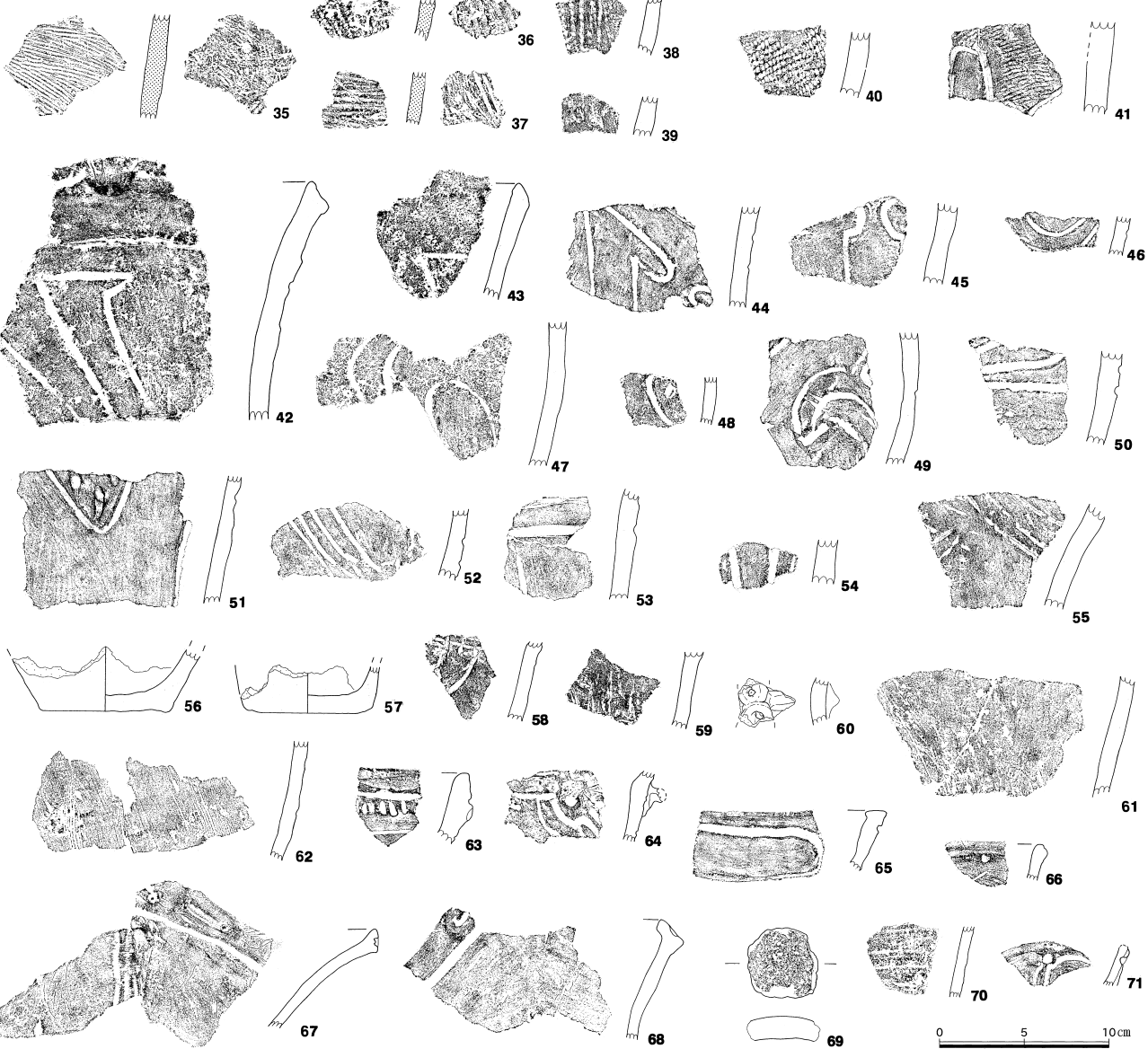
土坑 7



土坑 10



土坑 20



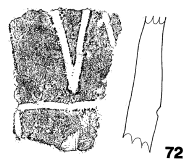
第36図 浄禅寺跡遺跡第27地点炉穴・土坑出土土器 (1/4)



121は沈線文と磨消しに列点状の刺突を施す。122は沈線文に磨消し文、123・124は無文の底部から胴下部にかけてで、同一個体とみられる。125は木口状工具に

よる格子状沈線文を施す。127・128は地文縄文に蛇状沈線文を施す。118～128は後期前半のものである。

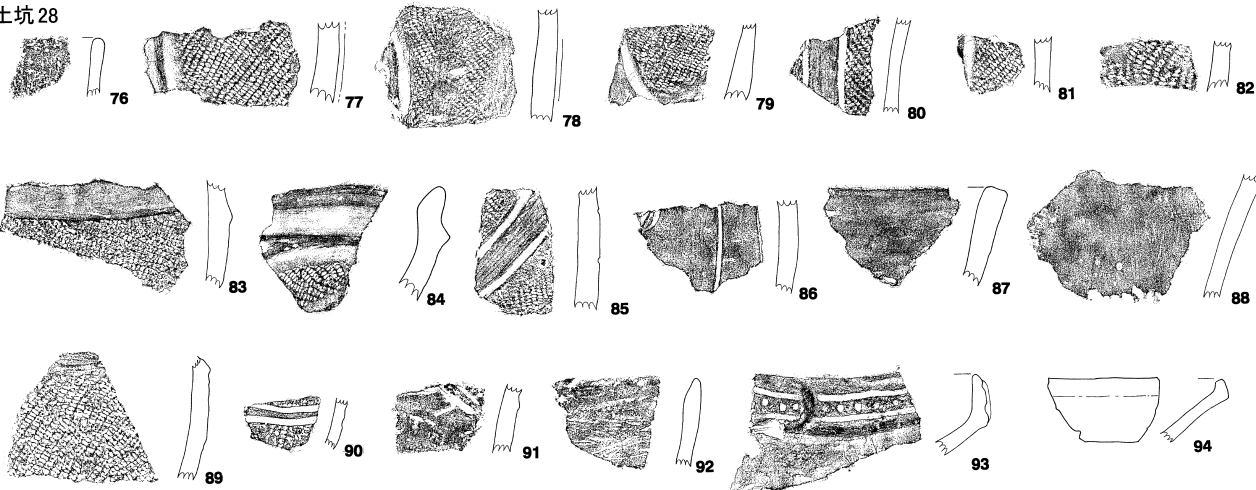
土坑21



土坑24



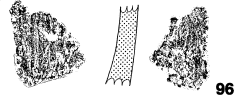
土坑28



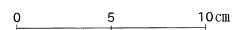
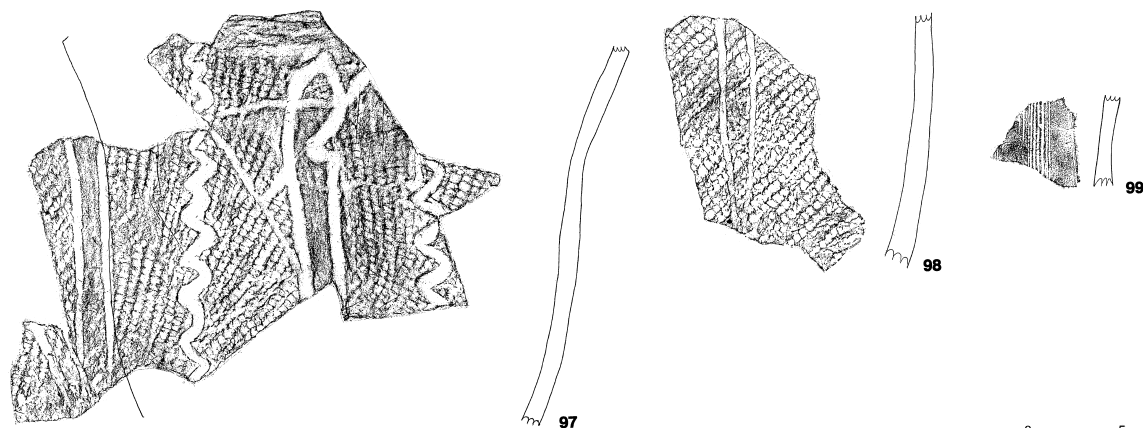
P5



P33



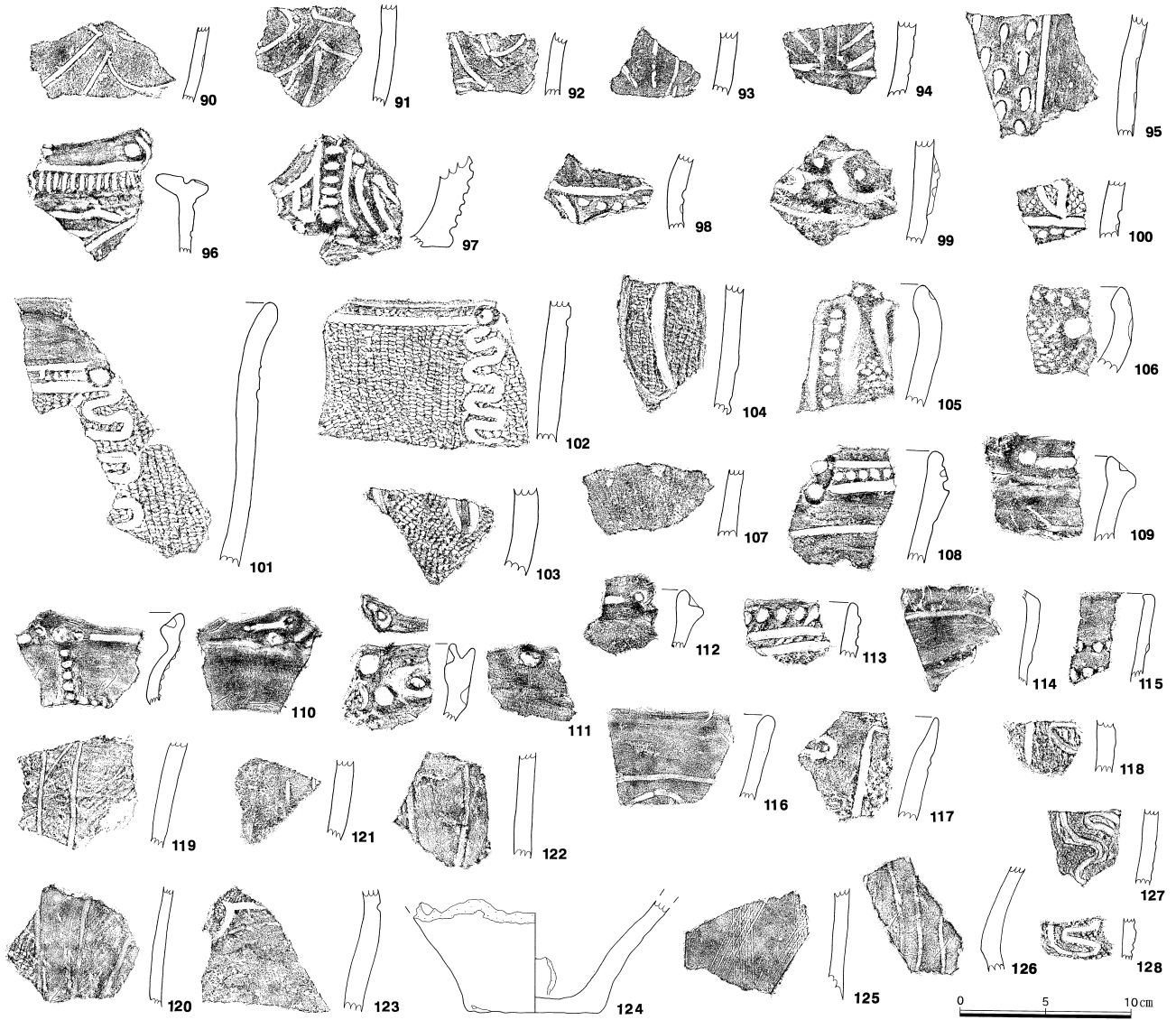
P44



第37図 浄禅寺跡遺跡第27地点土坑・ピット出土土器 (1/4)



第38図 浄禅寺跡遺跡第27地点遺構外出土土器① (1/4)



第39図 淨禪寺跡遺跡第27地点遺構外出土器② (1/4)

## 第15章 大井氏館跡遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

本遺跡の名称は『埼玉の館城跡』（1972埼玉県教育委員会）によるもので、平安時代末から鎌倉時代に活躍した武蔵七党の一つ、村山党の大井氏一族の館跡という想定による。

遺跡は砂川堀左岸(北側)の舌状に張り出した微高地上を中心に、標高21~22mに立地する。砂川堀の対岸は段丘面を形成しており、比高差5mの崖になる。

2006年12月現在20地点で調査を行い、AT降灰前の立川ローム層第Ⅵ層段階の石器群や、縄文時代前期の住居跡がみついている。また、遺跡の中央部を川越街道が南北に貫いていて、街道周辺は近世の大井宿の遺構や遺物が多数みられる。中世から近世・近代までの遺構や遺物も多数確認されていて多岐にわたる。近年では、再開発による中小の開発が増えている。

### II 大井氏館跡遺跡第19地点

#### (1) 調査の概要

調査は個人住宅の増築に伴うもので、原因者より2005年4月15日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」が旧大井町教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲

の中央部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。

試掘調査は2005年6月7日、8日に行った。幅約2mのトレンチを1本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行った結果、遺構・遺物は確認されなかったことから、慎重工事の措置をとった。地山ローム面までの深さは約70cmである。旧石器時代の確認調査は行っていない。

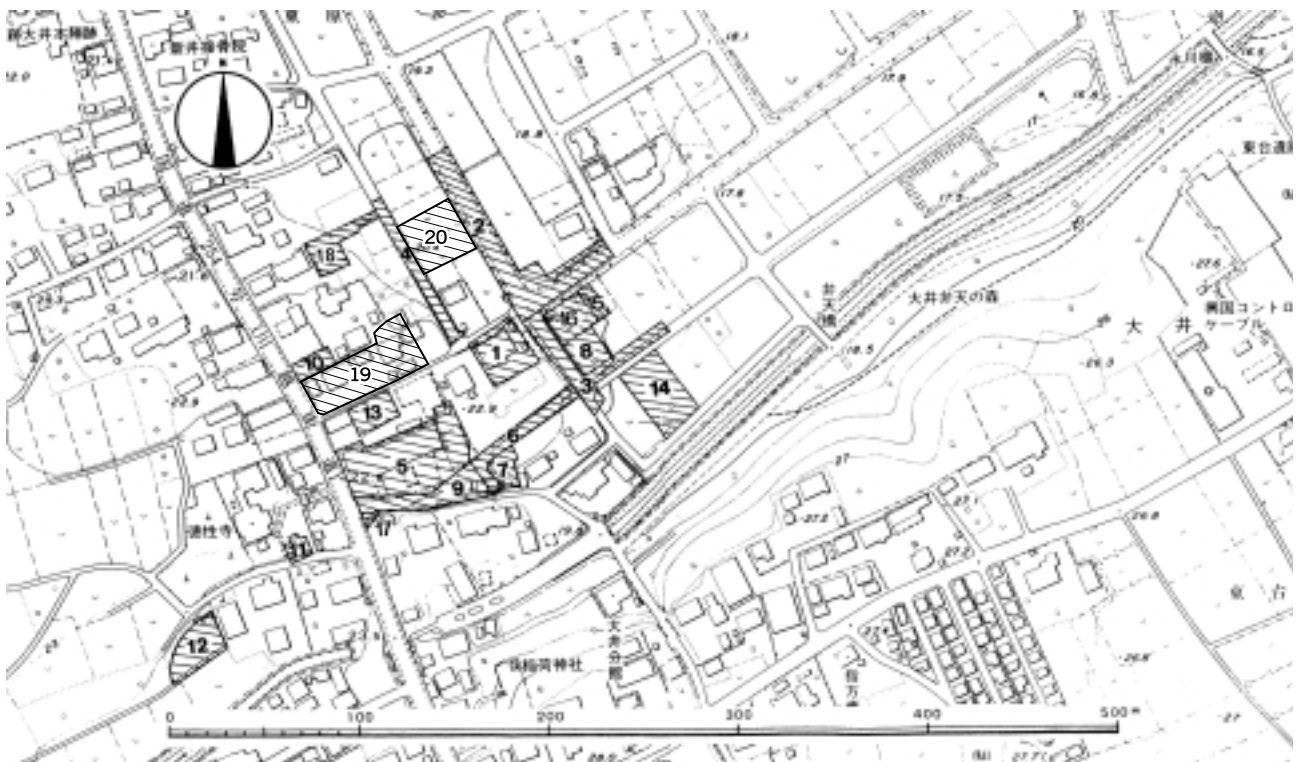
写真撮影・遺構測量等記録保存を行ったうえ埋め戻して調査を終了した。

### III 大井氏館跡遺跡第20地点

#### (1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2006年2月21日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北側に位置しているため申請者と協議の結果、遺跡の範囲と遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。

試掘調査は2006年3月2日から14日まで行った。幅約1.7~2mのトレンチを5本設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査したところ、時期不明の溝



第40図 大井氏館跡遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

とピットを検出した。遺構の時期や性格を確認するため、一部検出を行ったが、時期や性格を特定できる遺物は確認できなかった。地山ローム面までの深さは1～1.3mで全てが盛土である。旧表土層や、耕作土・遺跡包含層はほとんど確認できなかった。盛土は畑の転地返しから区画整理事業によるものと推測されるが、いつ行われたのかは不明である。確認された溝とピットは、写真撮影・遺構測量等記録保存を行ったうえ埋め戻して調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

【溝】 溝1・2・3・4は調査区外に延びるため全貌はつかめず規模も不明である。溝5と溝6は「L」字状に曲がるが他の溝は直線的に延び、立ち上がりも垂直であるため、農作物貯蔵用の所謂「イモ穴」の可能性が高い。

【ピット】 ピットはローム層を掘り込んでおり中・近世以前と以降のものに大別される。

【遺物】 1は表採の縄文式土器で、地文縄文で弧状沈線間を磨消す、加曽利EⅣ式。2は溝12出土の陶器小皿の灯明皿。削出し口台で見込み釉剥ぎに輪積痕有り、錆釉による化粧掛けで口縁部は鉄釉を施す。17世紀前半頃の志戸呂焼系か。

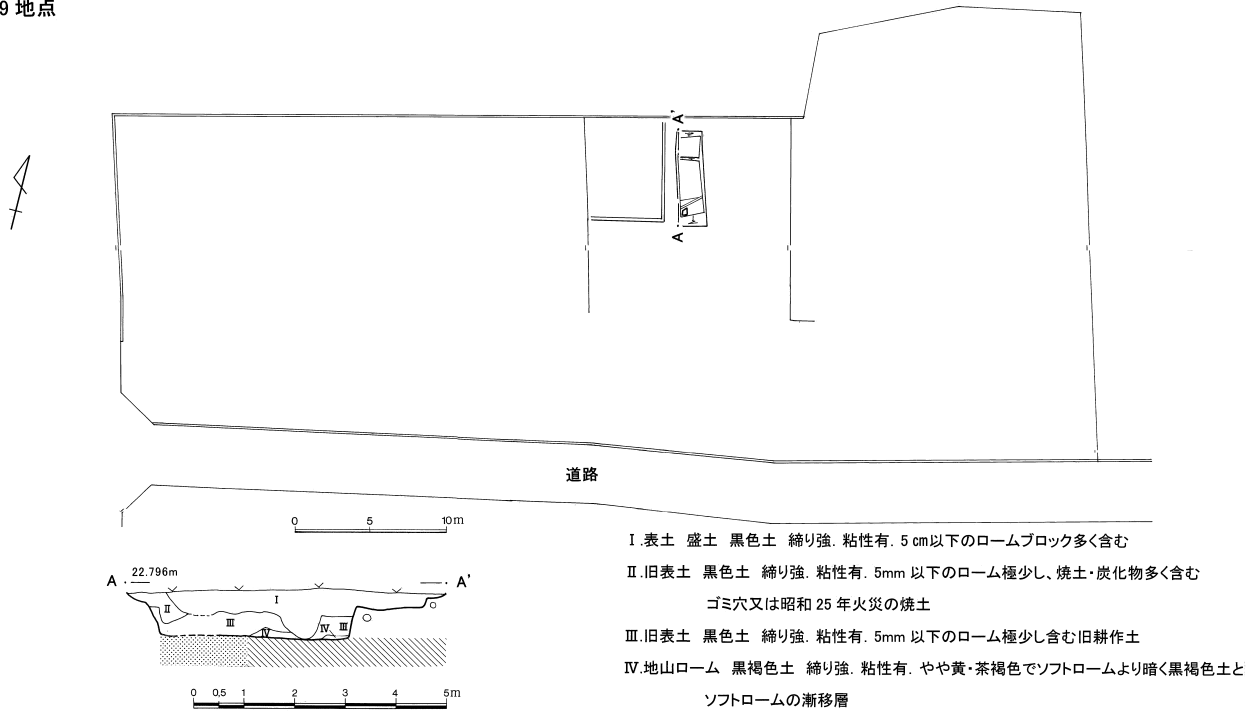
第18表 大井氏館跡遺跡第20地点ピット一覧表 (単位cm)

No	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	円形	21~26	10~12	27	縄文
2	不明	36~(26)	20~14	61.8	
3	楕円形	23~60	18~28	56.1	
4	楕円形	41~58	15~20	77	
5	円形	28~32	9~10	53.6	
6	楕円形	15~18	10~13	16.2	縄文
7	楕円形	27~37	10~10	36.2	縄文
8	楕円形	21~30	11~15	29	縄文
9	不明	29~—	20~—	12.6	縄文
10	楕円形	—~26	11~13	20.5	縄文
11	円形	25~29	10~11	20.1	縄文
12	円形	22~22	10~14	14	縄文
13	円形	24~29	10~18	25.4	縄文
14	楕円形	20~27	4~12	23.7	縄文
15	円形	20~25	6~12	40.2	
16	円形	26~29	16~20	13.2	縄文
17	楕円形	27~51	18~39	19.8	縄文
18	不整形	35~35	7~19	47.1	
19	円形	20~21	7~10	20.7	縄文
20	円形	28~32	14~15	25	縄文
21	楕円形	20~31	11~27	21.8	縄文

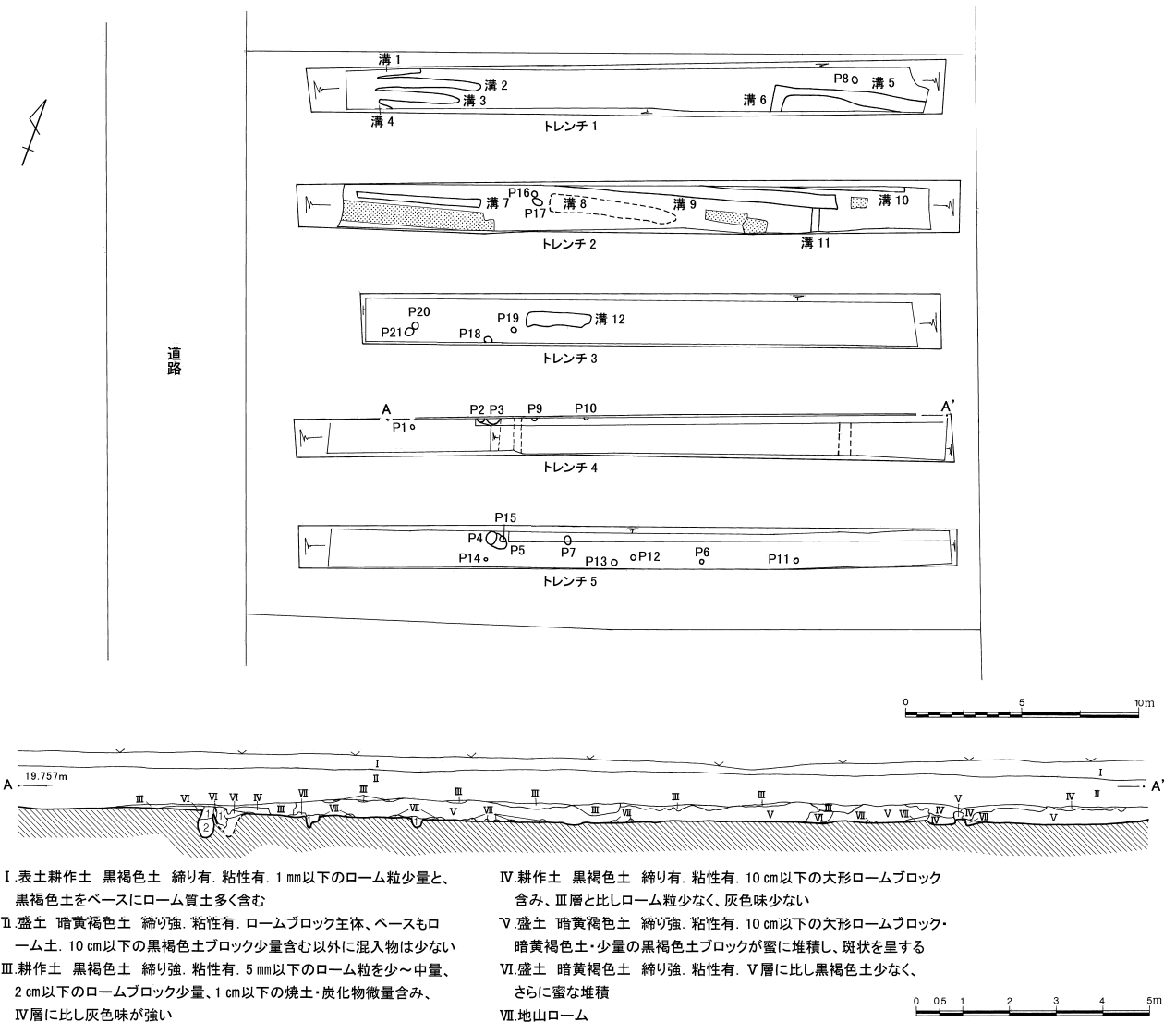
第17表 大井氏館跡遺跡第20地点溝一覧表 (単位cm)

No	断面形態	上幅	下幅	深さ	備考
1	不明	—	15	5	
2	不明	33~45	32	6	
3	不明	40~42	38	10	
4	不明	—	—	—	
5	浅いL字	44~66	29~42	5.3~15.2	
6	浅いL字	50~55	35~46	5.9~7.8	
7	L字	43~55	41~51	19.1~36	
8	不整形	50	36	5	
9	L字	54~55	47	13.2~18.8	
10	不明	—	—	8.6	
11	浅いL字	40~44	24~34	2.6~7.5	
12	浅いL字	32~61	27~50	4.8~8.7	

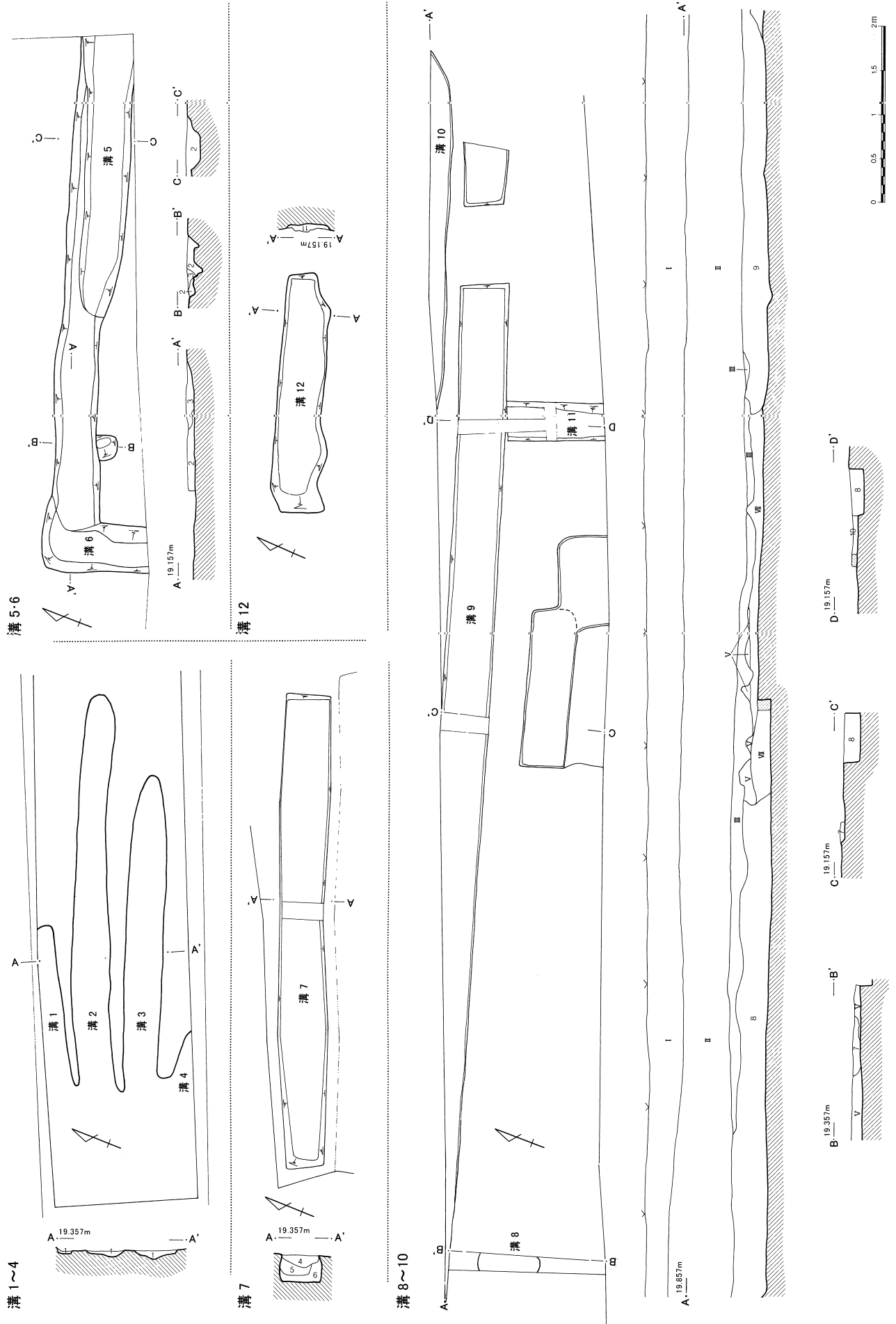
19 地点



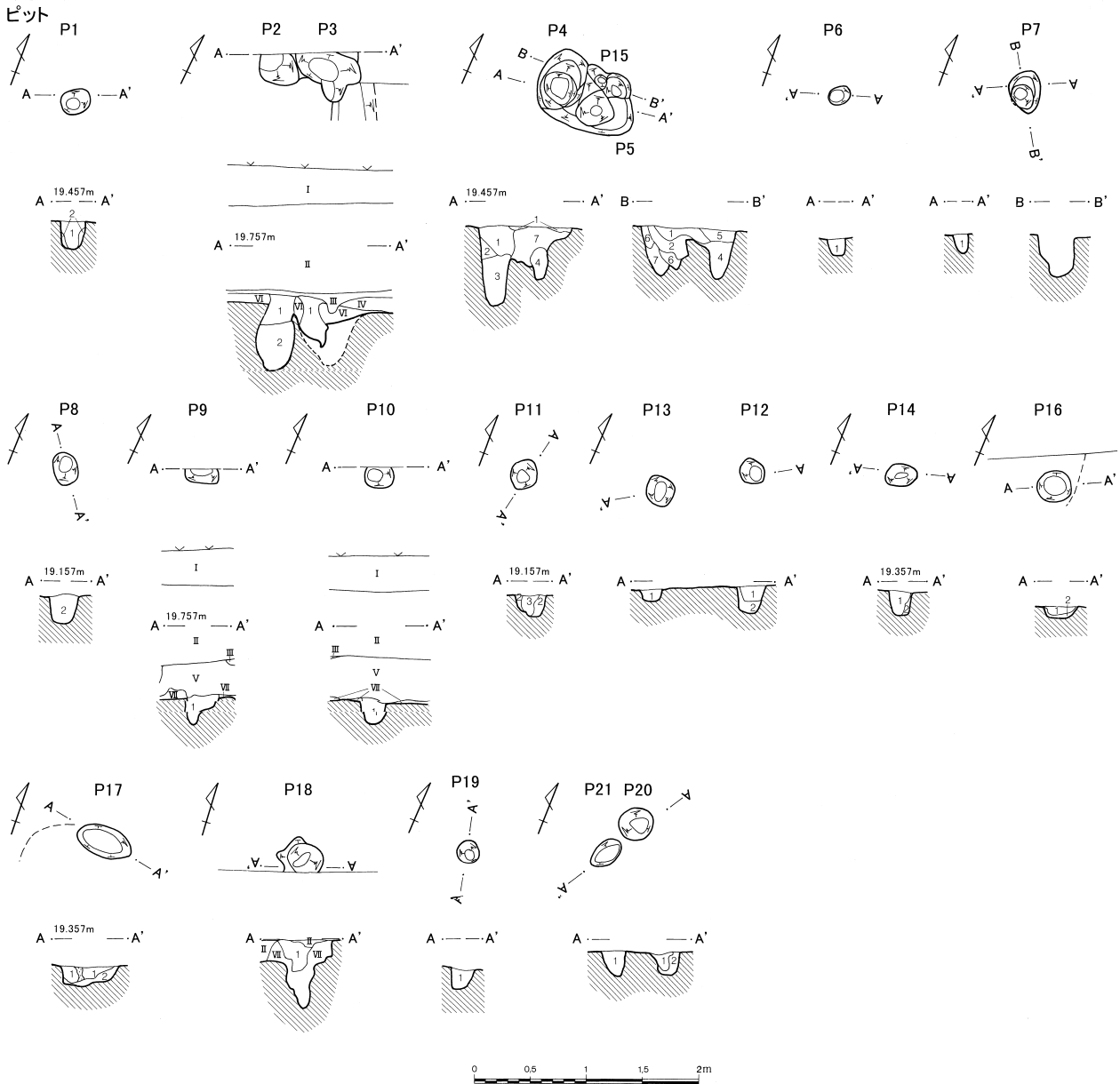
20 地点



第41図 大井氏館跡遺跡第19・20地点遺構配置図 (1/500・1/300)、土層 (1/150)



第42図 大井氏館跡遺跡第20地点溝 (1/60)



溝

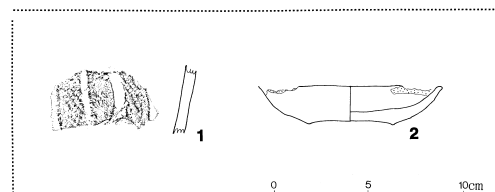
1. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 5 cm以下のロームブロック多く、5 mm大の炭化物・2 mm以下の焼土少量だが目立つ、Ⅲ層に相当
2. 黒褐色土 締り有. 粘性有. 5~20 mmのロームブロックをやや多量、5 mm以下のローム粒少量含む、Ⅳ層に相当
3. 黒褐色土 締り強. 粘性有. ロームブロックと1 mm以下の焼土を微量に、2 mm以下のローム粒少量含む、灰色味が有り、Ⅲ層に相当
4. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 3 cm以下のロームブロックやや多く、ローム粒少ない、5 mm大の焼土・炭化物少量含む、Ⅳ層に相当
5. 黒褐色土ベース 締り強. 粘性有. 5 cm以下ロームブロック・粒主体、1 cm大黒色土微量含む
6. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 15 mm以下のロームブロック少量、ローム粒を多く含む
7. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 1 cm大のロームブロック微量、5 mm以下のローム粒やや多く、5~10 mm大の炭化物少量含む、Ⅲ層に相当
8. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 8 cm以下のロームブロック少量、5 mm以下のローム粒やや多く、5~10 mm大の焼土・炭化物少量含む、灰色味が有り、Ⅲ層に相当
9. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 10 cm以下のロームブロックと5 mm以下のローム粒やや多く含む、灰色味が有るが焼土・炭化物含まず、Ⅳ層に相当
10. 黒褐色土 締り有. 粘性有. 3 cm以下のロームブロックやや多く、ローム粒少量含む、ベースは黒色味が有り、Ⅳ層に相当
11. 黒褐色土 締り有. 粘性有. 15 mm大のロームブロックやや多く含む、ローム粒少ない、Ⅳ層に相当

ピット1・6~14・16・17・19・20・21

1. 暗褐色土 締り強. 粘性有. 1 cm以下のロームブロック少量、2 mm以下のローム粒多量、1 mm以下の焼土・炭化物微量含む
2. 黄褐色土 締り強. 粘性有. ローム主体でシミ状に暗褐色土、1 mm以下の炭化物微量に含む
3. 暗黄褐色土 締り有. 粘性有. 黒色味を伴うソフトローム質

ピット2~5・15・18

1. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 1 cm以下ローム粒・ブロックやや多く、2 mm大焼土・5 mm大炭化物微量含む
2. 黒褐色土 締り有. 粘性有. 10~12 cm以下の大形ロームブロックやや多く含む
3. 黒褐色土 締り有. 粘性有. 2 cm以下のロームブロック少量含む
4. 黒褐色土 締り有. 粘性有. 1層に似るが15 mm大のロームブロックが多い
5. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 3 cm大ロームブロックをシミ状に含み混入物少ない、灰色味有り
6. 黒褐色土 締り有. 粘性やや弱. 5 mm以下のローム粒主体で、黒褐色土ベース、4層に似る
7. 黄褐色土 締り強. 粘性有. ローム主体、ブロック状に黒褐色土少量含む



第43図 大井氏館跡遺跡第20地点ピット (1/60)、出土遺物 (1/4)



### 第16章 本村遺跡の調査

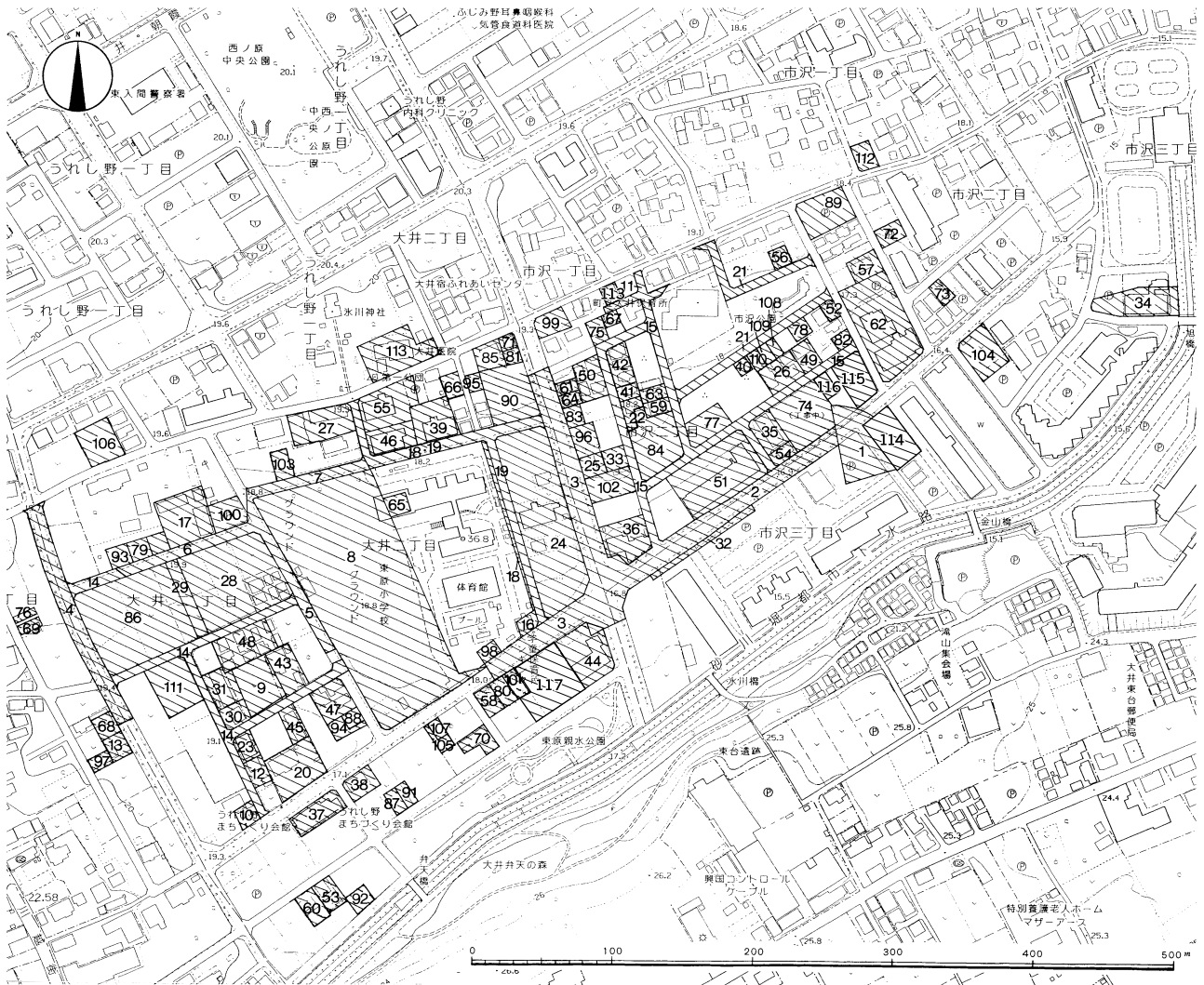
#### I 遺跡の立地と環境

本村遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約800m、砂川堀の左岸で標高15~20mに位置する。遺跡内には旧砂川の流路であった埋没河川が幾筋も認められ、それに取り残されるように微高地が存在する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武蔵野台地上を南西から北東に流れて新河岸川に合流する。

砂川堀の流域には多くの遺跡で、旧石器時代からの人々の活動の跡をみることが出来る。現在においても砂川の果たす役割は当時にも増して大きいものであるが、残念ながらその役割は大きく異なり、用水機能としての砂川から排水機能の砂川堀と言うのが現在の状況である。市内を流れる砂川堀も河川改修により、その姿を都市下水路に変え、往時を忍ばせる面影は残されていない。

周辺の遺跡では、砂川堀を挟んで縄文時代中期の大集落と奈良平安時代の製鉄関連遺跡である東台遺跡、旧石器時代の大井戸上遺跡と西台遺跡が位置する。左岸には旧石器時代~縄文時代の小田久保遺跡、旧石器時代~近世の大井氏館跡遺跡が位置する。本遺跡が中世から近世にかけての中心集落とするならば、大井氏館跡遺跡は近世川越街道整備以後の中心的な宿場および集落とみることができる。いずれにしても、町内における砂川堀流域の本村遺跡周辺は旧石器時代から現代にかけて良好な生活・住環境であったことがわかる。

2006年12月現在118地点で調査を行い、旧石器時代の礫群・石器集中、縄文時代の落し穴・炉穴、中世~近世の掘建柱建物・方形堅穴状遺構・井戸・溝・柵列・地下式壙・茶毘跡等を多数検出している。



第44図 本村遺跡の地形と調査区 (1/5,000)

## II 本村遺跡第113地点

### (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴い、原因者より2005年4月21日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」が旧大井町教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北端に位置するため、申請者と協議の結果、遺跡の範囲と遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。

試掘調査は2005年5月9日、10日に行った。幅約2mの「L」字型のトレンチを1本、幅約1mのトレンチを1本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行った。時期不明の柵列とみられるピットを検出したが、地山ローム面までの深さが120~160cmあり、建物の基礎による影響が及ばないことから、工事立会いの措置をとった。旧石器時代の確認調査は行っていない。

### (2) ピット

第19表 本村遺跡第113地点ピット一覧表 (単位cm)

No	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	方形	23×22	11×11	33.2	
2	方形	18×18	10×8	77.6	
3	方形	32×(25)	15×(13)	59.6	
	方形	22×20	11×10	46.9	
	方形	23×21	18×15	60.5	
	方形	(65)×(33)	16×16	79.5	
	方形		16×16	78.3	

## III 本村遺跡第114地点

### (1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴い、原因者より2005年10月6日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の南側に位置するため申請者と協議の結果、遺構確認の試掘調査を実施した。

試掘調査は2002年10月21日から28日まで行った。幅約2mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った結果、遺構・遺物は確認されなかったことから、慎重工事の措置をとった。旧石器時代の確認調査は行っていない。

## IV 本村遺跡第115地点

### (1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴い、原因者より2005年11月

7日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の東側に位置するため、申請者と協議の結果、遺構・遺物確認の試掘調査を実施した。

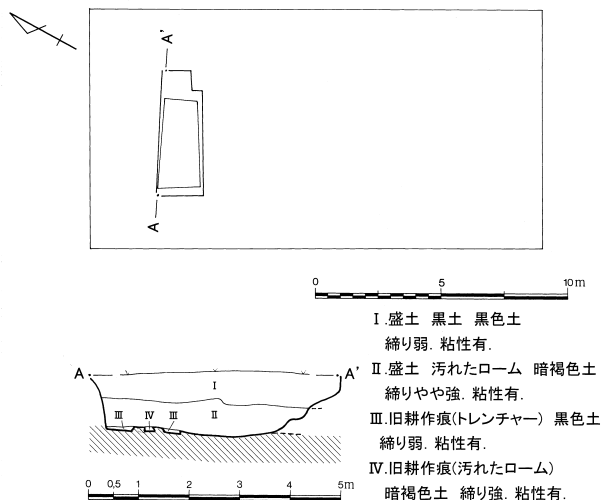
試掘調査は2005年11月21日から29日まで行った。幅約2mのトレンチ3本を設定し、重機で表土除去後、人力で表面精査した結果、遺構らしきプランを確認した。遺構の性格を確認するため一部を掘り下げたところ中・近世の遺構と遺物が確認された。原因者と再協議の結果、開発の変更ができないため、原因者負担による本調査を実施した。本調査は2005年12月19日から翌年1月31日まで、ふじみ野市教育委員会が行い、中・近世の遺構と遺物を確認した。(第II部 第3章 本村遺跡第115地点の調査参照。)

## V 本村遺跡第116地点

### (1) 調査の概要

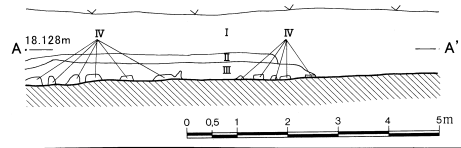
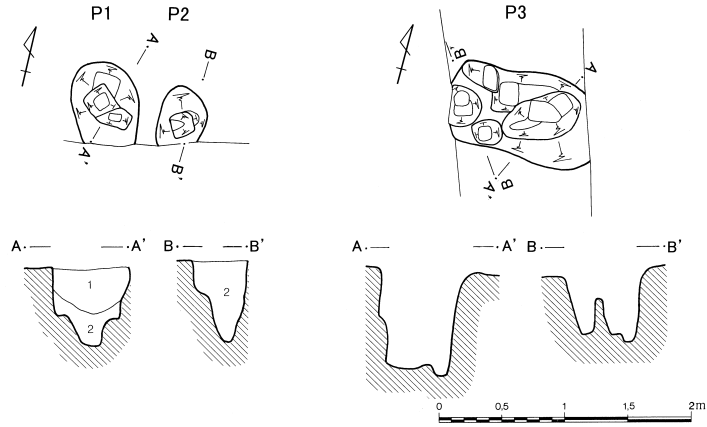
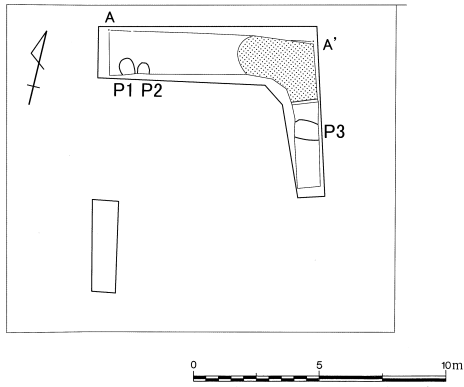
調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2005年12月26日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の東側に位置しているため申請者と協議の結果、遺構確認の試掘調査を実施した。

試掘調査は2005年1月17日に行った。幅約2mのトレンチ1本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った結果、遺構・遺物は確認されなかったことから、慎重工事の措置をとった。旧石器時代の確認調査は行っていない。



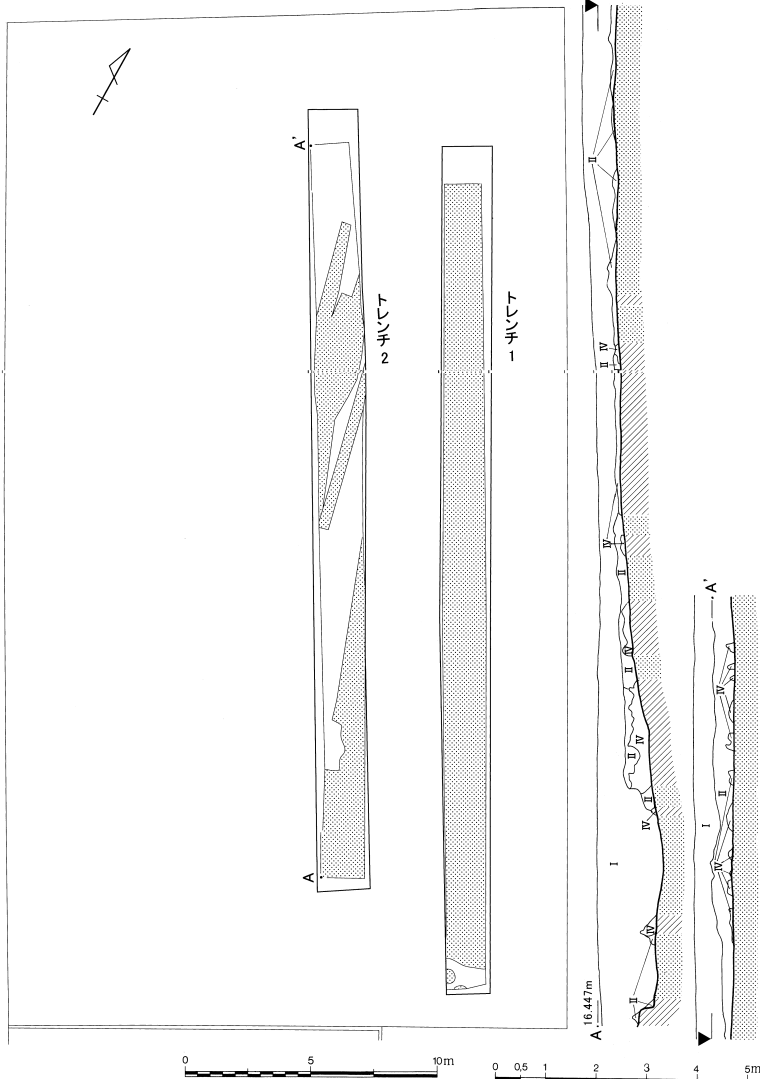
第45図 本村遺跡第116地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)

113 地点

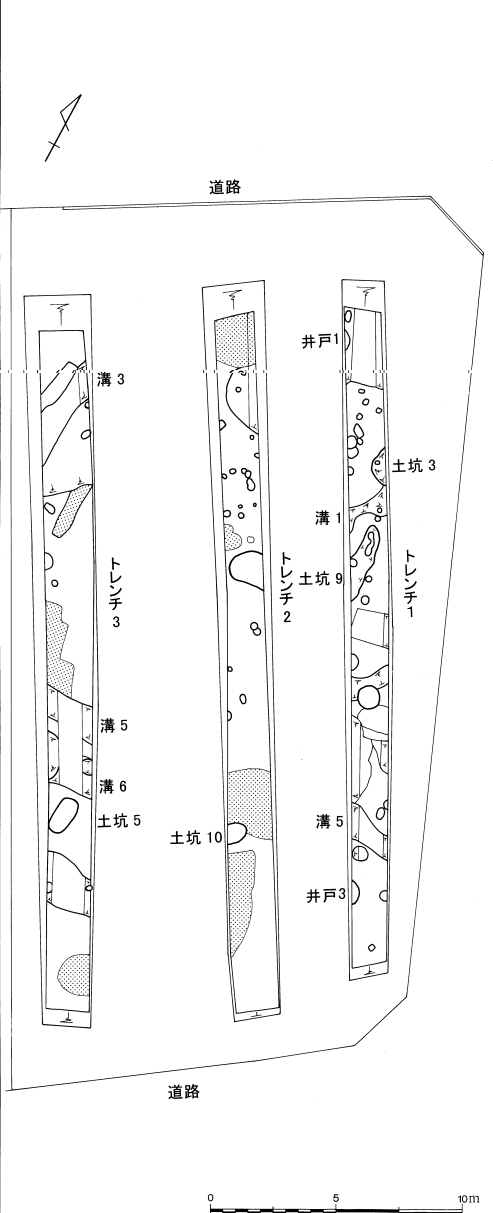


I. ローム盛土 締り強、粘性有。10 cm大のロームブロックに黒色土含む  
 II. 黒色土 締りやや弱、粘性有。2 cm以下のロームブロック・ゴミ・ガラ含む、旧表土層  
 III. 黒色土 締りやや弱、粘性有。1 cm以下のロームブロック極少し含む、旧耕作土  
 IV. 褐色土 締り強、粘性有。地山ローム、やや暗褐色を呈し、ソフト化がされている  
 ピット  
 1. 黒色土 締りやや弱、粘性有。1 cm以下ロームブロック極少し含む、焼土・炭化物含まない(中・近世)  
 2. 黒色土 締りやや弱、粘性有。2 cm以下ロームブロック多く含む、焼土・炭化物含まない(中・近世)

114 地点



115 地点



I. 表土 黄褐色土+暗褐色土 締り強、粘性有。ローム土主体の盛土、礫・ビニール・コンクリート含む  
 II. 耕作土 黒褐色土 締り有、粘性やや弱。2 cm以下のロームブロックやや多く含む、トレンチ 2 には 10 cm大のロームブロック含む  
 III. 盛土 黄褐色土 締り強、粘性有。ソフト化したロームブロックの緻密な堆積、隙間を暗褐色土が埋め、確認面より下に続き耕作痕より古い  
 IV. 地山 ローム層 ややソフト化している

第46図 本村遺跡第113・114・115地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)、ピット (1/60)

### Ⅵ 本村遺跡第117地点

#### (1) 調査の概要

調査は店舗建設に伴い、原因者より2006年3月3日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置するため申請者と協議の結果、遺跡の範囲と遺構確認の試掘調査を実施した。

試掘調査は2006年3月22日～28日、4月5日～14日

に行った。表土層を入れ替えるため、申請者が表土の全面を除去後、人力による表面精査を行った。その結果、溝、土坑、柵裂などのプランを確認した。遺構の深さなどを確認するため一部を検出した。地山ローム面までの深さが1 m以上あり、店舗建物の基礎の深さは約70cmであることから、30cmの保護層が確保され遺跡への影響が及ばないため工事立会いの措置をとった。旧石器時代の確認調査は行っていない。



- I. 黒褐色土 締り強、粘性弱。表土盛り土、ロームブロック多く含む
- II. 黒褐色土 締り強、粘性有。表土盛り土、I層に比べロームブロック少ない炭化物・焼土少し含む
- III. 黒褐色土 締り強、粘性有。I層に比べ1mm以下ローム粒多く、5mm大ロームブロック少し含む

第47図 本村遺跡第117地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)

### 第17章 西台遺跡の調査

#### I 遺跡の立地と環境

西台遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約1.5km、砂川堀の右岸で標高26~30mの台地上に位置する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武蔵野台地上を南西から北東に流れて新河岸川に合流する。東台遺跡同様砂川堀との比高差は約7~8mで急崖をなし、左岸は緩やかな傾斜を成す。遺跡の範囲は東西340m、南北110m、遺跡面積約50,000㎡である。

周辺の遺跡は、砂川堀の対岸に縄文時代の遺跡である小田久保遺跡、同一崖線上の下流へ向かって大井戸上遺跡、東台遺跡と続く。

本遺跡は1992年の初調査以来、2006年12月現在6地点で試掘調査が行われた。1994年に行った第2地点の試掘調査では旧石器時代の礫群と石器群を広範囲に確認した。また、第3地点では木炭窯を検出し、東台遺跡との関連が注目される。

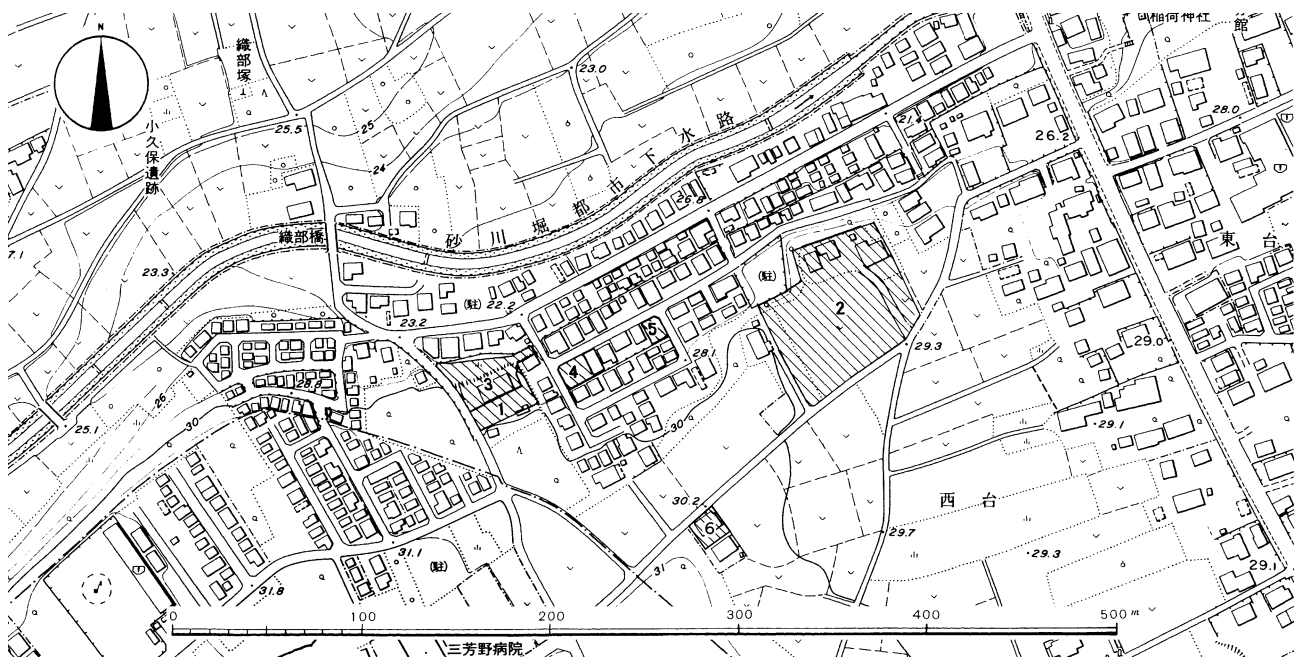
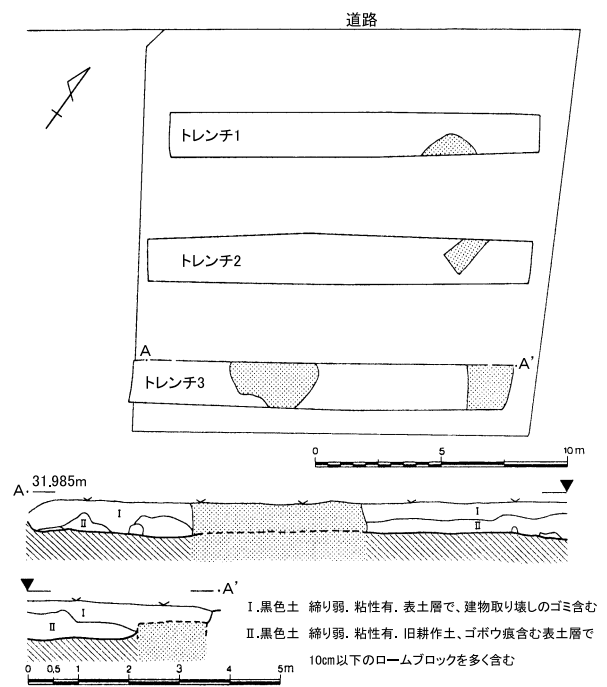
#### II 西台遺跡第6地点

##### (1) 調査の概要

調査は建売住宅建設に伴うもので、原因者より2005年4月18日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」が旧大井町教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南側

台地上に位置するため、申請者と協議の結果、遺跡の範囲と遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。

試掘調査は2005年6月24日から28日まで行った。幅約1.7mのトレンチを3本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行った結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山ローム面までの深さは約60cmを測る。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻して調査を終了した。



第48図 西台遺跡の地形と調査区 (1/4,000)、第6地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)

## 第18章 東台遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

東台遺跡は東武東上線ふじみの駅の南約1km、砂川堀右岸の台地上に位置する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武蔵野台地上を南西から北東に流れて新河岸川に合流する。標高は24~26mで砂川堀との比高差は約5mで急崖をなし、左岸が緩やかな傾斜を成すのとは対照的である。

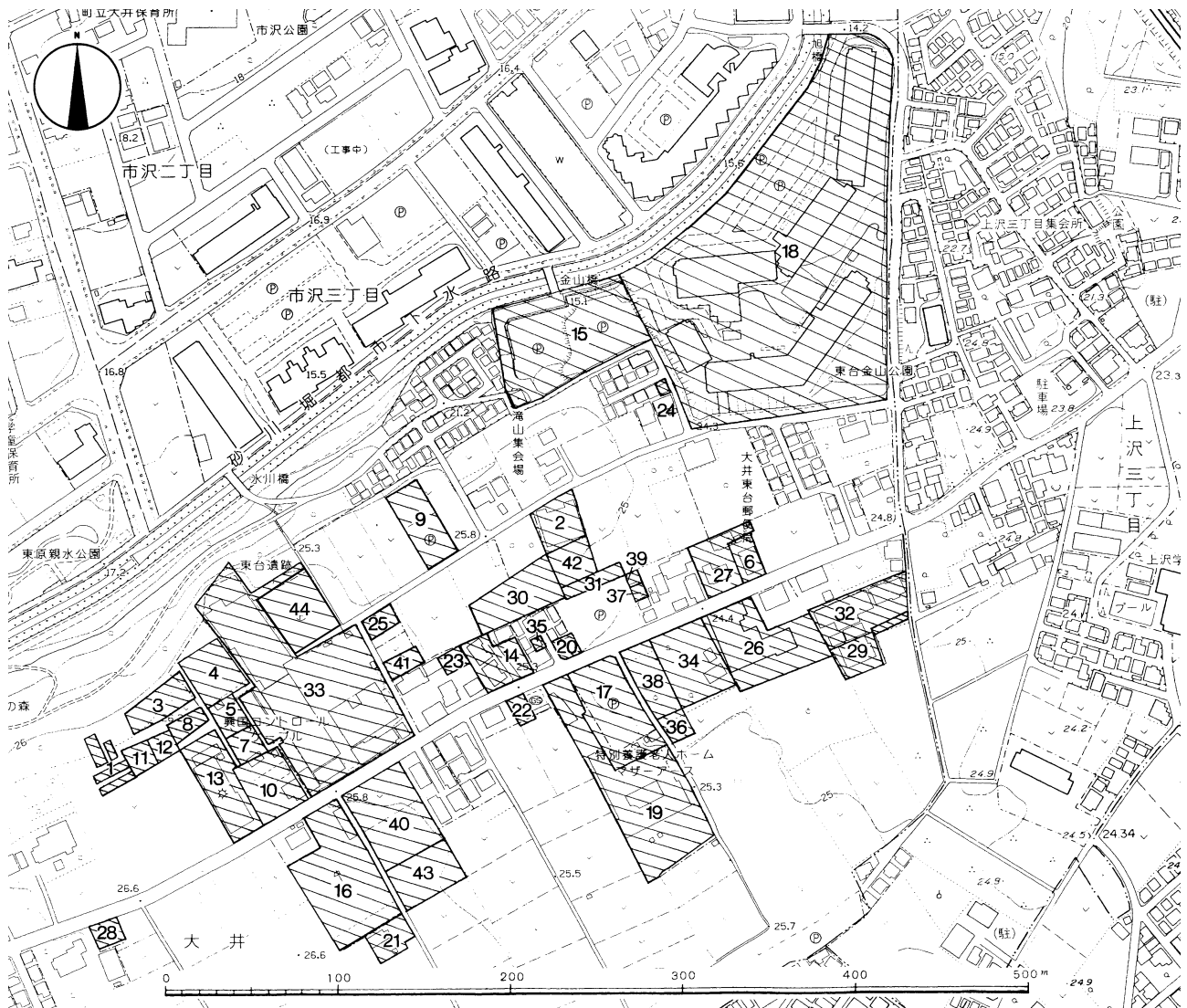
遺跡内には砂川堀に向かって小さな埋没谷が数本確認されている。遺跡の範囲は東西700m、南北250m、遺跡面積約170,000㎡、市内で最大規模の遺跡であり、約17%の30,000㎡を調査している。

旧石器時代の調査では、第18地点の調査で埋没谷に沿った崖沿いにⅥ・Ⅶ層~Ⅳ層下部のナイフ型石器を伴う礫群等が分布する。

縄文時代の調査では早期1軒、後期6軒、中期141軒、不明9軒の住居跡等多数の遺構と遺物が確認されている(2006年12月現在)。特に中期の住居跡は双環状に配置しており武蔵野台地縁辺部における拠点集落の一つである。

奈良・平安時代には遺跡の北東部の第15・18地点で八世紀後半の製鉄炉や炭焼き窯など、県内でも有数の規模と古さを誇る製鉄関連遺跡を検出している。

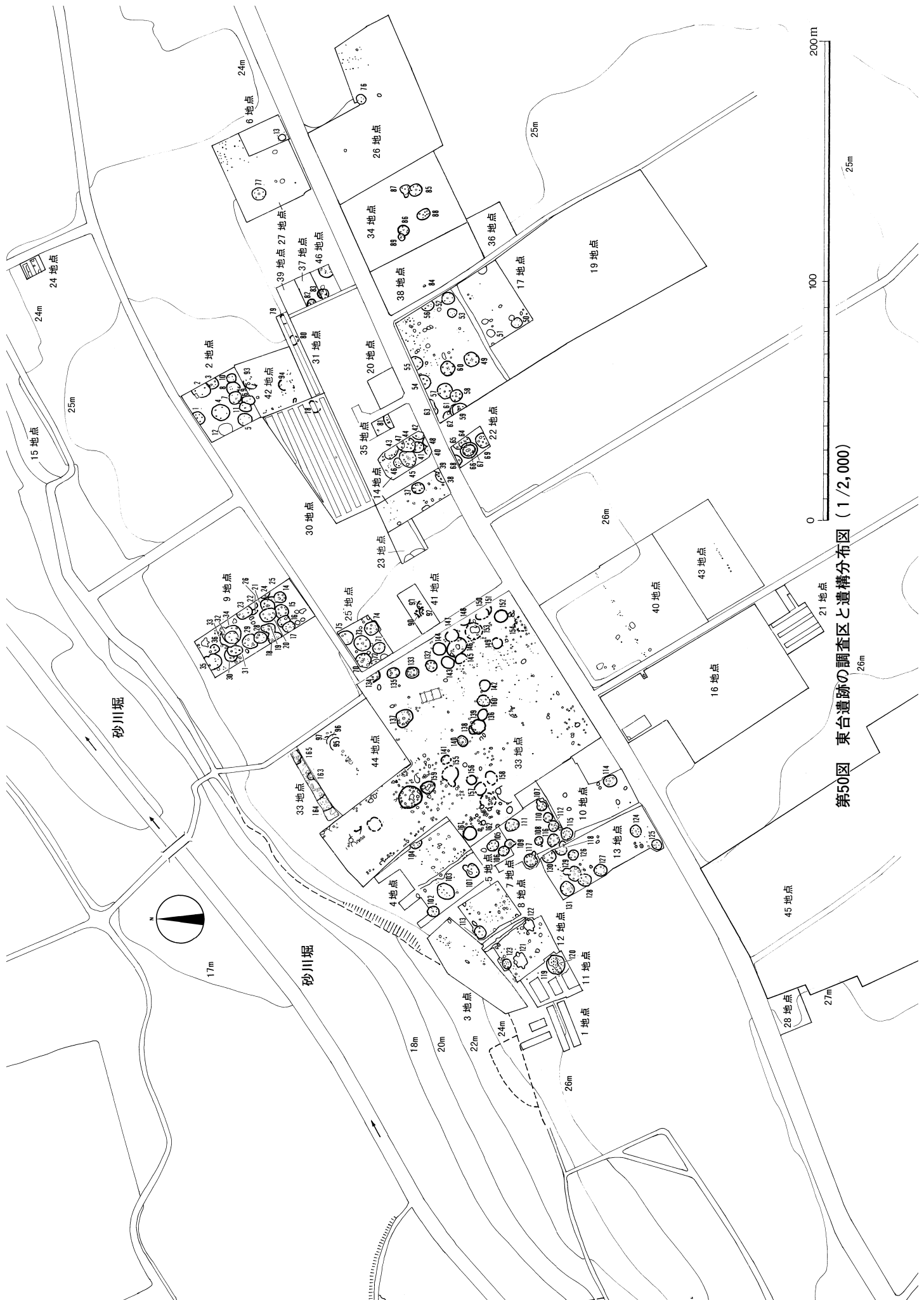
周辺の遺跡は、砂川堀右岸の西約50mに大井戸上遺跡、西約300mに旧石器時代の西台遺跡が位置する。また砂川堀を挟んだ左岸に旧石器時代~近世の本村遺跡が位置する。今後旧石器時代では西台遺跡・本村遺跡との関係が、奈良・平安時代から中世にかけては本村遺跡との関係が注目される。



第49図 東台遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第20表 東台遺跡調査一覧表

地点	調査年	面積(m <sup>2</sup> )	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	1981		町史編纂事業	遺構無し、縄文中期土器	
2	1981、1882	667	宅地造成	縄文中期住居12、旧石器時代石器	東部遺跡群Ⅲ
3	1982	666	宅地造成	炉穴7、土坑2、柱穴群	東部遺跡群Ⅳ
4	1982	587	農地転用	縄文中期住居3、後期住居1、旧石器ユニット、集石4、土坑14、溝	東部遺跡群Ⅳ
5	1983	195	町史編纂事業	縄文中期住居2、土坑1	東台遺跡
6	1984		宅地造成	縄文中期住居1	
7	1984		共同住宅	縄文中期住居4、後期住居1	
8	1984	345	町史編纂事業	縄文中期住居1、炉穴2、土坑14	東台遺跡Ⅱ
9	1984、1985	1,000	駐車場造成	縄文中期住居22、後期住居1、炉穴、ピット群、旧石器礫群	大井町史資料Ⅰ
10	1985	896	住宅建設	縄文中期住居5、土坑5	東部遺跡群Ⅵ
11	1986	660	宅地造成	縄文中期住居2、集石土坑3、土坑1、ピット	東部遺跡群Ⅵ
12	1987	330	転地返し	縄文早期住居1、土坑18、平安時代住居2、溝1	東部遺跡群Ⅶ
13	1988	971	倉庫建設	縄文中期住居9、集石1、土坑9、ピット20	東部遺跡群Ⅷ
14	1988	735	住宅建設	縄文中期住居12、屋外埋甕1、集石土坑1、土坑8、ピット38	東部遺跡群Ⅸ
15	1989、1990	700	住宅建設	落し穴1、木炭窯1、粘土採掘坑2、奈良・平安土器	東部遺跡群Ⅹ
16	1990	3,048	資材置場設置	縄文中期住居1、土坑1	東部遺跡群Ⅺ
17	1990	1,470	診療所建設	縄文中期住居8、土坑30、ピット94、柵列	東部遺跡群Ⅺ
18	1991～1994	20,000	共同住宅	旧石器礫群、石器集中17、落し穴1、竪形製鉄炉7、木炭窯9、採掘坑4、土坑9、溝、柵列、道路跡、平安土器	東台製鉄遺跡
19	1992	4,489	特養新設	縄文中期住居8	町内遺跡群Ⅰ
20	1992	5	個人住宅	縄文中期住居1	町内遺跡群Ⅲ
21	1992	299	個人住宅	遺構無し、縄文土器片	町内遺跡群Ⅲ
22	1994	146	店舗建設	縄文中期住居6、土坑1	調査会報告13集
23	1995	285	個人住宅	縄文中期住居2	町内遺跡群Ⅳ
24	1995	58	個人住宅	縄文時代集石、土坑	町内遺跡群Ⅳ
25	1995	296	個人住宅	縄文中期住居5、後期住居1、袋状土坑1、土坑10、ピット6	町内遺跡群Ⅳ
26	1996、1997	2,248	共同住宅	縄文中期住居1、土坑3、落し穴1、ピット24	調査会報告13集
27	1997	965	個人住宅	縄文中期住居1、炉穴1、土坑1、落し穴1、ピット44	町内遺跡群Ⅵ
28	1997	231	個人住宅	遺構無し、縄文土器片	町内遺跡群Ⅵ
29	1998	500	個人住宅	縄文早期炉穴9、ピット2	町内遺跡群Ⅶ
30	1998	1,330	駐車場	縄文中期住居1、屋外炉、ピット	町内遺跡群Ⅷ
31	1999	186	道路築造	縄文中期住居2	町内遺跡群Ⅸ
32	2000	92	製茶工場	ピット3	町内遺跡群Ⅹ
33	2000、2001	7,076	分譲住宅	石器群4、礫群4、縄文中期住居30、後期住居4、掘立柱建物跡1、炉穴14、集石土坑4、他	町内遺跡群Ⅹ
34	2002	1,414	共同住宅	縄文中期住居5、土坑11、ピット16	町内遺跡群Ⅺ
35	2001	48	個人住宅	縄文中期住居1	町内遺跡群Ⅺ
36	2001	272	倉庫建設	ピット5、土器片	町内遺跡群Ⅺ
37	2001	100	個人住宅	縄文中期住居2、ピット1	町内遺跡群Ⅺ
38	2002	787	駐車場	縄文中期住居1、竪穴状遺構1、集石土坑2、土坑2、ピット2	町内遺跡群Ⅺ
39	2002	100	個人住宅	ピット3、縄文土器片、石屑	町内遺跡群Ⅻ
40	2003	1,875	幼稚園	土坑6、ピット10、柵列	町内遺跡群Ⅻ
41	2004	182	個人住宅	縄文中期住居3、集石1、土坑1、屋外ピット1	町内遺跡群Ⅻ
42	2004	515	教会建築	縄文中期住居2、落し穴1、土坑3、ピット20	町内遺跡群Ⅻ
43	2005	964	駐車場	ピット4	町内遺跡群Ⅻ
44	2005	200	個人住宅	縄文中期住居1、後期住居2、土坑5、ピット9	市内遺跡群2
45	2006	17,391	小学校	旧石器石器集中、縄文中期住居、土坑等	刊行予定
46	2006	100	建売住宅	縄文中期住居2、土坑1	刊行予定



第50図 東台遺跡の調査区と遺構分布図 (1/2,000)



II 東台遺跡第44地点

(1) 調査の概要

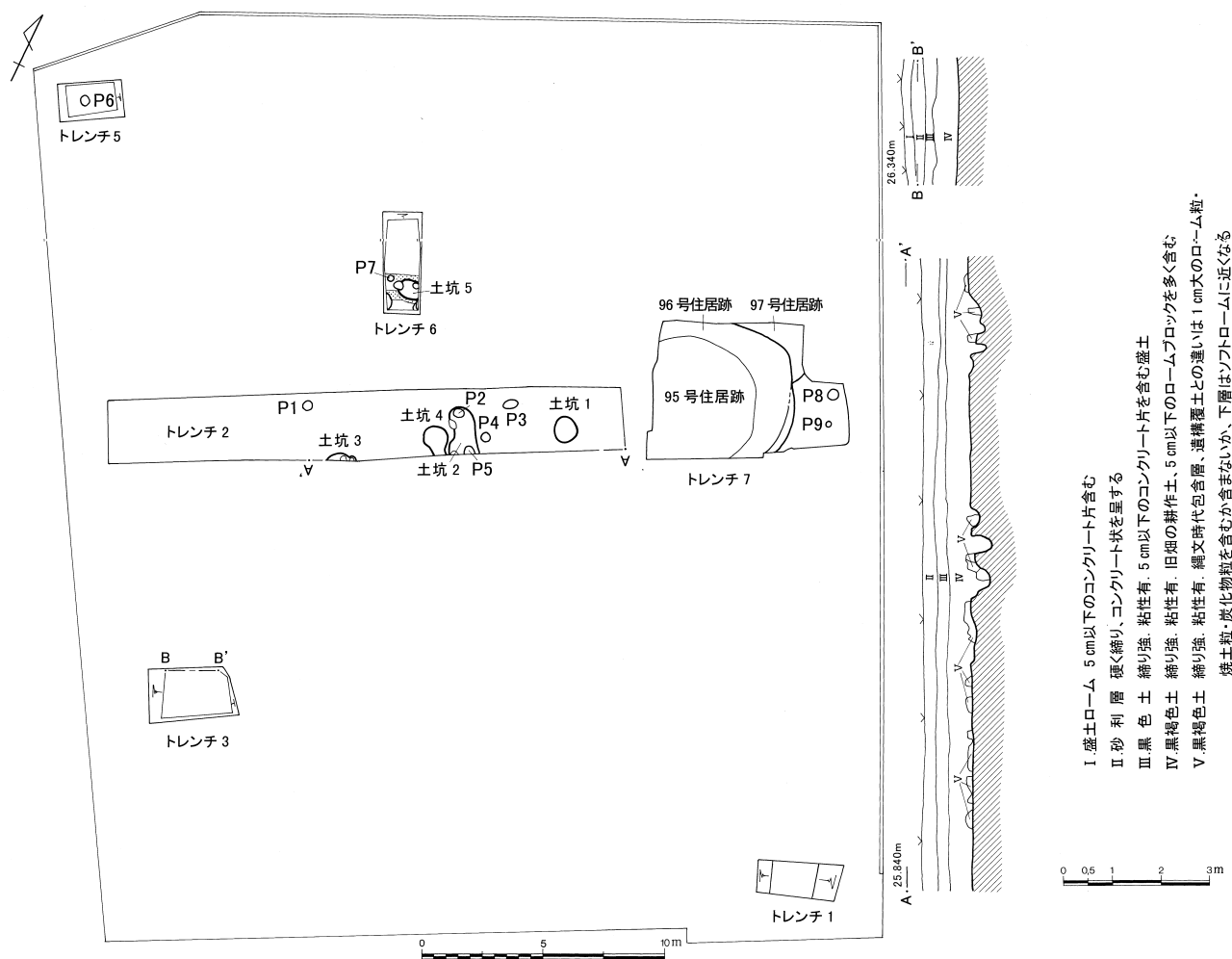
調査は6軒の個人住宅建設に伴うもので、各原因者より2005年12月8日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。各建物の基礎の深さは約50cmであるが、浄化槽設置部分については現地表面より約2mの深さである。申請地は遺跡の中央に位置し、隣地では縄文時代の住居跡を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構・遺物と包含層・地山ローム層までの深さを確認する、試掘調査を実施した。試掘調査は2005年12月8日から28日まで行った。当初は調査区全体にトレンチを設定する予定であったが、現地は以前に駐車場として利用されていたため、表土層が硬く締まっていた、周辺の住民より掘削の際に振動による苦情が寄せられた。そのため、申請地の北側半分の道路築造予定地と、浄化槽設置予定地にトレンチを設定した。

重機でトレンチの表土を除去し、人力による表面精査を行った結果、トレンチ7で住居跡とみられるプランを確認した。また、トレンチ2・5・6で縄文時代とみられる土坑とピットを確認した。申請者と協議を行い、遺構確認面までの深さは現地表面から約80~100cmで建物の基礎による影響が及ばないことから、工事立会いの措置をとった。ただし、トレンチ7の住居跡にかかる浄化槽予定地については、遺構に影響のない東側に移動することとした。また、調査区南側3軒の住宅の浄化槽設置部分については、工事立会いとした。旧石器時代の確認調査は行っていない。

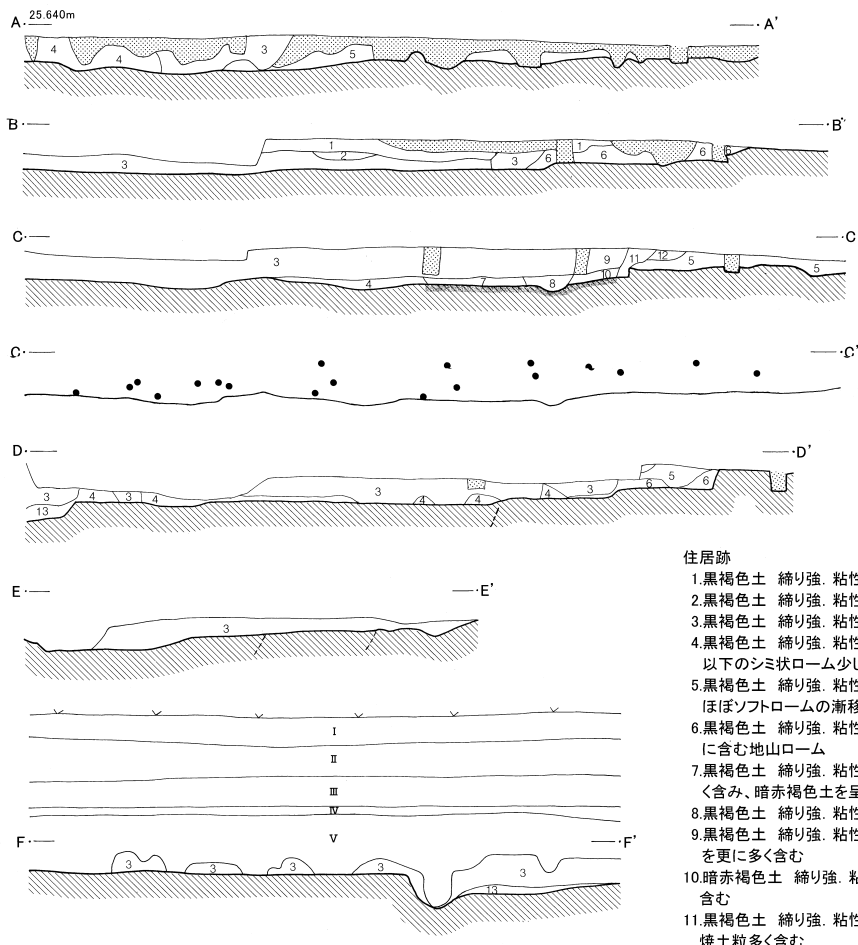
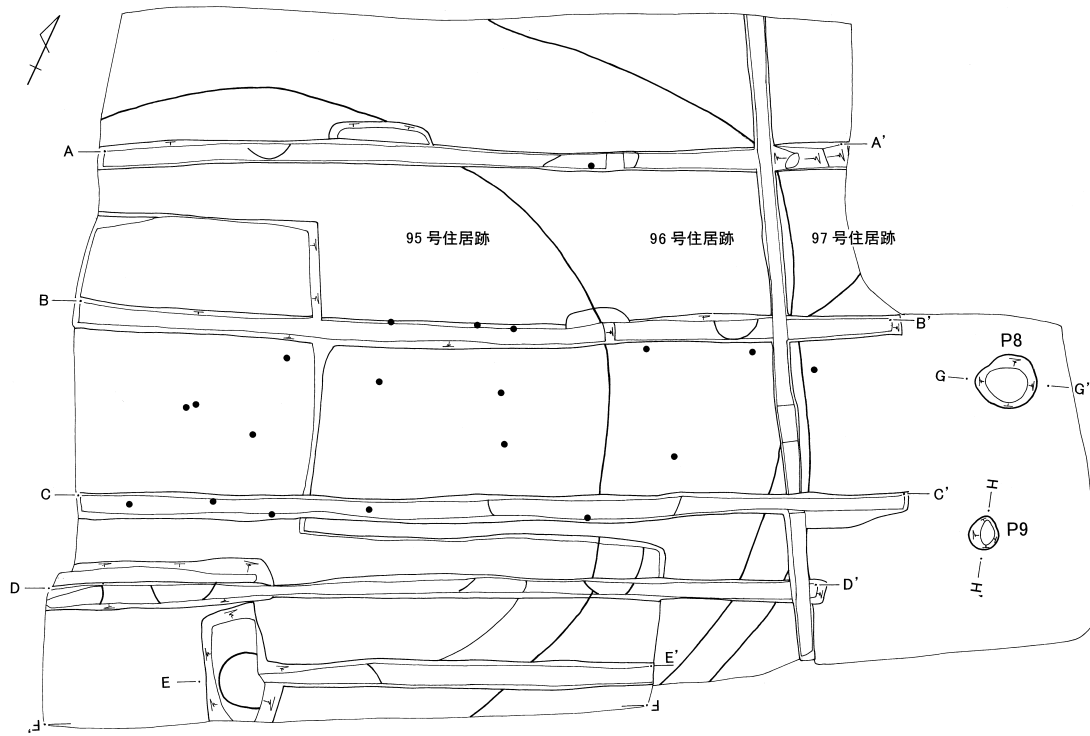
写真撮影・遺構測量等記録保存を行ったうえ埋戻しして調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

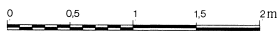
トレンチ7で複数の住居跡のプランを確認した。農作物の耕作痕部分を掘り下げて住居跡の深さを確認したが、住居跡の全貌は不明である。



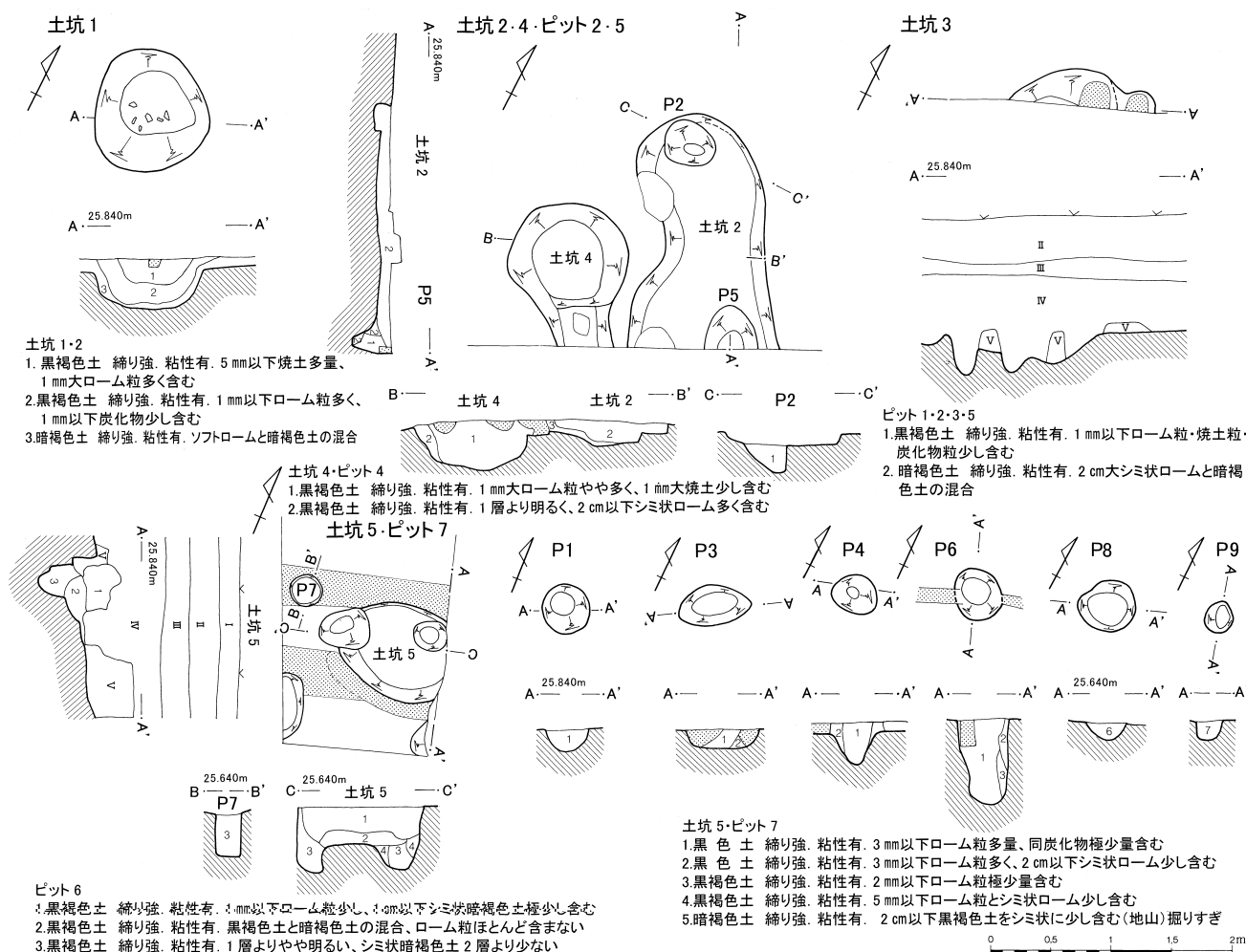
第51図 東台遺跡第44地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)



- 住居跡
1. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 1 mm以下のローム・焼土粒多く含む
  2. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 1 mm以下のローム・焼土粒少量含む
  3. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 1 mm以下のローム・焼土粒多量に含む
  4. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 1 mm以下のローム・焼土粒少量、2 cm以下のシミ状ローム少し含む、貼床
  5. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 2 cm以下のシミ状ロームを少量含む、ほぼソフトロームの漸移層に似る
  6. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 5層より明るく、黒褐色土と暗褐色土を斑状に含む地山ローム
  7. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 3 mm以下の焼土粒、全体にシミ状焼土を多く含む、暗赤褐色土を呈する
  8. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 7層より暗く、シミ状焼土少ない
  9. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 1~3層に類似するが、1 mm以下の焼土粒を更に多く含む
  10. 暗赤褐色土 締り強. 粘性有. 焼土層ベースに2 mm以下の焼土粒多く含む
  11. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 5層に類似するが、やや5層より1 mm大の焼土粒多く含む
  12. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 5層に類似するが、11層より焼土粒少ない
  13. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 3層より2 mm以下のローム粒を多く含む
- ピット 8・9
6. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 2 cm以下シミ状ローム多く、1 mm大ローム粒・炭化物少し含む
  7. 暗褐色土 締り強. 粘性有. ソフトロームに似、ローム粒含まない



第52図 東台遺跡第95・96・97号住居跡遺物出土状況 (1/60)



第53図 東台遺跡第44地点土坑・ピット (1/60)

トレンチ7で確認した3軒の住居跡は、東台遺跡の縄文集落内では双環状部分の中央部北寄りにあたる。

① 95号住居

トレンチ7内の最も西側に位置し、最も深い住居跡である。平面形は円形または隅丸楕円形とみられる。覆土層には遺物が多数確認でき、トレンチの南西隅で柱穴痕も確認した。

② 96号住居跡

95号住居跡の北から東側に円形状に広がる。95号住居跡より床面までの掘り込みは浅く、遺物も少ない。詳細は不明である。

③ 97号住居跡

95・96号住居跡の北側に広がる。最も掘り込みが浅く、平面形も不明である。95号住居跡より床面までの掘り込みは浅く、遺物も少ない。詳細は不明である。

④ 土坑とピット

土坑は5基、ピットは10基検出した。覆土層の観察から縄文時代とみられる。

第21表 東台遺跡第44地点土坑一覧表 (単位cm)

No	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	円形	102×95	64×52	36.2	2トレ
2	不整形	195×110	190×102	14.7	2トレ
3	不明	93×—	40×—	21.3	2トレ
4	不整形	(120)×100	65×58	36.4	2トレ
5	楕円形	78×—	65×—	36.2	6トレ

第22表 東台遺跡第44地点ピット一覧表 (単位cm)

No	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	円形	42~40	21~19	19.4	2トレ
2	楕円形	42~35	18~8	28.8	2トレ
3	楕円形	62~32	39~18	16.9	2トレ
4	円形	38~31	10~8	30.4	2トレ
5	不明	42~ (36)	20~ (15)	27.6	2トレ
6	円形	45~38	25~21	67.3	5トレ
7	円形	36~25	24~23	35.6	6トレ
8	楕円形	48~42	33~27	13.8	7トレ
9	楕円形	27~24	19~11	15.4	7トレ

⑤95・96・97号住居跡覆土上層出土遺物（第54・55図1～116）

1は隆帯ぞいに複列の角押文をもち胎土に金雲母を含む。2は太い隆帯側面に交互刺突の刻目を入れる。3は太い隆帯上にC字状の押引文を入れる。4は地文縄文の上に沈線を入れ、押引手法の刺突文を配する。5は隆帯と沈線の区画内に撚糸文を施す、6は地文撚糸文で蛇行懸垂文をもつ胴部片で、側面に調整があり土錘または土製円形の可能性もある。7は地文撚糸文で口縁下に3本の沈線をめぐらす。8は地文撚糸文の深鉢底部である。9は沈線のみ口縁部片である。10～12は地文縄文の深鉢で頸部に蛇行する隆帯をもつ。13・14は地文縄文に隆帯の懸垂文をもつ。16・23・24は地文縄文、18は2列の列点文をもつ口縁部で、21は地文縄文に沈線の懸垂文をもつ。19・20・22は幅広の磨消懸垂文をもつ類である。25と26は同一個体で、無文口縁部の沈線に地文縄文を施すのみである。27は地文縄文と弧状の広い磨消をもち、28～34は地文条線の深鉢片である。

1は阿玉台Ⅱ式、2～4は勝坂Ⅱ式、5と6は加曽利EⅠ式。7～34は加曽利EⅡ～EⅢ式で、8～11はこの併行期の曾利系土器である。

35・36は同一個体の口縁部で沈線間に列点文を、37は沈線でZ状文を施す。38～50は、地文の細縄文をJ字状に磨消して、磨消部に刺突を加える類で、称名寺2式である。51は沈線のみでJ字文を作る口縁部。52は幅広の磨消しをもつ。53～62は薄手で、細刺突文列や渦巻文をもち57～60の内面は磨き調整が著しく、称名寺式～堀ノ内式。

63は斜位の太い刻目を入れた隆帯で区画文をつくり、中に三角押文列を入れる勝坂Ⅱ式である。64は隆帯で区画をつくる加曽利EⅠ式か。65は無文口縁筒形深鉢の口縁、66は地文縄文で口縁下に2本の沈線をめぐらす。

67～71は縄文を地文とする類で、沈線か微隆帯をもつ。72・73は沈線文と磨消部分の破片である。74～76は細縄文を地文に沈線間磨消を伴う類で、厚さ4mm以下と薄手である。77～81は沈線を基調とする。82と83は隆帯上を刺突する類で、82は8字状隆帯である。84は口縁下に刻目微隆帯をもち、85の波状口縁深鉢や86

と同巧である。86は地文縄文に円形刺突・沈線文を施す。87・88・90～94は沈線文を施す。95～97は細縄文を地文とし、横長帯状文様を沈線につくる。96の横位沈線に段差をつくる。98～102は無文口縁、103～106は粗製土器の無文部である。107～109は底部片である。110は浅鉢の口縁波頭部。111は耳栓の半欠品、112は胴無文部利用の土錘であろうか。胎土に金雲母を多く含むことから阿玉台期のものである。113は土製円盤とみられる。114・115は細粒砂岩製の打製石斧で欠損する。重さは114が34.32g、115が137.53gである。116は黒曜石の石鏃で先端部と脚部の一部を欠損する。重さ1.55gである。

⑥土坑出土土器（第56図1～27）

1～6は土坑1出土で、1の小波頭頂には円形刺突文があり、弧状沈線間を円形刺突文で埋める。2は沈線でJ字状文をつくり、内部刺突を加える。3と4は同類で称名寺式末葉のもの。5は条線のみ、6は薄手で縄文を地文とし弧状沈線を加える後期初頭とみられる。

7～14は土坑2出土で、7は無文胴部片。8は隆帯で円形区画を作り、連続爪形文を加える。9は波状沈線を入れ胎土に雲母をもつ。10は区画文をもつ口縁文様帯の破片で地文は縄文。11はLR縄文、12は地文縄文と幅広い磨消し、13・14は沈線文に磨消しを施す。

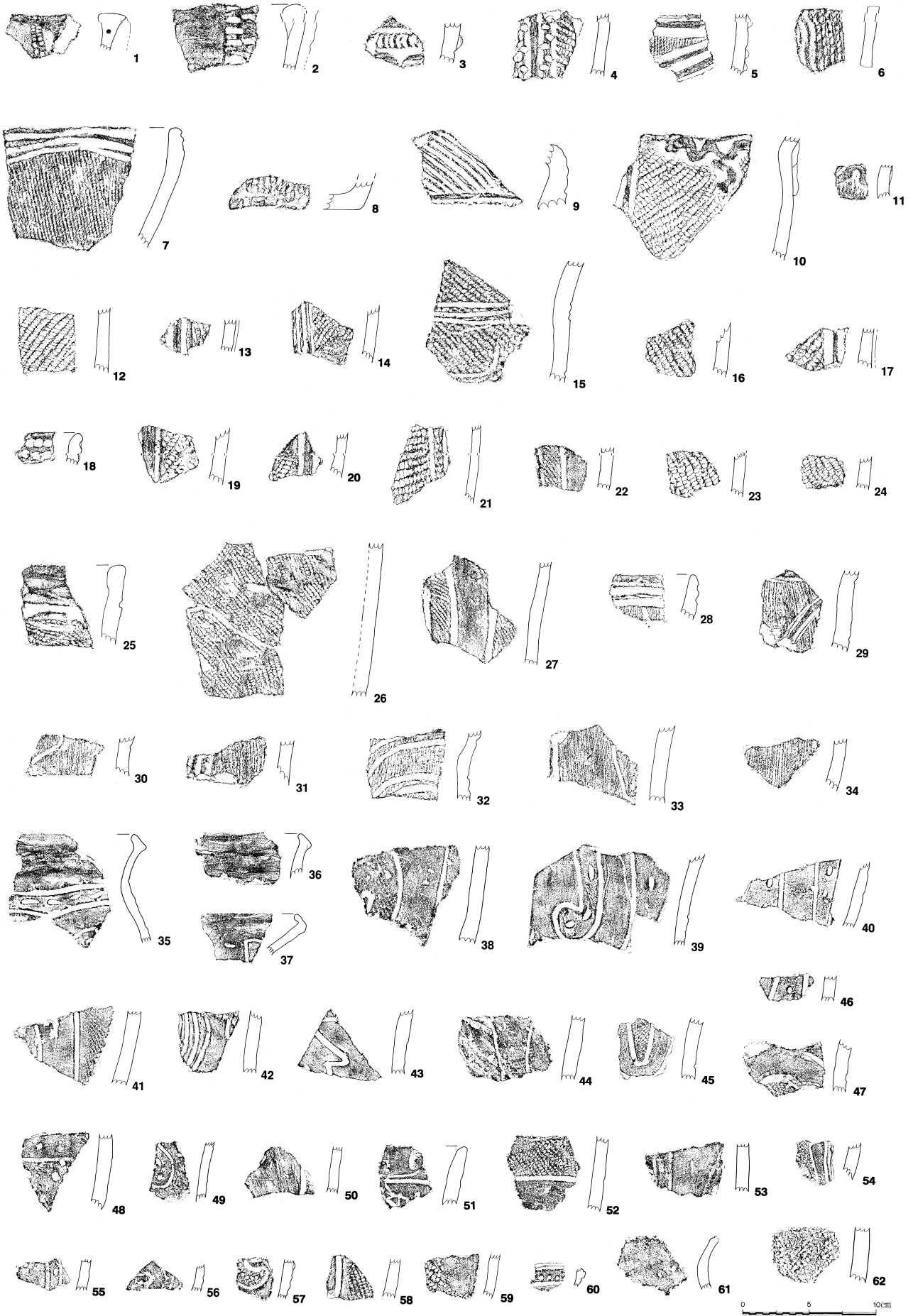
15～17は土坑3出土で、15は地文撚糸文に沈線文を施す。16は胴最下部で、17は細沈線のみ口縁部で堀之内Ⅰ式。土坑の時期は後期か。

18～20は土坑4出土で、18と19は地文の縄文を弧状に磨消す。20は軽石製の山形胸飾りで、両面穿孔の径6mmの円孔がある。完形で重さ9.10gである。

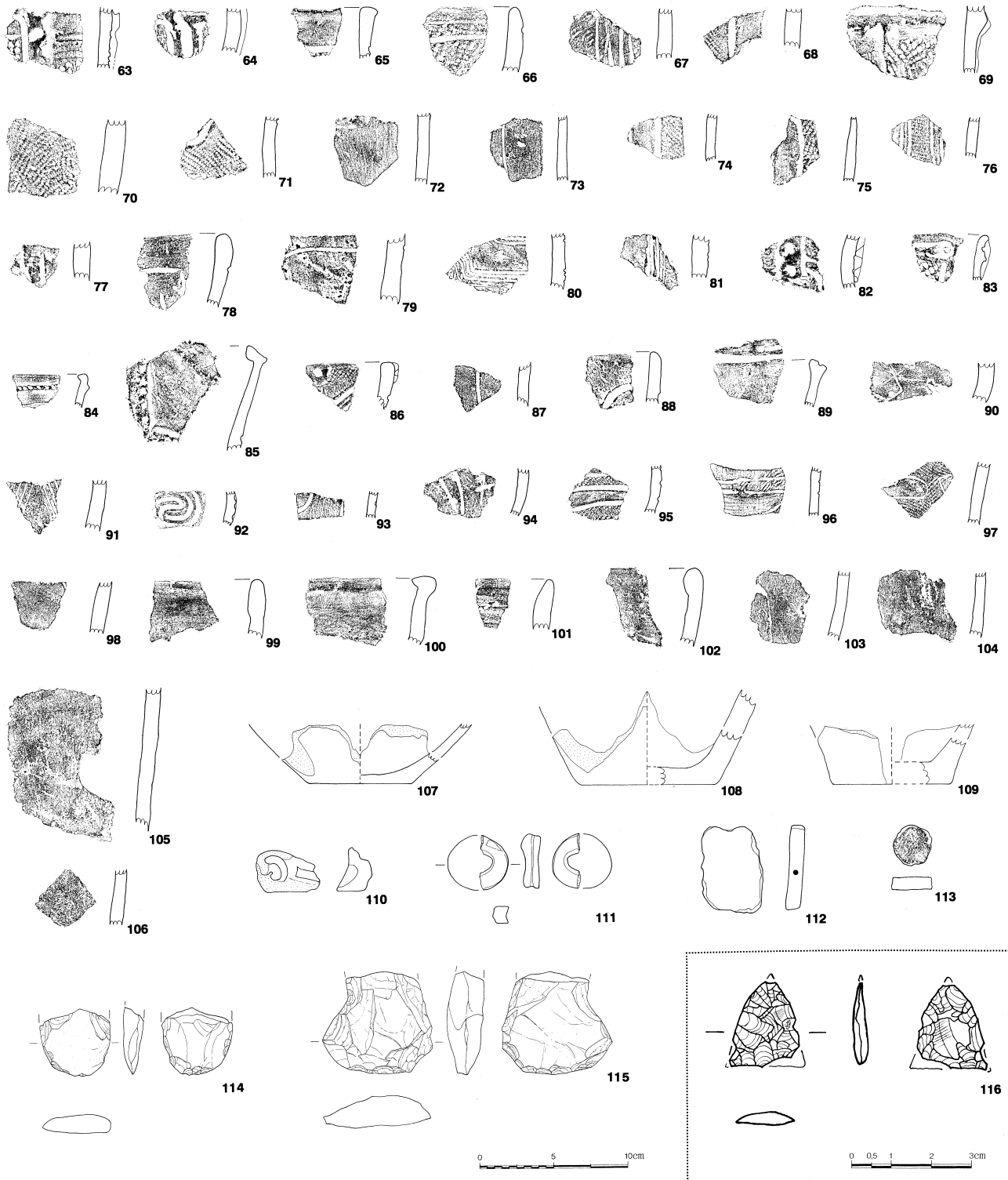
21～27は土坑5出土である。21は筒形深鉢の口縁部で、区画内に円形刺突と押引文がある。22の胎土には金雲母・石英を多く含み地文縄文を、縄で押圧した隆帯が囲む。23は縄文、24は磨消し、25は無文、26は沈線文の胴部片である。21や22のような中期前半から、24の堀之内Ⅰ式まであり、土坑の時期は不明。

⑦遺構外出土遺物（第56図28～58）

28と29は表裏条痕文の早期後半。30は口縁下に交互刺突と波状沈線文をもつ。31は三角押文列をもち、32は撚糸文、33は地文縄文で広い磨消しがあり、34は地文縄文である。35～38は地文縄文で沈線が加わる。



第54図 東台遺跡第44地点95~97号住居跡出土遺物① (1/4)



第55図 東台遺跡第44地点95～97号住居跡出土遺物② (1/4・2/3)

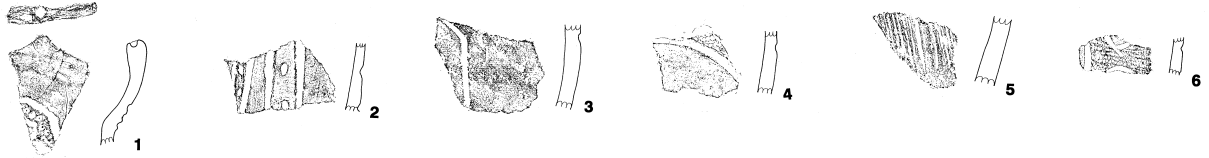
39と40は条線のみの中片。41は地文縄文で太い沈線をもつ。42は口縁下に隆帯がある。43と44は無文浅鉢の口縁部で、44は小形精製土器片。45と46は地文縄文で沈線間を磨消す。47は微隆帯をもつ。48は屈曲する沈線の区画内に円形刺突を施す。49は浅鉢の口縁部の波頂部である。50は薄い本体に把手をもち、51は磨かれた波状口縁の突起部。52は小型浅鉢の口縁部で無

文、53は細沈線のみの中片、54は微隆帯上に刺突を入れる。55と56は弧状細沈線をいれ広く磨消す。

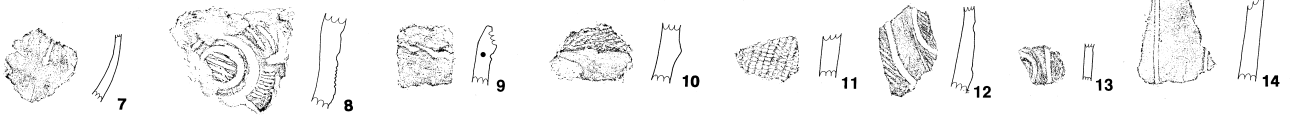
早期・中期の遺物が散見されるが、42～56の様に後期の遺物が多く、堀之内式のものが目立つ。

57は砂岩製の打製石斧で基部を欠損し、重さ71.44gである。58は黒曜石製石鏃の脚部片で重さ0.51gである。

土坑 1



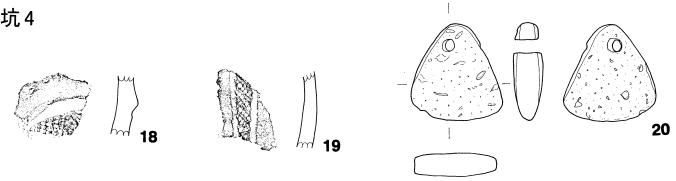
土坑 2



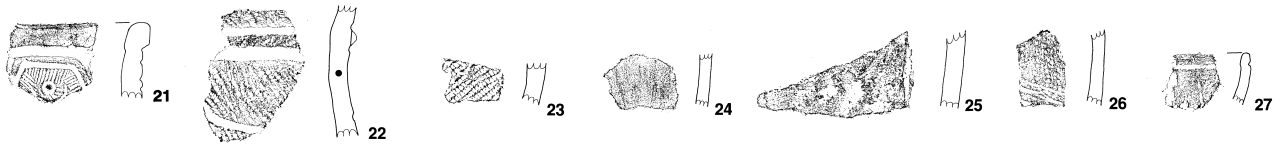
土坑 3



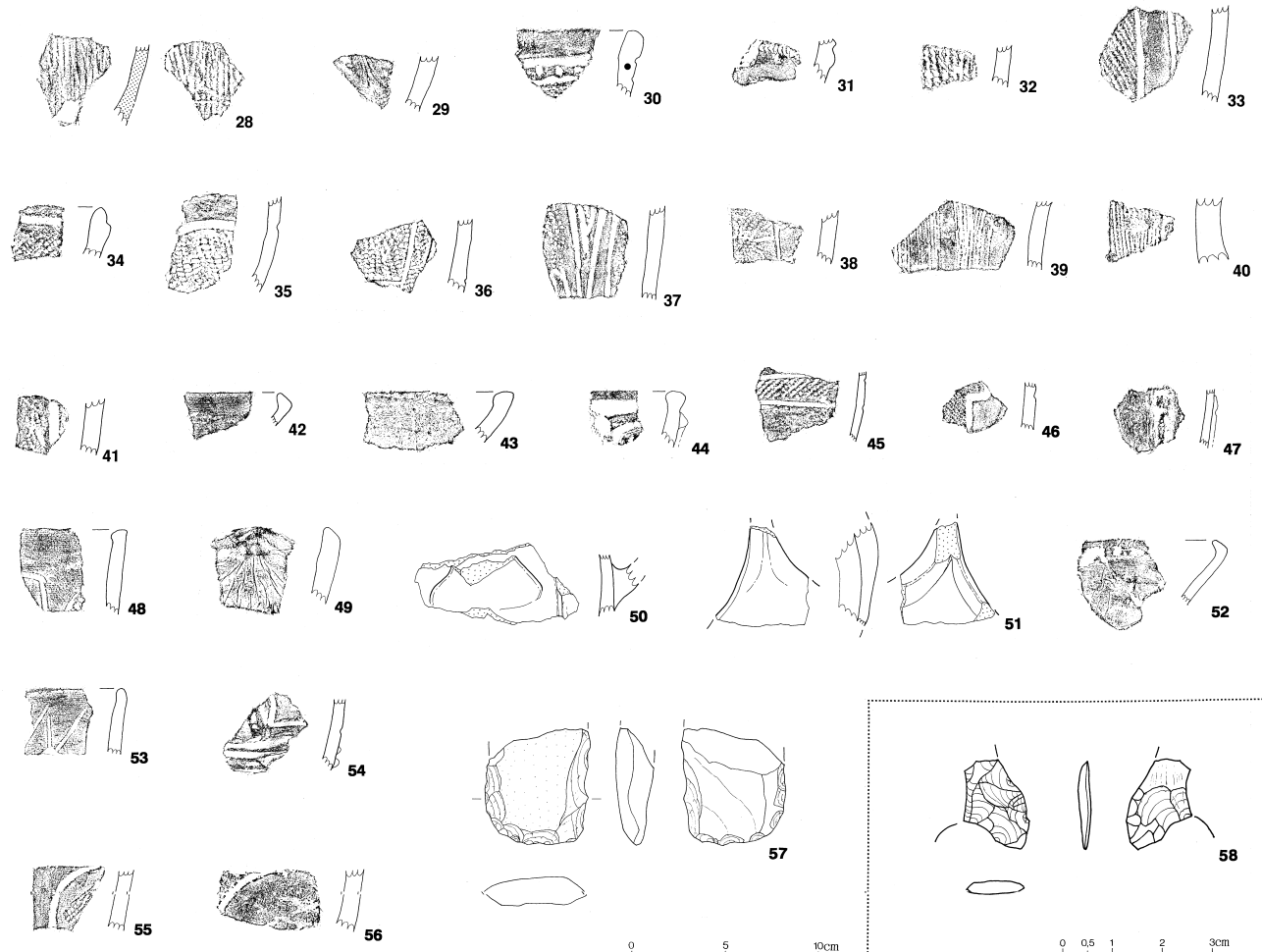
土坑 4



土坑 5



遺構外



第56図 東台遺跡第44地点土坑・遺構外出土遺物 (1/4・2/3)

### 第19章 旧上福岡市地域内遺跡の調査

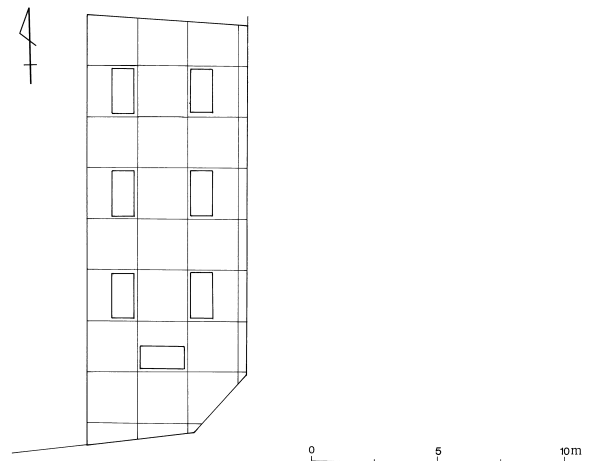
#### I 松山遺跡試掘調査（7）

##### （1）遺跡の概要

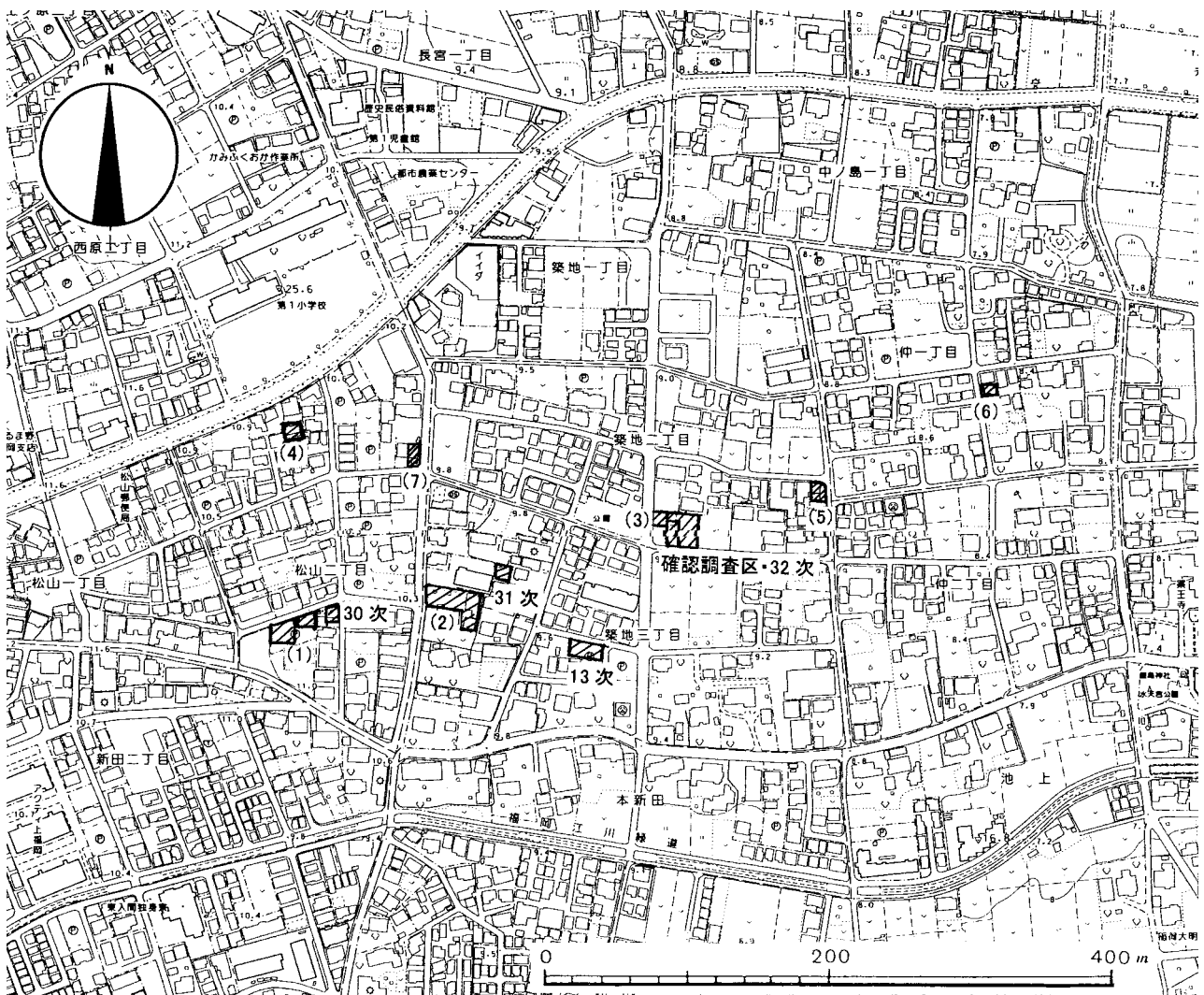
松山遺跡は、福岡江川の谷頭部から約2km下った左岸の標高9～11mに位置し、東側の荒川低地と南側の福岡江川に向かい緩やかに傾斜する。本遺跡の南東端、江川から北に約100mの所に赤沼（薬師手洗いの池・水天宮の池）と呼ばれる湧き水が池をなしていたが、現在は埋め立てられ公園になっている。かつては江川周辺にこうした湧き水が存在し、また同河川周辺には埋没河川と見られる窪地も存在した。

周辺の遺跡は北側に長宮遺跡が隣接し、奈良・平安時代の集落が連綿と続く。福岡江川左岸の上流域には古墳時代の富士見台横穴墓群・福遺跡、南側の右岸には福岡新田遺跡や縄文時代前期の集落である鷲森遺跡が存在する。本遺跡では、2006年12月現在、奈良・平

安時代の住居跡31軒、掘建柱建物跡等が確認されている。



第58図 松山遺跡試掘調査（7）調査区域図（1/300）



第57図 松山遺跡の地形と調査区（1/5,000）



(2) 調査の概要

調査は個人住宅の建設に伴うもので、原因者より2006年1月11日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部に位置する。原因者と協議の結果、遺構確認のための試掘調査を実施した。

試掘調査は2006年2月28日に行った。幅約80×170cmのトレンチ7ヶ所を設定し、人力で表土除去後、精査した結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山ローム面までの深さは約50~70cmである。旧石器時代の確認調査は行っていない。

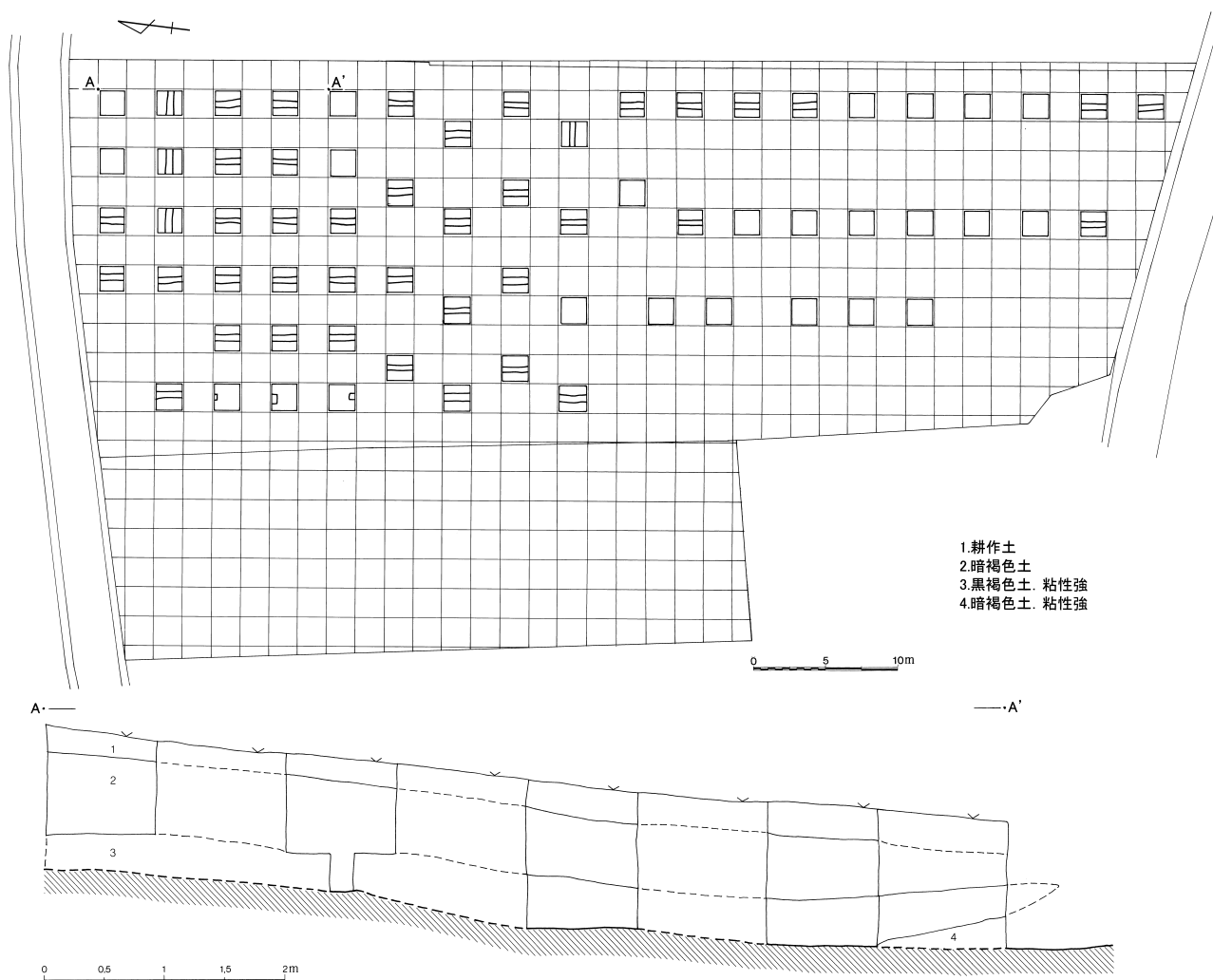
Ⅱ 鶴ヶ舞遺跡第12地点 (旧南台2丁目試掘調査)

(1) 調査の概要

調査は宅地造成に伴うもので、原因者より2006年2月1日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は鶴ヶ舞遺跡の南側に位置する。遺跡南側の福岡江川左岸は急傾斜を呈するが、本地点は現谷底に近い部分であるために緩斜面となっている。申請地の北側の斜面上では旧石器時代(立川ロームV~IV層)の石器集中と礫群、縄文時代の土坑等が確認されている。

原因者と協議の結果、遺跡範囲を確認するために試掘調査を実施した。遺跡・地点名は、試掘調査時には南台2丁目試掘調査としていたが、鶴ヶ舞遺跡の隣接地であるため、鶴ヶ舞遺跡第12地点に変更した。(第8図 鶴ヶ舞遺跡の地形と調査区参照)

試掘調査は2006年2月8日から22日まで行った。1×1m四方のトレンチを67ヶ所設定し、人力で表土除去後精査した結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山ローム面までの深さは約1.1mで揺やかに北から南へ傾斜する。旧石器時代の確認調査は行っていない。



第59図 鶴ヶ舞遺跡第12地点調査区域図 (1/500)、土層 (1/60)

## 第II部 民間開発に伴う本調査の成果

### 第1章 苗間東久保遺跡第24地点の本調査

#### I 本調査の概要

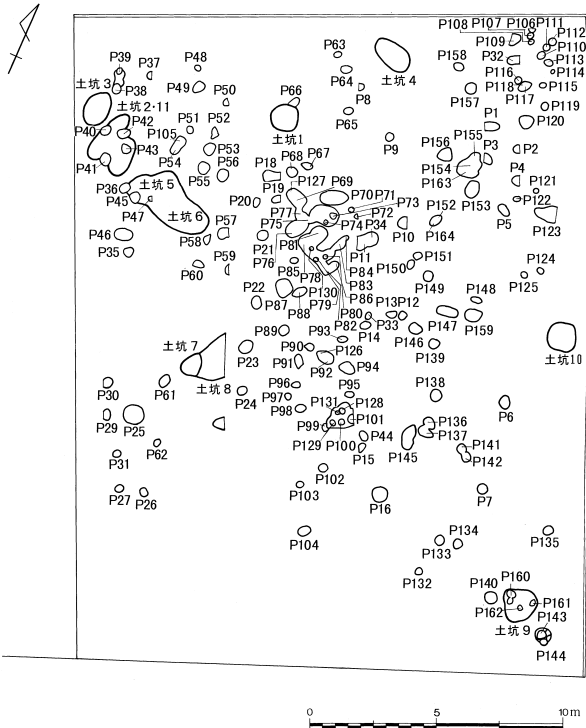
本調査は2006年4月10日から28日まで、試掘調査を行ったトレンチ間の未調査部分を調査したため、本調査の調査区は試掘調査のトレンチ同様に短冊状となった。なお表土除去には、堀井建設(株)から重機の提供を受け御協力を賜った。

重機による表土除去後、人力による調査を行い、縄文時代の土坑10基とピット164基を検出し、縄文土器と石器が多数出土した。

本調査区は、苗間東久保遺跡のほぼ中央に位置する。遺跡の北側に富士見さかい川、南側に浄禅寺川が流れ馬の背状に小高い部分である。

本調査区の東側には第6地点、北側に第20地点、南側に第17地点が位置する。第20地点や、第6地点でも西側部分では土坑やピットが検出されているが、縄文時代の住居跡は検出されておらず、今回の調査でも同様の結果であった。

本調査区では、旧石器時代の試掘調査は行っていないが、縄文時代の多数の遺構からも旧石器時代の遺構と遺物は確認されていない。



第60図 苗間東久保遺跡第24地点遺構配置図(1/300)

#### II 遺構と遺物

調査区の中央部から北西部にかけて縄文時代の包含層である黒褐色土が比較的よく残っており、その周辺部に遺構や遺物も多くみられる。

土坑とピットは覆土層の観察や出土遺物から全て縄文時代のもものとみられる。遺構の配置には規則性がみられない点から、建物跡などの可能性は低い。

##### (1) 土坑

土坑は10基検出し、調査区北西部に多く位置する。土坑1はフラスコ状を呈し覆土層から遺物が出土する。

土坑6は長楕円形を呈し落とし穴の可能性はある。

第23表 苗間東久保遺跡第24地点土坑一覧表 (単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	円形	100×102	88×90	61	
2	楕円形	90×150	69×131	18.4	
3	楕円形	90×139	76×118	18.5	
4	長楕円形	73×185	45×148	21.9	
5	隅丸方形	126×216	80×185	42	
6	長楕円形	(272)×110	253×30	60	
7	円形	84×84	55×70	37	
8	不整形	(160)×150	103×90	18.6	
9	(半円形)	95×(80)	80×(74)	31.1	
10	長楕円形	15×235	41×241	17.6	

##### (2) ピット

調査区中央部を中心に全面的に広がり、全て縄文時代のもものとみられる。浅いものについては、自然の落ち込みの可能性も考えられる。

##### (3) 出土遺物

###### ①土坑出土土器

1～15は土坑1出土で、1～6は厚手の大型粗製深鉢で沈線文のみである。7は地文縄文で区画下方の沈線の部分である。8～10は地文縄文を沈線で横帯とし、磨消部を作る。11と12は口縁無文部下に刺突のある隆帯をめぐらせる。

13は胴部上半部を地文縄文に沈線で横帯文とする。14と15は押圧の弱い縄文に細沈線を施す小型深鉢である。すべて縄文後期堀之内式であり、土坑1の時期は

第24表 苗間東久保遺跡第24地点ピット一覧表①

(単位:cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	長方形	60×38	6×10	30.8	
2	(円形)	33~(24)	16~(14)	11.6	
3	(円形)	53~(45)	8~10	59.2	
4	(円形)	35~(25)	18~21	16.5	
5	楕円形	46~68	7~9	24.7	
6	円形	66~68	34~48	17.2	
7	円形	44~(40)	11~21	10	
8	円形	41~43	6~11	27.3	
9	円形	34~37	20~24	9.7	
10	(円形)	48~(30)	11~16	42.4	
11	不明	57~(40)	35~(36)	18.3	
12	(円形)	30~32	13~16	67.8	
13	楕円形	30~40	10~15	23.2	
14	円形	36~37	15~22	39.1	
15	円形	24~30	10~12	29	
16	円形	56	18~20	82.8	
18	楕円形	60~(88)	40~77	15.4	
19	円形	35~37	8~10	35	
20	円形	39~40	15~22	28	
21	円形	40~40	13~20	39.4	
22	円形	38~42	22~32	46.2	
23	楕円形	40~50	9~10	35.2	
24	円形	35~36	10~14	32.7	
25	円形	80~81	58~64	16.8	
26	円形	36~37	14~17	39.1	
27	不整形	27~31	15~20	20.8	
29	楕円形	(34)~52	18~26	28.2	
30	円形	42~(34)	9~11	44	
31	楕円形	26~35	8~16	26.4	
32	円形	38~46	10~15	16.4	
33	楕円形	25~30	10~14	30	
34	楕円形	52~52	16~21	41.9	
35	円形形	35~38	17~19	14.1	
36	楕円形	34~44	14~18	59.4	
37	(円形)	40~(24)	(5)~(15)	43.2	
38	方形	50×40	16×14	43.9	
39	楕円形	45~52	5~12	16.2	
40	円形	37~43	11~14	42	
41	円形	41~50	26~30	44.8	
42	円形	48~49	10~15	36.7	
43	円形	38~38	21~21	12.8	
44	円形	30~34	15~15	50.2	
45	円形	40~41	15~20	58.3	
46	楕円形	47~78	10~18	14.7	
47	三角形	15~24	6~12	64	
48	円形	29~36	18~20	28.6	
49	円形	41~43	14~21	17.2	
50	円形	37~41	8~11	14	
51	円形	30~31	11~15	23	
52	円形	55~56	13~21	33	

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
53	円形	46~56	23	29	
54	双環状	55~80	10~15	50.7	
55	円形	56	20	44.6	
56	円形	57~59	24~27	28.4	
57	円形	52~(60)	23~29	27.4	
58	円形	30~37	15~21	35.3	
59	楕円形	33~43	21~25	37.5	
60	円形	31~37	13~20	30.4	
61	楕円形	38~57	10~32	20.8	
62	円形	35~(45)	15~19	80.3	
63	円形	27~31	14~16	20.8	
64	円形	41~43	13~17	17.7	
65	楕円形	33~43	21~25	12.8	
66	円形	34~36	17	13.7	
67	楕円形	43~55	16~22	21.9	
68	円形	41~45	12~20	21.2	
69	楕円形	(50)~60	12~18	37.6	
70	楕円形	61~116	21~38	46	
71	円形	28~33	10~16	16.8	
72	円形	32~35	11~18	16.9	
73	三角形	30~37	11~12	89.3	
74	円形	24~28	19~21	51	
75	(円形)	30~(33)	9~10	36.3	
76	楕円形	36~45	21~30	47.6	
77	円形	49~56	19~23	33.5	
78	楕円形	34~42	16~18	54.7	
79	円形	18~21	8~14	44.4	
80	円形	31~37	24~25	47.5	
81	方形	47~70	29~53	27.1	
82	円形	27~32	11~18	32	
83	楕円形	54~(61)	26~48	19.7	
84	楕円形	43~63	19~30	25.1	
85	楕円形	24~33	11~13	25.3	
86	楕円形	40~(83)	(35)~24	20.3	
87	楕円形	60~83	20~55	34.7	
88	円形	44~46	25~28	24.3	
89	円形	36~40	19~23	41.4	
90	円形	37~45	23~24	26.8	
91	円形	50~60	14~23	36.3	
92	楕円形	45~53	18~21	42.7	
93	円形	38~40	17~20	25.1	
94	円形	50~58	13~14	25.7	
95	円形	33~39	19	26.6	
96	円形	28~30	11~14	24.4	
97	円形	23~30	6~11	20.2	
98	菱形	40~47	24~25	23.2	
99	円形	(33)~39	11~14	24.5	
100	円形	29~32	8~11	28.6	
101	円形	(35)~37	23~28	31.2	
102	円形	33~34	10~18	52.8	

第25表 苗間東久保遺跡第24地点ピット一覧表②

(単位:cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
103	円形	30~35	10~11	23.9	
104	方形	53×40	30×24	30.6	
106	(円形)	(20)~28	(15)~10	19.2	
107	円形	28~30	5~18	27.1	
108	菱形	33~42	13~17	11.5	
109	(円形)	(33)~48	20~34	18.3	
110	円形	30~31	16~19	30.5	
111	楕円形	26~40	9~10	58.6	
112	円形	30~33	19~20	15	
113	円形	34~37	11~16	23.8	
114	不整形	23~25	4~6	38.3	
115	楕円形	23~28	14~15	32.4	
116	円形	42~46	16~20	16	
117	(円形)	18~21	9~11	23.7	
118	楕円形	30~(40)	15	30.1	
119	菱形	32~38	10~12	33	
120	楕円形	56~68	38~42	21.2	
121	楕円形	24~30	7~7	15.8	
122	菱形	25~32	8~9	50.4	
123	(楕円形)	73~(70)	45~(45)	23	
124	楕円形	23~28	10	30.9	
125	楕円形	21~25	6	18.5	
126	円形	31~40	16~17	35.4	
127	楕円形	(49)~70	16~30	30.8	
128	楕円形	33~38	15	45.7	
129	楕円形	23~32	15~21	28	
130	円形	20~22	8~13	36.9	
131	円形	26	10~15	27.6	
132	三角形	20~26	18~19	37.3	
133	円形	34~37	13~15	33.4	
134	円形	33~35	16	46.6	

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
135	楕円形	39~45	13~38	46.1	
136	楕円形	39~45	24~35	8	
137	楕円形	40~67	20~48	20.4	
138	楕円形	39~48	18~26	17.9	
139	円形	35~37	12~21	35.2	
140	円形	45	23~27	45.1	
141	楕円形	36~(56)	22~45	14.9	
142	円形	30	9~11	42.4	
143	楕円形	(30)~43	12~14	33	
144	楕円形	(35)~58	15~20	26.6	
145	不整形	40~90	26~54	26.9	
146	楕円形	41~50	24~30	29.8	
147	不整形	43~66	5~8	79.2	
148	楕円形	34~36	8~12	14.1	
149	円形	30~36	6~9	30.5	
150	円形	33	5~11	20.2	
151	円形	30~34	11~15	11.2	
152	楕円形	15~25	5~10	52.5	
153	円形	53~55	28~31	17.3	
154	円形	18	5~10	34.6	
155	不整形	60~115	38~(92)	22.8	
156	円形	55	18~24	49.7	
157	円形	34~36	8~9	13.8	
158	円形	36~40	10~15	27.9	
159	不整形	45~63	8~11	41.4	
160	円形	40~41	27~30	44.9	
161	円形	32~35	22~24	24.5	
162	円形	23	13~14	20.4	
163	(円形)	(25~26)	7~13	43.8	
164	(円形)	(38~42)	18~20	40.1	

堀之内2式といえる。

16~37は土坑2出土である。16と17は地文縄文の口唇部内面に沈線が入る。18は地文縄文、19は口唇部内面に沈線の入る小型土器であるが、内外面に朱塗がある。20と21は口唇の下に押圧を伴う微隆帯をもつ半粗製土器である。22~26は横帯縄文の類で磨消を施す。29と30は沈線文と斜格文の土器である。31、32は注口土器の剥離した注口部である。33~35には網状痕跡が残る。36は基部を欠損する定角式磨製石斧で蛇紋岩製で重さ95.68gである。37は安山岩の石皿片で重さ493.73gである。27~30は加曾利B I式で、堀之内2式か加曾利B I式の土坑といえる。

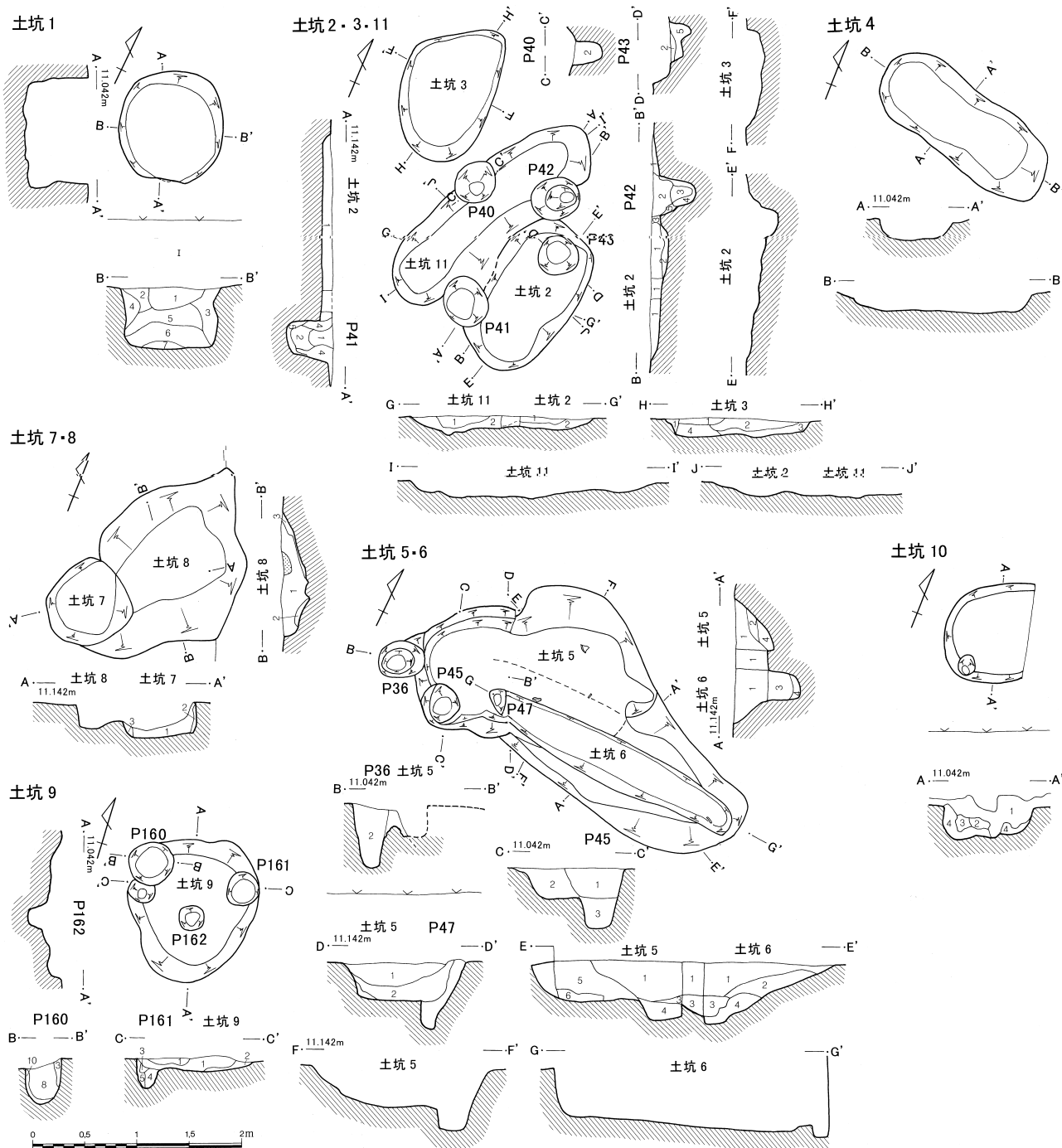
38~43は土坑5出土である。38は沈線のための粗製土器である。39は横帯文、40は刺突微隆帯をもつ。41の

口縁内側には沈線が入る。42と43の底部断面には起上りが認められる。土坑5出土土器はすべて堀之内式である。

44は土坑7出土で刺突微隆帯をもち、縄文を磨消して横帯文とする段差沈線があり加曾利B 1式である。45~56は土坑8出土である。45~47は同一個体で細い縄文を全面施文する中型深鉢土器で、口縁内側に沈線を入れる。48・49・53・54は地文縄文に沈線で幾何学文を入れ磨消を施し、53・54は段切り沈線が加わる。50と51は沈線のための粗製土器である。55は口縁部下に微隆帯をもち内文が発達し56と共に堀之内2~加曾利B 1式の精製土器である。

57は土坑9出土で、段差を横帯文である。

58~60は土坑10出土で、58は無文、59は沈線のみ、

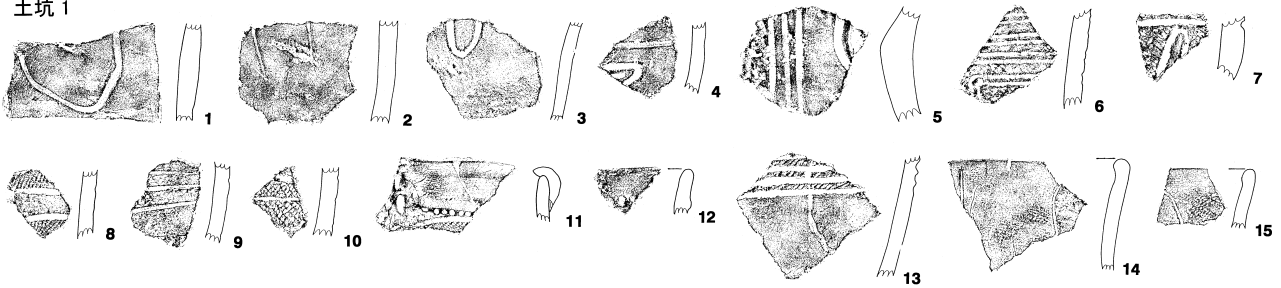


- 土坑 1**
1. 黒褐色土 締り強。粘性有。5 mm以下のローム粒多く、1 mm大の炭化物少し含む
  2. 黒褐色土 締り強。粘性有。1 mm大のローム粒少し、同炭化物極少し含む
  3. 黒褐色土 締り強。粘性有。1層よりやや明るく、ローム粒・炭化物は1層に同じ
  4. 暗褐色土 締り強。粘性有。ソフトローム崩落土、5 mm以下のローム粒少し含む
  5. 暗褐色土 締り強。粘性有。1~3層よりシミ状にローム多く含む、5 mm以下のローム多量(1~3層より多く)、3 mm以下の炭化物少し含む
  6. 黒褐色土 締り強。粘性有。1~5層より黒く、3 cm大のロームブロック少し、5 mm以下のローム粒1層程度、5 mm以下の炭化物多く含む
  7. 暗褐色土 締り強。粘性有。ソフトロームと暗褐色土の混合土
- 土坑 2**
1. 黒褐色土 締り強。粘性有。1 mm以下のローム粒少量、シミ状にロームブロック少量含む(ピットの1層相当)
  2. 暗褐色土 締り強。粘性有。15 mm以下のシミ状ロームブロックやや多く、1 mm以下のローム粒少量含む(ピットの5層相当)
- 土坑 3**
1. 黒褐色土 締り強。粘性有。1 mm以下の粉状ロームを少量、焼土を微量含む(ピットの1層相当)
  2. 黒褐色土 締り強。粘性有。3 mm以下のローム粒と粉状ロームをやや多く、1 mm大の炭化物微量を含む(ピットの2層相当)
  3. 暗褐色土 締り強。粘性有。2 cm以下のシミ状ロームブロック含む、粉状ローム多く含む(ピットの4層相当)
  4. 暗褐色土 締り強。粘性有。色調暗く黒褐色土ベースで2 cm以下のロームブロックやや多く含む。黒褐色土中に粉状ロームやや多く含む、1 mm以下の炭化物微量を含む

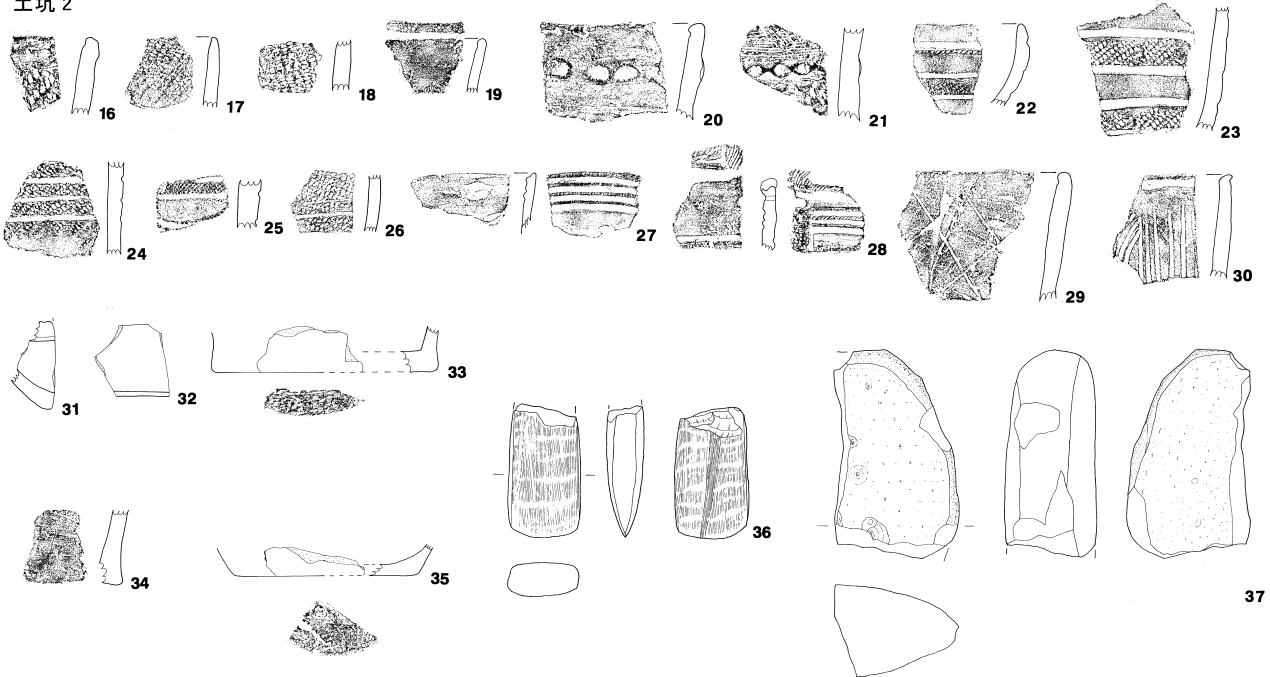
- 土坑 4**
- I 黒色土 表土・耕作土、10 cm以下のロームブロック多く含む、
  - II 暗褐色土 締り強。粘性有。地山ソフトロームより上層の包含層、ほぼソフトロームに同じ、本来の遺構確認面
- 1. 黒褐色土 締り強。粘性有。10 mm大のロームブロック微量、3 mm以下のローム粒やや多く、3 mm大の炭化物微量を含む(ピットの2層相当)**
- 2. 暗褐色土 締り強。粘性有。1 mm以下のローム粒を少し含む**
- 3. 暗褐色土 締り強。粘性有。ローム主体、シミ状に暗褐色土を含む、地山か土坑 5**
- 1. 黒褐色土 締り強。粘性有。5~10 mmロームブロック少量、5 mm以下の粉状のロームやや多く含む(ピットの2層相当)**
- 2. 黒褐色土 締り強。粘性有。色調は1層より明るい、5~40 mm大のロームブロックやや多く含む**
- 3. 暗褐色土 締り強。粘性有。ロームブロック多く含む(ピットの5層相当)**
- 土坑 5・6**
1. 暗褐色土 締り有。硬い。1~3 mm大のローム少量、1~3 mm大の焼土・炭極少量含む
  2. 褐色土 締り有。斑状のソフトローム塊と少量の1~3 mm大のローム粒含む
  3. 暗褐色土 締り有。1~3 mm大のローム粒が斑状に極多量、焼土粒・炭を少量含む
  4. 褐色土とロームブロックの混合 締り有
  5. 暗褐色土 締り有。硬い。1~3 mm大のローム粒やや多く、ロームブロック少量含む
  6. 褐色土 締り有。1~3 mm大のローム粒多く、ロームブロック少量含む
- 土坑 7**
1. 暗褐色土 締り有。1~3 mm大のローム粒を多量に、炭を少量含む
  2. 暗褐色土 締り有。1~3 mm大のローム粒を少量含む(1層より明るい)

第61図 苗間東久保遺跡第24地点土坑・ピット① (1/60)

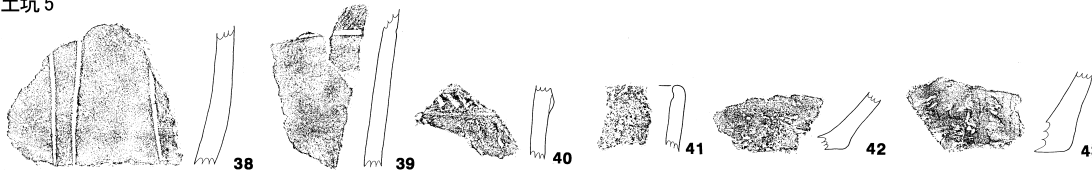
土坑 1



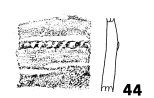
土坑 2



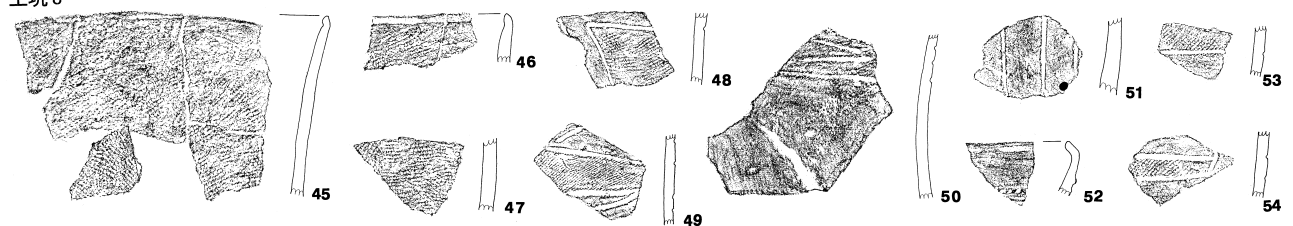
土坑 5



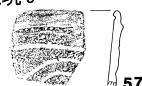
土坑 7



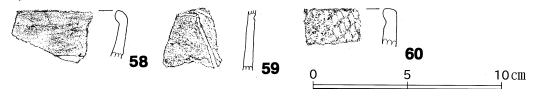
土坑 8



土坑 9



土坑 10



土坑 8

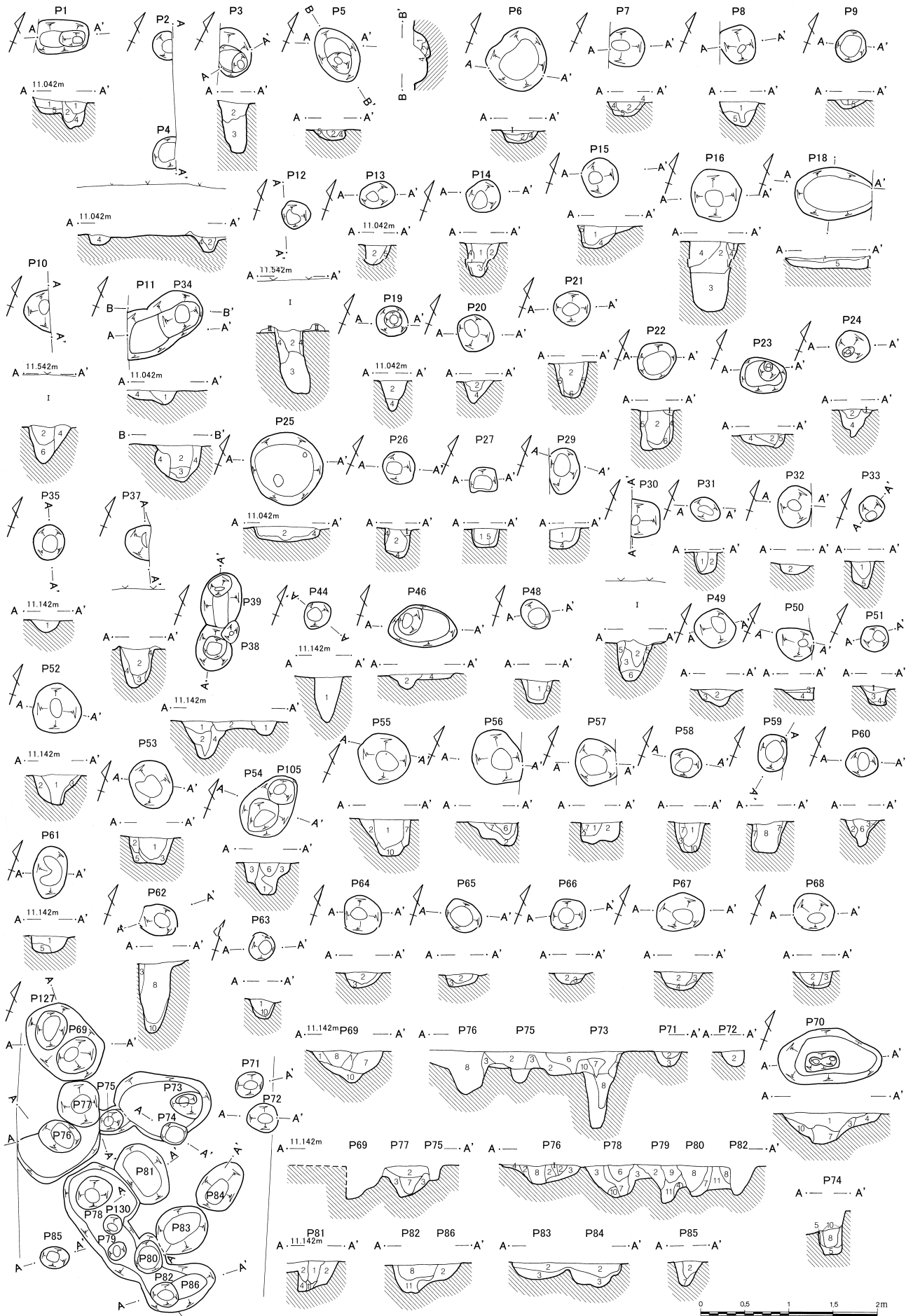
- 1.暗褐色土 締り有、1mm大のローム粒多量、炭粒少量含む
- 2.暗褐色土 締り有、ロームブロック多量に含む
- 3.褐色土 締り有、

土坑 9

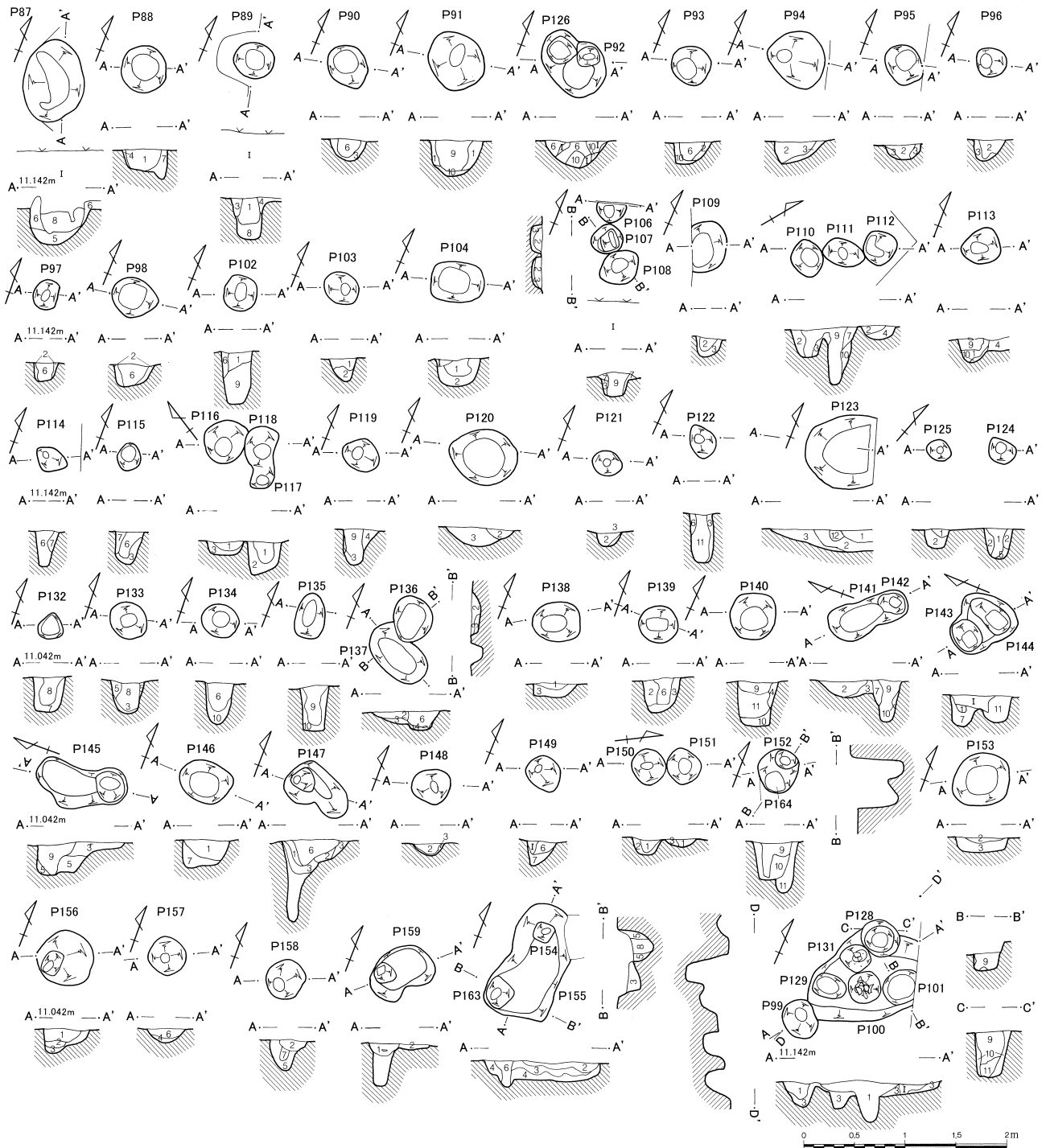
- 1.暗褐色土 締り有、硬い、1~3mm大のローム粒少量、焼土粒少量含む
- 2.暗褐色土 締り有、1~3mm大のローム粒多量に含む
- 3.暗褐色土 締り有、1~3mm大のローム粒多量に、ロームブロック少量含む
- 4.暗褐色土 締り有、1~3mm大のローム粒極多量に含む
- 5.褐色土 締り有、ローム粒と暗褐色土の混合土

土坑 10

- 1.暗褐色土 締り有、硬い、1~3mm大のローム粒少量含む
- 2.暗褐色土 締り有、硬い、1~3mm大のローム粒多量に、ロームブロック少量含む
- 3.暗褐色土 締り有、硬い、1~3mm大のローム粒多量に含む
- 4.暗褐色土 締り有、硬い、ロームブロック多量に含む



第63図 苗間東久保遺跡第24地点ピット② (1/60)



I. 黒色土 表土・耕作土、10 cm以下のロームブロック多く含む、  
 II. 暗褐色土 締り強、粘性有、地山ソフトロームより上層の包含層、ほぼソフトローム  
 に同じ、本来の遺構確認面

ピット 1~47

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2 mm以下のローム粒少量含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、5 mm以下~粉状のローム粒やや多く含む  
 (2 mm以下の焼土・炭化物を微量に含むもの有り)
3. 黒褐色土 締り有、粘性有、5 mm以下のローム粒やや多く含む、2層よりソボソする
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、シミ状にロームブロック多く含む、2 mm以下の細かなローム  
 粒多く含む (2 mm以下の焼土・炭化物を微量含むもの有り)
5. 暗褐色土 締り強、粘性有、シミ状にロームブロック多く含む
6. 黒褐色土 締り強、粘性有、良く締まり、シミ状に1 cm以下のロームブロック・粒やや多  
 く含む(深さのあるピットの最下部で見られる)

ピット 48~164

1. 暗褐色土 締り有、硬い、1~3 mm大のローム粒少量、焼土粒・炭極少量含む
2. 褐色土 締り有、1~3 mm大のローム粒少量含む
3. 褐色土 締り有、1~2 cm大のロームブロック少量含む
4. 黄褐色土 締り有、ソフトロームにローム粒少量含む
5. 黄褐色土 ローム主体に褐色土混入
6. 暗褐色土 締り有、ローム粒極少量含む(1層より少ない)
7. 褐色土 締り有、1~3 mm大のローム粒多量に、炭少量含む
8. 暗褐色土 締り有、1~3 mm大のローム粒多量に、焼土粒・1~3 mm大の炭少量含む  
 (1層より多い)
9. 8層より色調暗い
10. 褐色土 締り有、1~3 cm大のロームブロック多量に含む
11. 褐色土 締り有、ロームブロックを少量、ローム粒極多量に含む
12. 褐色土 締り有、2層にロームブロック加わる

第64図 苗間東久保遺跡第24地点ピット③ (1/60)



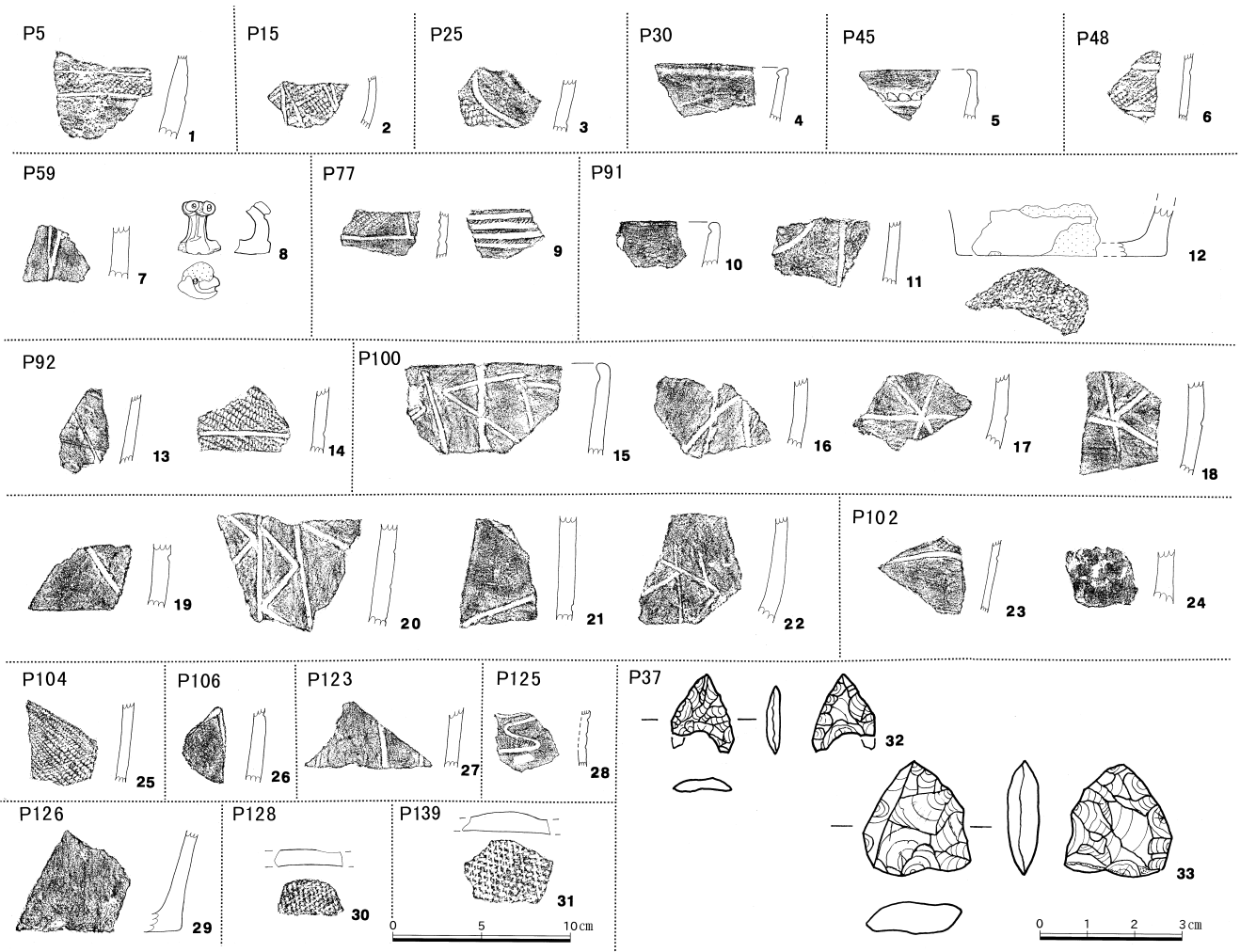
60は地文縄文の小型鉢片である。

②ピット出土土器

- 1 はピット 5 出土で磨消縄文の横帯文を施す。
- 2 はピット15出土地文縄文に沈線文を施す。
- 3 はピット25出土で地文縄文に沈線文内を磨消す。
- 4 はピット30出土で沈線文を施す。
- 5 はピット45出土で押圧のある微隆帯をもつ堀之内2式の精製土器。
- 6 はピット48出土で地文縄文に沈線を施す。
- 7・8 はピット59出土で7は沈線と磨消し、8は口縁部の突起で、刺突・沈線・刻みを施す。
- 9 はピット 7 出土で内文の発達した段差沈線をもつ加曽利 B 式。
- 10~12はピット91出土で、10は口唇部内面に沈線をめぐらし、11は沈線文を施す。12は底部で網代痕が残る。

13・14はピット92出土で、13は沈線文、14は地文縄文に沈線文を施す。

- 15~22はピット100出土で、細い沈線で不定形をつくる堀之内2式又は加曽利 B I 式である。
- 23・24はピット102出土で、23は地文縄文に沈線と磨消しを施す。24は無文である。
- 25はピット104出土で地文縄文である。
- 26はピット106、27はピット123出土で沈線と磨消しを施す。
- 28はピット125出土で地文縄文と沈線に磨消しを施す。29はピット126出土で無文の底部である。
- 30はピット128出土、31はピット139出土で共に底部に網代痕を残す。30、31も含めて縄文後期前半の土器である。
- 32・33はピット37出土で黒曜石の石鏃である。重さは32が0.45g、33が4.31gである。



第65図 苗間東久保遺跡第24地点ピット出土遺物 (1/4・2/3)

## 第2章 浄禅寺跡遺跡第27地点の本調査

### I 本調査の概要

本調査区は、浄禅寺跡遺跡の中央部に位置する。遺跡の中央部から北側に浄禅寺川、南側に砂川が流れ馬の背状に小高い部分である。

周辺部では縄文時代早期から中期にかけての遺構や遺物が多数確認されている。本調査は2006年1月23日から22日まで遺構の確認された部分を中心に拡張し調査を行った。

西側隣地との境界杭を基軸とする4m方眼の区画を調査区に設定し、東から西へA・B・C～、北から南へ1・2・3～の番号を付した。

重機による表土除去後、人力による調査を行い、縄文時代早期の炉穴15基、縄文時代中期住居跡1軒、屋外埋甕2基、土坑26基とピット55基を検出し、縄文土器と石器が多数出土した。

### II 遺構と遺物

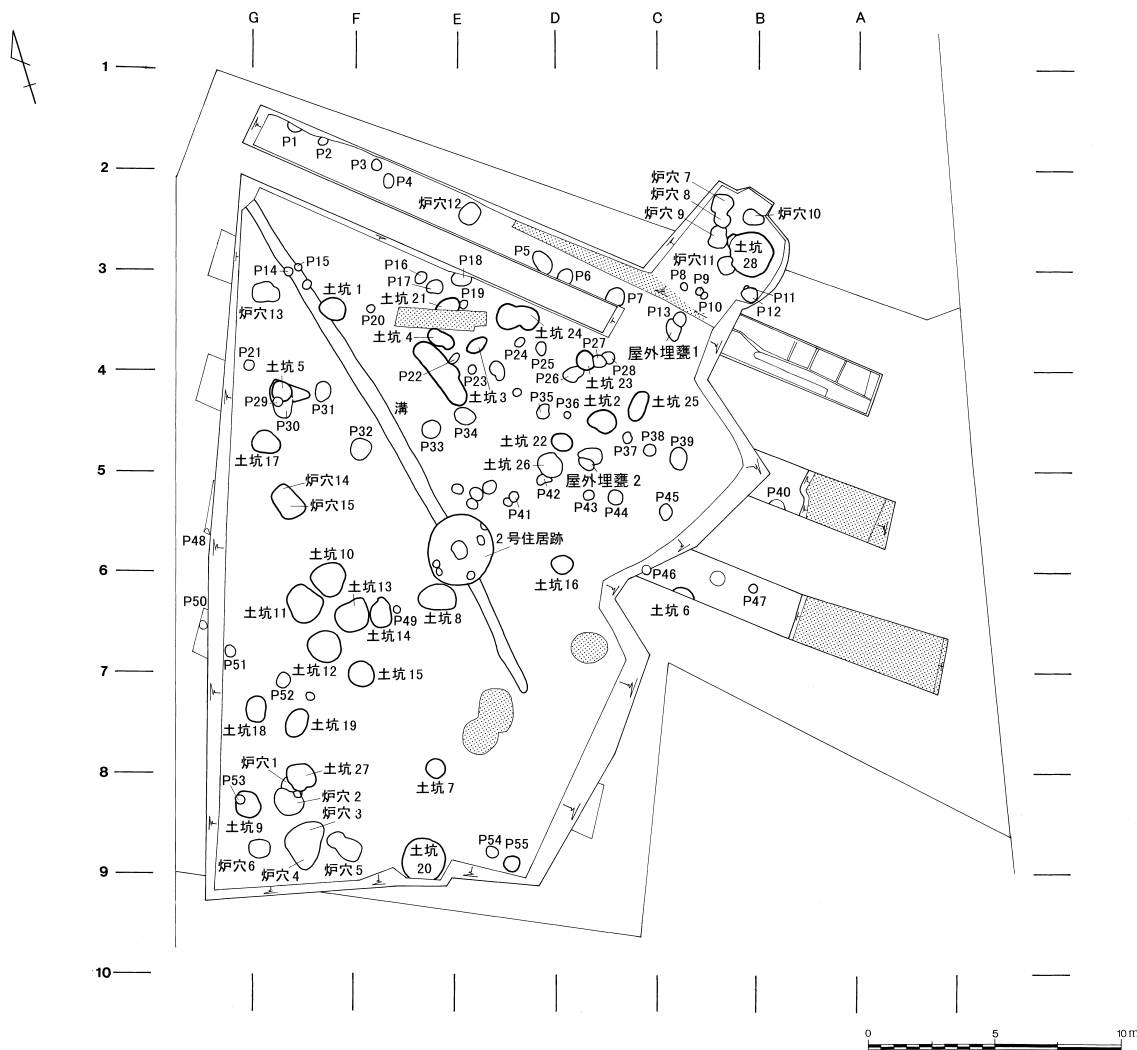
#### (1) 2号住居跡

【位置】今回、本遺跡で初めて縄文時代中期の住居跡を検出した。これまでに本遺跡では縄文時代前期の住居跡1軒（1号住居跡）を検出している。1号住居跡は遺跡の北東部に位置し、今回検出した2号住居跡とは170～180m 離れている。

【形状・規模】平面はほぼ円形で断面は浅い皿状を呈する。規模は東西2.6m×南北2.65m、深さは最深部で22cmを測る。

【炉】住居跡の中央部に位置する。炉の平面形は楕円形で、16個の礫で囲まれた炉の中央部には底部を欠損する縄文土器を正位に据えた石囲埋甕炉である。

【ピット】ピットは5本検出する。ピット1が深さ30cmを超えるが、他は30cm以下である。



第66図 浄禅寺跡遺跡第27地点遺構配置図 (1/300)

【遺物出土状況】 覆土層、床面ともに遺物数は極端に少ない。

【住居時期】 石囲埋甕炉出土土器から加曾利 E III 期。

(2) 炉穴

炉穴は焼土の範囲からみて、15基を検出した。全て縄文時代早期に属するものとみられる。

(3) 屋外埋甕

縄文時代中期末の屋外埋甕 2 基を検出した。

【屋外埋甕 1】 調査区東側に位置し、底部を下にした正位置の状態です出土した。土坑の平面形態は楕円形で確認面径91×60cm、底径67×38cm、深さ26.7cmである。

【屋外埋甕 2】 調査区中央部東寄りに位置し、底部を下にした正位置の状態です出土した。胴部下半から底部を欠失し、口縁部は耕作による攪乱を受ける。土坑の平面形態は不明である。確認面径67×(45)cm、底径50×(31)cm、深さ14cmである。土坑の覆土に焼土や炭化物はほとんどみられないが、土器の胎土は二次被熱によるハジケ現象がみられる。土器出土状況と、周辺のピット等から住居跡の可能性もある。

(4) 土坑・ピット

土坑26基、ピット55基を検出し、出土遺物や覆土層の観察から全て縄文時代のもものとみられる。

(5) 溝

調査区をほぼ南北方向に延びる。上幅40~60cm、下幅18~40cm、深さ約11cmを測る。近世以降のもものとみられる。

(6) 出土土器

本項でとり上げる土器は主な遺構出土土器で、これ以外のものは第14章に掲載した。

【2号住居跡出土遺物】 1は2号住居跡の石囲炉内に埋設された炉体土器の小型深鉢で、胴部下半から底部を欠損する。口径14.6cm、現存部高11cmである。外面全面に櫛状工具による条線が施文されているのみで、赤褐色を呈し胎土には白色砂粒・橙色粒子・軟質物質を含む。二次被熱により脆くなっている。時期細分は困難であるが加曾利 E III 式に併行するものであろう。

【屋外埋甕出土土器】 2は屋外埋甕 1 出土で、大きな欠損部はあるものの、波状口縁の波頭から底部までを遺存する深鉢で、復元口径26~27cm・橋状把手頂か

ら底部までの現存部高41.5cmである。2対の橋状把手と小山状把手を内湾する口縁部に付ける。胴部文様帯は胴部中央の括れ部分で二段となる。地文縄文を太い沈線で、上半は楕円形に、下半は長楕円形に近い「∩」字状に描き、その外側を広く磨消す。4つの把手を基軸に4単位の文様帯となっている。胎土には白色珪質物質を多量に、また橙色粒子も含む。整形は上半部の磨きは入念で暗褐色から茶褐色を呈し、焼成は良好である。加曾利 E IV 式古相といえる。3は屋外埋甕 2 出土で、無文の胴中部破片である。

【土坑出土土器】 4・5は土坑19出土である。4は胴中部が括れる小型深鉢で胴下部から底部を欠失する。口縁部内径10~11.5cm、口縁上部が無文で口唇部に円形把手一つがあり、把手までの現存部高16cmである。地文縄文で胴中央部を境に上下に沈線で大きな波状文をつくり、上半部は「∩」の区画内を磨消し、下半部は「U」の区画内を磨消す。胎土には白色軟質物質を多く含み黒褐色ないし茶褐色を呈する。外面全体と内面下半に二被被熱によるハジケ現象が著しい。加曾利 E IV 式である。

5は胴中部以下を欠く深鉢で、口径23.6cm・現存部高17cmである。口縁部の地文縄文は羽状状に施文し、胴中部で上・下の文様を逆転させる。上半は「∩」・下半は「U」区画内の地文縄文を広く磨消す。胎土に白色物質・砂粒・橙色粒子を含み焼成良好で灰褐色を呈する。内面全面に二次被熱によるハジケ現象が著しい。加曾利 E IV 式の古相である。

第26表 浄禅寺跡遺跡第27地点炉穴一覧表 (単位cm)

No	旧No	平面形態	規模(上端径・底径・深さ)	焼土範囲規模	足場
1	4	不明	90×(—)	40×25	不明
2	3	円形	122×95・100×85・16	50×45	無
3	2	三角形	200×145・120×70・27	93×53	75×45
4	17		200×145・84×68・14	27×15	75×45
5	1	楕円形	145×85・45×45・22	35×35	80×47
6	11	円形	85×79・70×66・22	38×30	無
7	14	楕円形	84×70・—・7	36×41	無
8	15	楕円形	60×(65)・—・4	36×57	無
9	16	楕円形	80×71・—・1	50×40	無
10	13	楕円形	90×58・—・5	40×40	無
11	12	円形	63×(58)・—・5	51×46	無
12	5	楕円形	94×77・75×45・31	31×26	無
13	17	楕円形	105×73・90×60・23	40×50	無
14	土坑 101	楕円形	142×100・127×92・35	52×40	無
33×20				無	

第27表 浄禅寺跡遺跡第27地点土坑一覧表

(単位cm)

No	旧No	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	1	楕円形	108~88	57~54	64.3
2	3	楕円形	113~78	90~58	27.0
3	5	楕円形	93~51	48~18	24.0
4	7	楕円形	113~58	98~24	27.0
5	10	(楕円形)	85~75	32~22	70.9
6	25	不明	91~(30)	75~(16)	9.4
7	36	円形	74~71	14~9	32.7
8	41	楕円形	147~103	115~79	55.9
9	43	円形	109~88	83~68	36.7
10	30	円形	137~119	103~101	63.1
11	103	方形	150×118	132×103	76.6
12	102	円形	132~125	102~84	42.2
13	112	方形	135×118	114×78	69.2

No	旧No	平面形態	確認面径	底径	深さ
14	31	楕円形	123~80	78~62	28.8
15	111	円形	106~96	87~71	36.7
16	104	方形	87×77	55×54	34.5
17	105	楕円形	117~87	72~58	50.0
18	106	方形	102×77	70×50	29.0
19	107	楕円形	122~82	80~45	39.2
20	44	円形	173~165	150~133	53.8
21	113	(楕円形)	(52)~89	(39)~65	20.9
22	115	楕円形	89~67	70~56	17.9
23	116	(円形)	77~66	32~22	20.9
24	114	楕円形	167~78	148~61	12.4
25	117	楕円形	123~50	103~27	22.3
26	P114	楕円形	109~85	60~45	23.1

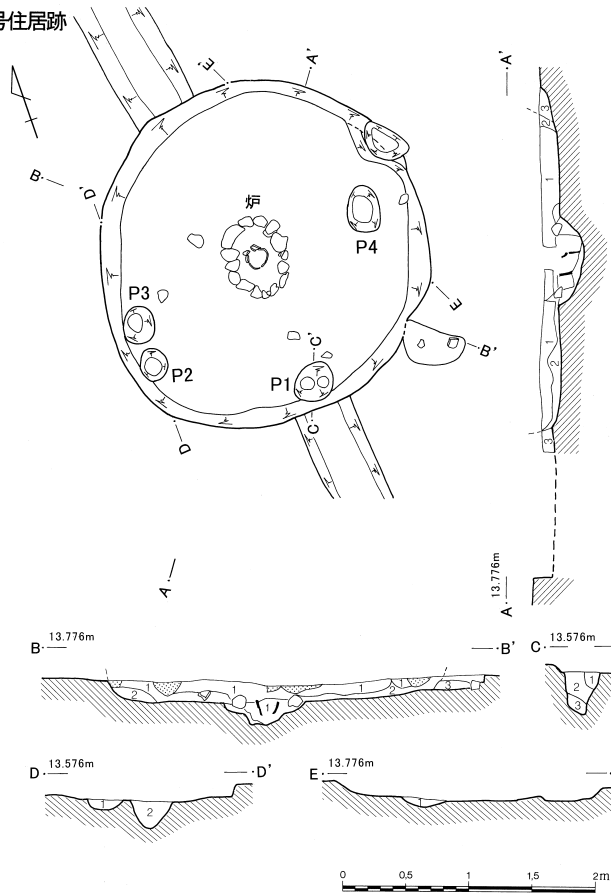
第28表 浄禅寺跡遺跡第27地点ピット一覧表

(単位cm)

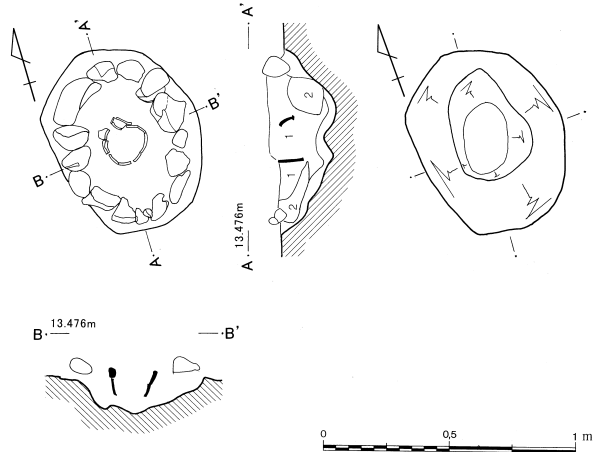
No	旧No	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	60B	(円形)	76~(29)	40~(6)	25.0
2	61	円形	35~33	20~18	17.8
3	62	(楕円形)	(46)~39	31~19	13.2
4	63	楕円形	64~56	14~11	28.3
5	64	楕円形	82~61	68~39	16.3
6	65	(楕円形)	(45)~50	(35)~32	14.2
7	66	(楕円形)	(55)~65	(41)~49	18.4
8	108	円形	27~25	15~9	20.7
9	104	(円形)	(31)~31	16~12	17.8
10	105	(円形)	(21)~31	8~7	16.2
11	107	(楕円形)	(18)~22	(4)~10	26.2
12	106	(楕円形)	61~53	41~26	48.1
13	67	(円形)	50~(41)	23~23	14.8
14	12	円形	40~39	21~14	53.3
15	11	円形	29~28	(11)~(10)	25.5
16	116	楕円形	49~42	13~9	45.2
17	117	不整形	78~59	36~9	32.6
18	109	(楕円形)	(59)~68	(48)~49	25.3
19	118	円形	35~35	18~15	19.1
20	15	円形	38~32	13~8	62.0
21	35	楕円形	46~36	32~29	79.3
22	9	楕円形	49~24	16~10	24.7
23	8	円形	34~32	24~(18)	16.3
24	119	楕円形	44~32	31~12	15.6
25	120	楕円形	49~38	34~27	22.2
26	121	不整形	85~54	30~15	44.2
27	122	不整形	(49)~48	30~27	18.9
28	123	不整形	(39)~46	(21)~17	15.7

No	旧No	平面形態	確認面径	底径	深さ
29	59	円形	40~37	32~(15)	78.9
30	19	(楕円形)	(50)~60	(39)~49	18.7
31	58	楕円形	85~64	59~53	46.3
32	23	円形	87~80	7~7	88.9
33	111	円形	73~43	67~43	26.2
34	112	楕円形	86~65	55~45	22.8
35	127	円形	50~45	27~18	27.3
36	4	円形	25~21	9~8	49.3
37	125	(円形)	(40)~(36)	(22)~(20)	20.6
38	3	楕円形	51~43	29~26	16.8
39	2	楕円形	86~66	55~43	29.7
40	1	楕円形	55~21	14~9	39.1
41	28	(円形)	(38)~41	17~(14)	24.8
42	113	不整形	60~36	13~10	28.7
43	126	方形	39×36	17×12	22.0
44	110	楕円形	64~58	36~31	39.2
45	115	方形	63×48	29×23	26.6
46	33	円形	37~33	10~7	65.6
47	34	楕円形	48~40	29~19	22.6
48	36	(円形)	(21)~42	(8)~21	15.4
49	42	円形	31~26	17~15	42.4
50	43	円形	39~35	24~(17)	36.6
51	44	円形	55~44	14~12	58.7
52	46	(円形)	60~(58)	45~38	29.0
53	54	不明	73~(25)	47~(11)	12.6
54	102	円形	48~45	8~3	44.5
55	109	円形	65~60	24~13	29.5

2号住居跡



炉



2号住居跡

- 1.黒色土 締り強、粘性有、1mm以下のローム粒多く、焼土粒少し、炭化物極少し含む
- 2.黒褐色土 締り強、粘性有、1mm以下のシミ状ローム少し含む
- 3.黒色土 締り強、粘性有、ほぼ1層に同じだがローム粒・焼土・炭化物少ない
- 4.暗褐色土 締り強、粘性有、ほぼ何も含まない、包含層

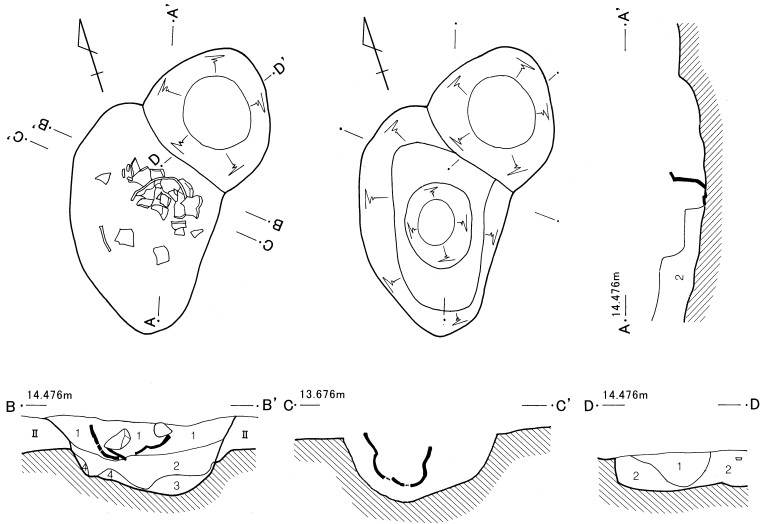
2号住居跡内炉

- 1.黒褐色土 締りやや弱、粘性有、5mm以下の焼土粒多く、焼土・炭化物極少し含む
- 2.黒褐色土 締りやや弱、粘性有、黒褐色土と暗褐色土の混合土、焼土・炭化物はほとんど含まない

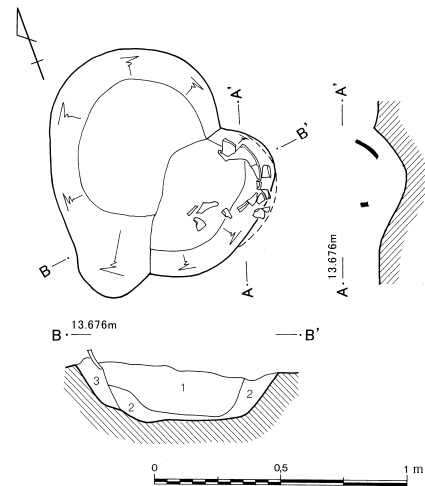
2号住居跡内ピット

- 1.暗褐色土 締り強、粘性有、2mm以下のローム粒少し含む
- 2.黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下のローム粒やや多く、1層をシミ状に少し含む
- 3.暗褐色土 締り強、粘性有、2mm以下のローム粒多く含む、締りは1・2層より弱い

屋外埋甕 1



屋外埋甕 2



屋外埋甕 1

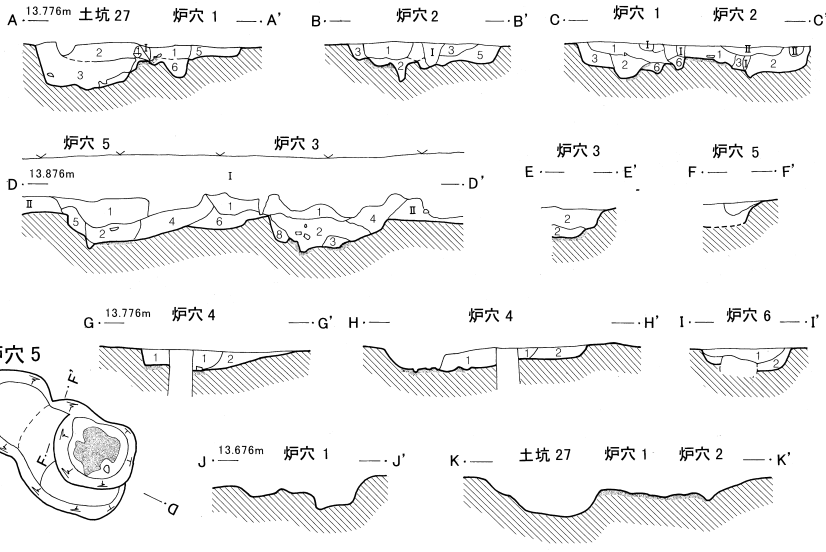
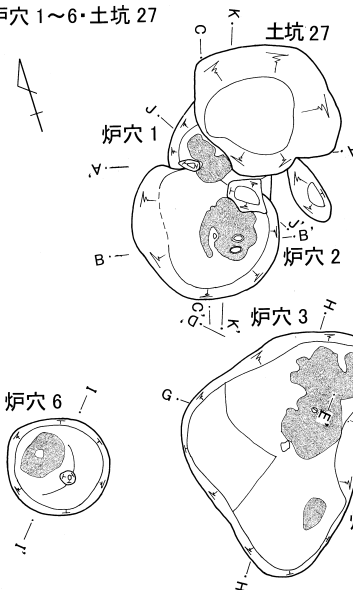
- II.暗褐色土 締り有、粘性やや有、締り強め、粉状のロームやや多く含む
- III.地山ローム
- 1.黒褐色土 締りやや弱、粘性やや弱、黒味強く、粉状ローム粒微量含む
- 2.暗褐色土 締り強、粘性有、色調暗め、粉状のローム粒微量含む
- 3.暗褐色土 締り強、粘性有、シミ状のロームブロックと微量の焼土を含む
- 4.暗黄褐色土 締り強、粘性有、ローム分多く含む土質で、ロームブロックは、はっきりしているものを少量含む

屋外埋甕 2

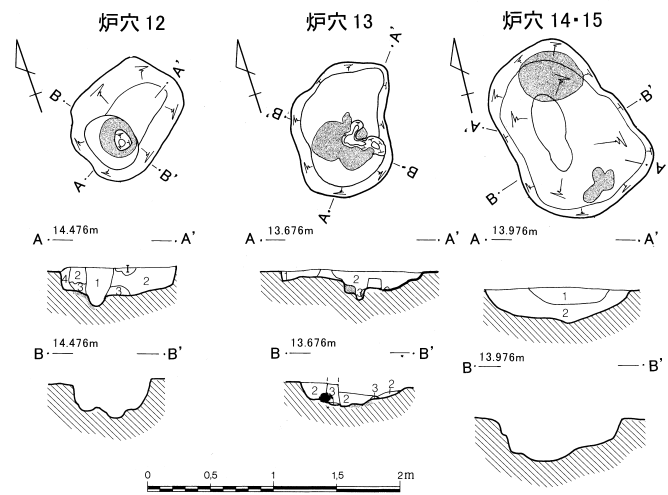
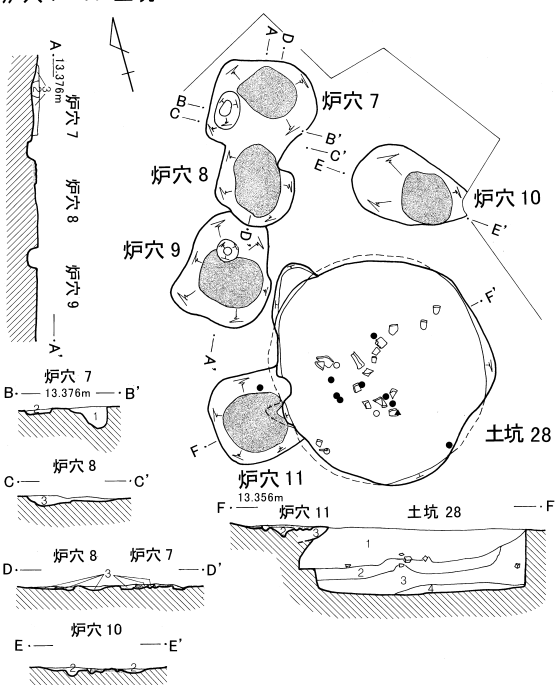
- 1.黒褐色土 締り強、粘性有、1mm以下のローム粒を極少し含む以外、ほぼ何も含まない  
P104~106の1層に類似
- 2.暗褐色土 締り強、粘性有、暗褐色土をベースに1層を(2cm以下)シミ状に少し含む  
P104~106の2層に類似
- 3.暗褐色土 締り強、粘性有。

第67図 浄禅寺跡遺跡 2号住居跡 (1/60)、炉・屋外埋甕 (1/30)

炉穴 1~6・土坑 27



炉穴 7~11・土坑 28



- 炉穴 13
1. 黒褐色土 締りやや弱、粘性有。ソフト質ロームブロック含む
  2. 暗褐色土 締り有、粘性有。1~3 mmの焼土やや多く、上部に黒褐色土がシミ状に混ざる
  3. 暗褐色土ベース 締り硬質、粘性無。1~1.5 cmの焼成面が崩れた焼土ブロック多量に含む
  4. 暗褐色土 締り有、粘性有。5 mm以下の焼土粒と3 mm以下の黄白色化ロームやや多く含む
  5. 暗褐色土 締り有、粘性有。4層に似るが、黒色味有り
- 炉穴 14・15
1. 黒色土 締り強、粘性有。2 mm以下の、焼土を多くローム粒を極少し含む
  2. 黒褐色土 締り強、粘性有。2 mm以下の焼土を少し含む

炉穴 1~3・5

1. 暗褐色土 締り有、粘性有。シミ状黒褐色土やや多く、3 mm以下の焼土・ローム粒が均一に少量、1 cm大のロームブロック微量に含む
2. 暗褐色土 締り有、粘性有。色調暗め、5 mm以下の焼土粒やや多く、2 mm大の炭化物微量に含む
3. 暗褐色土 締り強、粘性有。色調に黒色味が有る、5 mm以下の焼土粒多く含む
4. 暗褐色土 締り強、粘性有。色調明るめ、2~3 mm以下のローム粒を均一に少量含む
5. 暗褐色土 締り強、粘性有。暗褐色土とロームブロックの密な堆積、2 mm以下の焼土を均一に含む
6. 暗褐色土 締り強、粘性有。色調明るめ、2 mm以下の焼土少量、5 mm以下の炭化物微量に含む
7. 暗褐色土 締り強、粘性有。色調暗めで混入は少なく、2 mm以下の焼土・炭化物少量含む
8. 黄褐色土 締り強、粘性有。Ⅲ層に似るローム層、シミ状の暗褐色土・2 mm以下の焼土少量含む

炉穴 4

1. 黒褐色土 締り有、粘性有。2 mm以下の、焼土を多量、炭化物極少量含む
2. 暗褐色土 締り有、粘性有。2 mm以下のシミ状焼土極少し含む

炉穴 6

1. 黒褐色土 締り強、粘性有。3 mm以下の焼土粒多く含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有。3 mm以下の焼土粒極少し含む

炉穴 7~10

1. 暗褐色土 締り強、粘性有。5 mm大のロームブロック少量、1 mm以下の炭化物微量含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有。ロームブロック
3. 黒褐色土 締り強、粘性有。シミ状に1 cm以下の暗褐色ロームと、2 mm以下の焼土粒少し含む

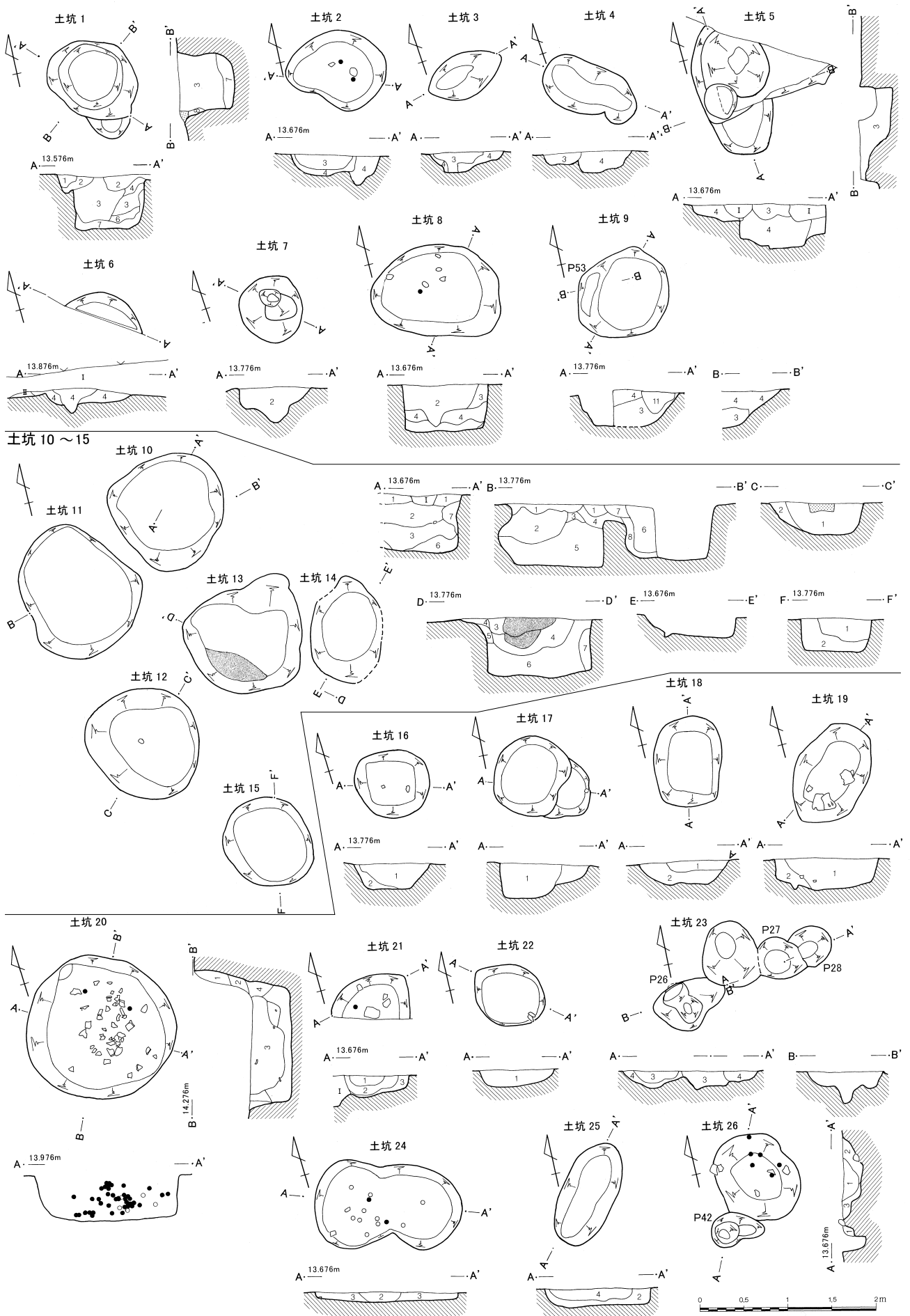
炉穴 11

1. 暗褐色土 締り強、粘性有。黒色土をやや多く含む色調暗め、3 mm以下の焼土多く含む
2. 暗黄褐色土 締り強、粘性有。ローム質土を多く含む色調明るい、3 mm以下の焼土やや多く含む
3. 暗黄褐色土 締り強、粘性有。焼成面の裏側の土、5 mm大のローム粒やや多く、焼土も含む

炉穴 12

1. 暗褐色土 締り強、粘性有。ピット状で確認、色調暗く3 mm以下の焼土やや多く含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有。色調明るく、シミ状のロームブロックやや多く、3 mm以下の焼土少し含む
3. 暗褐色土 締り弱有、粘性有。色調暗く、最下部に1 cm大、3 mm以下の焼土多く、ローム粒やや多く含む
4. 暗褐色土 締り強、粘性弱。ロームブロック多く、3 mm以下のローム粒少量含む、焼土は少ない

第68図 浄禅寺跡遺跡第27地点炉穴・土坑① (1/60)



第69図 浄禅寺跡遺跡第27地点土坑② (1/60)

## 浄禅寺跡遺跡第27地点土坑土層説明

## 土坑1・8・27

1. 暗褐色土 締り強。粘性有。シミ状にロームを含み、1mm以下黄白色土微量含む
2. 暗褐色土 締り強。粘性有。暗褐色土とローム土の割合が1層と逆で全体に色調明るい
3. 暗褐色土 締り強。粘性有。2cm以下シミ状ロームと5mm以下ローム粒少量含む
4. 暗褐色土 締り強。粘性有。2層に似てローム多く含む。暗褐色土は1cm大のブロック化したものが中位に目立つ
5. 暗褐色土 締り強。粘性有。3層に似る。シミ状のロームブロックと5mm以下のローム粒少量含む
6. 暗褐色土 締り強。粘性有。色調暗め。シミ状に黒褐色土と3mm以下のローム粒比較的多く、2mm以下の炭化物微量含む
7. 暗褐色土 締り強。粘性有。色調は2～4層に似て明るめ。シミ状にローム多く含む緻密な堆積
8. 暗黄褐色土 締り有。粘性有。ローム主体で壁際の崩落土、地山ロームに比し色調暗め

## 土坑2～6・9

1. 黒褐色土 締り強。粘性やや弱～有。ロームブロック・1cm以下少量含む。ロームの混入はムラが有る
2. 暗褐色土 締り有。粘性有。ローム粒・1mm以下焼土・シミ状のロームブロック少量、粉状白色粒微量含む。やや細かな空隙目立つ
3. 暗褐色土 締り強。粘性有。色調暗めでローム粒少なく、2cm以下ロームブロックシミ状に少量、2mm以下焼土少量、炭化物微量含む
4. 暗褐色土 締り強。粘性有。全体の色調は明るめで淡い黒色味伴う。2cm以下ロームブロックをシミ状に、2mm以下焼土少量、炭化物微量含む
5. 暗黄褐色土 締り強。粘性有。3cm以下のロームブロックをシミ状に多量、2mm以下の焼土少量含む
6. 暗黄褐色土 締り強。粘性有。5層に似るが、焼土含まない
7. 暗褐色土 締り有。粘性やや弱。ソフト質ロームブロック・ソフト質ローム粒やや多く含む
8. 暗褐色土 締り有。粘性やや弱。ソフト質ローム多く含むパサパサする

## 土坑7・12・19

1. 黒色土 締り強。粘性有。1mm以下ローム・焼土粒少し含む
2. 黒褐色土 締り強。粘性有。1層より明るく、焼土・ローム粒ほとんど含まない。土坑7は2cm以下シミ状ローム多く含む

## 土坑10

1. 暗褐色土 締り強。粘性有。2cm以下ロームブロックシミ状に少量、1mm以下焼土粒少量含む
2. 黒褐色土 締り強。粘性有。ロームブロック無く、2mm以下ローム粒・焼土少量含む
3. 黒褐色土 締り強。粘性有。2層に類似。ソフトロームブロックシミ状に少量含む
4. 暗褐色土 締り強。粘性有。黒褐色土ベースに2cm以下ロームブロック多く含む
5. 黒褐色土 締り強。粘性有。5mm以下ローム粒・ブロック少量含む
6. 暗褐色土 締り強。粘性有。黒褐色土シミ状に、ローム多く5mm以下の焼土やや多く含む
7. 暗褐色土 締り強。粘性有。シミ状ロームブロック多量、ローム粒少し含む

## 土坑11

1. 黒褐色土 締り強。粘性有。1mm以下のローム粒・焼土粒極少し含む
2. 暗褐色土 締り強。粘性有。2mm以下のローム粒・5cm以下のシミ状ローム少し含む
3. 暗褐色土 締り強。粘性有。2mm以下のローム粒少し含む
4. 暗褐色土 締り強。粘性有。2mm以下のローム粒・炭化物・焼土少し含む
5. 暗褐色土 締り強。粘性有。ほぼロームベースに2cm以下の

## ロームブロック少し含む

6. 黒褐色土 締り強。粘性有。2cm以下のロームブロック少し含む他はほぼ黒褐色土
7. 暗褐色土 締り強。粘性有。1層よりローム粒・焼土粒少ない
8. 暗褐色土 締り強。粘性有。6層よりシミ状ローム多く含むロームと黒褐色土の混合

## 土坑13

1. 赤褐色土 締り強。粘性有。良く焼けた焼土層、シミ状に暗褐色土少し含む
2. 暗赤褐色土 締り強。粘性有。焼土面下で良く締り、上層はカリカリ、シミ状焼土多く含む
3. 黒褐色土 締り強。粘性有。5mm以下焼土粒多く含む。炭化物ほとんど含まない
4. 黒褐色土 締り強。粘性有。2mm以下焼土粒・ローム粒を上層に少し、2cm大ロームブロック極少量含む
5. 黒褐色土 締り強。粘性有。1mm大焼土粒・炭化物粒少量含む
6. 黒褐色土 締り強。粘性有。5cm以下ロームブロック少量含む
7. 暗褐色土 締り強。粘性有。ほぼローム崩落土ベースに黒褐色土少し含む
8. 暗赤褐色土 締り強。粘性有。ロームが赤褐色に焼けた感じ、焼土塊・粒多量に含む底部近くで三角堆積状部分が焼けたように見え、堆積土の可能性有り

## 土坑15・17・18

1. 黒色土 締り強。粘性有。2mm以下焼土多く、同ローム粒極少し含む
2. 黒褐色土 締り強。粘性有。2mm以下焼土多く含む

## 土坑20

1. 黒色土 締り弱。粘性有。表土、耕作土
2. 黒色土 締り弱。粘性有。1mm以下白色粒極少し、5mm以下シミ状ローム少し含む(包含層)
3. 黒色土 締り強。粘性有。1mm大ローム粒・焼土・炭化物やや多く、遺物多く含む
4. 暗褐色土 締り強。粘性有。2mm以下ローム粒多く含む。包含層崩落土
5. 暗褐色土 締り強。粘性有。2mm以下ローム粒多く含む。4層よりも暗く、ローム粒多い
6. 黒褐色土 締り強。粘性有。2mm以下ローム粒と3cm以下シミ状ローム少し含む、

## 土坑23

1. 黒褐色土 締り強。粘性有。1mm以下ローム粒やや多く、同焼土極少し含む
2. 黒褐色土 締り強。粘性有。2cm以下シミ状暗褐色土を斑状に多く、1mm以下ローム粒極少し含む
3. 黒褐色土 締り強。粘性有。2層より暗く、暗褐色土は2層より多く、1mm以下ローム粒極少し含む
4. 黒褐色土 締り強。粘性有。2層と同程度の色調、斑状に含む暗褐色土多く、1mm以下ローム粒少し含む

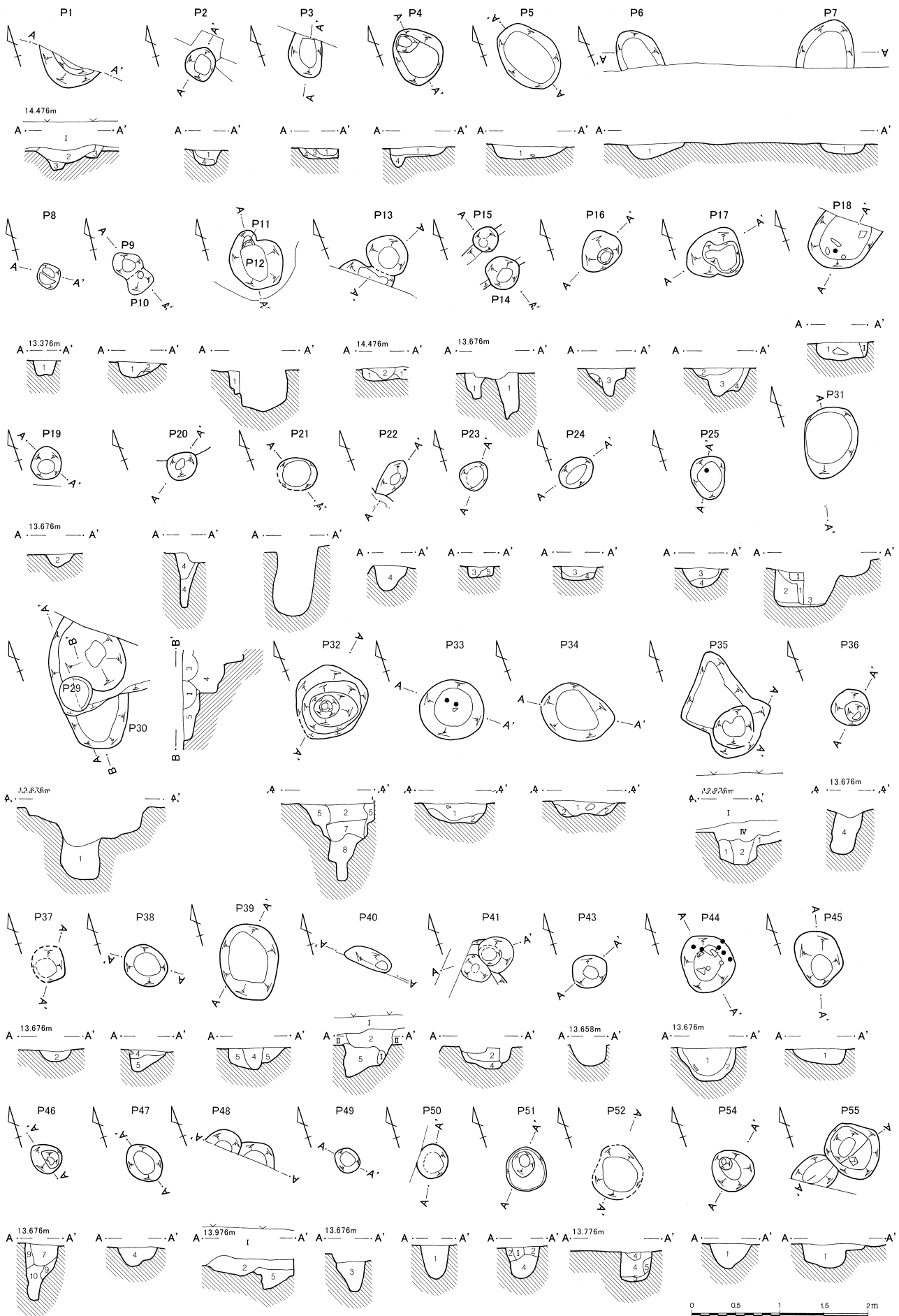
## 土坑28

1. 黒褐色土 締り強。粘性有。5mm以下ローム粒と2mm以下の炭化物・焼土多く含む
2. 黒褐色土 締り強。粘性有。1cm以下ロームブロック多く、1mm以下の炭化物・焼土極少し含む
3. 黒褐色土 締り強。粘性有。1cm以下ロームブロック少し、1mm以下の炭化物・焼土極少し含む
4. 暗褐色土 締り強。粘性有。ロームと黒褐色土を同程度斑状に含む

## 土坑21・22・24～26ピット114

1. 暗褐色土 締り有。粘性有。1mm以下焼土・ローム粒少し、1mm以下炭化物微量含む
2. 暗褐色土 締り有。粘性有。2mm大ローム微量、1mm以下ロームやや多く1層に比し色調明るく、シミ状ロームブロック含む
3. 暗褐色土 締り有。粘性有。ローム多く含む色調は明るい、シミ状に色調暗めの暗褐色土含む
4. 黒褐色土 締り有。粘性有。1～1.5cm大ロームブロックと1mm以下ローム粒少量含む





第70図 浄禅寺跡遺跡第27地点ピット (1/60)

浄禅寺跡遺跡第27地点ピット土層説明

ピット1～7・13

1. 暗褐色土 締り強. 粘性有. 色調暗. 粉状ローム・焼土粒・シミ状ロームブロック含む
2. 黒褐色土 締りやや弱. 粘性やや弱. 黒味強く. 粉状ローム粒微量含む
3. 暗褐色土 締り強. 粘性有. シミ状のロームブロックと. 微量の焼土を含む
4. 暗黄褐色土 締り強. 粘性有. ローム分多く. はっきりしたロームブロック少量含む

ピット8

1. 暗褐色土 締り強. 粘性有. ローム質で色調明るい. 1cm大シミ状ロームブロック. 1mm大ローム粒少量含む

ピット9・10・12

1. 黒褐色土 締り強. 粘性有. ほとんど何も含まない黒褐色土 (縄文)
2. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 1層よりやや明るく. ロームに近いが. 何も含まない
3. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 2mm以下ローム粒多く. 同炭化物極少し含む. 縄文時代遺構覆土層

ピット11

1. 暗褐色土 締り強. 粘性有. 5～10mmロームブロック少量. 2mm以下ローム粒やや多く. 5mm以下炭化物・焼土微量含む

ピット14・15・20～23・29・30・32・35・36・38～41・46～53

1. 黒褐色土 締り強. 粘性やや弱～有. ロームブロック・1cm以下粒少量含む. ロームの混入にはムラが有る
2. 暗褐色土 締り有. 粘性有. ローム粒・1mm以下焼土・シミ状ロームブロック少量. 粉状白色粒微量含む. やや細かな空隙が目立つ
3. 暗褐色土 締り強. 粘性有. 色調暗めでローム粒少ない. 2cm以下ロームブロックシミ状に少量. 2mm以下焼土少量. 炭化物微量含む
4. 暗褐色土 締り強. 粘性有. 色調明るめで淡い黒色味を伴う. 2cm以下ロームブロックシミ状に. 2mm以下焼土少量. 炭化物微量含む
5. 暗黄褐色土 締り有. 粘性有. 3cm以下ロームブロックシミ状に多量. 2mm以下焼土少量含む
6. 暗黄褐色土 締り強. 粘性有. 5層に似るが. 焼土を含まない
7. 暗褐色土 締り有. 粘性有. 1.5cm以下ロームブロック少量. シミ状黒褐色土と3mm以下ローム粒やや多く含む
8. 黒褐色土 締り有. 粘性やや弱. 2mm以下ローム粒少量含む
9. 黒褐色土 締り有. 粘性有. ソフトロームブロック多量に含む
10. 黒褐色土 締り弱. 粘性弱. ローム粒少量含む
11. 暗褐色土 締り有. 粘性有. 上部に黒褐色土. 全体に1.5cm以下ロームブロックと5mm大ローム粒やや多く含む

ピット16～19・24～28・37・42 (土坑23の土層に同じ)

ピット31

1. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 2mm以下焼土やや多く. 1mm以下ローム少量含む
2. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 3mm以下ローム少量含む. 1層に比し明るい
3. 暗褐色土 締り強. 粘性有. ローム主体でシミ状に黒褐色土を. 5mm以下焼土多く含む

ピット33・34・45

1. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 1mm大ローム粒・炭化物・焼土粒少し含む
2. 暗褐色土 締り弱. 粘性有. ロームベースにシミ状に黒褐色土極少し含む

ピット35

1. 黄褐灰色土 締りやや弱. 粘性やや弱. ロームブロックを含む表土・耕作土
2. 1層の一部 色調暗めで. ローム粒を少量含む

ピット54

1. 黒色土 締り弱. 粘性有. 2mm以下ローム粒多く含む (近世ピット)

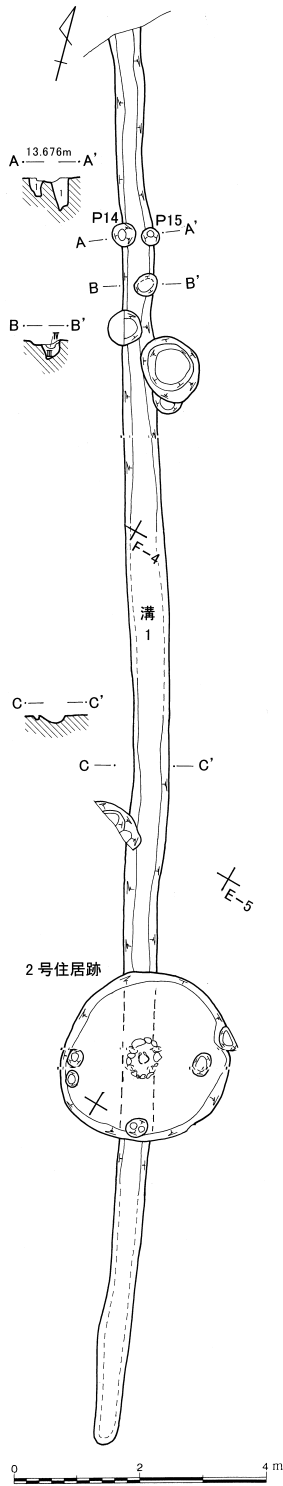
ピット44

1. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 1mm以下のローム粒・焼土粒を少し含む
2. 黒褐色土 締り強. 粘性有. ほとんど何も含まない (ピット104～106の1層に同じ)

溝

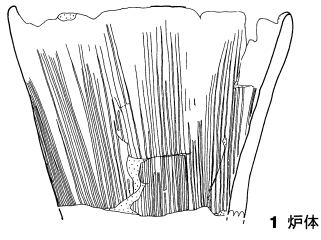
Ⅲ. 黄褐灰色土 締り強. 粘性有. シミ状の暗褐色土を含むローム層. 縄文遺物も混入して点在する. 古い根攪乱を伴う地山

Ⅳ. 黄褐色土 締り強. 粘性有. 地山のローム層 (掘過)



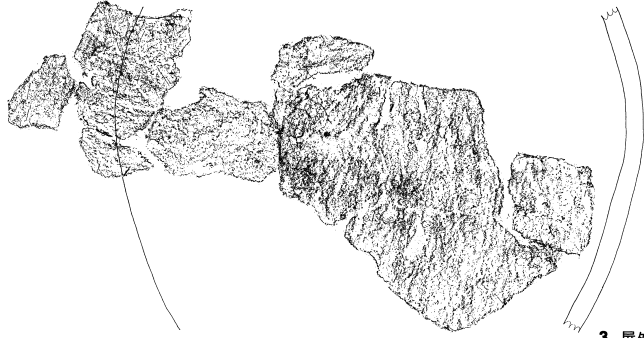
第71図 浄禅寺跡遺跡第27地点溝 (1/120)

2号住居跡

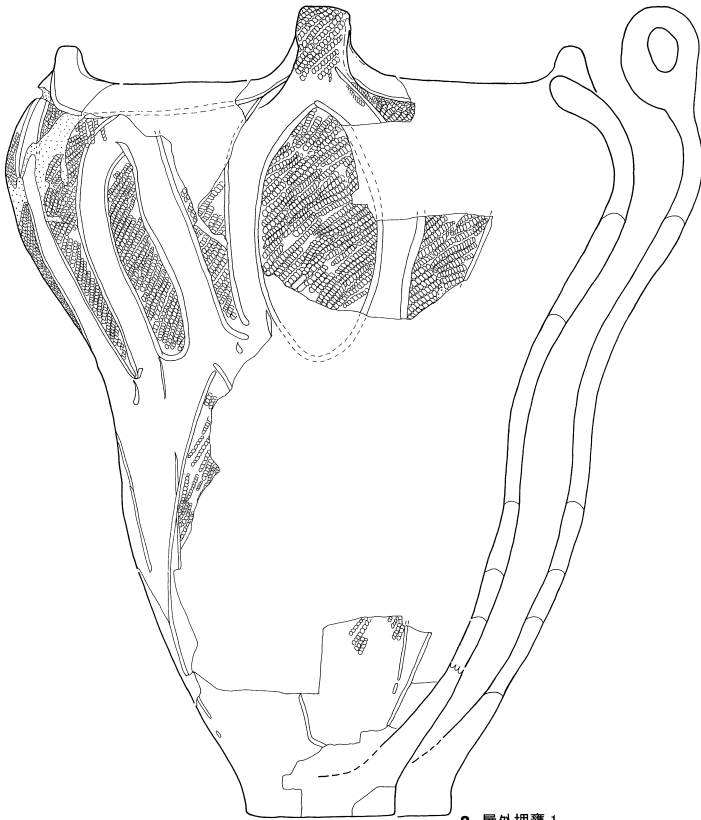
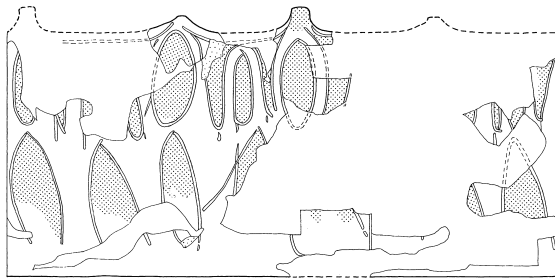


1 炉体

屋外埋甕 1・2

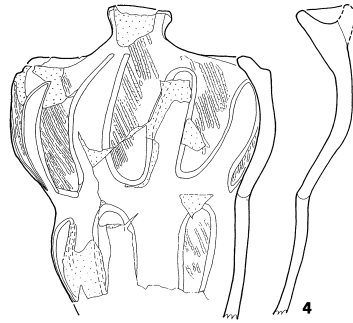
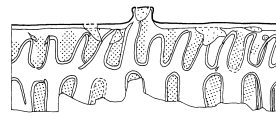


3 屋外埋甕 2

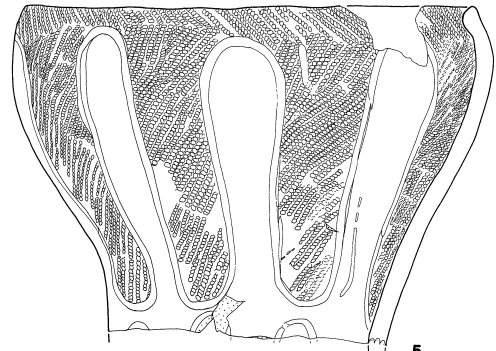
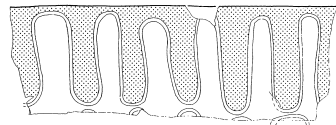


2 屋外埋甕 1

土坑 19



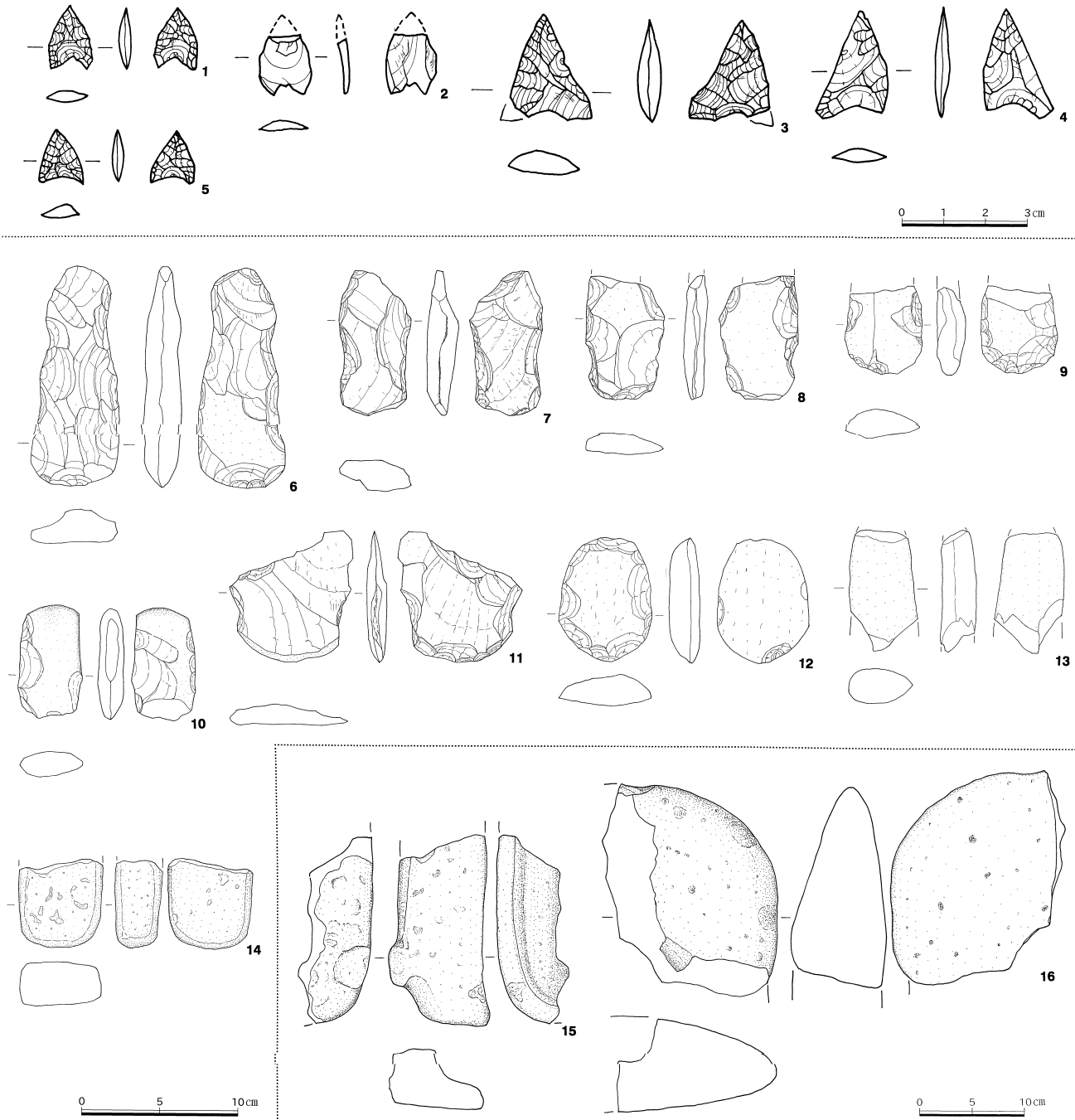
4



5

0 5 10cm

第72図 浄禅寺跡遺跡第27地点出土土器 (1/4)



第73図 浄禅寺跡遺跡第27地点土坑・遺構外出土石器 (1/6・1/4・2/3)

第29表 浄禅寺跡遺跡第27地点出土石器一覧表

No	種別	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	出土遺構	残存・備考
1	石鏃	黒曜石	1.5	1.0	0.2	0.4	土坑20	完形
2	石鏃	チャート	1.3	1.0	0.3	0.36	表土	一部欠損
3	石鏃	チャート	1.4	1.2	0.2	0.48	表土	一部欠損
4	石鏃	黒曜石	2.5	1.7	0.5	2.21	トレンチ3	完形
5	石鏃	チャート	2.6	1.7	3.0	1.27	表土	完形
6	打製石斧	珪質細粒砂岩	7.7	4.5	2.0	106.46	トレンチ2	完形
7	打製石斧	珪質黒色砂質頁岩	7.1	3.9	1.6	71.49	トレンチ2	完形
8	打製石斧	珪質細粒砂岩	5.6	4.9	1.9	66.3	表土	一部欠損
9	打製石斧	珪質黒灰色細粒砂岩	8.4	7.8	1.3	83.73	表土	一部欠損
10	打製石斧	中粒砂岩	7.9	4.9	1.3	66.25	トレンチ3	一部欠損
11	打製石斧	黒灰色細粒砂岩	7.9	6.0	2.0	66.3	トレンチ3	一部欠損
12	打製石斧	粗粒玄武岩?	8.4	7.8	1.3	70.0	表土	完形
13	敲石	珪質灰色細粒砂岩	14.0	5.5	2.5	193.0	表土	一部欠損
14	磨石	微晶質安山岩	5.6	5.6	2.9	117.32	トレンチ6	一部欠損
15	脚付石皿	黒色安山岩	18.1	6.7	5.7	839.4	土坑21	1/6 残存
16	石皿	花崗閃緑岩	18.8	15.8	8.7	2,774.0	表土	1/4 残存

### 第3章 本村遺跡第115地点の本調査

#### I 本調査の概要

調査区は、本村遺跡の東側に位置する。南に砂川堀が流れ、北側には旧砂川の埋没谷が確認されている。

道路を隔てて東側に第62地点、北側に第15・82地点が位置し、旧石器時代、中世・近世の遺構と遺物が多数確認されている。

本調査は2005年12月19日から2006年1月31日まで、残土置き場の関係から調査区を南北半分ずつに分けて行った。重機による表土除去後、人力による調査を行った。調査区には、東側道路との境界杭を基軸とする4m方眼の区画を設定し、東から西へA・B・C・、北から南へ1・2・3・の番号を付した。

#### II 遺構と遺物

遺構は覆土層の観察から全て中世・近世に属する。

##### (1) 土坑

土坑は15基検出した。土坑1・5・6・7は「L」字形を呈し、ピットと重複するものもある。

##### (2) ピット・掘立柱建物跡

ピットは166基検出した。このうち掘立柱建物跡とみられるものが数棟ある。

##### (3) 溝

溝は8本検出した。溝5を境に南北で土地利用が大きく異なるため、屋敷地の内外を仕切る溝と考えられる。

##### (4) 井戸

井戸は11基検出した。全て素掘りで井戸枠などの痕跡は確認されなかった。平面形態から円形、方形、楕円形（隅丸長方形）に大別できる。楕円形（隅丸長方形）のものは、礫層を掘り込んでいるため井戸としたが、他の遺構の可能性もある。井戸7は平面形、断面底部の段差から重複の可能性はある。

##### (5) 掘立柱建物跡

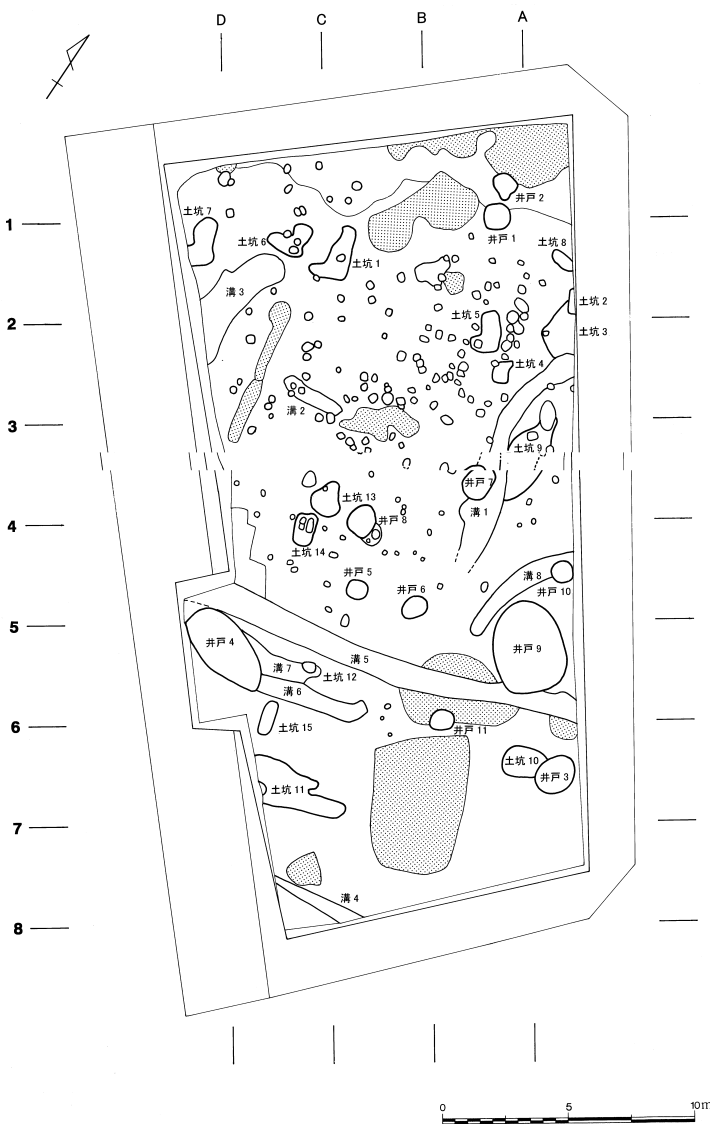
掘立柱建物跡については第75図のとおりで、ピットの平面配置から建物跡とした。

##### (6) 遺物

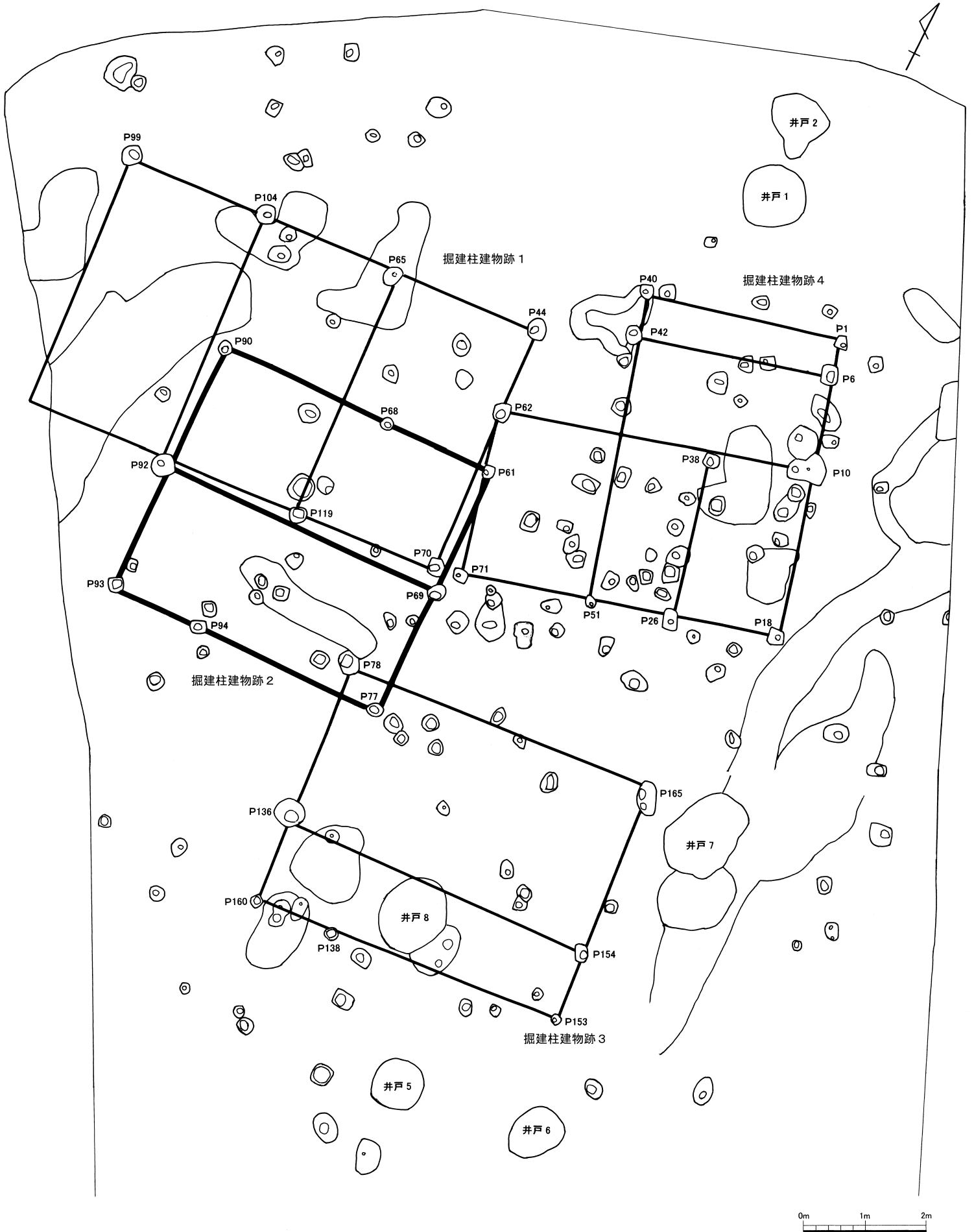
出土遺物は第35表本村遺跡第115地点出土遺物一覧表のとおりである。

第30表 本村遺跡第115地点土坑一覧表 (単位cm)

No	旧No	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	1	不整形	213~148	127~22	41.6
2	2	不明	94~(28)	68~(15)	28.7
3	3	不明	(212)~(134)	(162)~(105)	19.8
4	4	方形	90×50	72×53	16.8
5	5	不整形	156~116	143~93	10.2
6	6	不整形	153~134	(121)~(106)	7.9
7	7	不明	180~77	115~30	26.7
8	8	楕円形	112~45	89~30	11.0
9	9	不整形	(306)~70	(215)~43	31.7
10	11	(楕円形)	(139)~118	(123)~88	5.8
11	12	(不整形)	(355)~81	(339)~57	18.0
12	14	方形	7060	35×33	46.7
13	15	不整円形	131~116	115~100	11.5
14	16	楕円形	134~69	(113)~50	10.8
15	3トレ 土坑5	楕円形	149~77	124~64	14.0



第74図 本村遺跡第115地点遺構配置図 (1/300)



第75図 本村遺跡第115地点掘立柱建物跡 (1/100)

第31表 本村遺跡第115地点ピット一覧表①

(単位cm)

No	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	方形	23×23	9×8	61.8	
2	方形	25×24	10×6	37.0	
3	方形	26×22	7×6	41.9	
4	方形	27×23	14×11	26.0	
5	扇形	37~35	17~7	55.1	
6	方形	33×27	19×12	65.8	
7	楕円形	67~35	29~10	36.5	
8	方形	30×21	7×5	39.6	
9	円形	(53)~53	13~12	26.1	
10	楕円形	65~30	54~19	37.0	
11	楕円形	25~17	10~7	16.2	
12	円形	(32)~26	15~14	61.4	
13	不明	(40)~31	17~14	73.4	
14	三角形	25~18	11~9	44.1	
15	円形	24~23	9~8	30.7	
16	円形	30~28	15~13	85.7	
17	不明	22~(10)	11~(4)	23.3	
18	方形	26×24	8×8	42.6	
19	方形	24×20	14×12	26.7	
20	楕円形	34~25	10~9	47.0	
21	円形	30~24	17~8	16.0	
22	方形	50×31	16×16	34.5	
23	円形	26~24	6~6	32.1	
24	三角形	32~22	12~10	62.8	
25	—	—	—	—	
26	方形	35×25	11×7	33.3	
27	楕円形	28~17	14~8	16.0	
28	方形	28×22	14×13	20.0	
29	三角形	29~20	9~8	31.9	
30	方形	31×24	11×10	27.4	
31	方形	22×18	10×8	23.8	
32	(方形)	(26)×34	12×10	53.9	
33	円形	25~25	11~9	28.8	
34	円形	31~28	20~17	76.4	
35	円形	25~20	6~5	46.6	
36	方形	24×23	13×8	29.8	
37	方形	34×23	15×13	49.7	
38	方形	25×23	13×13	24.0	
39	方形	20×20	6×5	19.1	
40	円形	24~23	7~7	46.0	
41	円形	29~28	11~7	16.2	
42	円形	30~26	14~9	33.4	
43	三角形	27~22	16~12	17.7	
44	楕円形	37~30	15~10	30.7	
45	円形	30~30	14~13	26.2	
46	円形	28~25	7~4	46.5	
47	方形	43×24	24×17	42.0	
48	不明	29~29	10~6	40.2	
49	不明	41~26	9~8	41.2	
50	不明	34~30	15~11	28.1	
51	扇形	23~17	8~6	44.0	
52	楕円形	36~23	7~5	42.6	
53	方形	22×22	(12)×(7)	48.6	
54	方形	21×16	10×6	19.2	
55	楕円形	33~20	16~12	15.0	
56	方形	29×29	12×10	45.7	
57	(楕円形)	(50)~48	24~10	38.7	
58	(円形)	26~(23)	11~9	46.9	
59	方形	18×14	6×6	13.1	

No	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
60	方形	33×27	21×17	26.3	
61	方形	21×18	10×5	20.6	
62	円形	35~28	15~9	28.4	
63	楕円形	37~29	15~14	19.0	
64	方形	29×27	(9)×(8)	52.4	
65	円形	35~27	7~5	37.2	
66	円形	23~22	8~7	10.0	
67	円形	31~26	8~8	27.6	
68	円形	20~20	10~7	40.8	
69	五角形	30~26	14~13	23.1	
70	方形	30×25	16×11	13.5	
71	方形	24×20	7×5	18.8	
72	方形	34×30	14×10	21.4	
73	円形	29~27	18~17	24.2	
74	円形	26~24	17~15	10.5	
75	方形	29×28	20×14	31.0	
76	方形	22×19	13×11	22.6	
77	楕円形	29~23	16~11	17.5	
78	楕円形	40~33	22~16	17.1	
79	方形	28×27	16×15	35.1	
80	方形	18×18	8×8	34.4	
81	楕円形	30~16	12~9	19.1	
82	円形	20~15	8~6	11.3	
83	方形	25×23	14×12	34.1	
84	円形	28~23	12~7	21.0	
85	楕円形	24~18	15~8	28.8	
86	方形	28×26	6×4	30.8	
87	円形	45~41	31~27	52.5	
88	円形	30~25	18~15	50.0	
89	円形	35~32	15~10	24.5	
90	円形	25~21	12~11	44.3	
91	円形	25~24	7~5	41.3	
92	円形	40~37	11~10	50.2	
93	方形	25×25	16×13	55.1	
94	方形	27×21	12×12	34.4	
95	方形	25×23	16×13	39.6	
96	円形	20~17	12~10	25.9	
97	円形	28~28	17~16	28.6	
98	方形	56×44	38×13	23.8	
99	方形	31×31	20×12	36.5	
100	(円形)	32~(26)	10~6	50.9	
101	方形	26×21	11×10	50.4	
102	楕円形	33~24	20~10	37.0	
103	(楕円形)	30~(16)	9~7	44.8	
104	円形	31~31	14~9	31.1	
105	円形	28~24	11~10	38.7	
106	楕円形	39~28	12~10	29.5	
107	方形	29×24	14×8	52.6	
108	円形	23~21	9~4	18.9	
109	円形	25~24	11~10	42.2	
110	円形	40~34	8~7	24.4	
111	方形	20×17	8×6	33.1	
112	楕円形	30~21	16~7	13.8	
113	方形	24×19	8×7	12.7	
114	楕円形	41~30	13~12	54.0	
115	不明	31~(25)	15~14	54.8	
116	円形	25~23	13~10	20.5	
117	不明	(21)~20	17~(7)	23.1	
118	不明	(31)~27	(25)~12	24.8	

第32表 本村遺跡第115地点ピット一覧表②

(単位cm)

No	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
119	円形	28~25	16~13	56.1	
120	方形	20×17	10×7	33.0	
121	不明	28~(10)	18~(7)	55.2	
122	方形	(30)×27	18×16	68.7	
123	方形	25×22	13×13	35.6	
124	(方形)	48×(34)	28×(27)	29.0	
125	方形	27×21	13×11	41.5	
126	楕円形	21~17	11~10	16.6	
127	楕円形	36~24	13~10	25.1	
128	円形	19~16	7~6	10.4	
129	円形	20~20	15~13	19.7	
130	楕円形	31~23	9~6	47.7	
131	円形	26~23	12~11	51.6	
132	円形	20~18	11~9	30.4	
133	円形	27~24	19~15	48.3	
134	不明	38~22	16~15	30.8	
135	不明	28~27	19~18	37.0	
136	円形	48~44	22~20	59.8	
137	円形	23~20	3~3	40.8	
138	円形	21~20	13~13	30.6	
139	楕円形	35~25	15~14	10.1	
140	方形	35×27	19×16	12.4	
141	円形	34~33	25~25	30.2	
142	楕円形	49~35	18~13	15.6	

No	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
143	楕円形	58~49	5~4	51.1	
144	楕円形	22~19	7~6	26.5	
145	—	—	—		
146	方形	18×18	13×12	19.2	
147	楕円形	30~21	9~9	21.1	
148	方形	36×22	16×15	22.8	
149	方形	21×—	13×9	32.3	
150	楕円形	26~20	18~12	24.8	
151	方形	22×17	8×8	27.5	
152	円形	20~19	8~8	15.1	
153	円形	18~16	8~6	37.7	
154	楕円形	30~21	14~9	56.3	
155	円形	25~21	14~12	41.5	
156	楕円形	48~29	11~9	27.0	
157	楕円形	28~23	20~12	47.0	
158	楕円形	30~23	6~4	23.2	
159	—	—	—		
160	円形	20~20	12~11	26.2	
161	円形	17~15	8~7	24.4	
162	楕円形	40~22	17~15	22.6	
163	楕円形	40~20	8~6	60.7	
164	方形	45×37	13×12	54.2	
165	楕円形	56~29	10~8	44.1	
166	楕円形	41~31	17~13	38.5	

第33表 本村遺跡第115地点溝一覧表

(単位cm)

No	断面形態	上幅	下幅	深さ
1	浅いU字状	60~100	20~44	6~11
2	浅いU字状	46~60	38~40	5.6~11.4
3	V字状	124~160	14~34	56~82
4	浅いU字状	20~70	10~50	3~7
5	V字状	84~112	46~66	15~39
6	U字状	62~72	30~54	4~31.7
7		70~100	40~64	15~19
8	浅いU字状	54~90	28~54	1.8~11.2

第34表 本村遺跡第115地点井戸一覧表

(単位cm)

No	平面形態	確認面形	底形	深さ
1	方形	100	50	129
2	方形	78×96	43×45	120
3	円形	140×170	52×62	160
4	楕円形	210×320	88×190	141
5	円形	82	68×76	161
6	円形	70×98	62×68	189
7	円形	108×152	43×52	157
8	円形	106×128	82×86	125
9	楕円形	284×362	100×134	117
10	円形	85×80	40×65	150

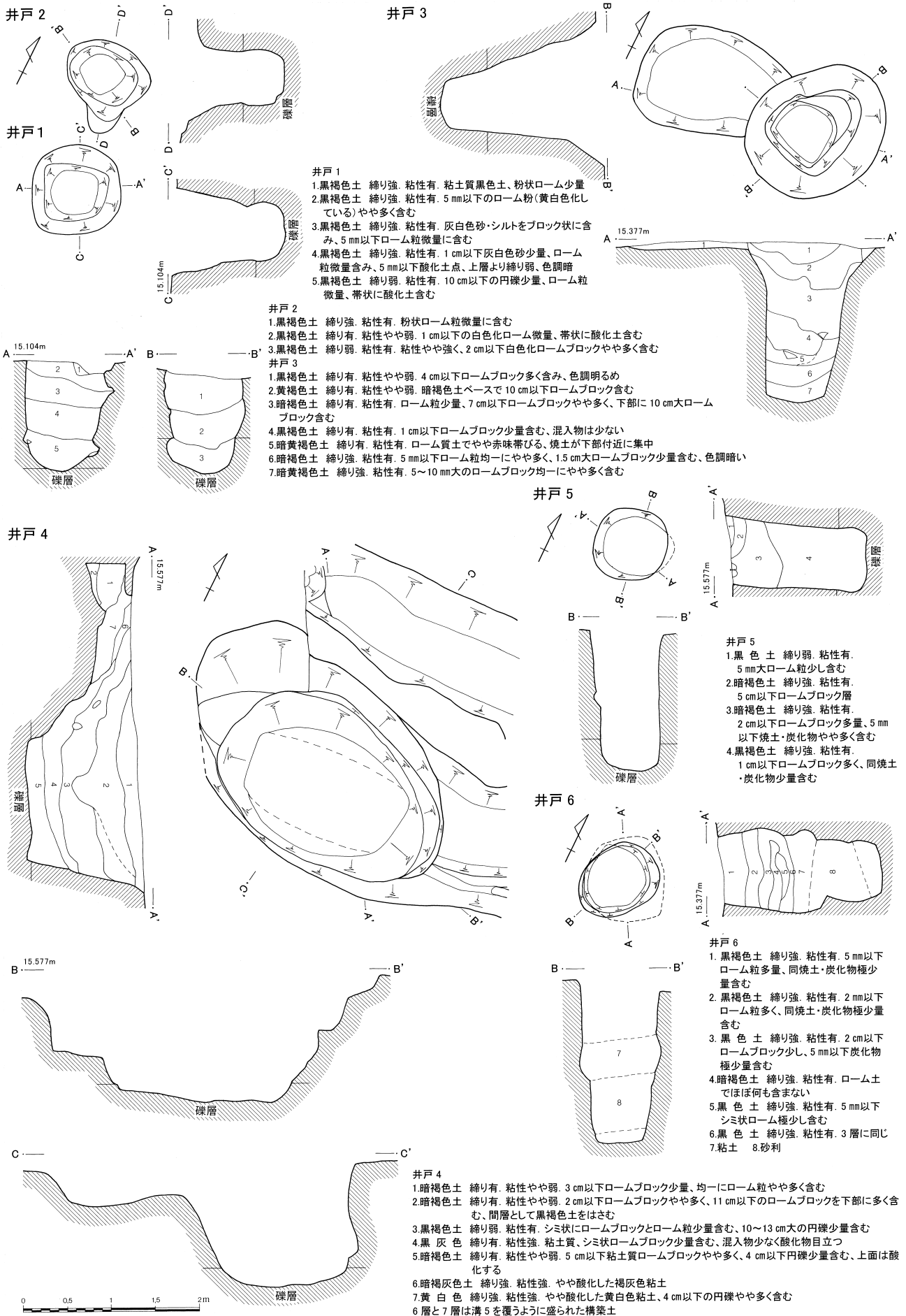




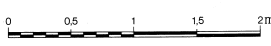
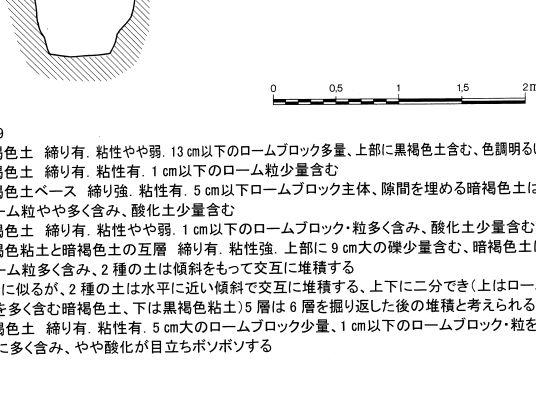
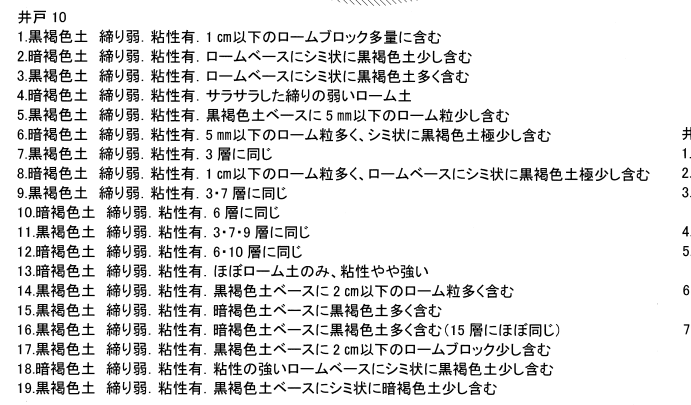
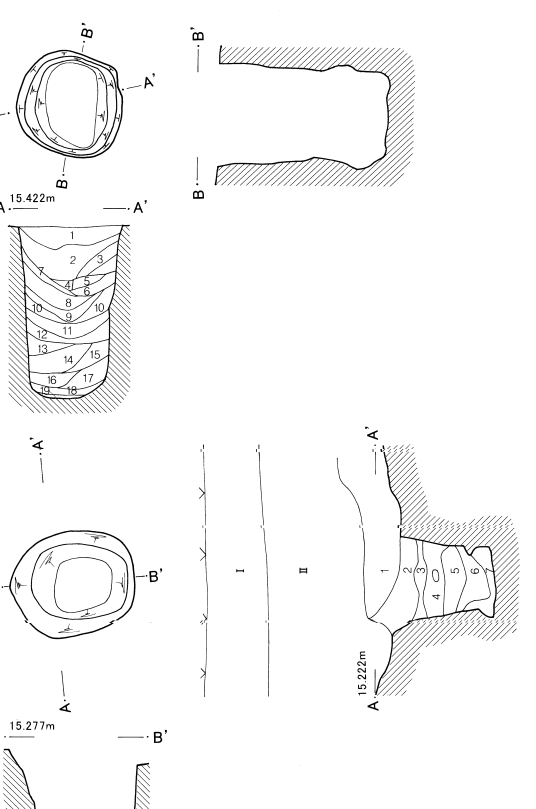
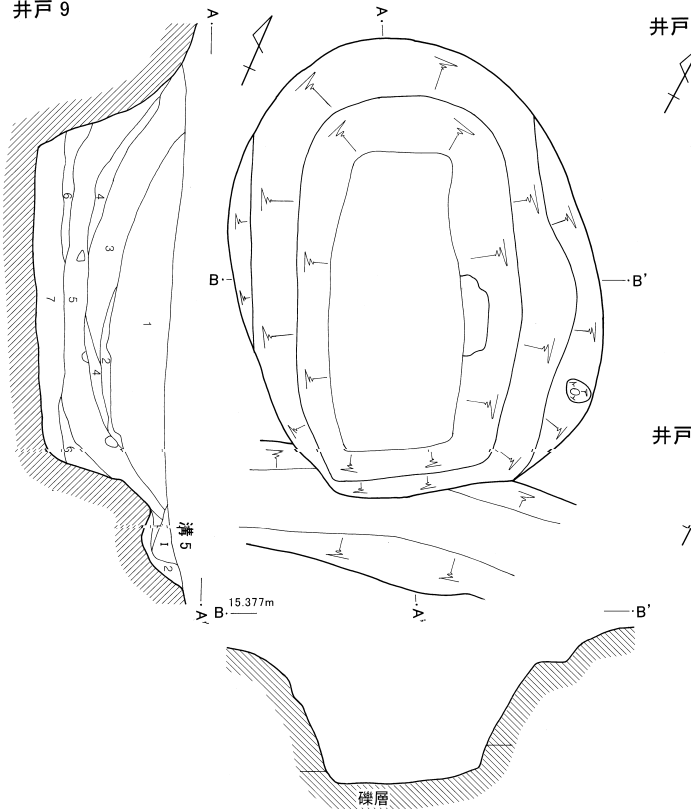
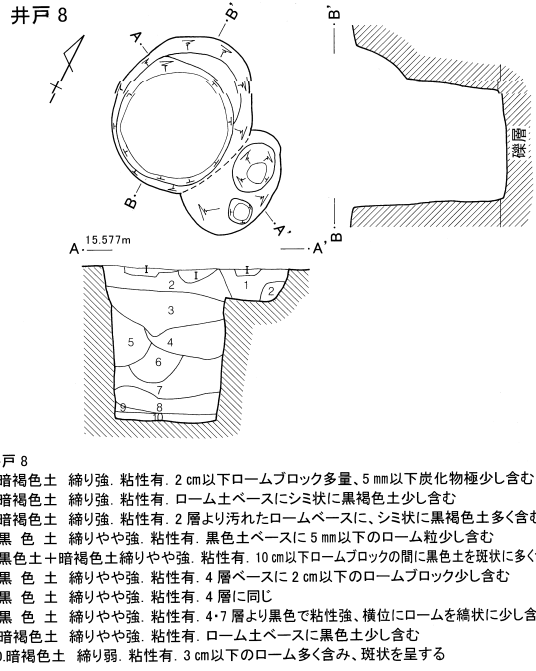
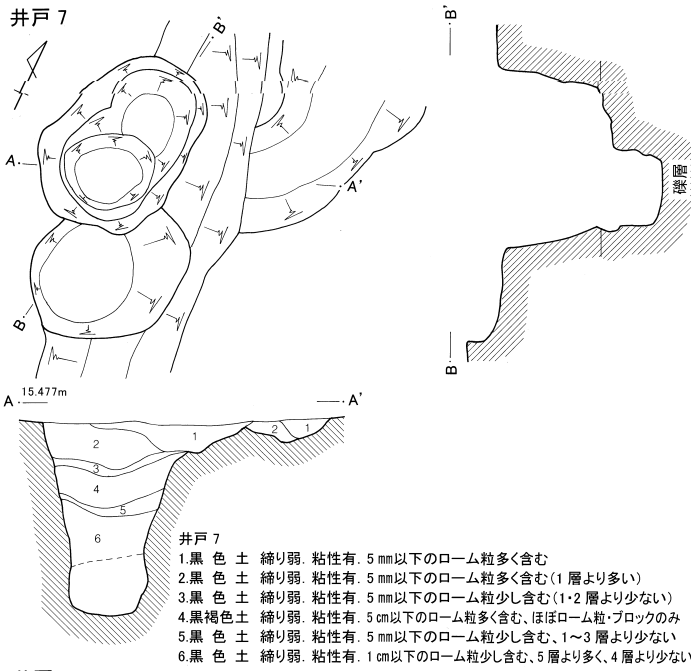
第76図 本村遺跡第115地点土坑①・ピット①・溝① (1/80)







第79図 本村遺跡第115地点井戸① (1/60)



第80図 本村遺跡第115地点井戸② (1/60)

## 土坑1

1. 黒褐色土 締り強。粘性有。粉状のローム粒を均一に少量含む
2. 黒褐色土 締り強。粘性やや弱。1cm大ロームブロック微量、ローム粒多く含む
3. 黒褐色土 締り強。粘性有。1層に比し色調明るめ、粉状ローム少量含む
4. 黒褐色土 締り強。粘性やや弱。1~5cm大ロームブロック目立、ローム粒多く含む
5. 黒褐色土 締り強。粘性やや弱。4層よりローム粒多く色調明、10cm大までのロームブロック多く含む
6. 黒褐色土 締り強。粘性有。粘性の1~3cm大ロームブロック多く、ローム粒少ない
7. 黒褐色土 締り強。粘性有。2cm以下ロームブロック主体に黒褐色土含む

## 土坑2

1. 暗褐色土 締り強。粘性弱。2cm以下ロームブロック多く含む、ボンボン

## 土坑3

1. 暗褐色土 締り有。粘性やや弱。15mm以下のローム粒・ブロックやや多く含む、色調は土坑2の1層より暗め

## 土坑4

1. 暗褐色土 締りやや強。粘性有。3mm以下のローム粒多く、ベースの土は黄灰色味が有りロームブロック多量に含む

## 土坑5

1. 黒褐色土 締り有。粘性有。1cm以下でやや粒の大きいローム粒多く含む

## 土坑6

1. 黒褐色土 締り強。粘性有。2mm以下ローム少量、5mm以下の焼土微量含む

## 土坑7

1. 黒褐色土 締り強。粘性有。3cm以下ロームやや多く、黄褐色土含む
2. 黄褐色土 締り有。粘性有。3cm以下のロームブロック少量、ローム粒多量、7cm以下の黒褐色土ブロック含む、1・2層とも水つぎで酸化

## 土坑8

1. 黒褐色土 締り有。粘性有。ロームブロックやや多く含む

## 土坑9

1. 暗褐色土 締り強。粘性やや弱。ローム土多く含む色調明、2層が攪乱を受けたような土質
2. 暗褐色土 締り強。粘性やや弱。5~20mmのロームブロックやや多く、ローム粒多量に含む、溝8の覆土と比し、色調明るめ

## 土坑10

1. 暗褐色土 締り強。粘性有。5cm以下ロームブロック主体

## 土坑11

1. 暗褐色土 締り強。粘性有。5~1.5cmロームやや多く含む
2. 暗褐色土 締り強。粘性やや弱。5mm以下のローム粒多く、粒徑大きく、南半には1~3cmのロームブロックやや多く含む
3. 暗褐色土 締り有。粘性有。10mm大ロームブロック・ローム粒少量含む

## 土坑12

1. 暗褐色土 締り強。粘性やや弱。粘土質ローム粒密に堆積、シミ状白色粘土ブロック少量、4cm大ロームブロック少量、5mm大炭化物微量含む

## 土坑13

1. 暗褐色土 締り強。粘性有。2cm以下のロームブロック少量、5mm以下のローム粒多量含む、ベースの土は黒色味有り

## 土坑14

1. 暗褐色土 締り強。粘性有。1cm以下のロームブロック多量、最下部に最大2cm厚で黒褐色土多く含む、ベースの土は黄灰色味有り

## 土坑15

1. 暗褐色土 締り強。粘性やや弱。3cm以下のロームブロック多量に含む
2. 黒褐色土 締り有。粘性やや弱。1cm以下ロームやや多く含む

## ビット

1. 黒褐色土 締り強。粘性有。2cm以下ロームブロック、5mm以下ローム粒含む
2. 黒褐色土 締り弱。粘性やや弱。2cm以下ロームブロック、5mm以下ローム粒含む
3. 暗褐色土 締り強。粘性有。ベースの土は黄灰色味で3mm以下ローム粒多く、ロームブロックやや多く含む
4. 暗褐色土 締り弱。粘性やや弱。3mm以下の細かなローム粒多く含む、ベースの土は黄灰色味が有り、ロームブロックもやや多い
5. ローム土 締り強~有。粘性有。ロームブロック・粒主体で隙間を黒褐色土が埋める
6. 黒褐色土 締り強。粘性有。混入物の少ない黒褐色土
7. 黒色土 締り強。粘性有。黄白色粘土粒多く、ロームブロック少量含む
8. 黒色土 締り強。粘性有。上層に比し細かなロームに粘土粒多く、1~2cm大の白色粘土少量含む
9. 黒色土 2層に似るが、粉状のローム多く含む

## 溝1

1. 黒褐色土 締り有。粘性有。1cm大のロームブロック少量、5mm以下のローム粒均一にやや多く含む
2. 暗褐色土 締り強。粘性有。1cm以下ローム粒・ブロックやや多く、2mm大焼土微量含む

## 溝2

1. 暗褐色土 締り有。粘性やや弱。1cm大ロームブロック少量、ローム粒やや多く含む

## 溝3

1. 黒褐色土 締り強。粘性有。1cm大ロームブロック微量ローム粒少量含む
2. 黒褐色土 締り有。粘性有。ローム粒均一にやや多く含む灰色味強い、酸化土粒目立つ
3. 黒褐色土 締り有。粘性有。5~10mmロームブロック少量ローム粒少ない
4. 黒褐色土 締り弱。粘性有。1~1.5cm大ロームブロックやや多く、ローム粒少量含む
5. 黒褐色土 締り強。粘性有。ローム粒多く、灰色味がある(傾斜に沿っ

て流れて堆積) 下部にロームブロック多く含む

## 溝4

1. 黒褐色土 締り強。粘性有。1cm以下のロームブロック・粒少量含む

## 溝5

1. 暗褐色土 締り有。粘性やや弱。1cm以下のローム粒多く、シミ状に黒褐色土含む、井戸4に切られる箇所では締り強い
2. 暗褐色土 締り強。粘性有。暗褐色土ベースにローム粒主体、シミ状に黒褐色土含む、酸化により茶褐色味があり、最下部に黒褐色土が薄く堆積する

## 溝6

1. 暗褐色土 締り強。粘性有。下部に3cm大のロームブロックが集中、全体には5~15mmのロームブロックやや多く含む、ベースの土は黒色味有り

## 溝7

1. 暗褐色土 締り強。粘性やや弱。5cm以下のローム粒・ブロック密に、暗褐色土を帯状に3cm厚で挟む、若干酸化している

## 井戸7

1. 黒色土 締り弱。粘性有。5mm以下のローム粒多く含む
2. 黒色土 締り弱。粘性有。5mm以下のローム粒多く含む(1層より多い)
3. 黒色土 締り弱。粘性有。5mm以下のローム粒少し含む(1・2層より少ない)
4. 黒褐色土 締り弱。粘性有。5cm以下のローム粒多く含む、ほぼローム粒・ブロックのみともいえる
5. 黒色土 締り弱。粘性有。5mm以下のローム粒少し、1~3層より少ない
6. 黒色土 締り弱。粘性有。1cm以下ローム粒少し含む、5層より多く4層より少ない

## 井戸8

1. 暗褐色土 締り強。粘性有。2cm以下ロームブロック多量、5mm以下炭化物極少し含む
2. 暗褐色土 締り強。粘性有。ローム土ベースにシミ状に黒褐色土少し含む
3. 暗褐色土 締り強。粘性有。2層より汚れたロームベース、シミ状黒褐色土多く含む
4. 黒色土 締りやや強。粘性有。黒色土ベースに5mm以下のローム粒少し含む
5. 黒色土+暗褐色土 締りやや強。粘性有。10cm以下のロームブロックの間に黒色土を斑状に多く含む
6. 黒色土 締りやや強。粘性有。4層ベースに2cm以下のロームブロック少し含む
7. 黒色土 締りやや強。粘性有。4層と同じ
8. 黒色土 締りやや強。粘性有。4・7層より黒色で粘性強、ロームを縞状に少し含む
9. 暗褐色土 締りやや強。粘性有。ローム土ベースに黒色土少し含む
10. 暗褐色土 締り弱。粘性有。3cm以下のローム多く含む、斑状呈する

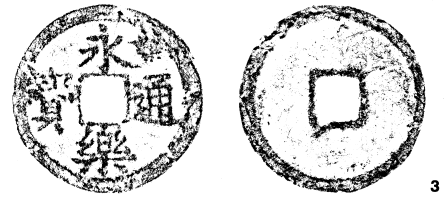
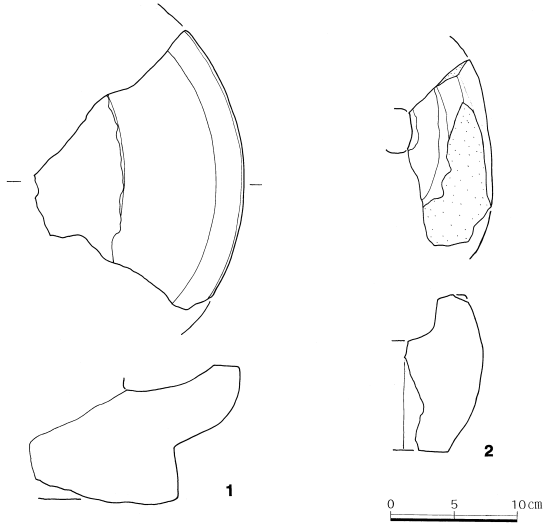
## 井戸10

1. 黒褐色土 締り弱。粘性有。1cm以下のロームブロックを多量に含む
2. 暗褐色土 締り弱。粘性有。ロームベースにシミ状に黒褐色土を少し含む
- 3・7・9・11. 黒褐色土 締り弱。粘性有。ロームベースにシミ状に黒褐色土を多く含む
4. 暗褐色土 締り弱。粘性有。サラサラした締りの弱いローム土
5. 黒褐色土 締り弱。粘性有。黒褐色土ベースに5mm以下のローム粒を少し含む
6. 暗褐色土 締り弱。粘性有。5mm以下のローム粒を多く、ロームベースにシミ状に黒褐色土を極少し含む
8. 暗褐色土 締り弱。粘性有。1cm以下のローム粒多く、ロームベースにシミ状に黒褐色土を極少し含む
10. 暗褐色土 締り弱。粘性有。6層と同じ
12. 暗褐色土 締り弱。粘性有。6・10層と同じ
13. 暗褐色土 締り弱。粘性有。ほぼローム土のみ、粘性やや強い
14. 黒褐色土 締り弱。粘性有。黒褐色土ベースに2cm以下のローム粒を多く含む
15. 黒褐色土 締り弱。粘性有。暗褐色土ベースに黒褐色土を多く含む
16. 黒褐色土 締り弱。粘性有。暗褐色土ベースに黒褐色土多く含む(15層にほぼ同じ)
17. 黒褐色土 締り弱。粘性有。黒褐色土ベースに2cm以下のロームブロック少し含む
18. 暗褐色土 締り弱。粘性有。粘性の強いロームベースにシミ状に黒褐色土少し含む
19. 黒褐色土 締り弱。粘性有。黒褐色土ベースにシミ状に暗褐色土を少し含む

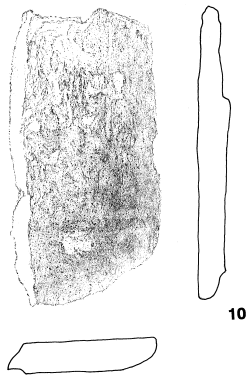
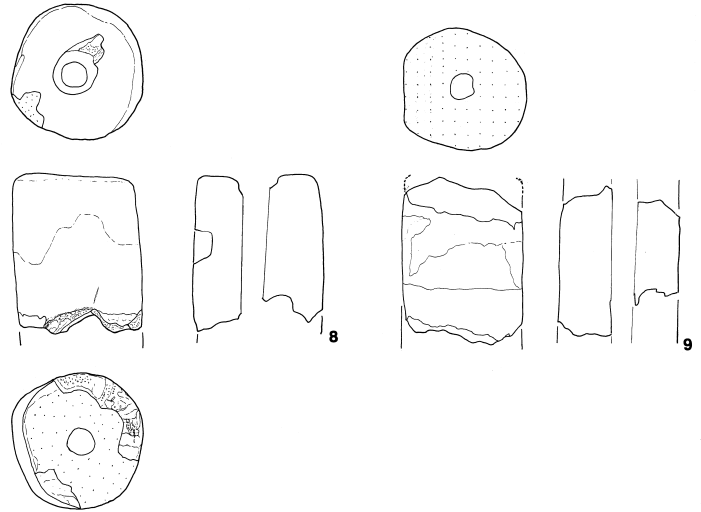
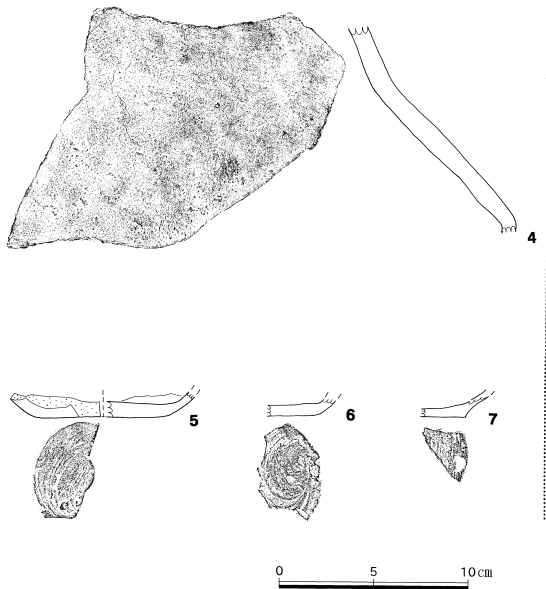
## 井戸11

1. 暗褐色土 締り強。粘性有。20cm以下のロームブロック主体~ローム土主体、間を暗褐色土が埋める、10cm以下の礫を少量、ビニールを含む表土・盛土
2. 暗褐色土 締り有。粘性有。30mm以下のロームブロックと5mm以下のローム粒をやや多く含む
3. 暗褐色土 締り有。粘性有。1cm以下のロームブロック・粒を多量に、5cm大の黄白色粘土を少量含む
4. 黒褐色土 締り有。粘性やや弱。1cm以下のロームブロック・粒をやや多く、3~10cm大の礫を少量含む
5. 暗褐色土 締りやや弱。粘性やや弱。1cm以下のロームブロック・粒を多量、一部酸化して赤化の見える黒褐色土ブロックと4cm大の黄白色粘土を少量含む
6. 暗褐色土 締り弱。粘性有。5mm以下のローム粒と黒褐色土が均一に混ざる、最下部は酸化が目立つ、北壁に炭化材付着
7. 黄灰色粘土 締り強。粘性強。1mm以下の白色粒子を含む粘土層、変質しているが二次堆積の地山

井戸 2



井戸 3

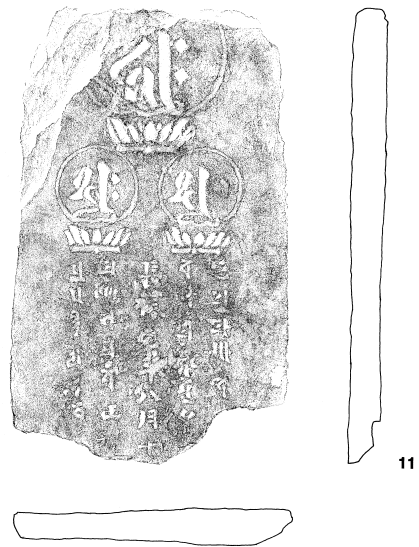


サク  
(月輪座)  
(光明真言 2)

キリーク  
(月輪座)  
(蓮座)

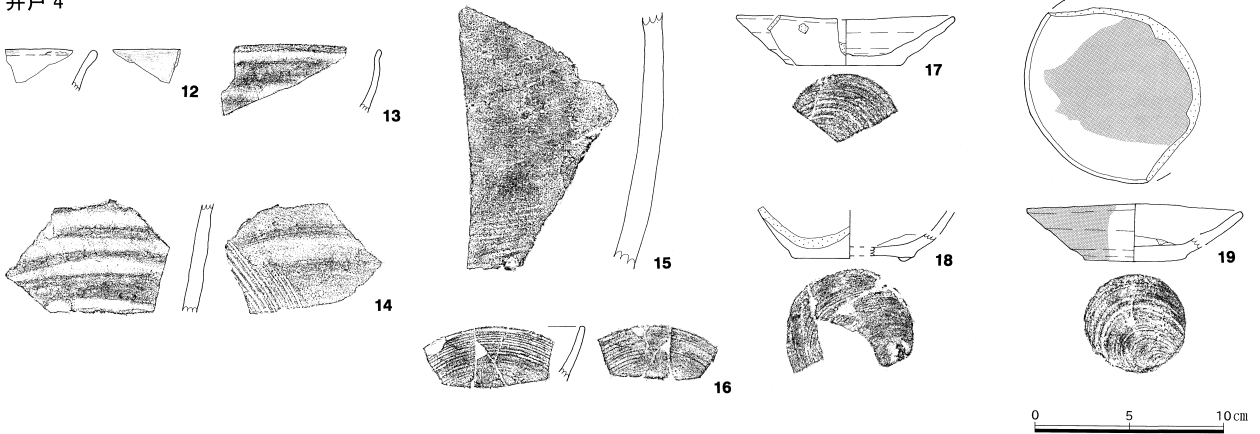
長祿元年八月十日

サ  
(月輪座)  
(蓮座)  
(光明真言 2)

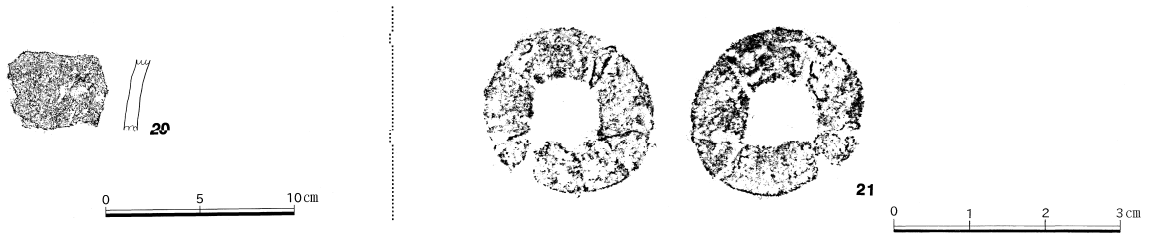


第81図 本村遺跡第115地点出土遺物① (1/6・1/4・1/1)

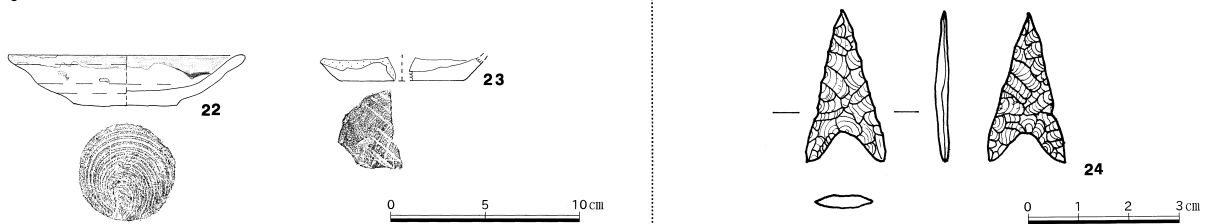
井戸4



井戸5



井戸6



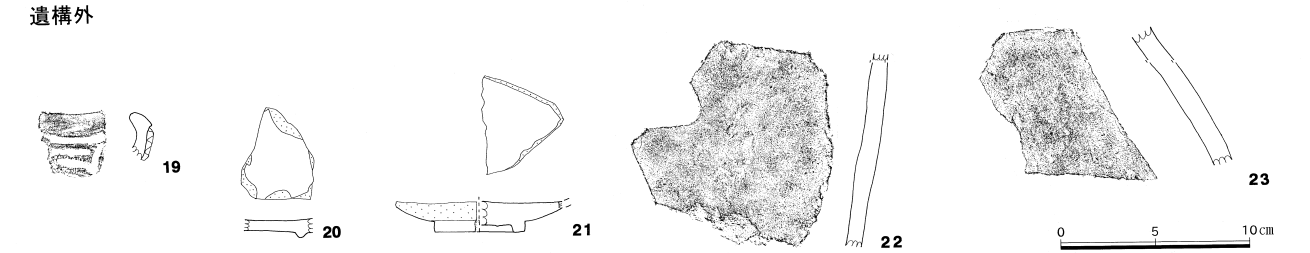
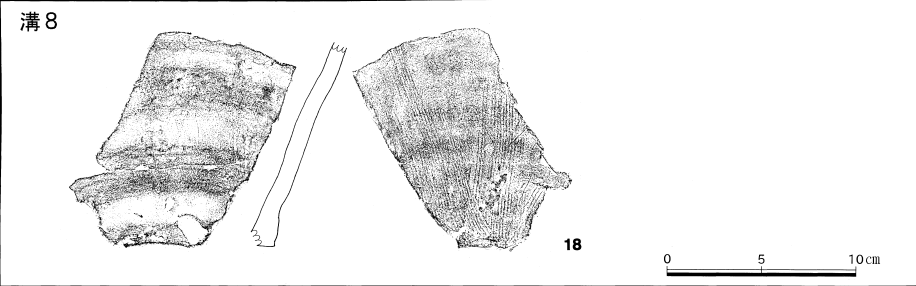
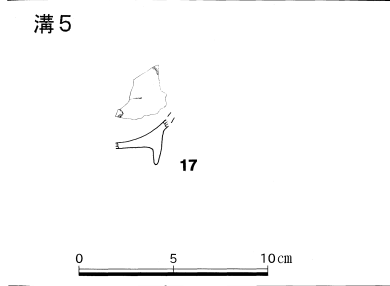
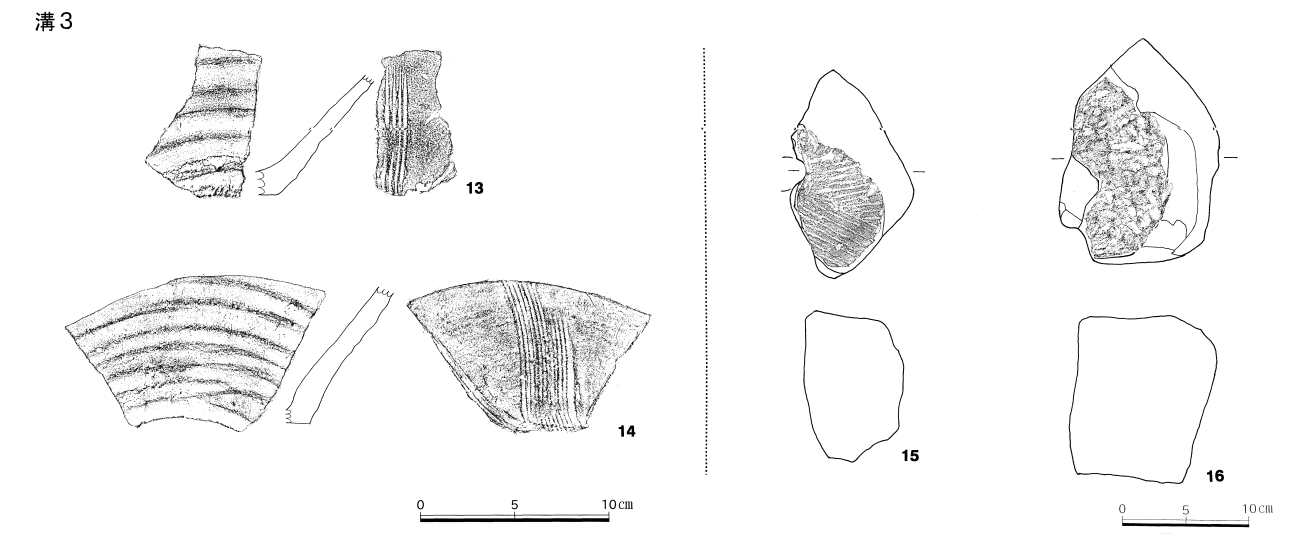
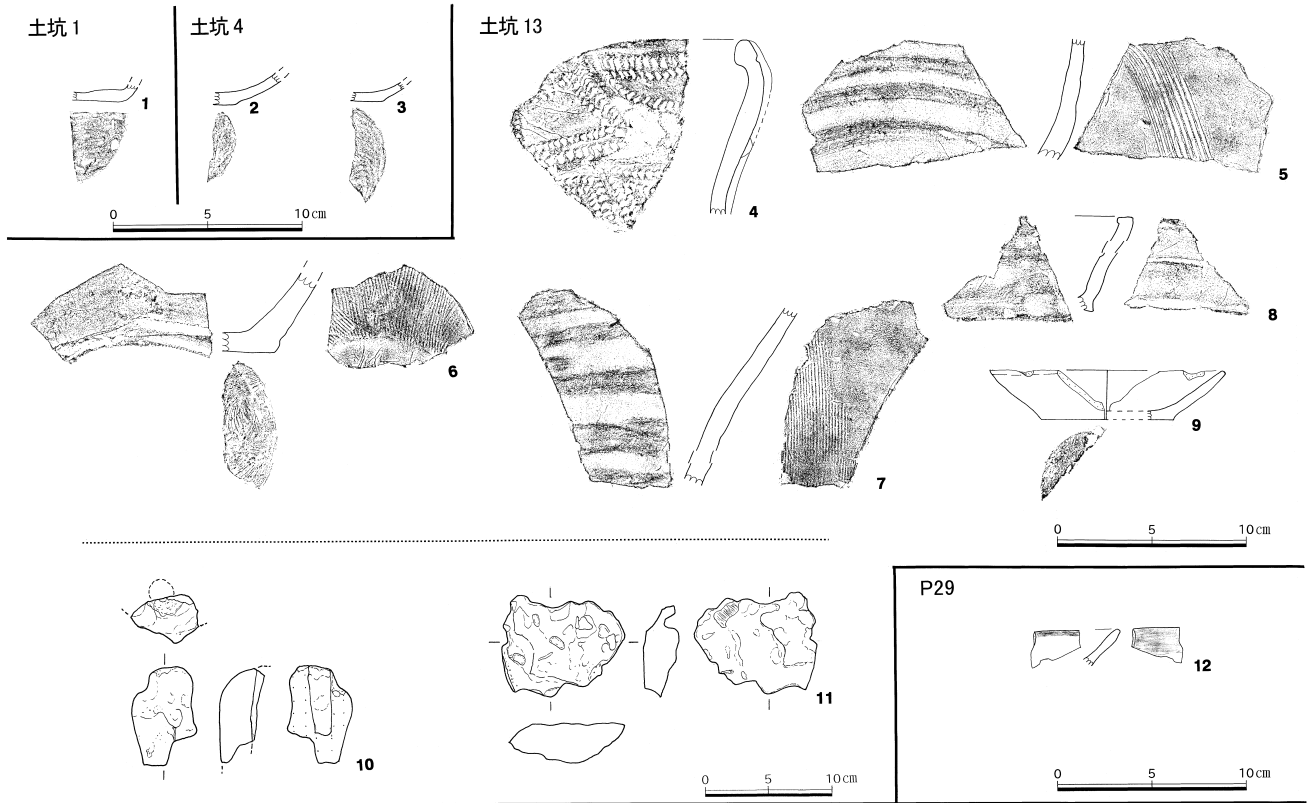
第82図 本村遺跡第115地点出土遺物② (1/4・2/3・1/1)

第35表 本村遺跡第115地点出土遺物一覧表

単位cm・g、(カッコ)付は残存値

No	出土 遺構名	種別・器種	口径・長さ	底径・幅・内径	高さ・厚さ	重量	技法・文様・その他	推定産地	推定年代
第81図1	井戸2	茶臼下臼	(37)	(28)	(11)	(2,700)	砂岩	在地	
第81図2	井戸2	石臼上臼片	—	—	12.5	(1,300)	砂岩、供給口有	在地	
第81図3	井戸2	銭貨(永樂通寶)	2.5	—	—	2.44	明銭		初鑄1408~
第81図4	井戸3	陶器・甕	—	—	0.7~1.2	—	割口に磨痕有、転用砥?	常滑	14~15c
第81図5	井戸3	かわらけ	—	(6)	0.8	—	轆轤回転系切痕	在地	
第81図6	井戸3	かわらけ	—	—	0.7	—	轆轤回転系切痕	在地	
第81図7	井戸3	かわらけ	—	—	0.5	—	—	在地	
第81図8	井戸3	羽口	10	2	(12.5)	(1,470)	長軸に対し約73°~84°の被熱による変色痕有	在地	中世
第81図9	井戸3	羽口	10	2	(13)	(1,170)	—	在地	中世
第81図10	井戸3	板碑	(36)	22	2~3	(1,320)	阿弥陀三尊・長禄元年八月十日・光明真言・緑泥片岩		1457年
第81図11	井戸3	板碑	(23.5)	(11.5)	2.5	(4,350)	緑泥片岩		
第82図12	井戸4	緑釉小皿	—	—	0.5	—	灰釉、口縁部片	瀬戸美濃	16c前半
第82図13	井戸4	天目茶碗	—	—	0.3~0.5	—	—	瀬戸美濃	17c前~中
第82図14	井戸4	搦鉢	—	—	0.8	—	錆釉、櫛目6本	瀬戸美濃	
第82図15	井戸4	陶器・甕	—	—	1.2	—	割口に磨痕有、転用砥?	常滑	
第82図16	井戸4	かわらけ	—	—	0.4~0.7	—	—	在地	
第82図17	井戸4	かわらけ	(11.8)	(6)	0.4~0.8	—	轆轤回転系切後板目状圧痕有	在地	
第82図18	井戸4	かわらけ・灯明皿	—	6.8	0.4~1	—	轆轤回転系切痕、内外面煤附着	在地	
第82図19	井戸4	かわらけ・灯明皿	11	5.5	3.3	—	轆轤回転系切痕、内外面煤附着	在地	
第82図20	井戸5	縄文土器	—	—	0.9	—	無文、胎土に赤褐色粒多く含む	在地	
第82図21	井戸5	銭貨	2~2.1	—	7~8	0.7	磨減・破損著しい		
第82図22	井戸6	緑釉小皿	12.3	5	2.7	—	灰釉、回転系切未調整、見込み磨減	瀬戸美濃	16c前半
第82図23	井戸6	かわらけ	—	—	0.6~10	—	轆轤回転系切後板目状圧痕有、内外面煤附着	在地	
第82図24	井戸6	石鏝	3	1.5	0.3	0.79	黒曜石	—	縄文時代
第83図1	土坑1	かわらけ	—	—	0.4~0.8	—	磨減著しい、轆轤回転系切後板目状圧痕有	在地	
第83図2	土坑1	かわらけ	—	—	0.6~0.9	—	轆轤回転系切痕	在地	
第83図3	土坑13	かわらけ	—	—	(0.5)	—	轆轤回転系切痕	在地	
第83図4	土坑13	縄文土器	—	—	1.1	—	隆帯区画に三角押文	在地	新道式
第83図5	土坑13	搦鉢	—	—	0.7~1.1	—	錆釉、櫛目5本	瀬戸美濃	
第83図6	土坑13	搦鉢	—	(10)	1.1~1.8	—	錆釉、轆轤回転系切痕、櫛目6本	瀬戸美濃	
第83図7	土坑13	搦鉢	—	—	0.7~1.1	—	錆釉、櫛目6本	瀬戸美濃	
第83図8	土坑13	燈塔	—	—	5	—	—	在地	
第83図9	土坑13	かわらけ・灯明皿	(11.2)	(7.0)	1.3	—	口縁部煤附着	在地	
第83図10	土坑13	羽口	—	—	2.5	(84.74)	—	在地	
第83図11	土坑13	流状溝澄	9.8	7.5	3	198.6	—	在地	
第83図12	ピット29	緑釉小皿	—	—	0.5	—	灰釉、口縁部片	瀬戸美濃	
第83図13	溝3	搦鉢	—	—	0.9~1.4	—	錆釉	瀬戸美濃	
第83図14	溝3	搦鉢	—	—	1~1.4	—	錆釉、轆轤回転系切痕、櫛目12本	瀬戸美濃	
第83図15	溝3	石臼	—	—	—	(1,720)	砂岩、芯棒穴直径約3cm、11溝	在地	
第83図16	溝3	石臼	—	—	—	(3,810)	砂岩	在地	
第83図17	溝5	広東碗	—	—	0.4~0.5	—	見込み染付け	肥前系	18c後半
第83図18	溝8	搦鉢	—	—	0.9~1.2	—	錆釉、轆轤回転系切痕、櫛目有	瀬戸美濃	
第83図19	遺構外	縄文土器	—	—	0.9	—	口縁部片、隆帯貼付	在地	中期
第83図20	遺構外	志野皿	—	—	0.7~0.8	—	長石釉、口台内以外施釉	瀬戸美濃	
第83図21	遺構外	白磁碗	—	4.7	0.5~1.3	—	口台底部無釉		13~14c
第83図22	遺構外	陶器・甕	—	—	0.7~1.1	—	自然釉、割口に磨痕有、転用?	常滑	
第83図23	遺構外	陶器・甕	—	—	1.2	—	自然釉	常滑	





第83図 本村遺跡第115地点出土遺物③ (1/6・1/4)

## 第Ⅲ部

### 第1章 まとめ

#### I 2005年度の調査について

2005(平成17)年度の旧大井町地域内(以下旧町内)の埋蔵文化財試掘調査件数は、前年度比2件多い40件で、この内本調査に移行したものは前年度より3件多い10件である。調査時期は第1・2四半期(4～9月)の試掘調査件数が22件(内8件本調査に移行)、第3・4四半期(10～3月)の試掘調査件数は27件(内2件本調査に以降)である。また事前協議書の提出件数は年間約60件で、4～9月期と10～3月期の提出件数はほぼ同じである。以上のことから、2005年10月1日の市町合併による埋蔵文化財調査件数への影響は少なかったといえる。

地域別の埋蔵文化財調査状況は土地区画整理地域内(亀居・東中学校西・西ノ原遺跡等)の比率が27件(67.5%)と高い。また東武東上線東側の苗間地区(神明後・苗間東久保・浄禅寺跡遺跡)の開発が増え、5件の試掘調査の内4件が本調査に移行した。この地域は畑地や駐車場等が多く、宅地分譲や集合住宅等の中規模開発が増え、埋蔵文化財に影響を及ぼす可能性が高くなっている。同地区内では区画整理事業は行われていないが、ふじみ野駅への利便性が高く、今後も開発が増えるものと推測される。これらの地域以外(鶴ヶ岡・鶴ヶ舞・江川南・東台遺跡)では、企業の工場や社宅等の跡地を利用した1,000㎡以下の小～中規模再開発が増えている。旧町内では、昭和30年代中頃以降ミニ開発と呼ばれる小規模な宅地開発が無秩序に行われ、今また昭和30～40年代のような開発が繰り返されるならば、埋蔵文化財保護のみならず、都市・街づくりや市民生活への懸念材料となりかねない。

2005年度の主な調査を時代ごとに概観すると以下のようなようになる。旧石器時代、古代、近世の目立った調査は無く、縄文時代と中世の調査が主体であった。

【縄文時代】縄文時代早期では、鶴ヶ舞遺跡第8地点、東中学校西遺跡第24地点で炉穴群を確認した。鶴ヶ舞遺跡では過去に第2地点で炉穴を検出しているが、今回も遺物は出土していない。しかし福岡江川の北側台地縁に沿いに、炉穴群が点々と存在していたことが確認され、出土遺物や遺構分布と合わせ今後の調査に注

目したい。東中学校西遺跡の炉穴群は、周辺部で確認される早期後半の貝殻条痕文期の可能性が高い。

中期前半は亀居遺跡第59地点(勝坂Ⅰ期2軒)、江川南遺跡第20地点(勝坂Ⅱ期2軒)、神明後遺跡第27地点(阿玉台Ⅰb期1軒)で住居跡を検出した。これまでに亀居遺跡16軒、江川南遺跡5軒(2007年3月現在)の住居跡を検出している。神明後遺跡の中期前半の住居跡の発見は集落の初現や構成を考える上で貴重である。江川南遺跡第20地点からは集石土坑を5基検出、集石土坑1出土炭化物の放射性炭素年代測定を実施。測定結果は附編自然科学分析のとおりである。集石土坑と住居跡の時期的な関係については、大井遺跡調査会刊行予定の本報告に譲る。また、鶴ヶ岡遺跡で中期初頭の五領ヶ台式土器を出土する土坑1基を検出、隣接する西遺跡との関係が注目される。中期前半の住居跡については、2004年度に小田久保遺跡第6地点で1軒(新道～藤内期)<sup>註2</sup>を検出し、新たな資料が増えつつある。中期前半の集落は、中葉から後半にかけ住居が急増する範囲とは異なる特徴があり、周辺地域での包括的な研究が今後の課題である。

中期中～後半は、西ノ原遺跡第51地点(2軒)・第132地点(加曾利Ⅰ～Ⅱ期3軒)、神明後遺跡第26地点(加曾利Ⅱ期1軒)、浄禅寺跡遺跡第27地点(加曾利Ⅲ期1軒)、東台遺跡第44地点(3軒)で住居跡を新たに検出した。東台遺跡第44地点は、開発による遺跡への影響が無いと工事立会いとし保存に努めた。浄禅寺跡遺跡第27地点は、加曾利Ⅲ期からⅣ期の遺構と遺物が多数出土し、過去の調査からも縄文時代中期末を中心とした遺跡である可能性が高い。

後期は、苗間東久保遺跡第24地点で土坑やピット等の遺構から、堀之内式期から加曾利B式期の土器片がまとまって出土、集落の構成を考える上で貴重である。

【中世】本村遺跡第115地点は、溝で区画された中世村落の屋敷地内と見られる範囲から掘建柱建物跡、井戸、土坑やピット等を検出した。遺物は陶器・かわらけ・石臼、板碑・羽口等が出土し、同村落の広がりを研究する上で貴重である。(鍋島)

## II ふじみ野市の文化財保護行政について

### (1) 地方自治体の合併と埋蔵文化財保護

2007年2月末現在、埼玉県内の市町村は70を数える。近年の県内自治体の合併は、2001年5月さいたま市(浦和市・大宮市・与野市が合併)の誕生に始まり、平成17年10月にふじみ野市が誕生した。合併から1年半を経たふじみ野市の埋蔵文化財保護行政について、現状と今後の課題について触れてみたい。

ふじみ野市の誕生は、2005年1月26日合併調印後、半年での事務摺り合わせ作業を経て異例の速さで進んだ。摺り合わせ作業は、2005年4月5日の第1回分科会(担当者レベルの会議は分科会、管理職レベルは専門部会・幹事会、首長レベルは本部会議)から10回に及ぶ分科会等を行った。特に、文化財保護関連では埋蔵文化財に関する事項が最も多く、第1回文化財分科会に提出された27項目の内、条例や規則・要綱に関するものを除く、15項目が埋蔵文化財に関連するものであった。また調整が難航した項目の一つは、埋蔵文化財発掘調査体制・組織に係わる部分で、具体的には臨時職員(嘱託職員を含む発掘調査員とパート職員・発掘調査協力員)等の取り扱いで、最終的に折衷案による暫定的な取り扱い案で解決した。臨時職員に対する対応の差は、職員労働組合による働きも見逃せないが、庁内外における埋蔵文化財に対する理解度の違いと思われる。旧市町の発掘調査件数等の違いが臨時職員の経験や能力に現れ、結果、臨時職員の取り扱い(待遇)に対する差に反映されていたことも一因である。現在も、一般の事務から調査方法等に至るまで、細かな見直しや改善・統一等が随時行われている。

現在、当市の文化財保護行政が抱える問題点の一つ目は、文化財保護体制である。合併の目的の一つは、財政状況を背景とした行政のスリム化・効率化である。当市の文化財保護係の職員体制を合併前後で比較すると第37表のようになる。1年半で、管理職を除く2名(庶務担当1名、埋蔵文化財担当専門職員1名)が配置転換で削減となった。更に、2006年度末に管理職兼埋蔵文化財担当職員1名が定年退職し、新規採用(嘱託職員他)の予定はない。行政組織・調査体制の弱体化は調査の遅延や不十分な調査に繋がり、また住民への啓蒙活動や情報の未公開に発展する心配がある。

二つ目は、組織・個人の連携と協力である。組織が大きくなると情報の共有や意思疎通等の問題が発生するが、特に文化財保護に係わる教育、啓蒙・普及、研究という点では、庁内関係各課や、資料館等との連携・協力は不可欠であり一層の強化が必要である。

また、発掘された記録・資料の室内整理作業・保存についても財政状況を理由に十分に実施されている状況にはない。文化財保護行政における事務事業や行政組織スリム化等の見直しは必要としても、住民サービスの低下や教育・文化の切捨てに繋がってはならない。

現在の当市における年間の試掘・本調査件数はほぼ横ばい状態で、今後は再開発の増加に伴う埋蔵文化財への影響も予想される。平成19年2月1日、文化庁の埋蔵文化財発掘調査体制等の整備充実に関する調査研究委員会より埋蔵文化財の保存と活用(報告)―地域づくり・人づくりをめざす埋蔵文化財保護行政―が刊行された。今後の埋蔵文化財行政の目指すものとして、膨大な調査記録と資料が公開又は活用されず、埋蔵文化財行政全体として適切に機能していないとの指摘がある。正に当市にも当て填まるが、それ以前に現在進行中の開発に対する緊急発掘が精一杯という現状では、今後の埋蔵文化財行政の目指すべき方向を考える上でも、文化財保護体制の強化に努めなければならない。

### (2) 発掘調査担当者に求められるもの

行政が行う埋蔵文化財の発掘調査は、様々な開発に伴う緊急調査が主体で、当然、期間や予算等に限度がある。そんな中、発掘調査担当者に問われるのは、専門職としての知識や技術は勿論のこと、調査に対する目的意識や問題意識を持ちえているか、それらを実施・実現していくための努力を行っているかどうかである。これらを持ち合わせているかどうかは調査成果のみならず、その後の住民サービス等への差としても現れるはずである。発掘調査に携わって間もないころよりの恩師の教えもその辺りにあった。県内でも、発掘調査の民間調査組織の導入が検討されており、今後試掘調査と本調査で調査主体者が異なる可能性も考えられる。文化財保護行政を取り巻く環境も日々変化する中で、現場・調整・教育普及等の面で発掘調査担当者の姿勢と資質が改めて問われている。今一度初心に帰り、文化財の保護と対峙していきたい。(鍋島)

第36表 旧大井町内縄文時代遺跡消長表

段階	時期	遺跡形式	遺跡																
			鶴ヶ岡・西	亀居	江川南	鶴ヶ舞	東久保南	東中学校西	西ノ原	中沢	中沢前	神明後	浄禅寺跡	苗間東久保	小久田保	西台	大井戸上	大井氏館跡	本村
成 立 段 階	草創期	豆粒文系																	
		隆起線文系	川越江川水系	福岡江川水系				さかい川水系							砂川水系				
		爪形文系																	
		多縄文系																	
	早期	井草																	
		大丸																	
		夏島																	
		稲荷台																	
		花輪台																	
		平坂																	
		三戸																	
		田戸下層																	
		田戸上層																	
		子母口																	
		野島																	
		鶴ヶ島台																	
		茅山下層																	
		茅山上層																	
打越・吉井																			
前期	花積下層																		
	関山																		
	黒浜																		
	諸磯 a																		
	諸磯 b																		
展 中 段 階	諸磯 c																		
	十三菩提																		
	五領ヶ台																		
	五領ヶ台上層																		
	猪沢新・阿玉台 I b 古																		
	新道古・阿玉台 I b 新																		
	新道新・阿玉台 II 古																		
	藤内古・阿玉台 II 新																		
	藤内新・勝坂 II 新																		
	井戸尻 I・勝坂 III 古																		
	井戸尻 II・勝坂 III 新																		
	加曾利 E I 古																		
	加曾利 E I 新古相																		
加曾利 E I 新新相																			
加曾利 E II 古相																			
加曾利 E II 新相																			
加曾利 E III																			
加曾利 E IV																			
衰 退 段 階	称名寺 I																		
	称名寺 II																		
	堀之内 I																		
	堀之内 II																		
	加曾利 B I																		
終 末 段 階	加曾利 B II																		
	曾谷																		
	安行 I																		
	安行 II																		
	安行 III a																		
晩 期	安行 III b																		
	安行 III c																		
	安行 III d																		
	千網海																		

■は遺物、●印は住居、▲印はその他の遺構（2007年3月現在）

### Ⅲ 浄禪寺跡遺跡加曾利 E Ⅲ 式期の屋外埋甕・土坑

#### (1) 浄禪寺跡遺跡第27地点調査の特徴

浄禪寺跡遺跡は、旧石器時代・縄文時代・近世の複合遺跡である。縄文時代では早期後半・前期前半・中期末葉・後期前半などで複合状態を示している。今回第27地点の調査で注目されたのは、加曾利 E Ⅲ 期の住居跡、屋外埋甕、土坑が発見されたことである。屋外埋甕1と土坑17からは準完形の資料も得られた。

ふじみ野市の旧大井町地域で、この時期の遺物については既に東台遺跡で「東台遺跡中期終末期の土器群」(『町内遺跡群Ⅺ』2003)でまとめたものと大差がない。そこでこの時期の構造について若干補足検討する。

#### (2) 加曾利 E Ⅲ 式期の遺構についての知見

一般に加曾利 E Ⅱ 式期までに比較し、E Ⅲ 式期の住居数は激減する。これは加曾利 E Ⅱ 式期を古相・中相・新相に分けても同様で、中期の大集落に共通した在り方で旧大井町地域周辺にも当てはまる。

この時期の住居跡は浅く、表土層直下で発見されることが多いだけでなく貼床をもつものが多く、壁溝もなく一見不規則な小柱穴多数が検出される。この一方で、焼土と柱穴や、炉と土坑・柱穴が近接した遺構群の報告例が多い。これらの多くは、攪乱が深いものが多いために遺構群の全体像をつかみにくい。遺構を再検討すると堅穴式住居跡としてよいものもある。第87図上段右の図はこうした例の可能性が高い。加曾利 E Ⅲ 式期の住居跡数は、再検討によって若干増加する可能性がある。とは言え、長期継続型大集落では加曾利 E Ⅲ 式期に住居跡数が激減することは事実である。

#### (3) 屋外埋甕・屋外埋設土器

これらの性格を知るために、神明後遺跡第16地点屋外埋甕4について、リン・炭素分析と脂肪酸分析を実施した結果、遺体埋納の痕跡が認められた。(鍋島『町内遺跡群Ⅺ』2003)。この埋甕は長軸で二段となる大型の土壙であり、浄禪寺跡遺跡第27地点屋外埋甕1も同じ類型の土壙といえる(第87図左上)。またハケ遺跡 C 地区1次埋設土器5号(第87図左下)も同様である。土坑として報告されたハケ遺跡 B Ⅱ 地区の土坑3なども墓壙としてよいと思われる。屋外埋甕などは遺跡中央部平坦部に位置することが多いが、遺跡ごとに、遺跡内での詳細な分布が今後の課題となっている。

### Ⅳ 縄文時代後期中葉の苗間東久保遺跡

#### (1) 苗間東久保遺跡の特徴

苗間東久保遺跡は、曲流しながら東流する富士見さかい川と、湧水川で東流する浄禪寺川に挟まれた低位台地上の遺跡であり、標高11m強に立地する。遺跡は旧石器時代、縄文時代、近世の複合遺跡である。縄文時代の遺跡は、早期前半、早期後半、前期前半、中期中葉、中期後半、後期初頭、後期中葉と長期に亘っている。しかし、早期後半の炉穴群、加曾利 E I 新式の住居跡4軒と土坑、中期末の柄鏡形住居2軒と土坑、後期中葉の住居跡2軒と土坑・ピット群という4回の集落痕跡の濃密な時期とその他の時期では、遺構・遺物の質量共に格段の差がある。

苗間東久保遺跡の特徴のうち最大のものは、旧大井町の縄文時代遺跡の内でも最も新しい時期、加曾利 B 式まで存続した遺跡ということである。

今回調査した、第24地点では土坑10基とピット164基が検出されたが、共伴の遺物は堀之内式の新しい部分と加曾利 B 式のものであった。このことから、本遺跡の過去の調査例を含めて検討したい。

#### (2) 第24地点出土遺物の特徴

第24地点では土坑15基のうち6基、ピット164基のうち22基から土器片が出土したが、称名寺式以前のものはいずれも皆無であった。遺構外出土の土器片も前期のもの1片と中期から後期初頭のもの若干を除いて縄文後期中葉のものであった。土器は全て細片であり、器形は判明するが形態の全容は不明であった。

第24地点で調査された土坑のうち注目されるのは、土器片35点以上を出土した土坑2である。土器は堀之内Ⅱ式期の可能性があるもの若干以外は加曾利 B I 式期のものであった。共伴した石器には、石皿と蛇紋岩製の精製小型磨製石斧であった。この土坑は、2段土壙であり墓壙の可能性が高い。第24地点出土土器は全体として共通する特徴が次のとおりある。

一 深鉢をはじめ、土器自体が小型化し浅鉢・鉢形の比率が増加し、注口土器の注口部も出土。

二 器が薄手となり磨消部が研磨され黒光りの状態を示し、精製土器が目立つ。

今回出土した土器片を特徴ごとにまとめたのが第86図で、A から E の5つに分けられる。

## A 横帯細縄文と区切り沈線文を加えた類

細縄文に沈線を入れ横帯文とし、左傾ずらしの「区切り縦線をもつ類が特徴的である。口縁直下に押圧文を加えた微隆帯をめぐらせ、その下部に区切り沈線を加えたものは、半精製土器といえるもので、加曽利 B I 式期の典型としてよいものである。

## B 細縄文+幾何学沈線の類

細縄文を全面施文したあと沈線で「三角・Z形・山形」を入れ、一部を磨消し研磨する類、第6地点にも類例が多いが、半精製品が多い。A類と共伴する例が多い。

## C 押圧微隆帯をもつ精製深鉢形土器の類

朝顔形小型深鉢土器の口縁直下に刺突微隆帯をめぐらせる類で精製品が多い、口唇と微隆帯を8字形貼付文で連結する例もある。下半を欠損する例が多いが、幾何学区画や横帯区画をもつものが多い。堀之内Ⅱ式が多い。

## D 細沈線文のみの類

斜格子文をつくるものが多いが、不定形の細沈線を直線的に用いるものと、「U」字状の沈線をもつ粗製土器もある。前者は堀之内Ⅱ式期とされることが多いが、加曽利 B I 式期としてもよいと思われる。

## E 内文をもつ浅鉢形土器の類

浅鉢形土器も小さいものが多く、外面無文で研磨され黒色光沢をもつ類と、外面横帯文が多い。いずれも内文は多段で細縄文の地文が残るものもある。これらは加曽利 B 式の精製小型浅鉢土器といえる。

## (3) 苗間東久保遺跡最末期の住居跡と土坑

苗間東久保遺跡で、堀之内Ⅱ式期の遺構と遺物が最初に発見されたのは、遺跡中央部にあたる第6地点の調査で、1980年のことであった。大きくて深い底の広がった円筒形の断面をもつ土壙である、14号・19号・20号土坑などから大型破片を含む堀之内Ⅱ式期の土器片多数が出土した(85図上段右・下段左)。このうち14号土壙からは、重さ47gの硬玉製円形大珠や、重さ3kgを越すチャート製の原石も出土した。(坪田・今井『大井町史資料編Ⅰ』1989)。これらから上記した土壙は、墓壙という性格をもつということが想定された。

本遺跡で堀之内Ⅱ式期や加曽利 B I 式期の住居跡が発見されたのは、遺跡のうち眼下にさかい川に面する斜面の低い部分にあたる第16地点であった。5号住

居跡は堀之内Ⅱ式の住居跡であるが、覆土層からは加曽利 B I 式期の土器も出土した(85図上段)。6号住居跡は、細縄文を沈線で横長楕円形を描くもの、横帯縄文に沈線で段区切りするものを含む加曽利 B I 式期を主体とするものであった(85図中段)。今のところ、確認されている住居跡は、この2軒だけである。

第18地点で調査された156号土壙からは細片ながら84点の土器が出土したが、横帯縄文を主体とし(85図下段中)細沈線文の土器片を含むものであった。この土壙も上記の土壙と形態・規模を同じくしており、上記第6地点に接している(鍋島『大井町遺跡調査会報告第15集』1995)。墓壙とみてよいものである。

苗間東久保遺跡には、早期後半以降後期中葉まで人々の生活痕跡を示す遺物群があり、集落遺跡と呼ぶのは次の3時期のみである。第1は加曽利 E I 新时期(鈴木・山本の加曽利 E 第2様式であり、遺跡平坦面縁辺部の4軒の住居跡と大量の土坑群である。第2は加曽利 E IV 式期から称名寺 I 式期の2軒の柄鏡形住居跡と土坑群の時期で住居の位置は中央部にあり、環状配置とは言えない。第3は縄文後期中葉である。

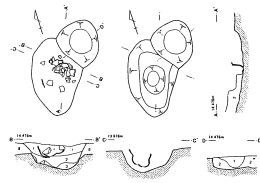
今回の調査を含めて、後期中葉の竪穴式住居跡は集落縁辺の北側低地部に立地し、周辺から遺跡中央部まで広い範囲に土坑群があり、墓壙と見られる大型で深い円筒形・二段土壙を集落の中央部にもつことは明らかである。低地部などの今後の調査によって住居跡などの増加が予想されるが、上記の集落構造の基本は変わらないといえる。

さかい川に近い低地部分で、この時期の住居跡は今のところ2軒であるが未調査部分も多く住居跡発見の可能性もある。遺跡の中央部に墓壙群をもち、低地部にこの時期の住居跡をもつ集落であり、小土坑やピット群の多い構造といえる。

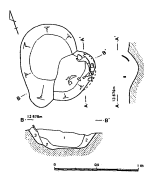
旧大井町域内で、竪穴式住居跡が加曽利 E III 式期で消滅する西ノ原遺跡でも土坑はその後も続くが、堀之内Ⅱ式期を最後に無くなる。東台遺跡も含め、他の遺跡で縄文時代集落が消滅した後の加曽利 B 式期まで唯一残る苗間東久保遺跡が、旧大井町域内で最も下流かつ標高の低い位置にある遺跡であることが強調されてよいと思われる。(今井)

浄禅寺跡遺跡第27地点

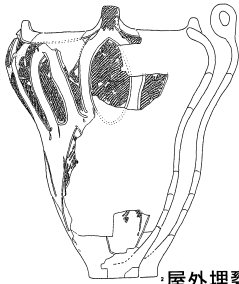
屋外埋甕1



屋外埋甕2

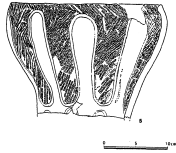


屋外埋甕2

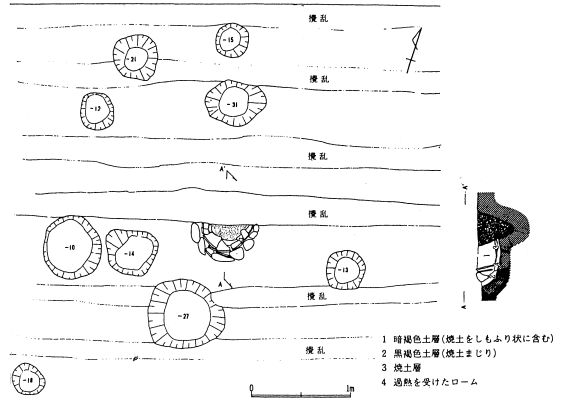


屋外埋甕1

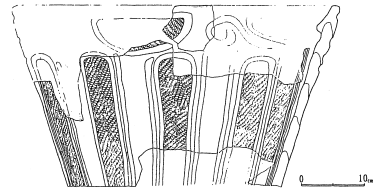
19号土坑



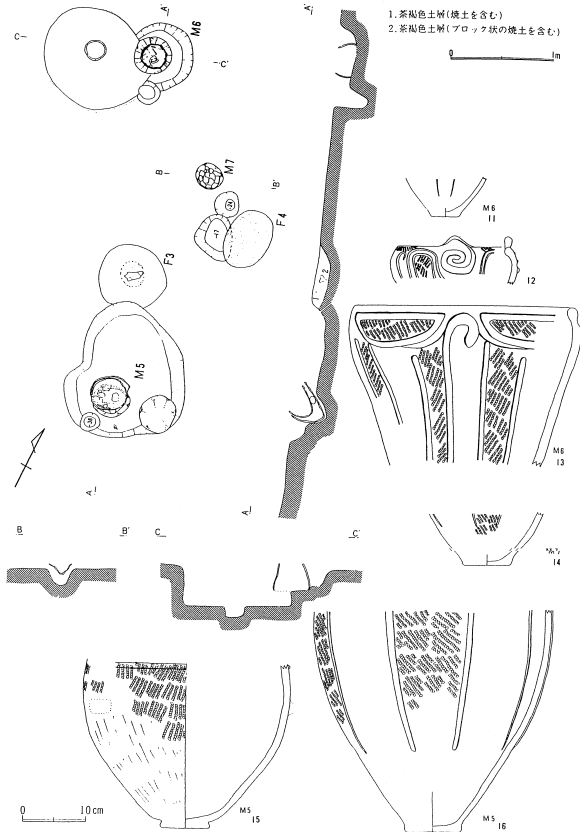
ハケ遺跡B地区



ハケ遺跡 B-II 地区 1号炉址・出土土器(1/50・1/8・1/5)



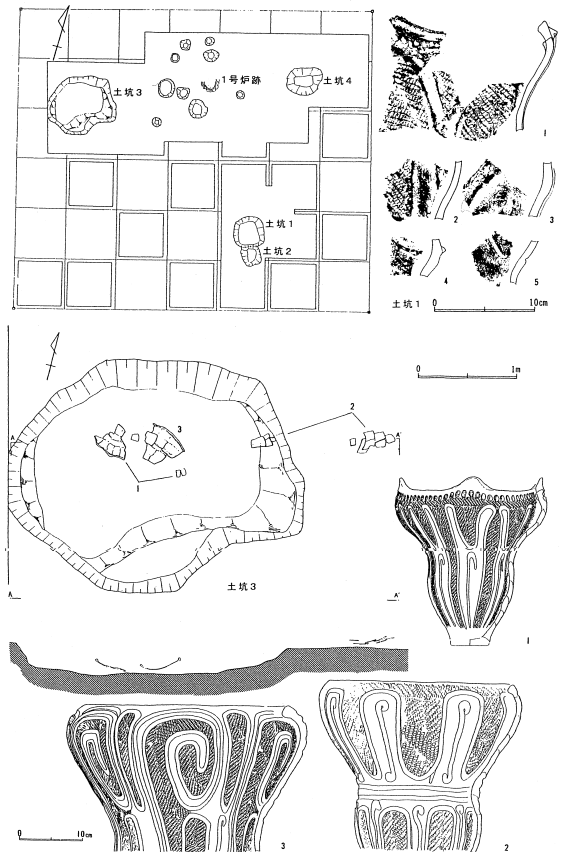
ハケ遺跡C地区



ハケ遺跡 C 地区第 1 次埋設土器 M5~7(1/50・1/8)

ハケ遺跡C地区屋外埋設

ハケ遺跡B II 地区炉跡と柱穴

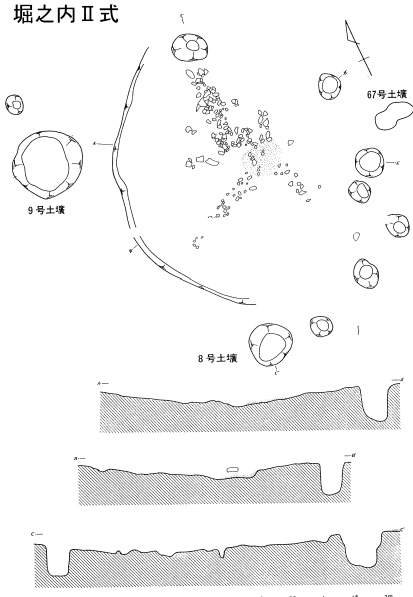


ハケ遺跡 B-II 地区土坑 1・3、出土土器(1/200・1/5、1/50・1/8)

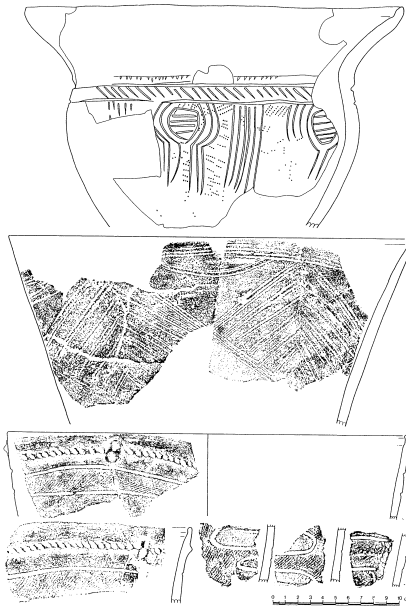
ハケ遺跡B地区1・2号土坑

第84図 浄禅寺跡・ハケ遺跡屋外埋甕・土坑出土の加曾利 E Ⅲ式土器 (1/12)

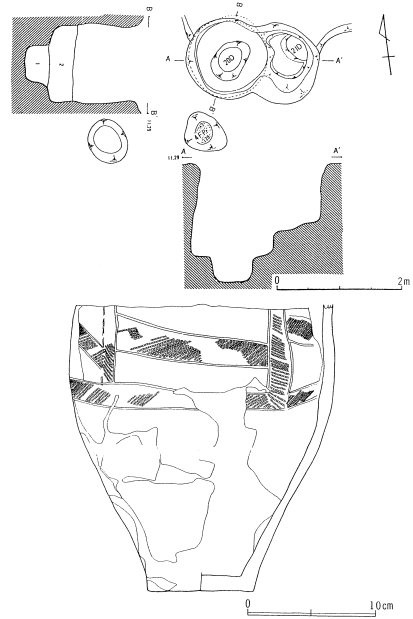
堀之内Ⅱ式



苗間東久保遺跡 5号住居跡

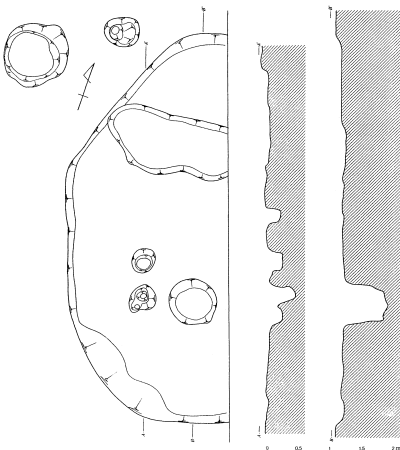


苗間東久保遺跡 5号住居跡出土土器

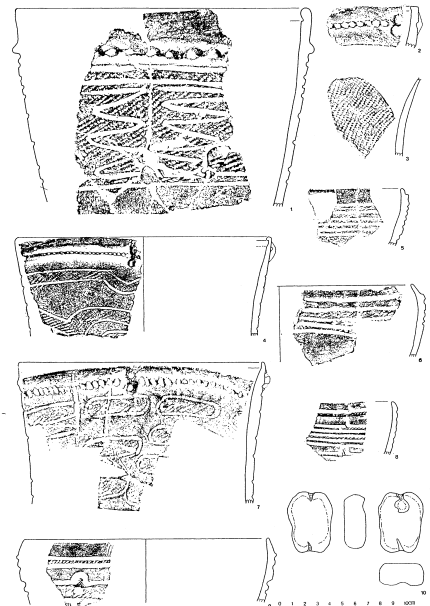


苗間東久保遺跡 6地点 20号土壇・出土土器

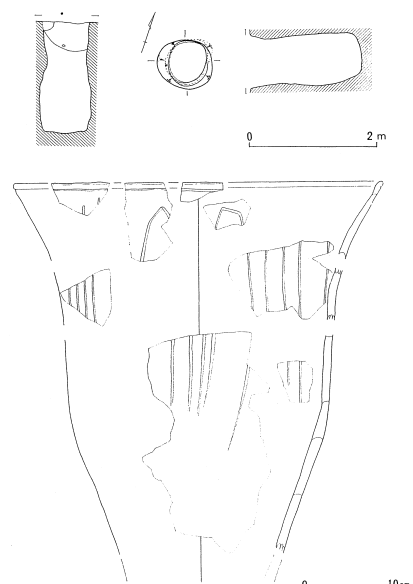
加曾利BⅠ式



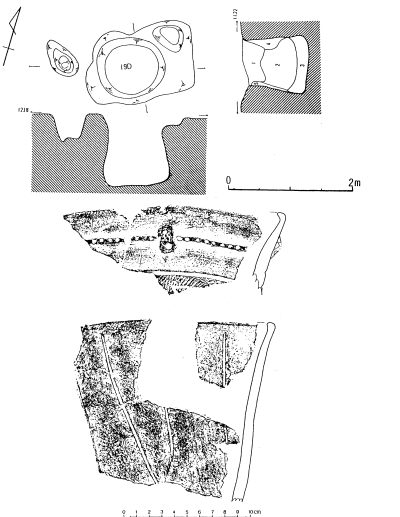
苗間東久保遺跡 6号住居跡



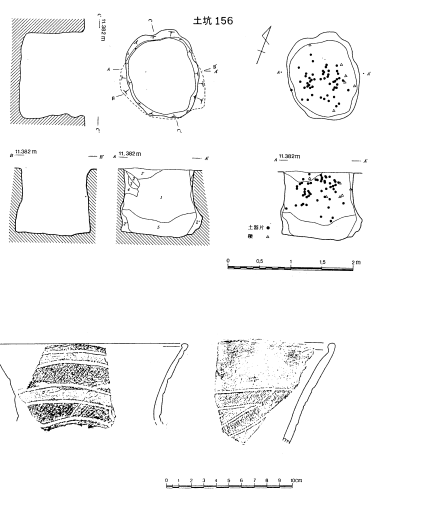
苗間東久保遺跡 6号住居跡出土遺物



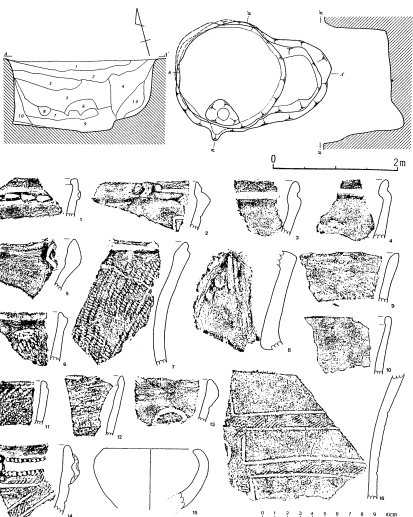
苗間東久保遺跡 14地点 3号土壇・出土土器



苗間東久保遺跡 6地点 19号土壇・出土土器



苗間東久保遺跡 18地点 156号土壇・出土土器

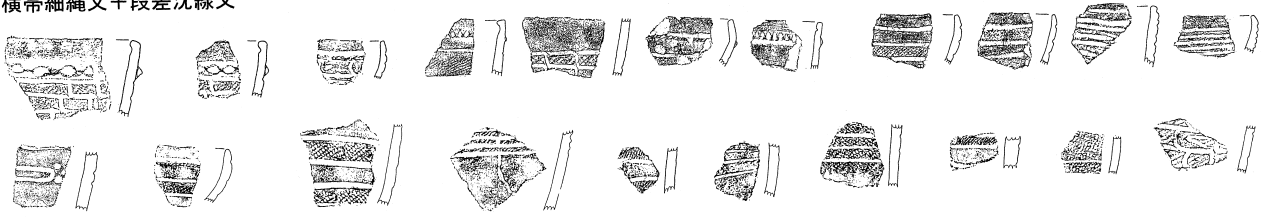


苗間東久保遺跡 13地点 61号土壇・出土土器

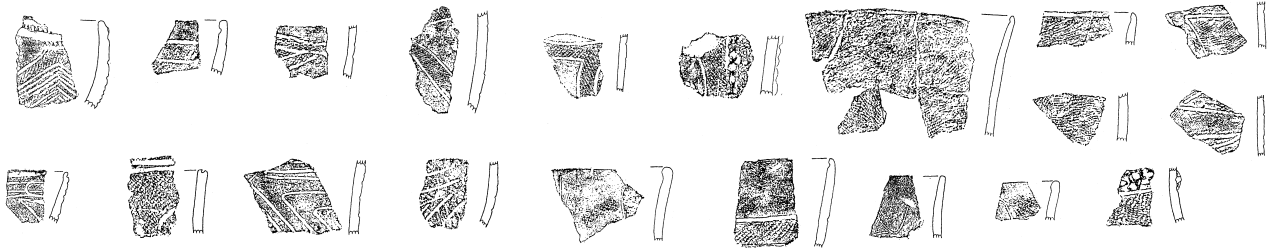
第85図 苗間東久保遺跡堀之内Ⅱ式・加曾利BⅠ式住居と土壇、出土土器 (1/120、1/6・1/8)



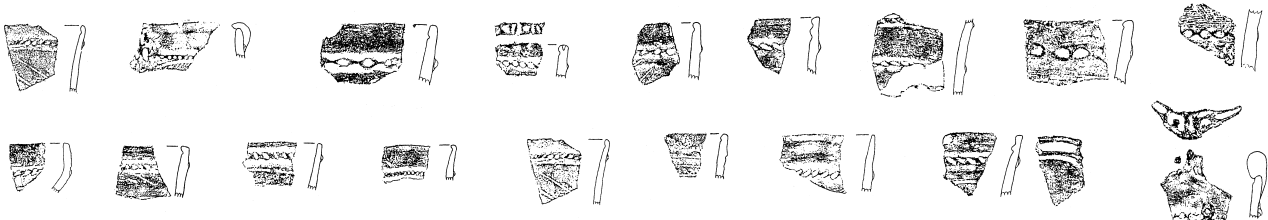
横帯細縄文+段差沈線文



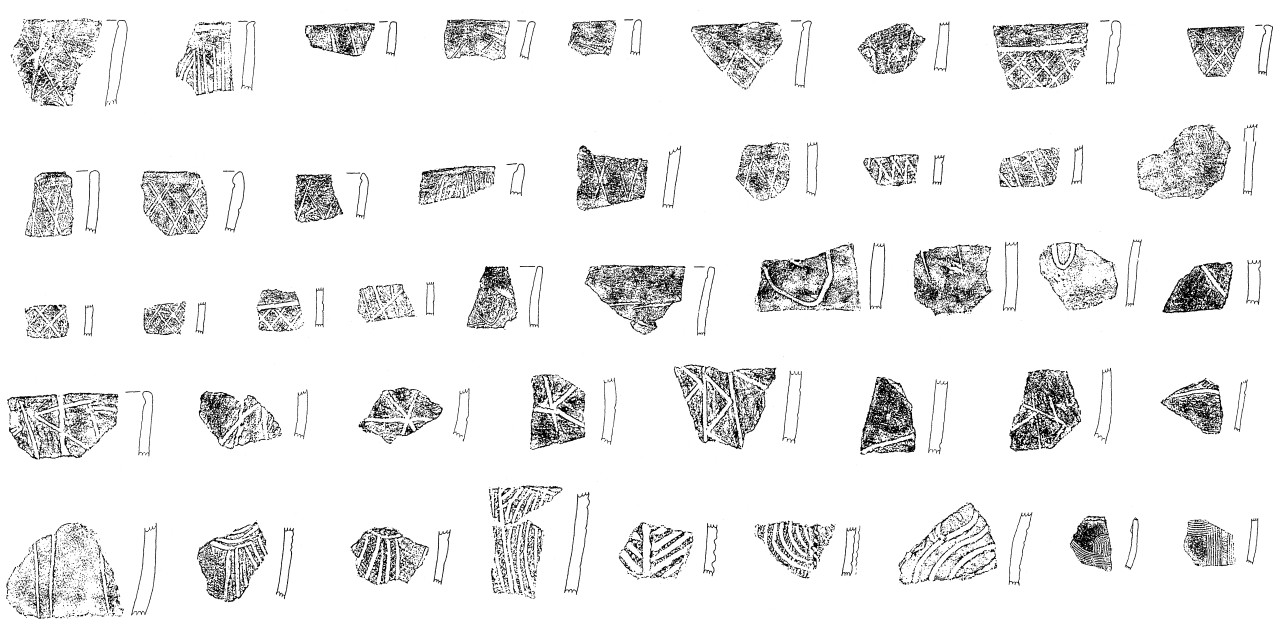
横帯縄文+幾何学沈線文



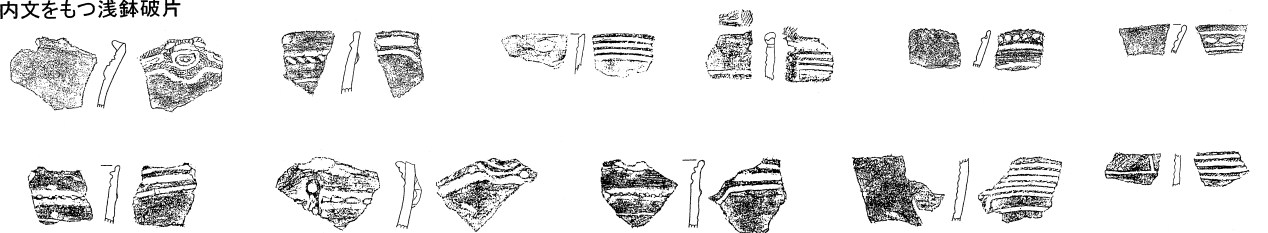
押圧微隆帯をもつ精製土器



細沈線文深鉢破片



内文をもつ浅鉢破片



0 5 10cm

第86図 苗間東久保遺跡第24地点出土・堀之内Ⅱ式・加曾利BⅠ式土器片(1/6)

第37表 ふじみ野市文化財担当職員数一覧表

市 町 名	本庁文化財保護関係職員											
	埋蔵文化財専門職員					担 当 職 員	そ の 他 文 化 財 職 員	職 事 係	嘱 事 係	パ ー ト 職 員 係	合 計	
	事務／調整・ 教育／普及		事務／調整／発掘／ 調査・教育／普及		小 計							
	正 規	正 規	嘱 託 等	正 規	嘱 託 等							
ふじみ野市 (平成18年度)	2	2	1	4	1	1		1	1	8		
ふじみ野市 (平成17年度)	2	3	1	5	1	1		1	1	9		
旧上福岡市 (平成17年度)	1	2		3		1		1		5		
旧大井町 (平成17年度)		2	1	2	1		2		1	6		

※ふじみ野市(平成17年度・平成18年度)、旧上福岡市の事務／調整・教育／普及正規職員は管理職1名含む。管理職の1名は、発掘／調査も兼務。  
旧大井町の事務系職員は管理職1名、一般事務職庶務担当1名。旧大井町の事務系パート職員1名は大井町遺跡調査会採用。

註1・2 高崎直成『町内遺跡群Ⅻ』大井町教育委員会2005

### 引用・参考文献

- 埼玉県大井町町史編さん委員会 1981『大井町の板碑』大井町史料第10集
- 大井町教育委員会『東部遺跡群Ⅰ～Ⅴ・Ⅸ・Ⅺ』文化財調査報告第9～14・18・22集1980～1997・1989・1991
- 大井町教育委員会『町内遺跡群Ⅳ～Ⅻ』文化財調査報告第27～36集1996～2005
- 大井町遺跡調査会『本村遺跡(第8地点)』大井町遺跡調査会報告第4集1993
- 大井町遺跡調査会『西ノ原遺跡52地点・苗間東久保遺跡18地点・浄禅寺跡遺跡7地点・大井氏館跡遺跡5地点』  
大井町遺跡調査会報告第5集1995
- 大井町遺跡調査会『本村遺跡Ⅲ・浄禅寺跡遺跡Ⅱ・苗間東久保遺跡Ⅱ・大井氏館跡遺跡Ⅱ』大井町遺跡調査会報  
告第12集2004
- 上福岡市教育委員会『第1次調査概報 川崎遺跡』郷土史料第18集1975
- 上福岡市教育委員会『第2次調査概報 川崎遺跡』郷土史料第19集1976
- 上福岡市教育委員会『川崎遺跡(第3次)・長宮遺跡』郷土史料第21集1978
- 上福岡市ハケ遺跡調査会『ハケC地区』1979
- 上福岡市教育委員会『上福岡市遺跡調査会報告書』郷土史料第27集1981
- 上福岡市教育委員会・上福岡市史編纂委員会『上福岡市史』資料編第1巻自然史・考古1999
- 上福岡市教育委員会『上福岡の板碑 中世の石の文化』市史調査報告書第18集 2000
- 埼玉県教育委員会『埼玉県板石塔婆調査報告書Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』1981
- 日本中世土器研究会『中近世土器の基礎研究』1985
- 瀬戸市歴史民俗資料館『研究紀要Ⅴ～Ⅷ・Ⅹ』1986～1989・1991
- 日本中世土器研究会『中近世土器の基礎研究Ⅵ 付編 80年代の研究成果と今後の展望』1990
- 日本中世土器研究会『中近世土器の基礎研究Ⅷ 中性土器基本資料の再検討』1992
- 日本中世土器研究会『中近世土器の基礎研究Ⅸ』 中世前期の流通—瀬戸内・淀川水系を中心に—1993
- 山内清男・関野克『考古文献資料(1)上福岡貝塚』市史調査報告書第5集 上福岡市教育委員会1994
- 坂本 彰『西ノ谷貝塚』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告33 横浜市教育委員会・横浜市ふるさと歴  
史財団2003
- 杉原 莊介・芹沢 長介『神奈川県夏島における縄文文化初頭の貝塚』明治大学文学部研究報告 考古学第二冊  
1981
- 三輪 茂雄『白』ものと人間の文化史25 法政大学出版局1978
- 加藤 晋平・鶴丸 俊明『図録 石器の基礎知識Ⅰ先土器(上)』柏書房1980
- 季刊考古学 第4号『特集 日本旧石器人の生活と技術』雄山閣出版1983
- 季刊考古学 第35号『特集 石器と人類の歴史』雄山閣出版1991
- 竹岡 俊樹『石器研究法』言叢社1989
- 中世土器研究会編『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社1995
- 埼玉県立博物館『特別展「つぼ・かめ・すりばち」展示図録』1997
- 上高津貝塚ふるさと歴史の広場『第4回特別展 焼き物にみる中世の世界—県内出土の土器・陶磁器を中心にし  
て—』1999
- 小林 達雄・小川 忠博『縄文土器大観1～4』小学館1989
- 戸沢 充則『縄文時代研究事典』東京堂出版1994
- 大川 清・鈴木 公雄・工楽善通『日本土器事典』雄山閣出版1996

## 附編 自然科学分析

### 江川南遺跡第20地点および駒林遺跡第1地点から出土した炭化材の年代測定

パリオ・サーヴェイ株式会社

#### はじめに

江川南遺跡は、福岡江川右岸（南岸）の台地上に位置する。発掘調査により、旧石器時代から近世に至るまで様々な時期の遺構が検出されている。第20地点の調査では、縄文時代中期前葉の住居跡や集石土坑が検出されている。一方、駒林遺跡は、江川南遺跡の下流、福岡江川と富士見江川に挟まれた台地上に位置する。第1地点の発掘調査では、溝および茶毘跡が検出されている。

本報告では、江川南遺跡第20地点の集石土坑と駒林遺跡第1地点の茶毘跡の年代を確認するため、遺構内から出土した炭化材を対象として $\beta$ 線計数法による放射性炭素年代測定を実施する。

#### 1. 試料

##### (1) 江川南遺跡

試料は、集石土坑1から出土した炭化材1点である。同一個体とされる炭化材5片があり、その中から最も量が多い1片を試料とした。

##### (2) 駒林遺跡

試料は、茶毘跡1および茶毘跡2から出土した炭化材である。茶毘跡1の炭化材は、No.7,11の2点があり、保存状態が良く、量も多いNo.7を選択した。

#### 2. 分析方法

試料表面の汚れをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。塩酸や水酸化ナトリウムなどを用いて、試料内部の汚染物質を化学的に除去する。試料中に含まれる炭素を酸化させて二酸化炭素とし、さらに精製ラインを用いて、二酸化炭素からアセチレンを合成する。 $\beta$ 線計数装置の気体比例計数管で、 $^{14}\text{C}$ の崩壊数を計測する。測定が終了したアセチレンガスから再び二酸化炭素を作製し、安定同位体比測定用質量分析装置で試料中の $\delta^{13}\text{C}$ を測定する。

炭素の半減期はLIBBYの半減期5,570年を使用する。測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma；68%）に相当する年代である。暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02（Copyright 1986–2005 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

### 3. 結果

放射性炭素年代測定を表1に示す。同位体効果の補正を行った測定結果は、江川南遺跡第20地点集石土坑1が $3,590 \pm 80$ BP、駒林遺跡第1地点茶毘跡1 No.7が $480 \pm 80$ BP、茶毘跡2 No.21が Modern を示す。

表1. 放射性炭素年代測定結果

遺跡	遺構	番号	種類	補正年代 BP	$\delta^{13}C$ (‰)	Code No.	Measurement No.
江川南遺跡第20地点	集石土坑1	—	炭化材 (クヌギ節)	$3,950 \pm 80$	-26.9	9413-1	IAA-1050
駒林遺跡第1地点	茶毘跡1	No.7	炭化材 (環孔材)	$480 \pm 80$	-24.7	9413-2	IAA-1051
	茶毘跡2	No.2	炭化材 (コナラ節)	Modern	25.5	9413-3	IAA-1052

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
- 2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
- 3) 付記した誤差は、測定誤差 $\sigma$ (測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

表2. 暦年較正結果

遺跡	遺構	番号	補正年代 (BP)	暦年較正年代 (cal)			相対比	Code No.
				$\sigma$	$2\sigma$			
江川南遺跡第20地点	集石土坑1	—	$3,594 \pm 82$	$\sigma$	cal BC 2,120 - cal BC 2,095	cal BP 4,070 - 4,045	0.079	9413-1
					cal BC 2,041 - cal BC 1,876	cal BP 3,991 - 3,826	0.797	
					cal BC 1,842 - cal BC 1,820	cal BP 3,792 - 3,770	0.072	
				$2\sigma$	cal BC 1,797 - cal BC 1,780	cal BP 3,747 - 3,730	0.052	
					cal BC 2,197 - cal BC 2,167	cal BP 4,147 - 4,117	0.020	
					cal BC 2,149 - cal BC 1,739	cal BP 4,099 - 3,689	0.979	
駒林遺跡第1地点	茶毘跡1	No.7	$488 \pm 80$	$\sigma$	cal AD 1,316 - cal BC 1,354	cal BP 634 - 3,304	0.209	9413-2
					cal AD 1,389 - cal BC 1,486	cal BP 561 - 3,436	0.784	
					cal AD 1,605 - cal BC 1,606	cal BP 345 - 3,556	0.008	
				$2\sigma$	cal AD 1,297 - cal BC 1,524	cal BP 653 - 3,474	0.884	
					cal AD 1,558 - cal BC 1,631	cal BP 392 - 3,581	0.116	

- 1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.01 (Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer) を使用
- 2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。
- 3) 1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
- 4) 統計的に真の値が入る確率は $\sigma$ は68%、 $2\sigma$ は95%である
- 5) 相対比は、 $\sigma$ 、 $2\sigma$ のそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

暦年較正結果を表2に示す。暦年較正とは、大気中の $^{14}C$ 濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の $^{14}C$ 濃度の変動、及び半減期の違い( $^{14}C$ の半減期 $5730 \pm 40$ 年)を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位で表するのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表している。なお、暦年較正プログラムは、いずれも試料が炭化材であることから、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。

暦年較正は、測定誤差 $\sigma$ 、 $2\sigma$ 双方の値を計算する。 $\sigma$ は統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、 $2\sigma$ は真の値が95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、 $\sigma$ 、 $2\sigma$ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

測定誤差を $\sigma$ として計算させた結果、江川南遺跡第20地点集石土坑1はcalBC2,120-1,780、駒林遺跡第1地点茶毘跡1 No.7はcalAD1,316-1,606である。茶毘跡2 No.21は、測定結果が Modern のため暦年較正は実施していない。

なお、測定に利用した炭化材は、その由来を明らかにしておく必要があることから、樹種同定を併せて実施した。江川南遺跡第20地点集石土坑1はクヌギ節、駒林遺跡第1地点茶毘跡1 No.7は広葉樹(環孔材)、茶毘跡2 No.21はコナラ節であった。

## 報告書抄録

書名	市内遺跡群 2		シリーズ名	ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第2集			
編集者	鍋島 直久		著者	今井 堯・鍋島 直久			
編集機関	ふじみ野市教育委員会		所在地	〒356-8555 ふじみ野市大井中央一丁目1番1号			
発行日	2007年(平成19年)3月30日			TEL 049 (261) 2811			
所収遺跡地点名	所在地	市町村コード	北緯	調査開始	調査面積	調査原因	
		遺跡コード	東経	調査終了	m <sup>2</sup>	調査担当者	
	種別/主な時代・主な遺構・主な遺物						
特記事項							
つるがおいせき 鶴ヶ岡遺跡 第4地点	おおいつるがおか ちょうめ 大井鶴ヶ岡3丁目18-1・12, 23-3,26-6	112453	35° 44' 02"	20050512	175	店舗	
		030	139° 40' 19"	20050512		鍋島直久	
	集落跡/縄文時代中期・土坑1基、縄文土器片。 縄文中期初頭の五領ヶ台期の土器が土坑から出土。						
つるがまいせき 鶴ヶ舞遺跡 第8地点	つるがまい 鶴ヶ舞1-69-46~51,61~66	112453	35° 44' 31"	20050711	236	分譲住宅	
		007	139° 39' 54"	20050811		鍋島直久・越村篤	
	集落跡/縄文時代早期・炉穴6基。 本遺跡で初めて縄文時代早期の炉穴群を検出。						
つるがまいせき 鶴ヶ舞遺跡 第9地点	つるがまい 鶴ヶ舞1-16-5	112453	35° 44' 29"	20051101	23	共同住宅	
		007	139° 39' 59"	20051101		越村篤	
	集落跡/ピット 時期不明のピットを検出。						
かめくほ 亀居遺跡 第59地点	かめくほ 亀久保2-10-5	112453	35° 44' 12"	20050803	258	共同住宅	
		030	139° 39' 45"	20050831		鍋島直久・越村篤	
	集落跡/縄文時代中期・住居跡2軒、集石土坑土1基・縄文土器片、石器 縄文時代中期前半の住居跡2軒を検出。						
えがわみなみせき 江川南遺跡 第20地点	ひがしくほ 東久保1-183-5	112453	35° 44' 25"	20050801	237	宅地造成	
		007	139° 39' 44"	20050812		鍋島直久・越村篤	
	集落跡/縄文時代中期、近世・住居跡2軒、集石土坑5基、ピット、溝・縄文土器片、石器 縄文時代中期前半の住居跡2軒と、近世以降の根切り溝を検出。						
えがわみなみせき 江川南遺跡 第6地点	かめくほ 亀久保3-193	112453	35° 44' 23"	20030416	10	店舗	
		007	139° 39' 41"	20030424		早川由利子	
	集落跡/縄文時代中期・住居跡1軒・縄文土器片、石器 縄文時代中期住居跡1軒検出。						
えがわひがしせき 江川東遺跡 第10地点	ひがしくほ 東久保1-174-1・36	112453	35° 44' 31"	20051013	267	分譲住宅	
		009	139° 39' 46"	20051024		越村篤	
	集落跡/縄文時代・土坑1基、ピット 縄文時代の土坑・ピット各1基を検出。						
ひがしちゅうがっこうにしせき 東中学校西遺跡 第24地点	ふじみの ふじみ野3-9-5	112453	35° 44' 41"	20050620	194	店舗	
		006	139° 39' 31"	20050707		鍋島直久・越村篤	
	集落/縄文時代早期・炉穴5基。 縄文時代早期の炉穴群検出。						
にしほらいせき 西ノ原遺跡 第132地点	なえま 苗間1-15-17	112453	35° 44' 51"	20050728	100	店舗併用共同住宅	
		032	139° 39' 16"	20050802		越村篤・鍋島直久	
	集落跡/縄文時代・住居跡3軒、炉穴9基・縄文土器片、石器 縄文時代中期環状集落の中心部で住居跡3軒、早期炉穴群を検出。						
にしほらいせき 西ノ原遺跡 第134地点	あさひ 旭1-13-8	112453	35° 44' 48"	20051006	43	店舗	
		032	139° 39' 19"	20051011		越村篤	
	集落跡/時期不明道跡 時期不明の道路跡から轍痕を検出。						

所収遺跡地点名	所在地	市町村コード	北緯	調査開始	調査面積	調査原因
		遺跡コード	東経	調査終了	m <sup>2</sup>	調査担当者
神明後遺跡 第26地点	なえま しんめいしうしろ 苗間神明後 301, 303-3~5, 304-1, 303-7	112453 001	35° 45' 15" 139° 39' 33"	20050601 20050608	62	分譲住宅 鍋島直久
	種別／主な時代・主な遺構・主な遺物					
	特記事項					
神明後遺跡 第27地点	なえま 苗間248-2, 249-1	112453 001	35° 45' 14" 139° 39' 27"	20050720 20050725	62	共同住宅 鍋島直久
	集落跡／縄文時代・竪穴住居跡1軒、ピット・縄文土器／近世・溝					
	本遺跡で初めて縄文中期前半の住居跡1軒を検出。					
苗間東久保遺跡 第24地点	なえま ひがしくほ 苗間東久保637-1、637-28	112453 001	35° 45' 26" 139° 39' 42"	20060307 20060414	515	分譲住宅 高崎直成・鍋島直久・越村篤
	集落跡／縄文時代・竪穴住居跡3軒、ピット・縄文土器					
	縄文集落の中心部付近のピット群を検出。後期の土器片出土。					
浄禪寺跡遺跡 第27地点	なえま しんめいしうしろ 苗間神明後 354-2	112453 001	35° 45' 23" 139° 39' 32"	20051201 20060122	224	分譲住宅 鍋島直久・越村篤
	集落跡／縄文時代早期・中期・住居跡1軒、屋外埋甕2基、炉穴群、土坑、ピット・縄文土器／近世・溝					
	本遺跡で初めて縄文中期前半の住居跡や屋外埋甕を検出。					
大井氏館跡遺跡 第20地点	おおい 大井1-7-7	112453 001	35° 44' 47" 139° 39' 46"	20060302 20060314	279	共同住宅 越村篤
	集落跡／中世					
	時期不明の土坑や溝などを確認したが、攪乱により大部分削平。					
本村遺跡 第113地点	いっさわ 市沢2-2-3	112453 041	35° 44' 58" 139° 39' 01"	20050509 20050510	27	個人住宅 鍋島直久
	集落跡／中世、近世・ピット					
	時期不明のピットを確認。					
本村遺跡 第115地点	いっさわ 市沢2-10-6	112453 041	35° 45' 03" 139° 38' 59"	20051121 20060131	170	分譲住宅 越村篤・鍋島直久
	集落跡／中近世・掘建柱建物跡、井戸、土坑、ピット、溝・中近世陶磁器、羽口、石臼、板碑					
	中世村落の一部、掘建柱建物跡・井戸等を検出、中世陶磁器等が出土。					
本村遺跡 第117地点	おおい 大井2-11-4・6	112453 041	35° 44' 56" 139° 38' 50"	20060322 20060414	1,487	店舗 越村篤・高崎直成
	集落跡／中近世・地下室、井戸、段切状遺構、土坑、ピット・近世陶磁器					
	溝に区画された中世村落の一部を確認。					
東台遺跡 第44地点	ひがしだい 東台664-15・664-12・664-7,9,1 ・664-8,10・664-6・664-14	112453 041	35° 45' 01" 139° 38' 47"	20051208 20051228	109	個人住宅 鍋島直久
	集落跡／縄文時代・住居跡3軒、					
	縄文時代中期環状集落の一部で住居跡3軒を確認。					



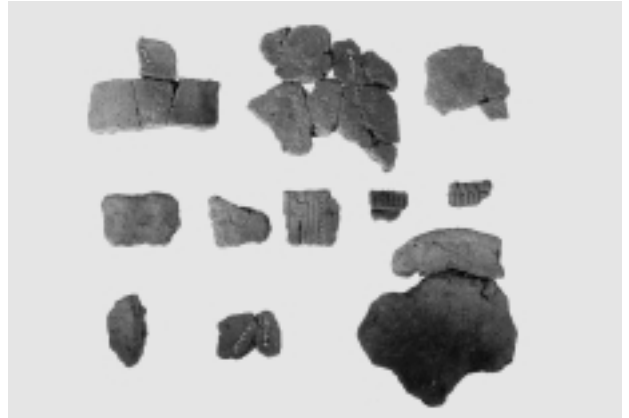
鶴ヶ岡外遺跡第3地点トレンチ



鶴ヶ岡遺跡第4地点調査区近景



鶴ヶ岡遺跡第4地点遺物出土状況



鶴ヶ岡遺跡第4地点土坑出土遺物



亀居遺跡第58地点調査区近景



亀居遺跡第58地点トレンチ全景



亀居遺跡第59地点調査区近景



亀居遺跡第59地点トレンチ6



亀居遺跡第60地点トレンチ1



亀居遺跡第60地点トレンチ2



亀居遺跡第60地点トレンチ1



鶴ヶ舞遺跡第8地点トレンチ1～5



鶴ヶ舞遺跡第8地点トレンチ6～11



鶴ヶ舞遺跡第8地点トレンチ6～11



鶴ヶ舞遺跡第8地点トレンチ12・13





鶴ヶ舞遺跡第8地点トレンチ12・13



鶴ヶ舞遺跡第8地点トレンチ14・15



鶴ヶ舞遺跡第8地点トレンチ14・15



鶴ヶ舞遺跡第8地点トレンチ16・17



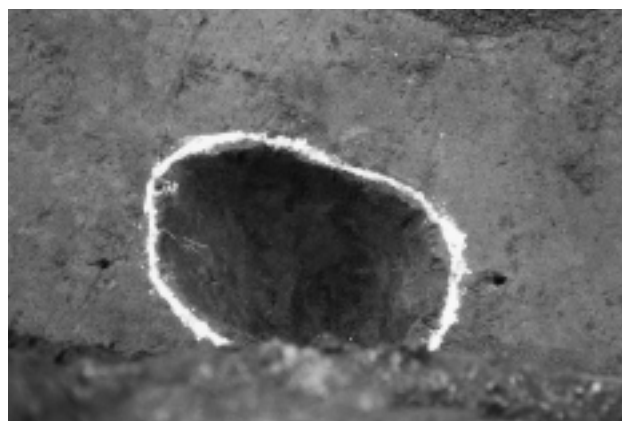
鶴ヶ舞遺跡第8地点トレンチ19・20



鶴ヶ舞遺跡第8地点トレンチ21



鶴ヶ舞遺跡第9地点トレンチ2



鶴ヶ舞遺跡第9地点トレンチ2ピット3



江川南遺跡第20地点トレンチ2



江川南遺跡第20地点トレンチ7



江川南遺跡第20地点トレンチ8



江川南遺跡第20地点調査風景



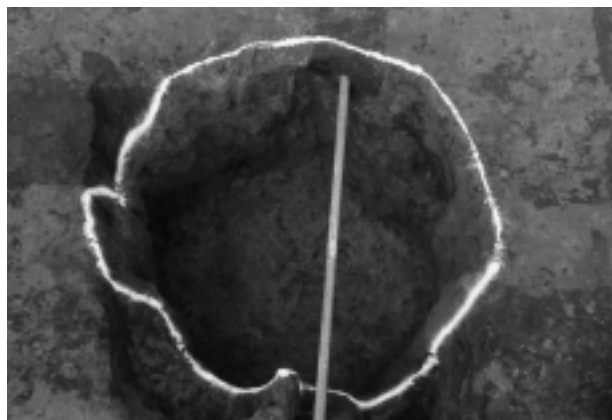
江川南遺跡第6地点出土遺物No 1～30



江川南遺跡第6地点出土遺物No31～54



江川東遺跡第10地点トレンチ1



江川東遺跡第10地点土坑1



江川東遺跡第10地点ピット



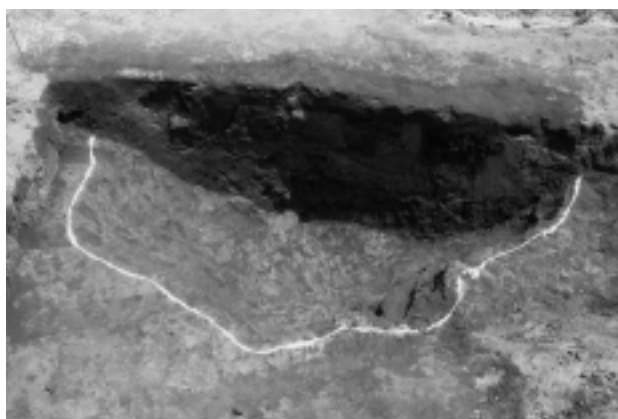
江川東遺跡第10地点調査区近景



東久保遺跡第63地点トレンチ



東久保遺跡第63地点調査区近景



東中学校西遺跡第23地点土坑



東中学校西遺跡第23地点トレンチ2



東中学校西遺跡第24地点トレンチ1



東中学校西遺跡第24地点トレンチ1



東中学校西遺跡第24地点トレンチ6



東中学校西遺跡第25地点トレンチ1



東中学校西遺跡第25地点トレンチ1



東中学校西遺跡第25地点トレンチ3



東中学校西遺跡第26地点トレンチ1



東中学校西遺跡第26地点トレンチ3



東中学校西遺跡第27地点調査区近景



東中学校西遺跡第27地点トレンチ



西ノ原遺跡第132地点調査区全景



西ノ原遺跡第132地点調査区全景

51号住居跡



52号住居跡



146号住居跡



西ノ原遺跡第132地点出土遺物No 1～38



西ノ原遺跡第133地点調査区近景



西ノ原遺跡第133地点トレンチ1



西ノ原遺跡第134地点調査区近景



西ノ原遺跡第134地点トレンチ



西ノ原遺跡第134地点トレンチ1



西ノ原遺跡第135地点調査区全景



西ノ原遺跡第135地点調査区全景



中沢前遺跡第26地点調査区近景



中沢前遺跡第26地点トレンチ2



中沢前遺跡第26地点トレンチ2



神明後遺跡第26地点調査区近景



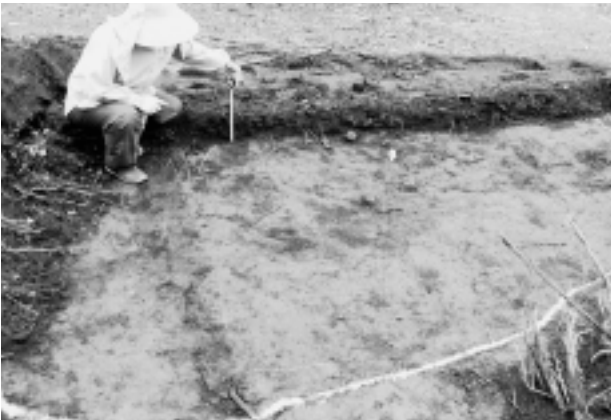
神明後遺跡第26地点トレンチ1



神明後遺跡第26地点トレンチ2



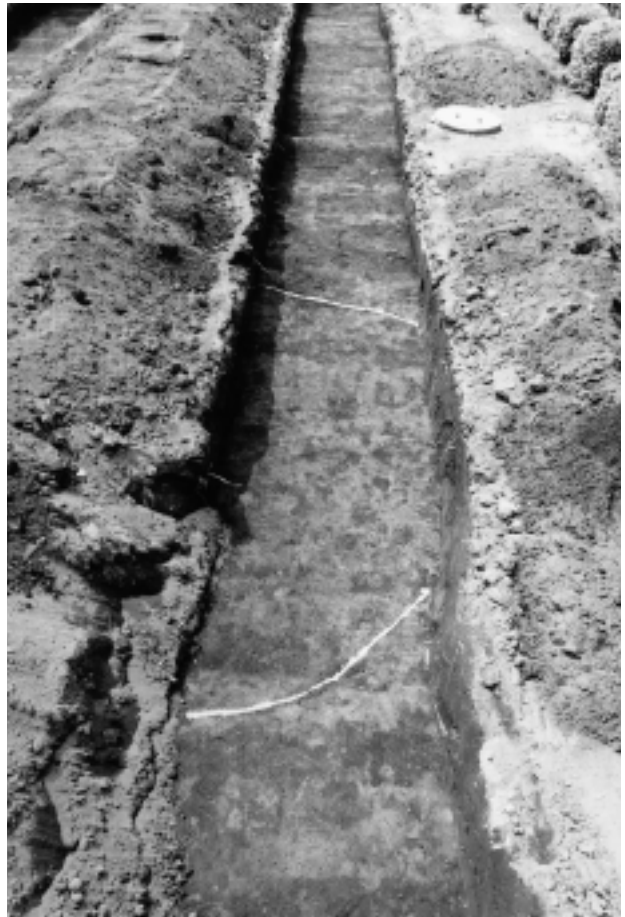
神明後遺跡第26地点トレンチ2



神明後遺跡第26地点調査風景



神明後遺跡第27地点トレンチ3



神明後遺跡第27地点トレンチ3



苗間東久保遺跡第24地点調査区近景



苗間東久保遺跡第24地点トレンチ1



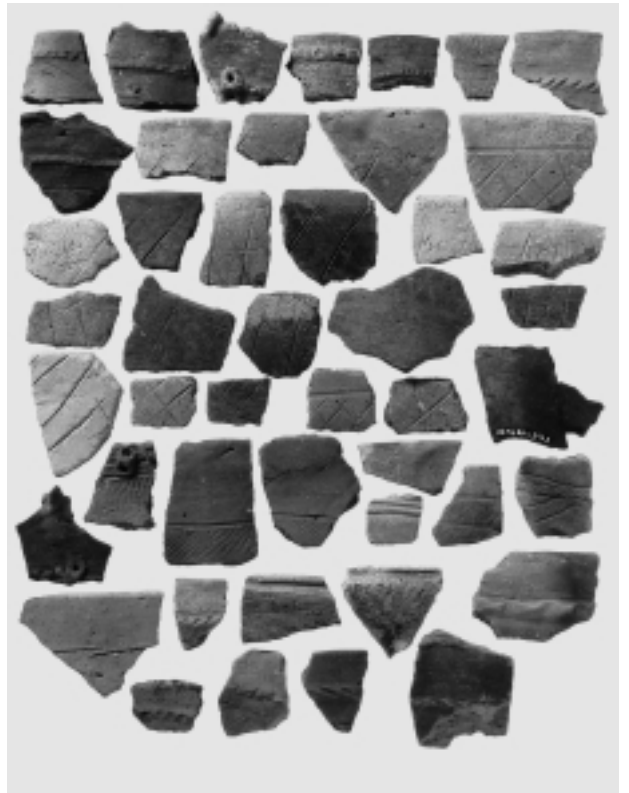
苗間東久保遺跡第24地点トレンチ2



苗間東久保遺跡第24地点トレンチ3



苗間東久保遺跡第24地点出土遺物No 1～24



苗間東久保遺跡第24地点出土遺物No25～70

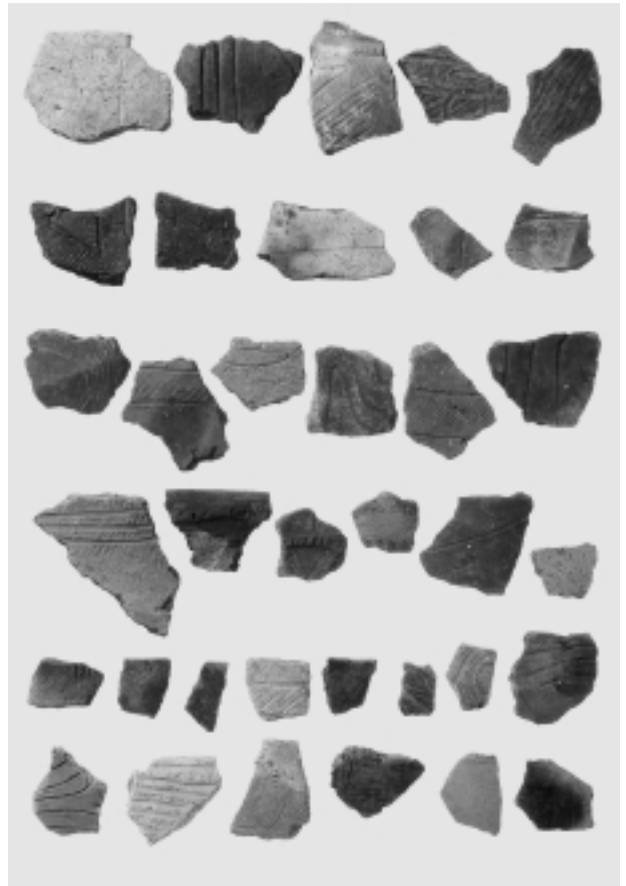




26~54裏面



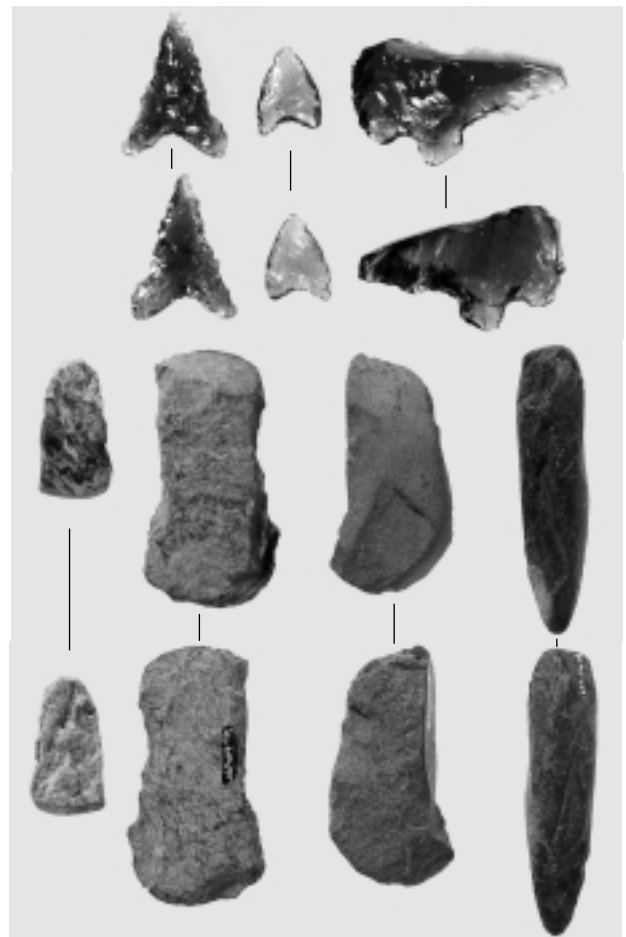
苗間東久保遺跡第24地点出土遺物No71~117



苗間東久保遺跡第24地点出土遺物No118~153



苗間東久保遺跡第24地点出土遺物No154~194



苗間東久保遺跡第24地点出土遺物No195~201



浄禅寺跡遺跡第27地点調査区近景



浄禅寺跡遺跡第27地点調査区近景



浄禅寺跡遺跡第27地点トレンチ 1



浄禅寺跡遺跡第27地点トレンチ 2



浄禅寺跡遺跡第27地点トレンチ 3



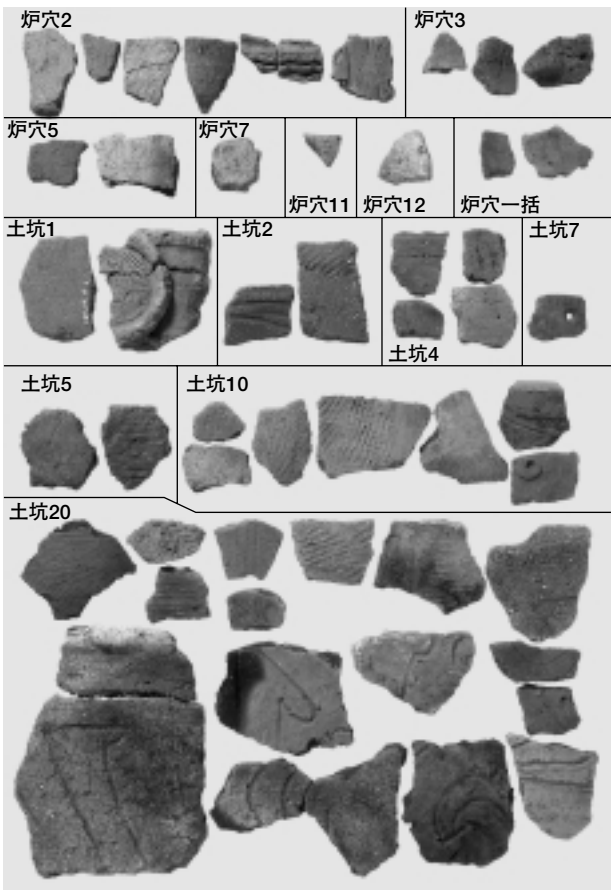
浄禅寺跡遺跡第27地点トレンチ 4



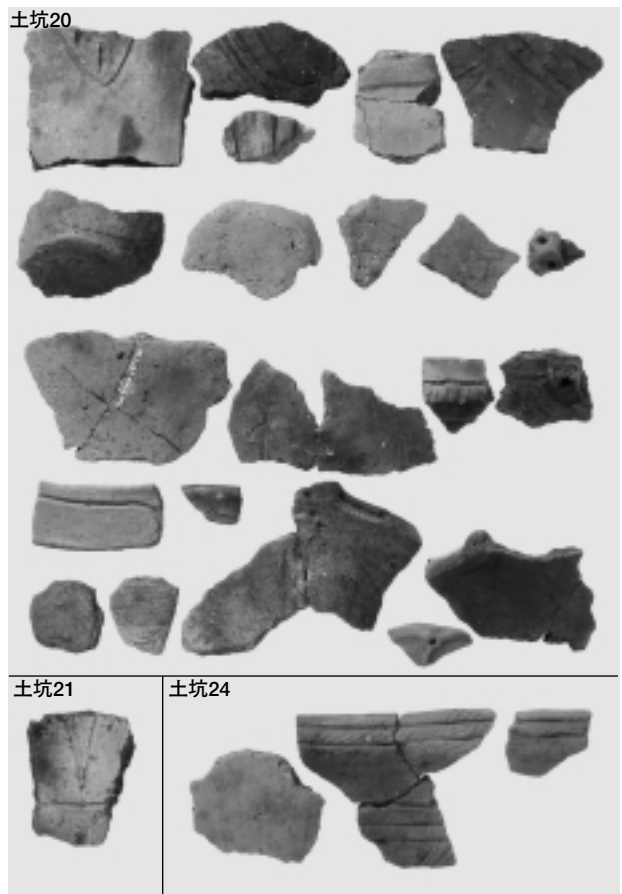
浄禅寺跡遺跡第27地点トレンチ 5



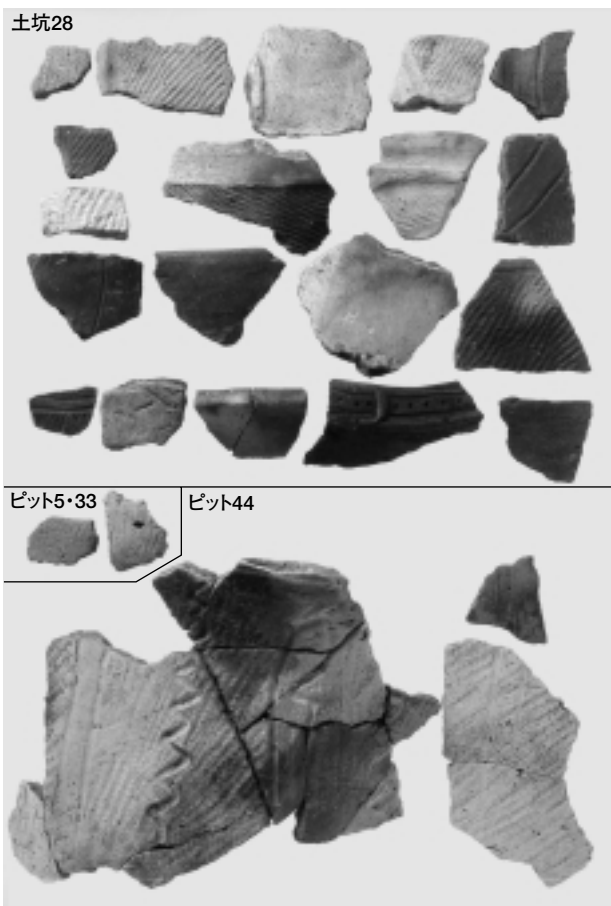
浄禅寺跡遺跡第27地点トレンチ 6



浄禅寺跡遺跡第27地点炉穴・土坑出土遺物No 1～50



浄禅寺跡遺跡第27地点土坑出土遺物No51～75



浄禅寺跡遺跡第27地点土坑・ピット出土遺物No76～99



浄禅寺跡遺跡第27地点遺構外出土遺物No 1～47



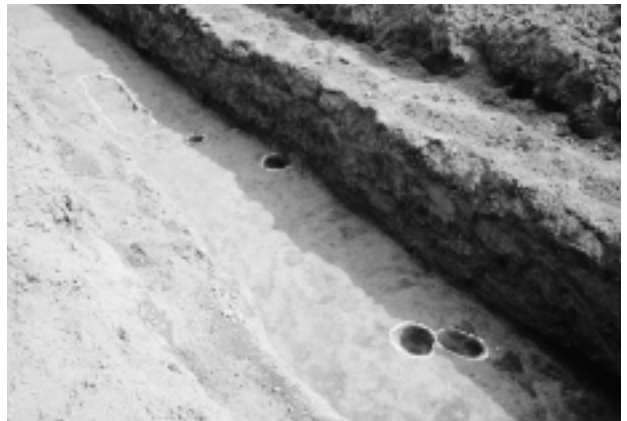
大井氏館跡遺跡第19地点トレンチ



大井氏館跡遺跡第19地点トレンチ



大井氏館跡遺跡第20地点トレンチ全景



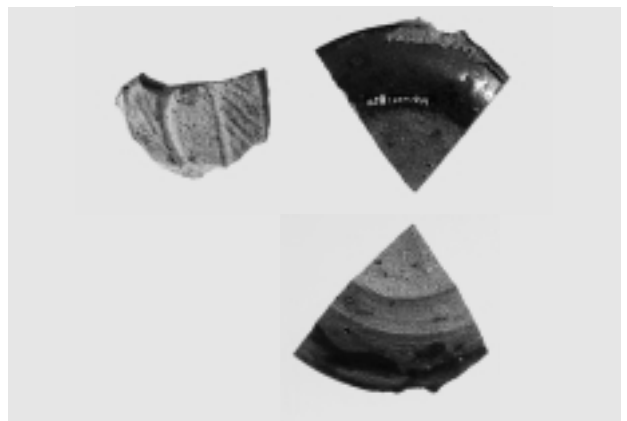
大井氏館跡遺跡第20地点トレンチ



大井氏館跡遺跡第20地点トレンチ



大井氏館跡遺跡第20地点トレンチ



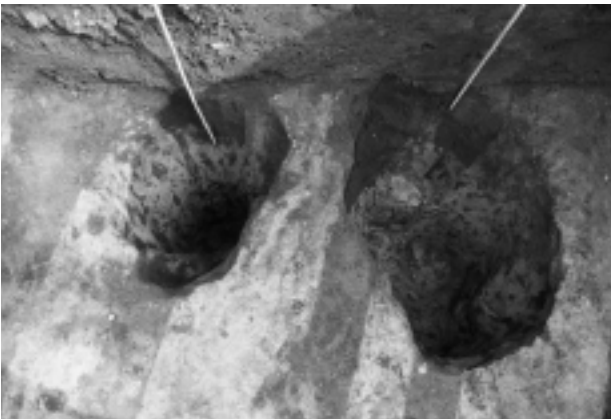
大井氏館跡遺跡第20地点出土遺物No 1、2



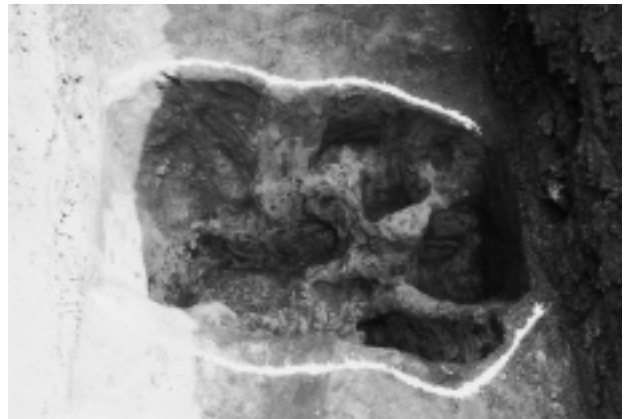
本村遺跡第113地点調査区近景



本村遺跡第113地点トレンチ全景



本村遺跡第113地点ピット1・2



本村遺跡第113地点ピット列



本村遺跡第114地点トレンチ1



本村遺跡第114地点トレンチ2



本村遺跡第114地点トレンチ2



本村遺跡第114地点調査区近景



本村遺跡第115地点トレンチ1



本村遺跡第115地点調査区近景



本村遺跡第115地点トレンチ3



本村遺跡第116地点トレンチ全景



本村遺跡第116地点トレンチ全景



本村遺跡第117地点調査区全景



本村遺跡第117地点調査風景



西台遺跡第6地点トレンチ1



西台遺跡第6地点調査区近景



西台遺跡第6地点トレンチ1



東台遺跡第44地点トレンチ2



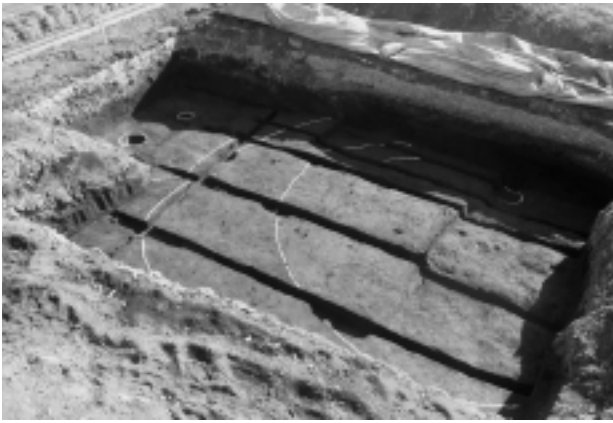
東台遺跡第44地点トレンチ2



東台遺跡第44地点トレンチ5



東台遺跡第44地点トレンチ6



東台遺跡第44地点95・96・97号住居跡



東台遺跡第44地点95・96・97号住居跡



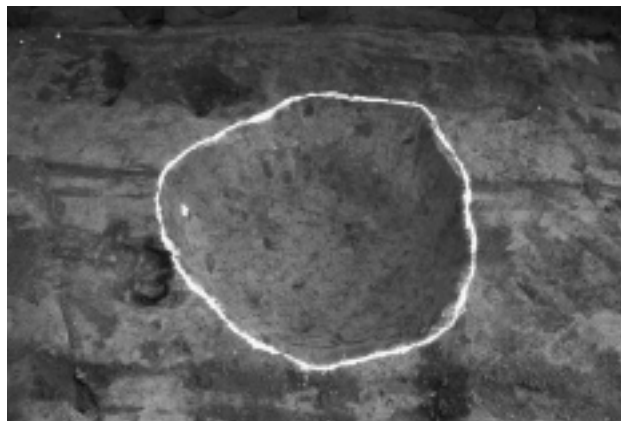
東台遺跡第44地点95・96・97号住居跡



東台遺跡第44地点トレンチ7



東台遺跡第44地点トレンチ7



東台遺跡第44地点トレンチ7

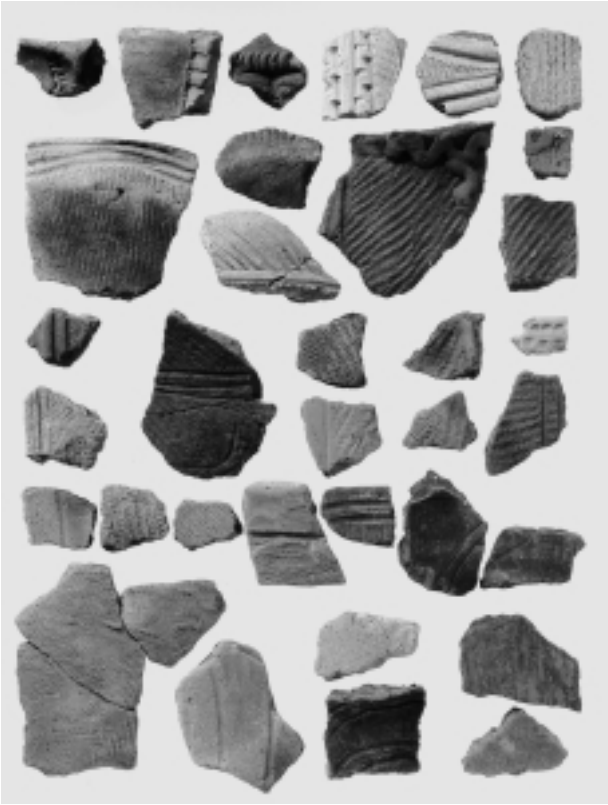


東台遺跡第44地点土坑

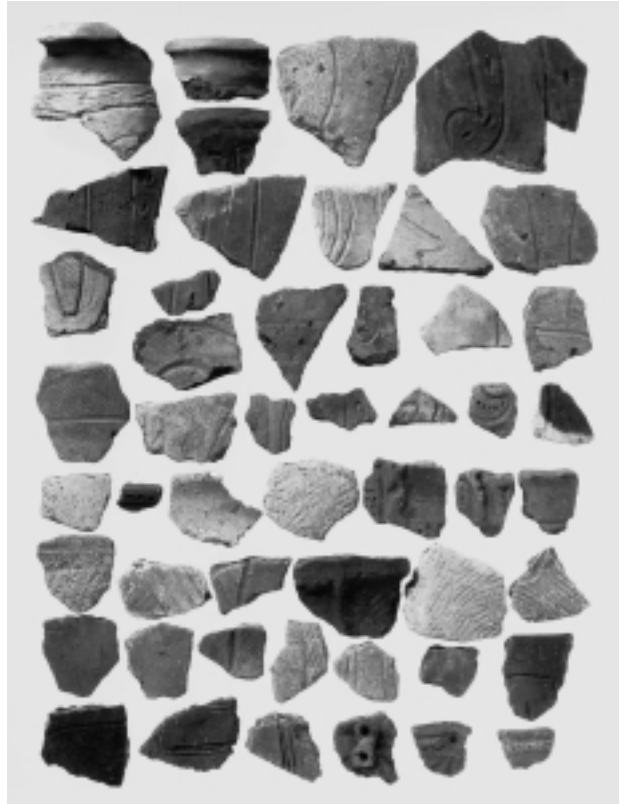


東台遺跡第44地点土坑2





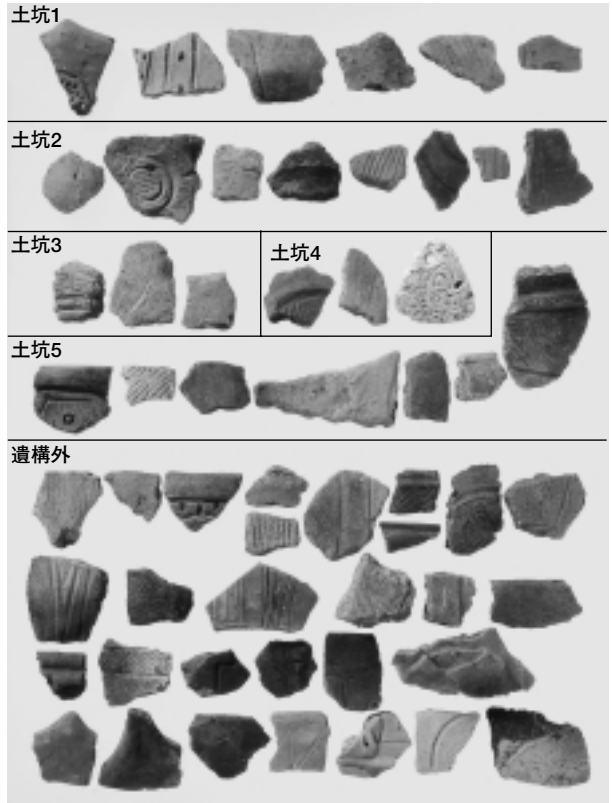
東台遺跡第44地点95～97号住居跡出土遺物No 1～34



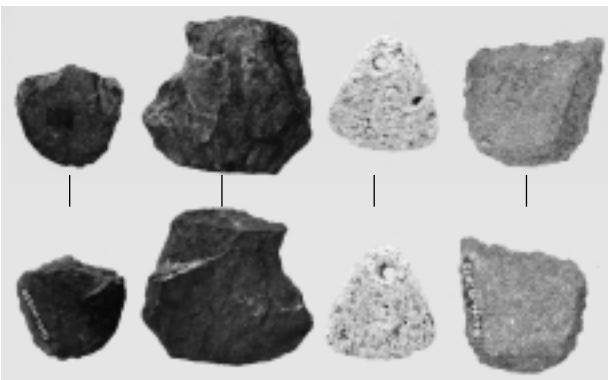
東台遺跡第44地点95～97号住居跡出土遺物No35～84



東台遺跡第44地点95～97号住居跡出土遺物No85～113



東台遺跡第44地点土坑・遺構外出土遺物



東台遺跡第44地点出土遺物No114・115・20・57



東台遺跡第44地点95～97号住居跡・土坑・遺構外出土石器No116・58



発掘調査風景（鶴ヶ岡遺跡第4地点）



発掘調査風景（神明後遺跡27地点）



発掘調査風景（江川南遺跡第20地点）



発掘調査風景（江川南遺跡第20地点）



遺物水洗



遺物実測



トレース作業



図版作成



苗間東久保遺跡第24地点トレンチ1



苗間東久保遺跡第24地点トレンチ2



苗間東久保遺跡第24地点トレンチ3



苗間東久保遺跡第24地点トレンチ4



苗間東久保遺跡第24地点トレンチ5



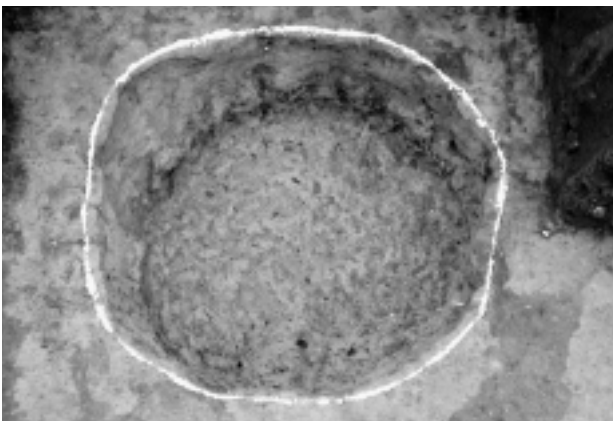
苗間東久保遺跡第24地点トレンチ6



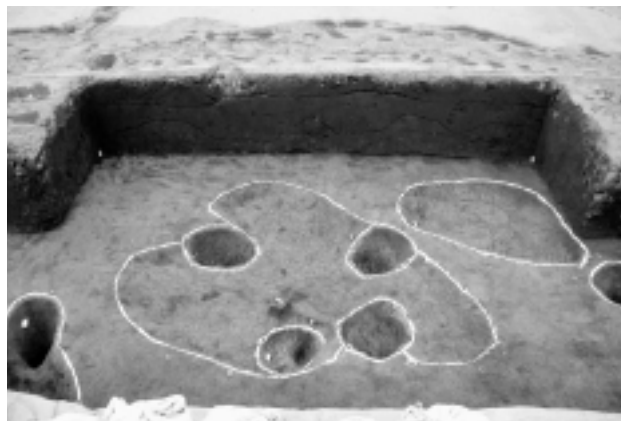
苗間東久保遺跡第24地点トレンチ7・8



苗間東久保遺跡第24地点トレンチ8



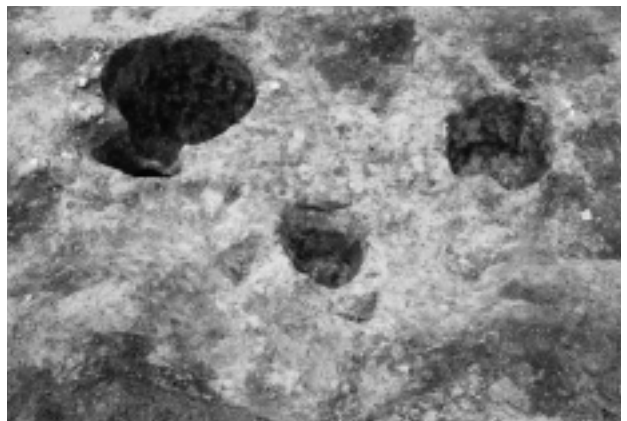
苗間東久保遺跡第24地点土坑1



苗間東久保遺跡第24地点土坑2・3、ピット40~43



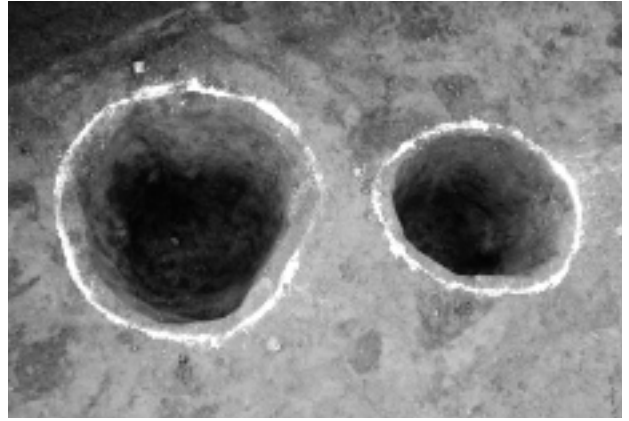
苗間東久保遺跡第24地点土坑4



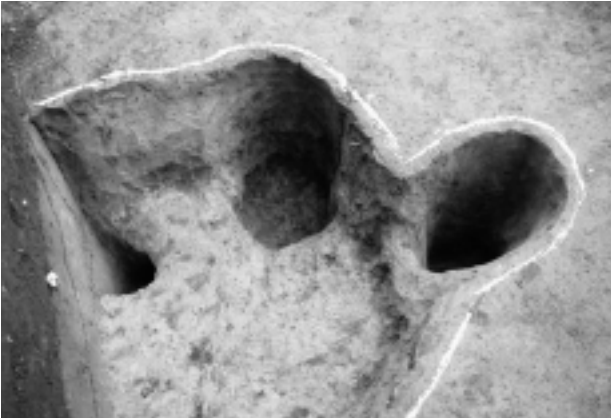
苗間東久保遺跡第24地点土坑9、ピット60~62



苗間東久保遺跡第24地点土坑10



苗間東久保遺跡第24地点ピット14・33



苗間東久保遺跡第24地点ピット36・45・47



苗間東久保遺跡第24地点ピット69~87・127



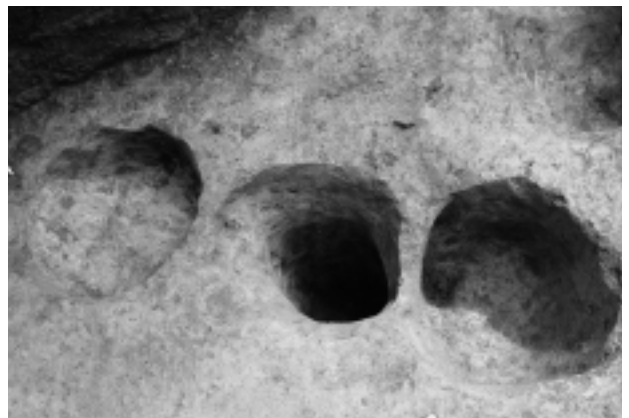
苗間東久保遺跡第24地点ピット95・99~101・128・129・131



苗間東久保遺跡第24地点ピット100・131遺物出土状況



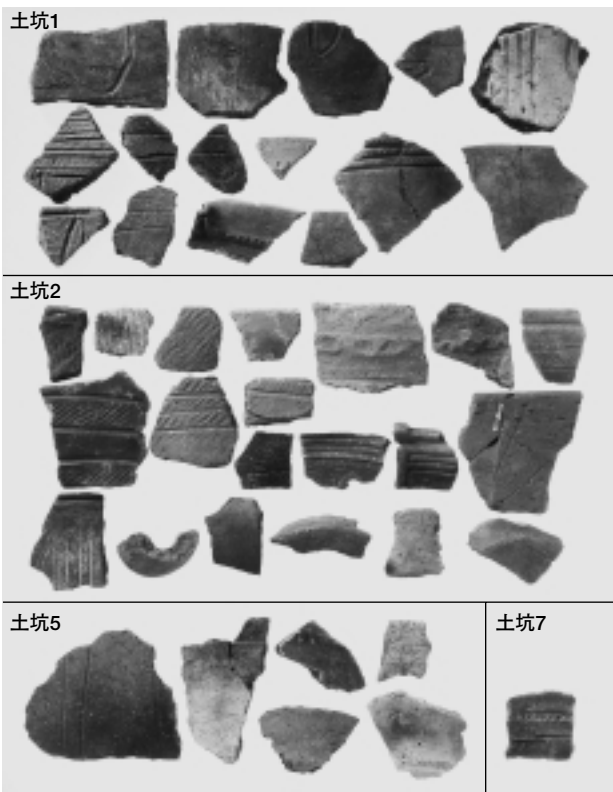
苗間東久保遺跡第24地点ピット100・131遺物出土状況



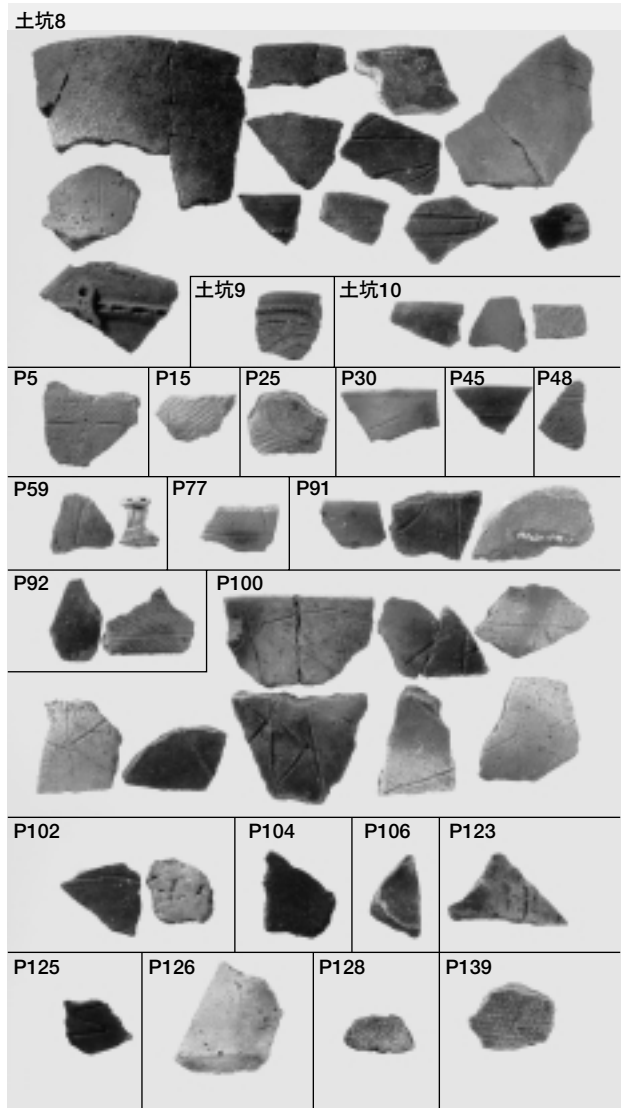
苗間東久保遺跡第24地点ピット110~112



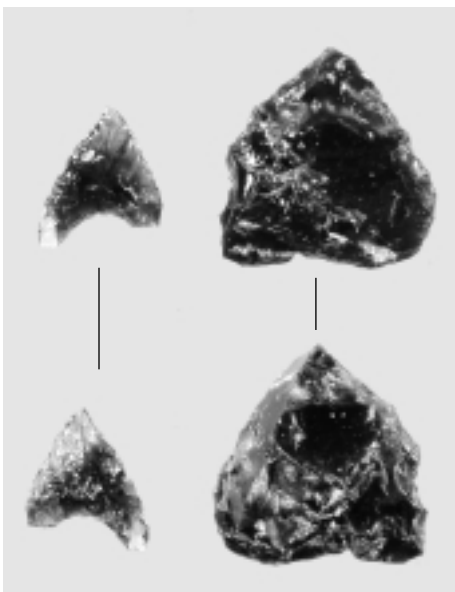
苗間東久保遺跡第24地点調査風景



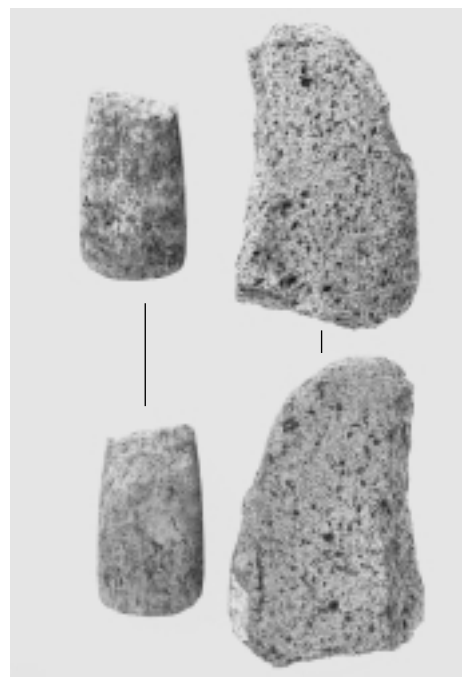
苗間東久保遺跡第24地点土坑・ピット出土遺物



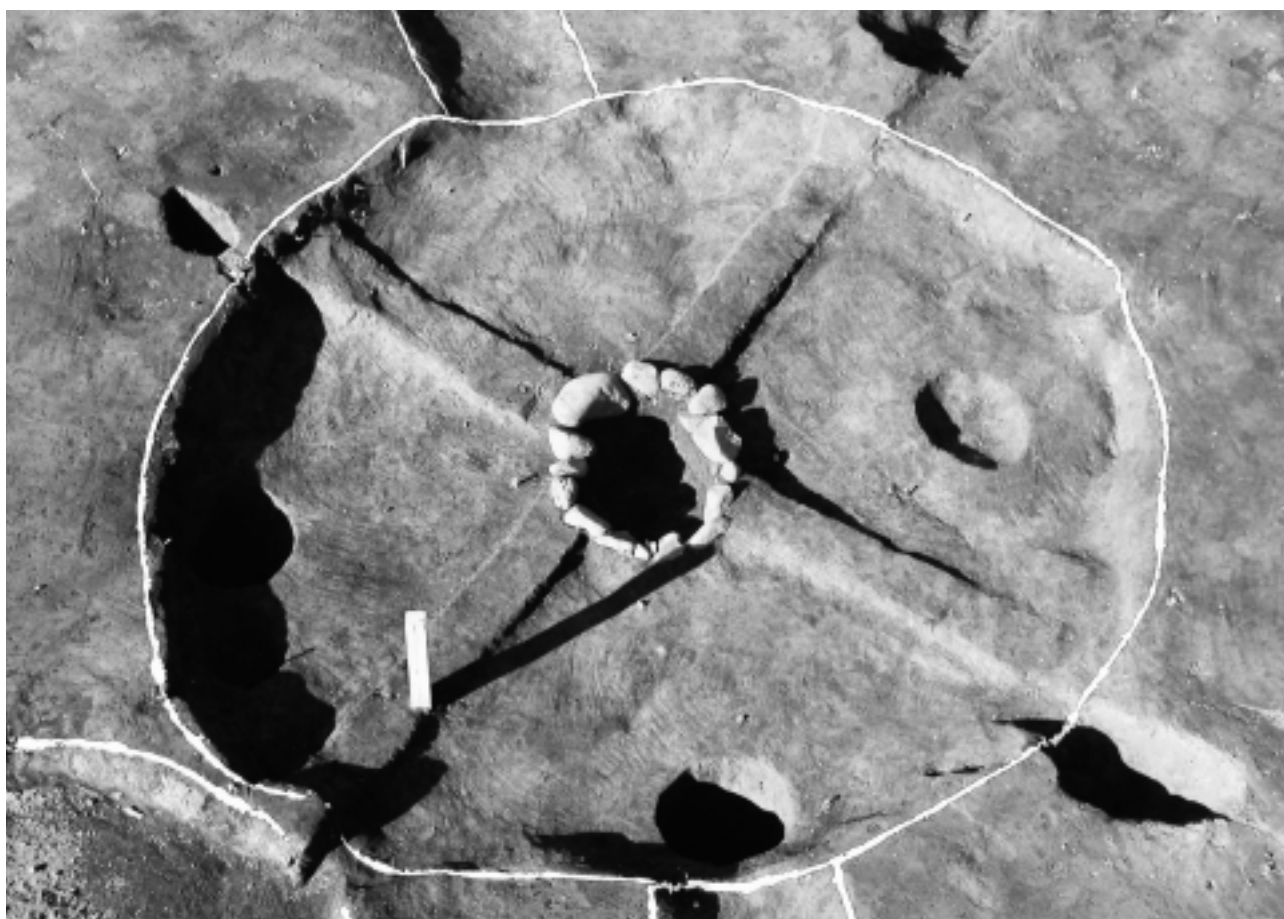
苗間東久保遺跡第24地点土坑・ピット出土遺物



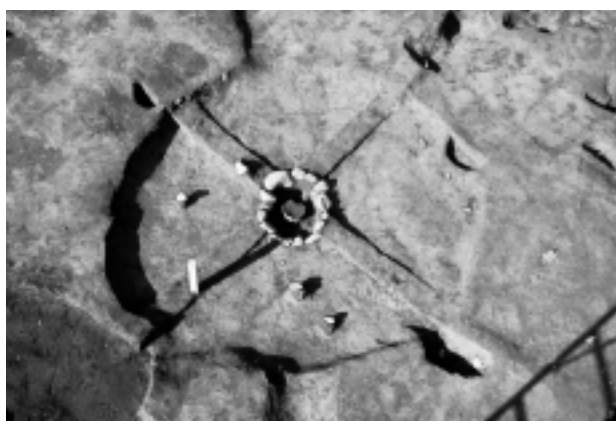
苗間東久保遺跡第24地点ピット37出土遺物



苗間東久保遺跡第24地点土坑 2 出土遺物



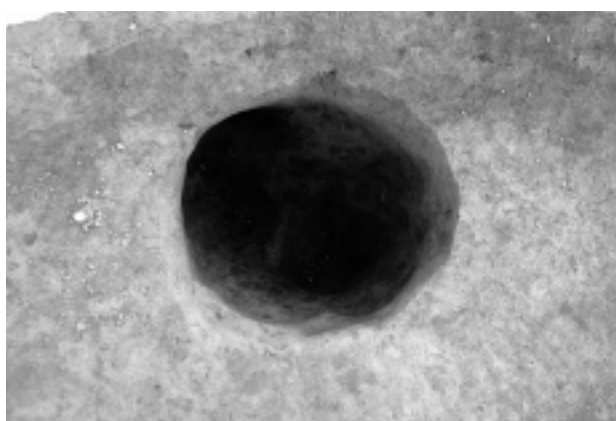
浄禅寺跡遺跡 2号住居跡



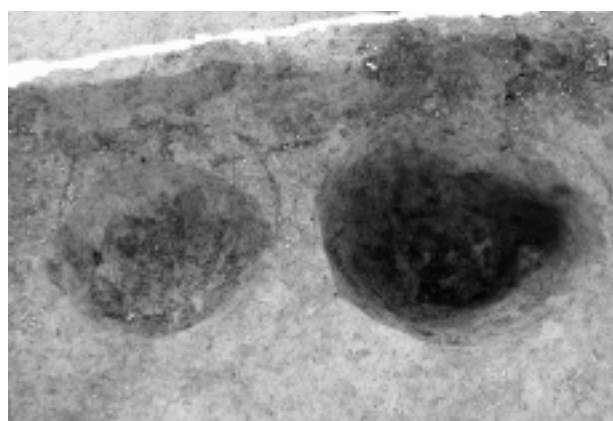
浄禅寺跡遺跡 2号住居跡遺物出土状況



浄禅寺跡遺跡 2号住居跡炉遺物出土状況



浄禅寺跡遺跡 2号住居跡内ピット



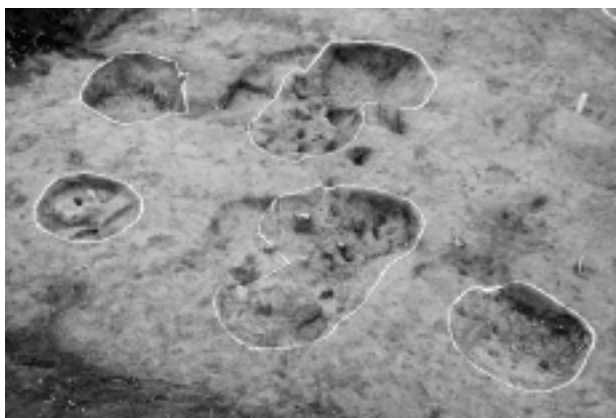
浄禅寺跡遺跡 2号住居跡内ピット



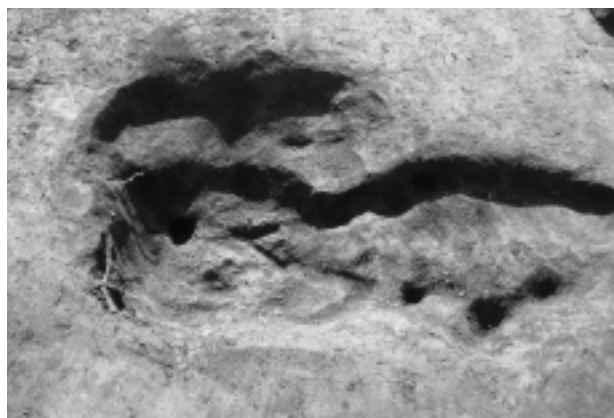
浄禅寺跡遺跡第27地点調査区全景



浄禅寺跡遺跡第27地点調査区全景



浄禅寺跡遺跡第27地点炉穴2～6、土坑9・27



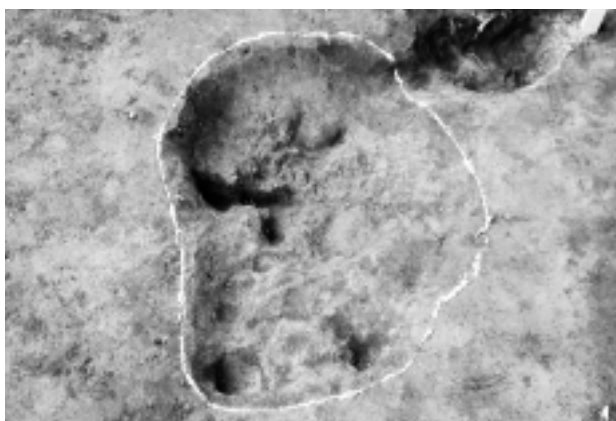
浄禅寺跡遺跡第27地点炉穴3・4



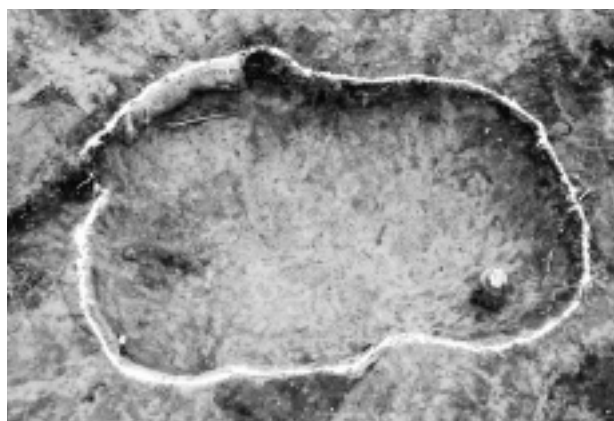
浄禅寺跡遺跡第27地点炉穴6



浄禅寺跡遺跡第27地点炉穴7～9

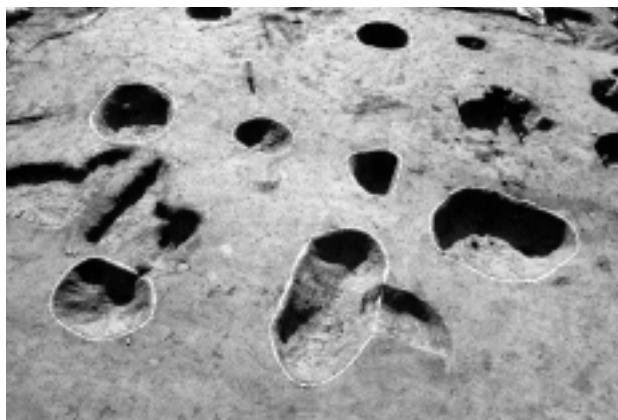


浄禅寺跡遺跡第27地点炉穴13



浄禅寺跡遺跡第27地点炉穴14・15

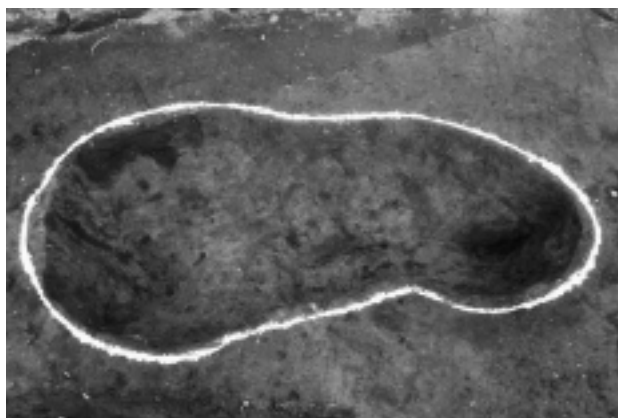




浄禅寺跡遺跡第27地点土坑 2・25、ピット37~39



浄禅寺跡遺跡第27地点土坑 2



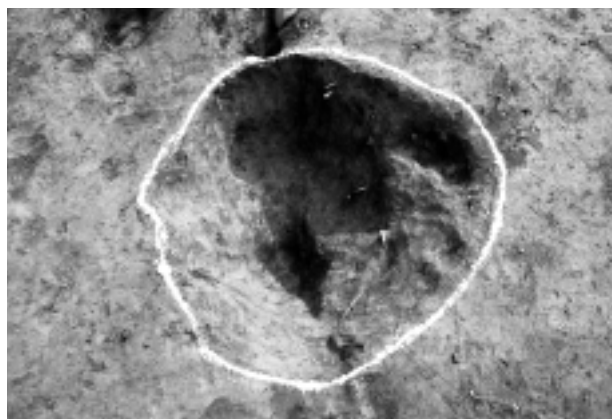
浄禅寺跡遺跡第27地点土坑 4



浄禅寺跡遺跡第27地点土坑 5、ピット29・30



浄禅寺跡遺跡第27地点土坑 6



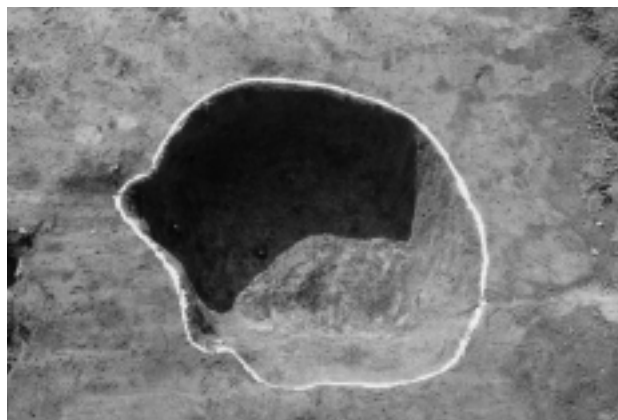
浄禅寺跡遺跡第27地点土坑 7



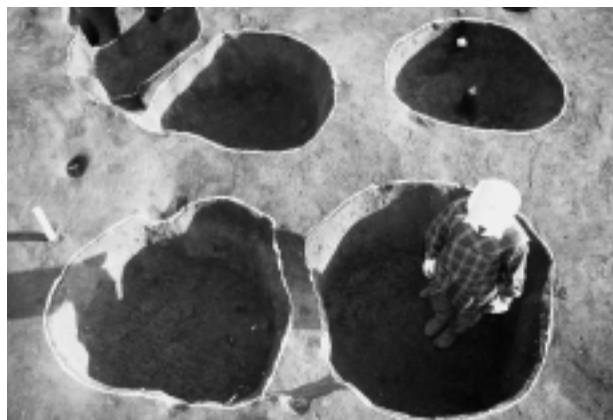
浄禅寺跡遺跡第27地点土坑 8



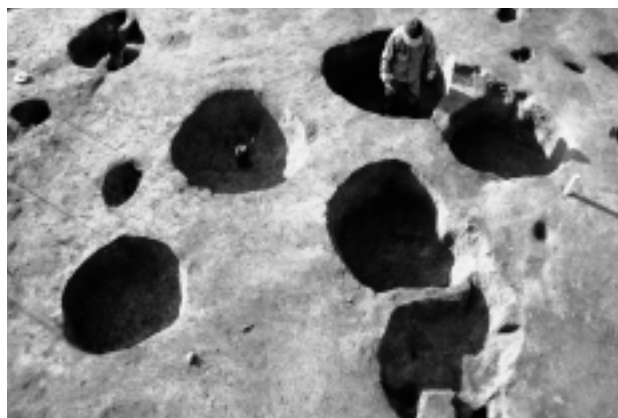
浄禅寺跡遺跡第27地点土坑 8



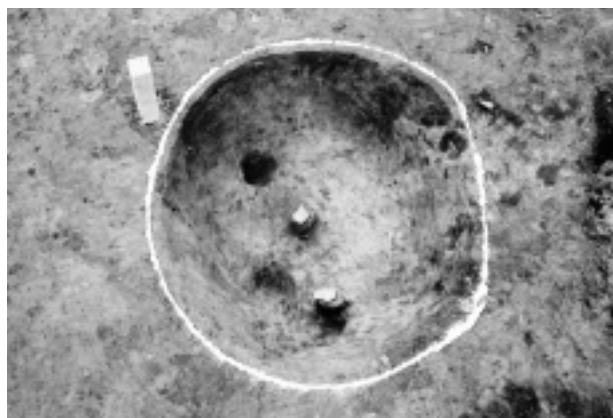
浄禅寺跡遺跡第27地点土坑 9



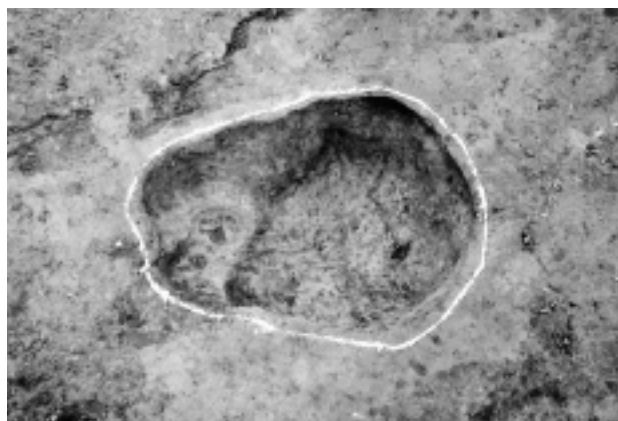
浄禅寺跡遺跡第27地点土坑10~14



浄禅寺跡遺跡第27地点土坑10~15



浄禅寺跡遺跡第27地点土坑16



浄禅寺跡遺跡第27地点土坑17



浄禅寺跡遺跡第27地点土坑19



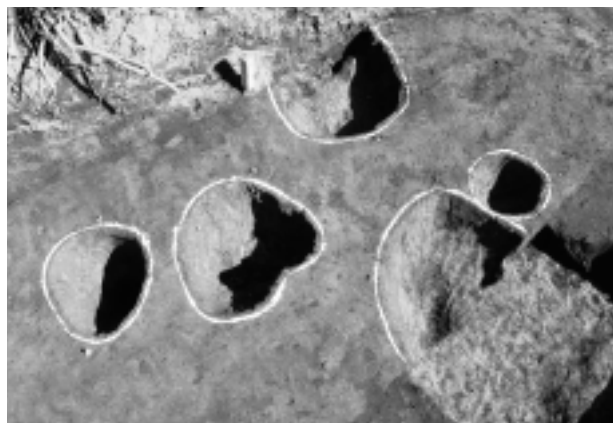
浄禅寺跡遺跡第27地点土坑18



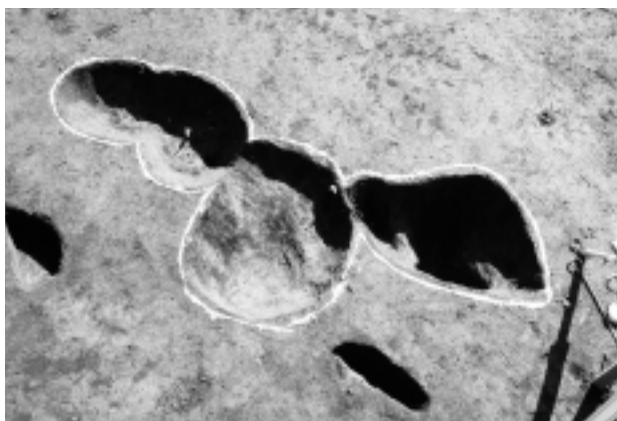
浄禅寺跡遺跡第27地点土坑19



浄禅寺跡遺跡第27地点土坑20



浄禅寺跡遺跡第27地点土坑21、ピット17～19



浄禅寺跡遺跡第27地点土坑23、ピット26～28



浄禅寺跡遺跡第27地点土坑24、ピット24・25



浄禅寺跡遺跡第27地点土坑22・26、ピット42



浄禅寺跡遺跡第27地点土坑28、炉穴7～11



浄禅寺跡遺跡第27地点土坑28



浄禅寺跡遺跡第27地点土坑28



浄禅寺跡遺跡第27地点屋外埋甕 1



浄禅寺跡遺跡第27地点屋外埋甕 1



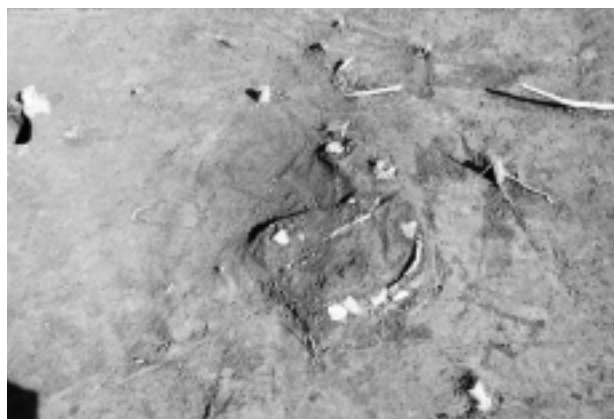
浄禅寺跡遺跡第27地点屋外埋甕 1



浄禅寺跡遺跡第27地点屋外埋甕 1



浄禅寺跡遺跡第27地点屋外埋甕 1、ピット13



浄禅寺跡遺跡第27地点屋外埋甕 2



浄禅寺跡遺跡第27地点屋外埋甕 2



浄禅寺跡遺跡第27地点屋外埋甕 2



浄禅寺跡遺跡 2号住居跡炉体土器



浄禅寺跡遺跡第27地点土坑19出土土器



浄禅寺跡遺跡第27地点屋外埋甕1出土土器



浄禅寺跡遺跡第27地点土坑19出土土器



浄禅寺跡遺跡第27地点屋外埋甕2出土土器



浄禅寺跡遺跡第27地点出土土器



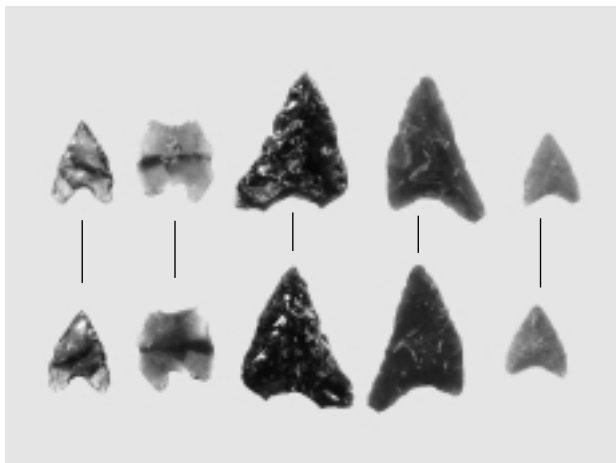
浄禅寺跡遺跡第27地点遺構外出土遺物No48~89



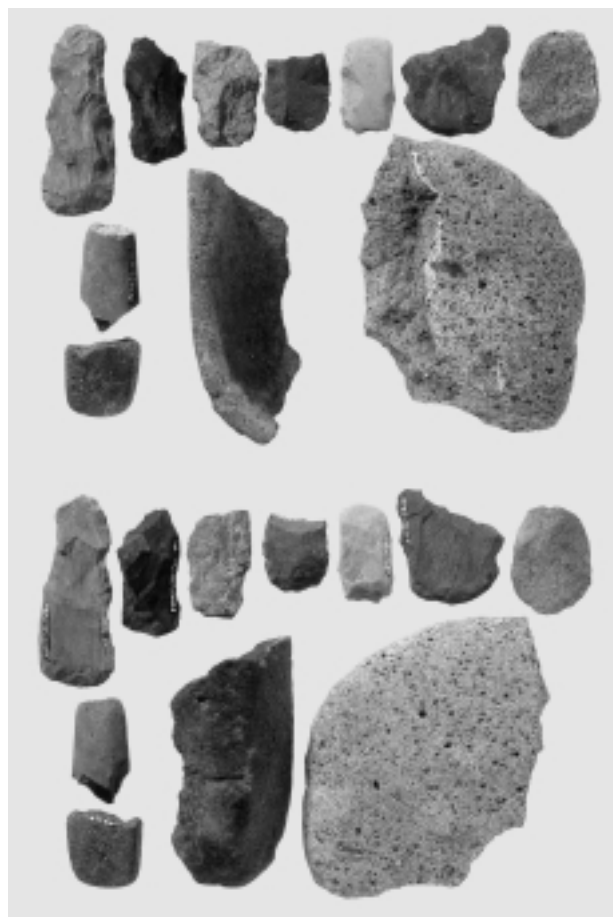
浄禅寺跡遺跡第27地点遺構外出土遺物No90~119



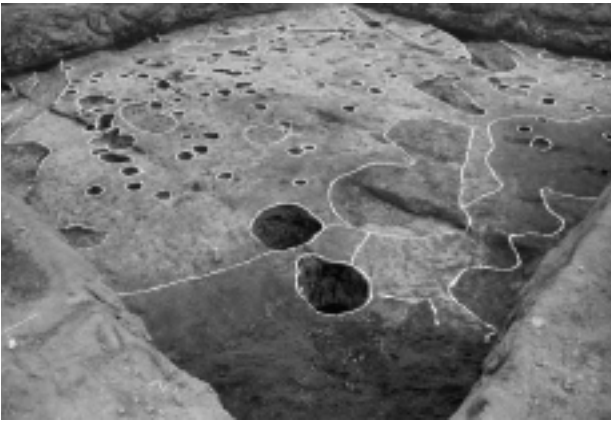
浄禅寺跡遺跡第27地点遺構外出土遺物No120~128



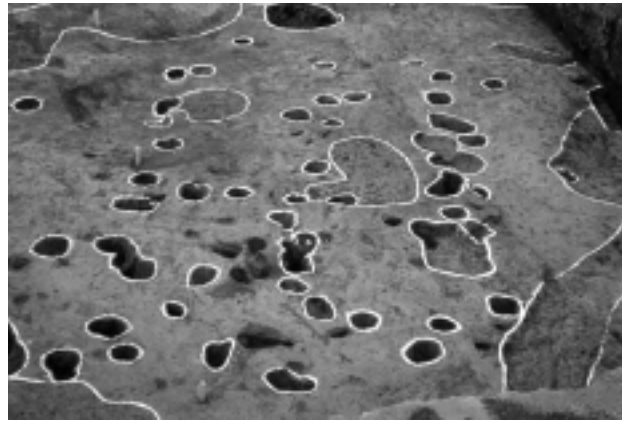
浄禅寺跡遺跡第27地点土坑・遺構外出土石器No 1 ~ 5



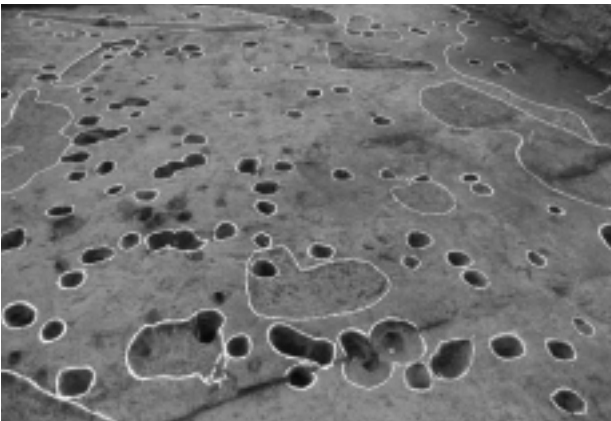
浄禅寺跡遺跡第27地点土坑・遺構外出土石器No 6 ~ 16



本村遺跡第115地点北側調査区近景



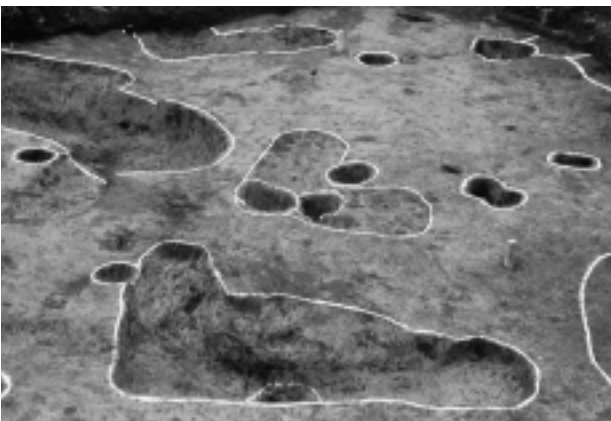
本村遺跡第115地点北側調査区近景



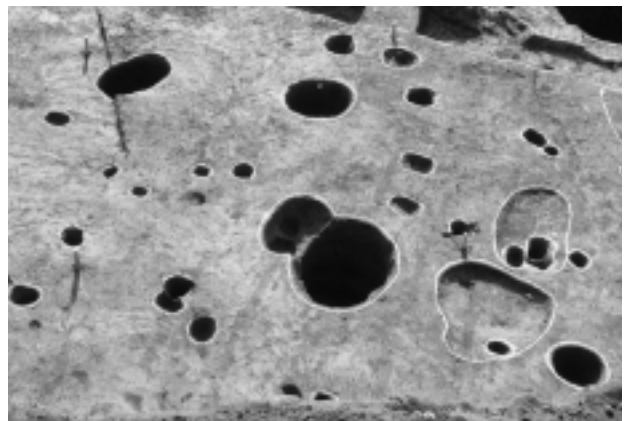
本村遺跡第115地点北側調査区近景



本村遺跡第115地点土坑1・6・7、溝3



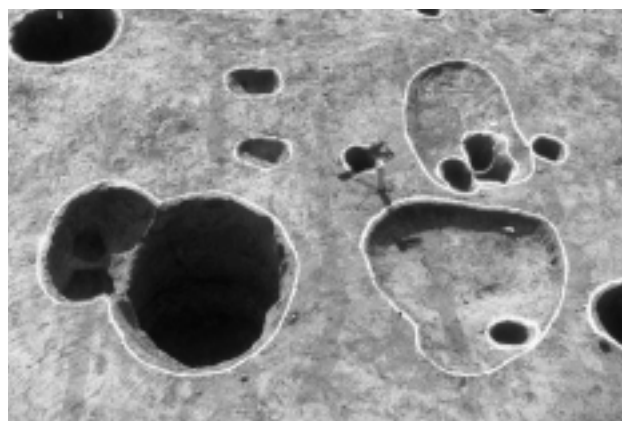
本村遺跡第115地点土坑1・6・7



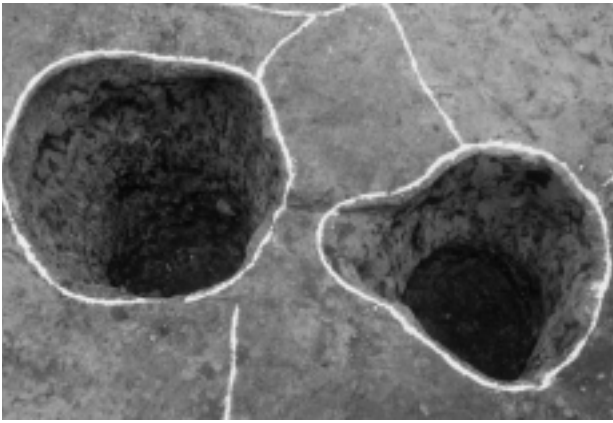
本村遺跡第115地点井戸5・6・8、土坑13・14



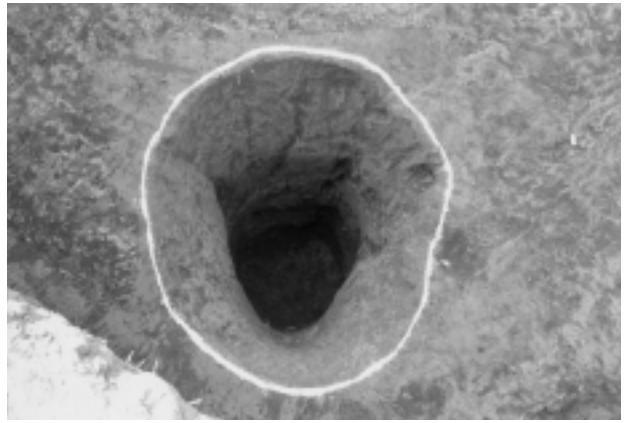
本村遺跡第115地点井戸8、土坑13・14



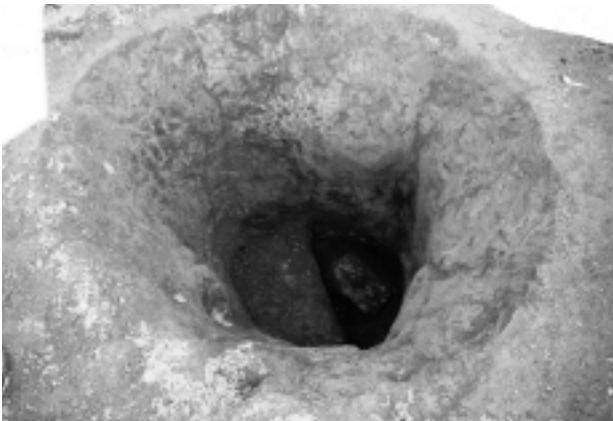
本村遺跡第115地点井戸8、土坑13・14



本村遺跡第115地点井戸 1・2



本村遺跡第115地点井戸 3



本村遺跡第115地点井戸 3 遺物出土状況



本村遺跡第115地点井戸 3 遺物出土状況



本村遺跡第115地点井戸 4



本村遺跡第115地点井戸 5

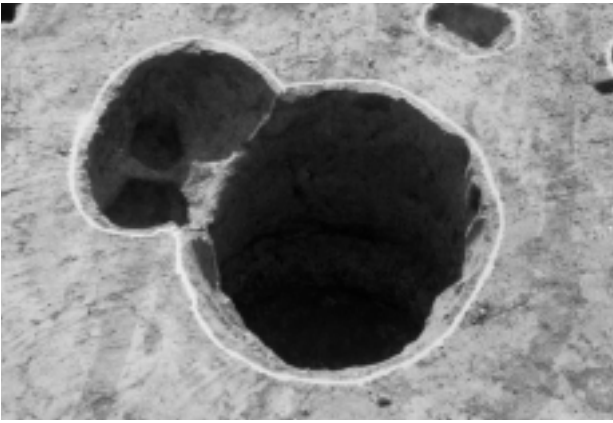


本村遺跡第115地点井戸 6

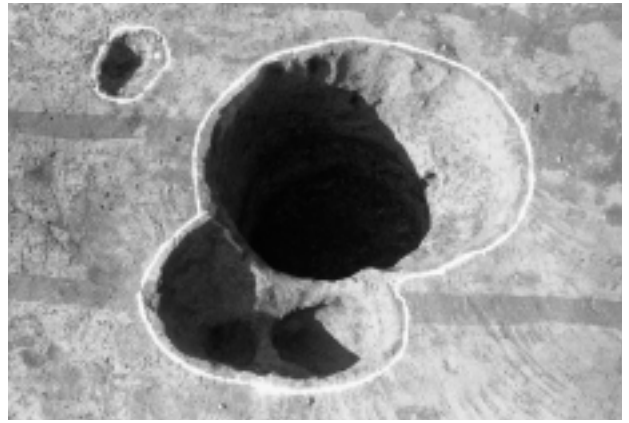


本村遺跡第115地点井戸 7、溝 1





本村遺跡第115地点井戸 8



本村遺跡第115地点井戸 8



本村遺跡第115地点井戸 9



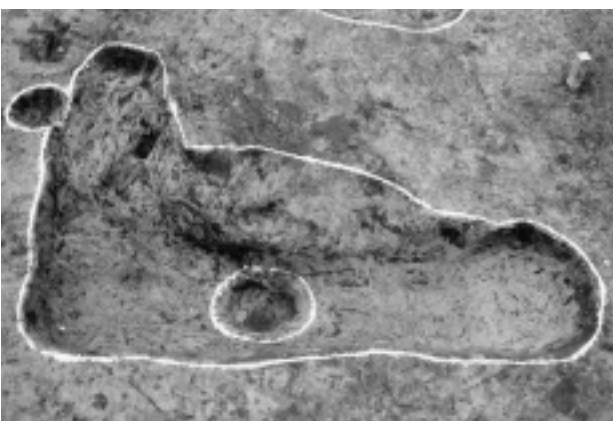
本村遺跡第115地点井戸 9



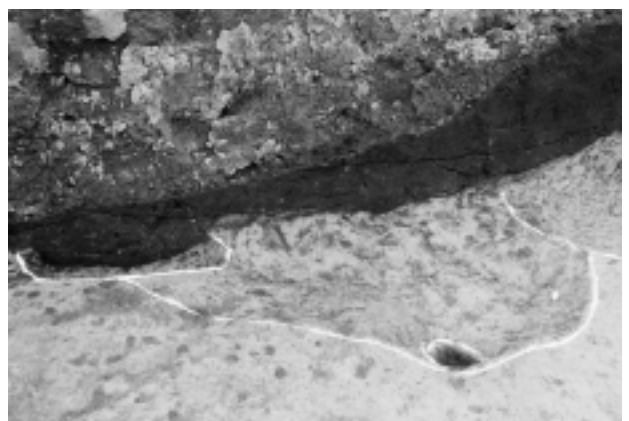
本村遺跡第115地点井戸 10



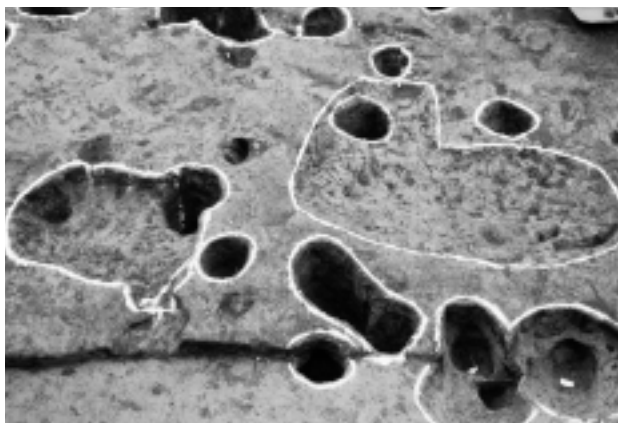
本村遺跡第115地点井戸 11



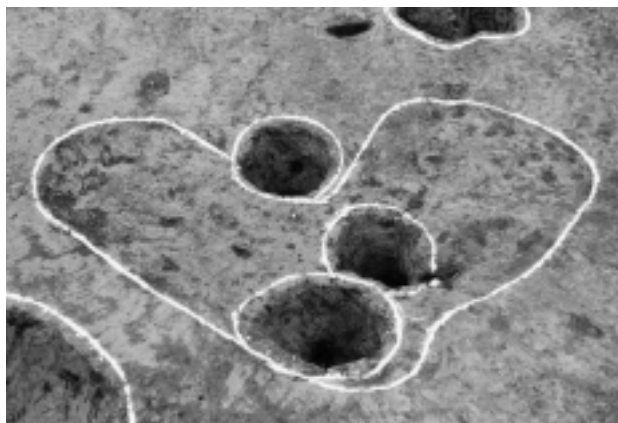
本村遺跡第115地点土坑 1



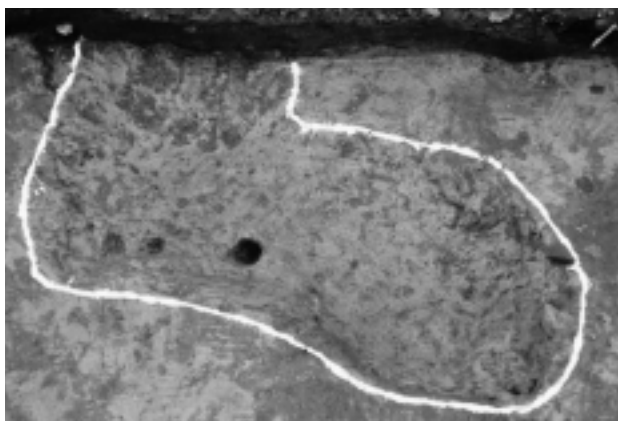
本村遺跡第115地点土坑 2・3



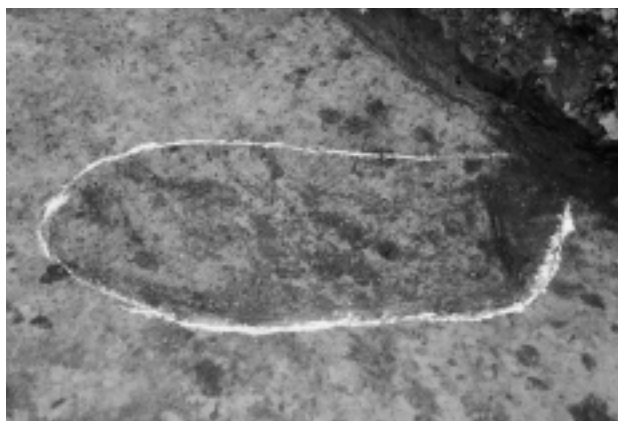
本村遺跡第115地点土坑4・5



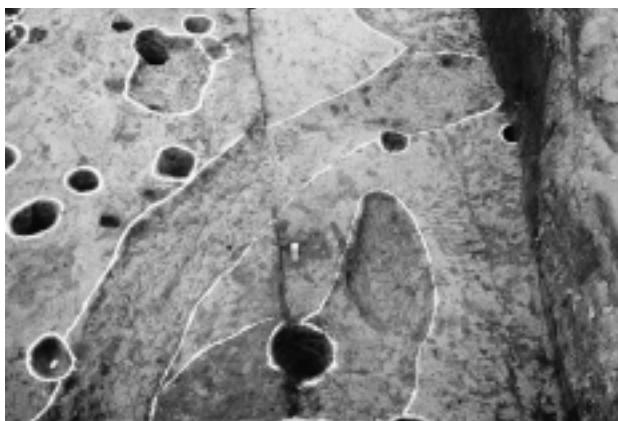
本村遺跡第115地点土坑6



本村遺跡第115地点土坑7



本村遺跡第115地点土坑8



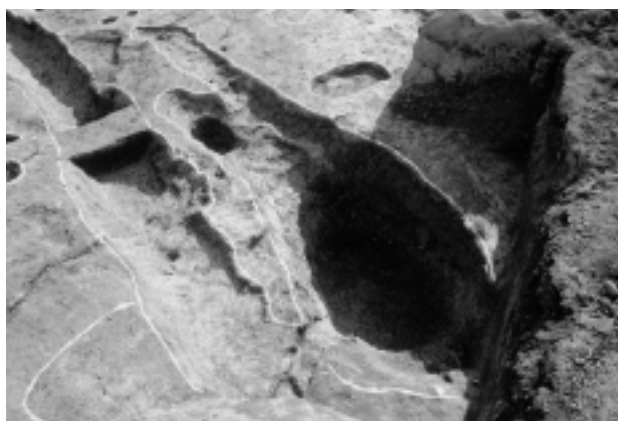
本村遺跡第115地点土坑4・9、溝1



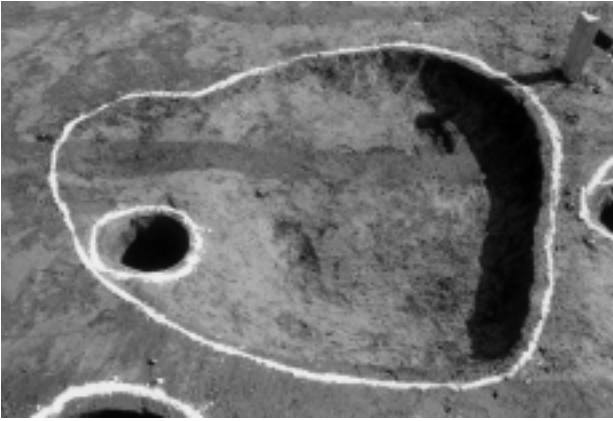
本村遺跡第115地点井戸3、土坑10



本村遺跡第115地点土坑11・15



本村遺跡第115地点井戸4、土坑12、溝5～7



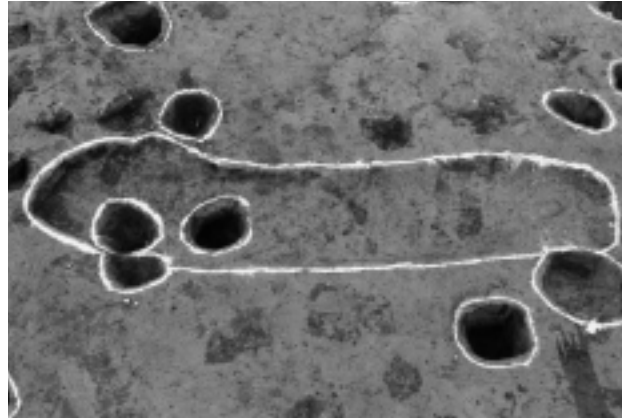
本村遺跡第115地点土坑13



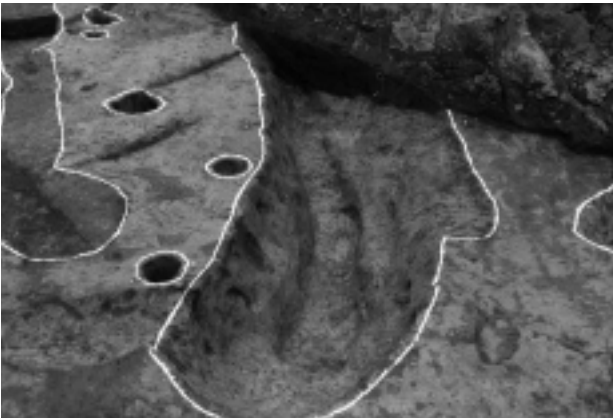
本村遺跡第115地点土坑14



本村遺跡第115地点土坑9、溝1



本村遺跡第115地点溝2



本村遺跡第115地点溝3



本村遺跡第115地点溝4



本村遺跡第115地点井戸4土坑12、溝5～7



本村遺跡第115地点溝5



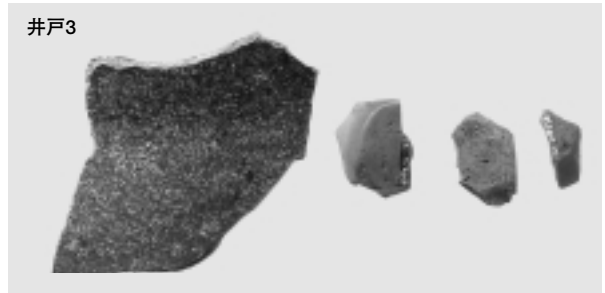
本村遺跡第115地点北側調査区全景



本村遺跡第115地点南側調査区全景



本村遺跡第115地点井戸2 出土遺物

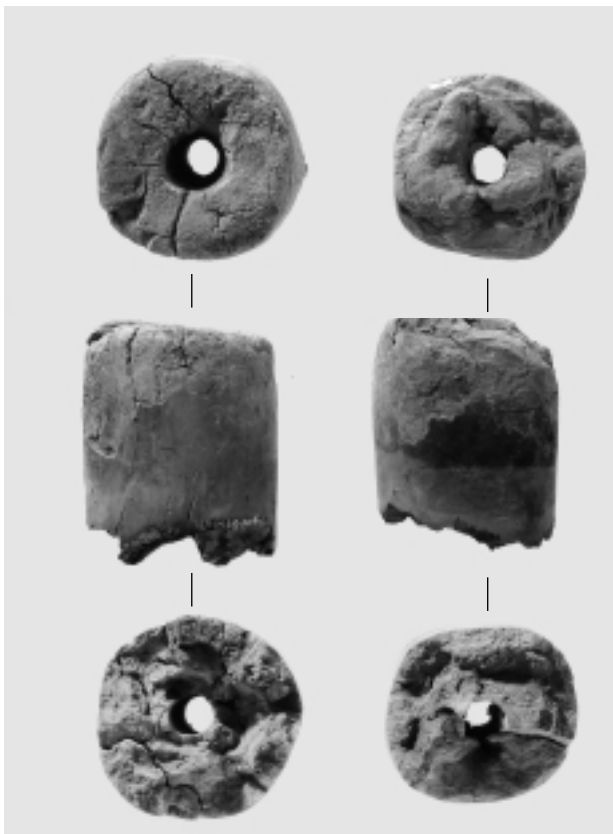


井戸3

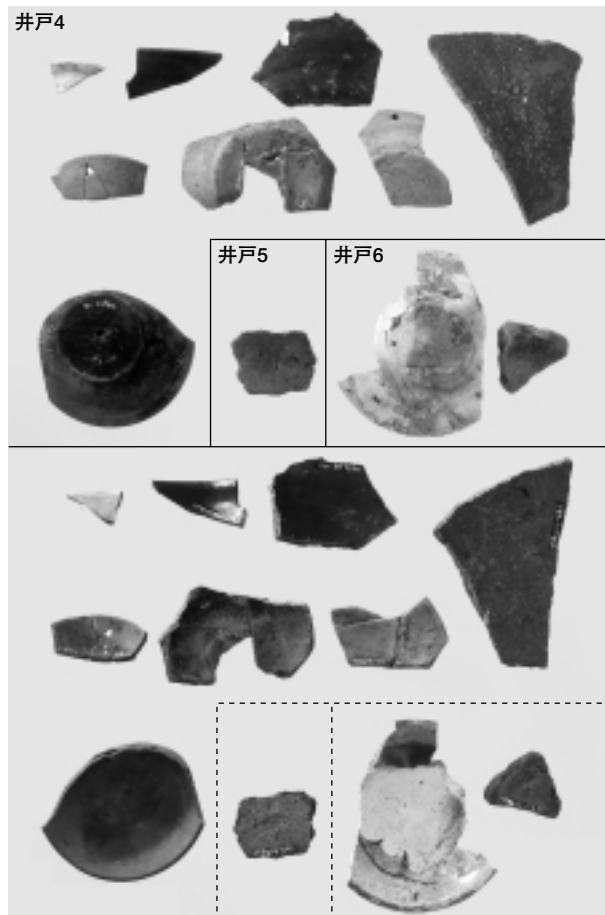


井戸3

本村遺跡第115地点井戸3 出土遺物



本村遺跡第115地点井戸3 出土遺物

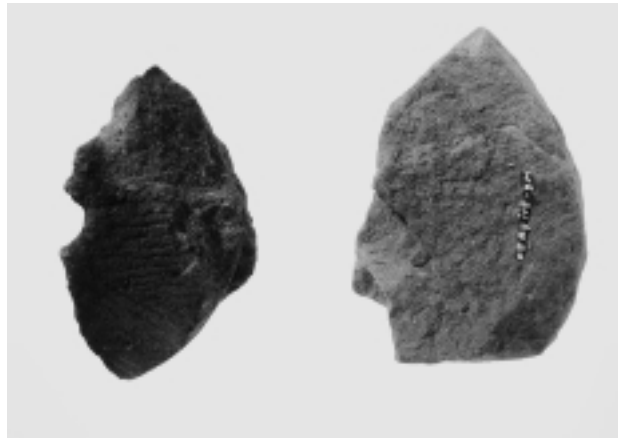
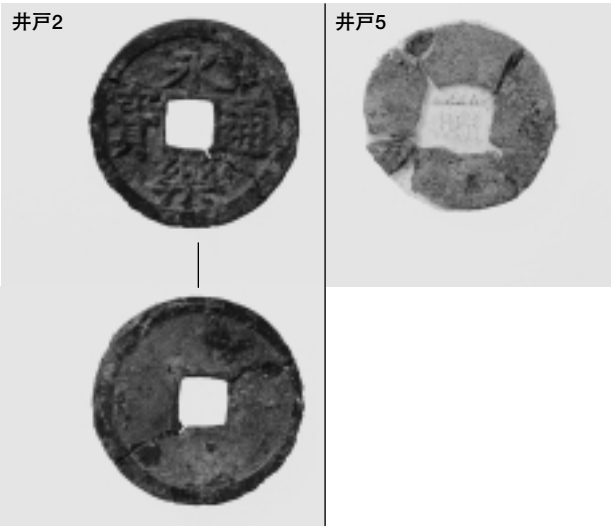


井戸4

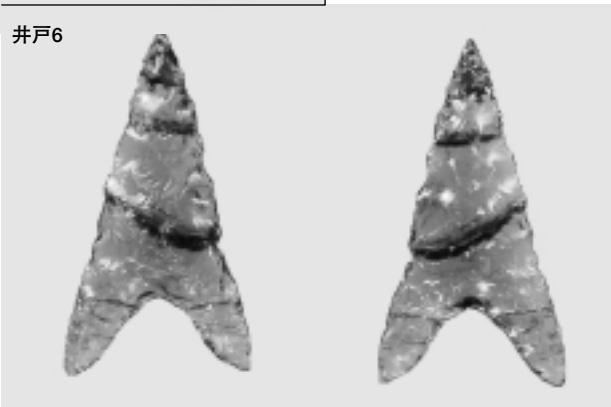
井戸5

井戸6

本村遺跡第115地点井戸4・5・6 出土遺物



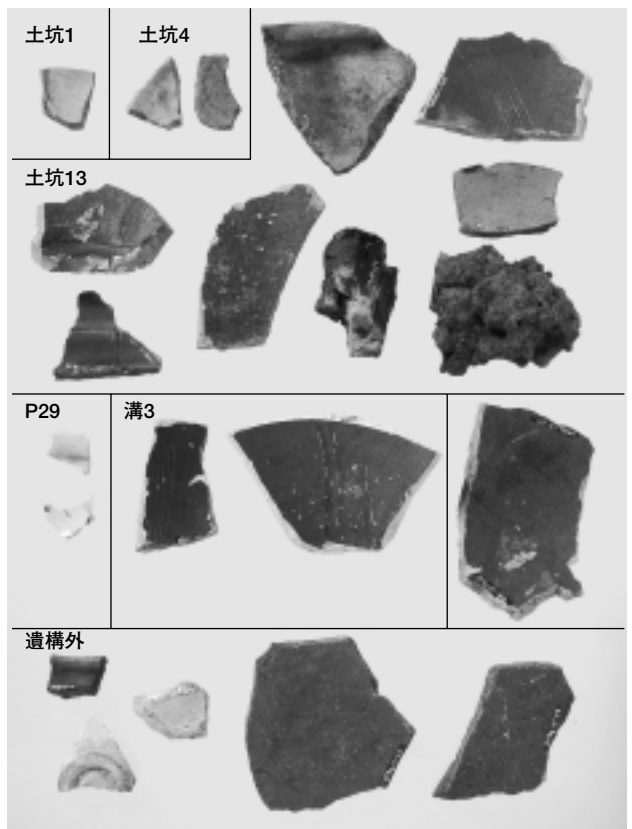
本村遺跡第115地点溝3出土遺物



本村遺跡第115地点井戸2・5・6出土遺物



本村遺跡第115地点土坑・溝・遺構外出土遺物



本村遺跡第115地点土坑・溝・遺構外出土遺物



---

---

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第2集

## 埼玉県ふじみ野市 市内遺跡群 2

2007年3月23日印刷  
2007年3月30日発行

発行 ふじみ野市教育委員会

〒356-8555 埼玉県ふじみ野市大井中央1丁目1番1号

TEL 049-261-2811

FAX 049-266-6271

印刷 関東図書株式会社

---

---